

(表紙)

安政六己未年從正月

御用日記

御側向頭取

萩原金兵衛

至十二月

(二ページ)

安政六己未年

元旦 快晴 節分

一益御機嫌能被遊 御超歳恐悦之事 診 仲庵 例之通拝診無之

一御目覚六時

一御湯殿へ被為入御略式若水御手水御下洗御洗足被遊候

一南御入側ニ而御仕廻被遊御座之間ニ而御召替被遊、御熨斗目御撫櫛差上之

一無程御上下御清メ香御手水差上之、日の出御拝御椽側へ被為入被遊候

一御祝左之通、但御蓬菜御祝御膳之分ハ当春ハ御略式相成候事

御長蛇・御茶請大福御服紗ニ而差上ル、御菌固餅御臟煮御自口御替りニ付御吸物鯛鱸

御一汁御一菜御焼物付御膳被召上候 御酒松立御取肴御爛鍋御盃付込

一右御祝畢而稲垣治部罷出御祝義申上之、御飾ノシを被下置候

(三ページ)

一御清メ香御手水差上御神前御靈前御拝御極り通り夫々御手備被遊候

一五時過金兵衛・仲庵・藤市郎方岩吉・次藏迄列座御祝義申上候、御座並ニ御ノシ宝来出置

一御庭神社御代拝、御裏役相勤申候、御上屋敷方も御代拝在之

一四時過六太夫・甚十郎罷出御祝義申上ル

一四半時過表御切御対顔御入、御前様御神靈前御拝被遊、相濟大奥へ被為入

御同座、殿様方被進之三献之内鯛鱸御吸物御酒御祝御盃事被遊、八時

頃表へ被為入、但引続御膳ハ御略式ニ而今朝之通り

一八時過韮負罷出御礼申上、御飾長蛇御直ニ被下、御二度御下夕御焼物被下置候

御前様方 御盃一台十五 御嘉例之通被進之

御同所様へ 五色鳥子紙百枚 同断 定式達無之

紅白梅鉢植一差上之 石原甚十郎

凧 二枚張被下 熊吉 岩吉へ

一枚張 金三郎 次藏

弄ひ物一品少、被下 金兵衛頭取三人へ

一七半時過大奥へ被為入御同坐御膳如常

一六時前節分ニ付御豆敷御長蛇御祝被遊 御豆 御年数 御長蛇 奥番御包立致

鳥目九十二銅

差上之、御総身御払被遊候を取下り御年男へ相渡ス、但此節御吸物御酒ハ被相止候、尤

御手豆被下も無之御膳番方一統へ被下取計、御福茶大奥ニて御祝ニ付表ニ而略之

一右相濟大奥へ御年取二鳥渡被為入、表同様二矢張御弘等在之由、一統節分御祝義申上在之由、御手豆被下ハ無之由、御帰座後表御へ切被仰出候、此節甚十郎又兵衛被為召御酒等被下候由、左之通思召物被進被下候、

御前様へ 縞ちりめん一反 緋ちりめん御服紗一 縫花丸一円
同断 御中らうひなへ

(四ページ)

一今朝金兵衛義熨斗目上下着鎔落出勤、御側向替り合四時服紗上下着節分且於御前御酒被下之御沙汰在之二付御引迄上下着、右次第無之候得ハ御明り付方平服之筈、明日方平服、金兵衛義服紗上下着三日迄、四日方平服
一表御寝、四時三寸廻り引

正月二日 雪気

一御目覚六半時

診 適斎 御礼出勤二付宗甫

一五時過御神靈前御拝、御手備昨朝之通被遊、御ノシメニ付御髪斗、上下着

一今日御吉例之通殿様へ年頭御礼申上之義、当御屋敷一統罷出二付御手元甚御人少御不備二付金兵衛始両番之分ハ夫々へ申達御用引相成御附衆も同様御医師当番老人斗罷残、亥之助義長袴始而之御礼二付昨夜方御用捨相成今日出勤被仰付候事、罷帰候上一寸御礼罷出ル

一九時過表御へ切御対面、御入直二大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一松井左膳御祝義二罷出ル、甚十郎も罷出候

一八時過御略式にて御読初大学席并三綱領八條目、引続御書初老子語生成

万物運用不休、外二御詩作御認在之候、但此節頭取老人上下着

一為御祝儀罷出面々敬左衛門・三十郎・平兵衛・辰蔵・清十郎御茶被下於御小姓へや御酒裂するめ頂戴被仰付候 一御初湯被為召候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、六半時過方御へ切相成候

一表御へ切御寝、御夜詰四時過引

正月三日 晴

一御目覚六半時

六時過表二相成

診 宗甫

一五時過両御拝、御手備昨朝之通在之

(五ページ)

一四時前狛山城方韋負近江左司馬被罷出御祝義申上之、於御前屢蘇裂鯛

被下置山城方へハ別段御数盃共頂戴、御飾長蛇御直二被下弄ひ馬一次男へ被下候

面々へも御酌被成下鯛御直二被下置候、御書初拝見子共書物等為御見被遊候、無程

退去、山城方へハ御茶御菓子真盆等被下置候、引続甚十郎・孫左衛門・七右衛門・所左衛門

三左衛門罷出御祝儀申上御酒鯛被下置御酌并鯛等被下置御書初御示等

拝見被仰付寛々御漸等申上候、此節信良・万順・元珉罷出御祝義申上御次二而

御酒鯛被下置候、

一九時過表御へ切相成直二大奥へ被為入御膳被召上候、御出迎斗両番揃金兵衛ハノシメ着

一殿様為御年首九時御供揃二而八時前被為入御控所へ御着座 三幅対御花

御卓 香炉

兩種 硯 御手鑑等飾之 此所ニ而金兵衛初両番罷出岩吉迄御祝義申上之、引続左膳
御刀懸 御褥ちりめん

宗甫同断、無程春岳様表へ被為入候処ニテ御座ノ間へ被為入御対顔之上
御祝儀被仰上畢而御長蛇御多葉粉盆御手焙御茶差上之、此所ニテ御供御先番
其外共罷出御祝義申上之、大奥御都合宜段申出御同道ニテ大奥へ被為入

御三所様御同座御吸物たいひれ差出御丕事被遊、相濟表へ御帰座、御雑煮

屠蘇差上之、引続御吸物小たい・御小皿朝日蒲鉾 御酒数丕被召上候、畢而御側向一統

小串 たい みかん

被為召古今哥留多一遍在之、復御酒差上之、相濟引て御干菓子・枝柿盛合ニ而

御茶差上之、無程御帰殿、七時過大奥方唐万寿・御酢被進之 御雑煮・御吸物御代り付

大奥へも被進之

武辺咄聞書三冊 御書終日乾々半切一枚被進之

殿様江 御愛相物一台 御丕三ツ 養入五 袂落三

半切五ヶ 扇七本

中将様江 白紙廿五枚 御書初東風翁凍時半切一枚被進候

右者当春方御極りニ相成御年玉御取替セ御座候事

一七時半過大奥ニ而御膳被召上候、御帰坐後六時半前表御ヶ切相成申候

(六ページ)

一御供御先番十兵衛初其外両へや非番之面々等罷出候節御酒鯛部屋ニテ被下置候

殿様方 窓の月十五ツ、被下置之 熊吉 岩吉

金三郎 次藏

一左膳義御出迎ハ金兵衛部屋前ニ罷出居候事、但藤一郎始ハ御敷台上ニ列座、御玄冠狭二付

一今日御入ニ付九時方上下着、金兵衛ハノシメ着

一表御寝御夜詰四半時過引

正月四日 陰 金兵衛今日方平服

一御目覚六半時 診 仲庵

一御神仏御拝五半時前御平常之通

一今晚飛脚出立常振、継共之事

一九時過御ヶ切御対願御入、夫方大奥ニ而御膳如例

一八時過為御祝儀一順罷出被為召御酒御菓子等御扇子一本被下置之候

銀百匁 御国札 御小道具方小遣 喜兵衛

右者昨年不斗拾■候ニ付年来小遣相勤候、又々旧冬御附小遣申付格別難有狩

御厚恩を存詰差上度旨申出奇特之訳合ニ付御受納相成候事

一今日之御湯御流相成 一甚十郎鳥渡伺ニ罷出候

一七半時過大奥ニ而御膳如例 一金兵衛相願退出致候事

一表御ヶ切御寝、御夜詰引四時過

正月五日 晴

一御目覚六半時 六時表ニ相成 診 適斎

- 一 五半時前兩御拝被遊候
- 一 四時前為御祝儀五郎左衛門罷出候、御酒・寿留女当へや二而頂戴被仰付
- 一 九時過表御へ切御対顔御入、夫方大奥二而御膳被召上候、八時前方御へ切

(七ページ)

- 大奥二而御庭廻り被遊候
- 一 八半時過方韃負罷出寛々御嘶申上候
- 一 盃落前大奥二而御膳如例、五半時過表御へ切相成候
- 一 表御寝、御夜詰四半時過引

正月六日 陰 八時過方雨

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五半時前兩御拝被遊候、御座之間御掃除被遊候

御■く被為成候上へ

一 当分御平常御召之義へ御国産奉書紬黒花葵当地太織縞取交差上候事二
伺之上御極り二相成候事、但黒木綿方へ却而御益二も相成候故旁也、御寝間も本文之

品をくり下ケ差上候筈、尤奥番相心得候事

一 九時過表御へ切御対顔御入、直二大奥御膳被召上候

一 為伺御機嫌御上屋敷へ金兵衛初、五郎太夫方岩吉迄罷出、於御前御酒賜頂戴
被仰付、但御流レ頂戴之節何茂不罷出旁被下置之

御数盃一御扇子二被下置候 金兵衛へ年内被下置敷

一 今夕齋土器入切貫落二載セ差出、御長鮑共御爪被為取候

一 韃負罷出寛々御嘶被申上 一 御年越御福茶差上之、上下着

一 七半時過大奥御膳被召上候

一 五時前表御へ切甚十郎・五郎兵衛被為召仲庵罷出御酒肴被下之

一 表御へ切御寝、御夜詰四半時過引

正月七日 快霽

金兵衛御目覚方ノシメ上下

一 御目覚六半時、六時過表二相成

診 仲庵

一 數御長鮑七種御雜水御附替并御代り付、御祝引続御膳被召上候、御膳番御給仕共上下
一 兩御拝御極り御手備被遊候、御ノシメ上下、御間内御掃除如例

(八ページ)

御二所様へ 保命酒一ツ、塩鮎十五ツ、

伊予守様方 本直酒一

中将様へ 御愛相物一台 半切三 御袂落二 蓑入四

清心院様方

中将様方

清心院様江 縞ちりめん一反 極思召もの也

右者今日花井為御祝義参上之節不相変被進之、八半時過御へ切相成其節
御直二御反物へ被進相成申候

御式所様江 交御肴一籠 大たい一 明夕召上り

殿様方
石かれ二 ふくらけ二 内一御料り方兩人へ御膳番方被下
中将様へ 六寸御重入そばこ一 あられ酒小瓶一
右ハ御入之折から被進之

一殿様六時御供揃二而御登城被遊、御退出懸御初而二付大老并御老中方御廻勤
夫方直二九時過被為入御控所へ一先御着坐、夫方御座之間へ御通被遊御祝義被
仰上、無程御一所二大奥へ被為入御対願被遊候、暫有て御同道御帰座、御蒸菓子
差上之、御供御先番之面々御目見被仰付候、相濟八時前御帰殿被遊候、大奥方御干
くハし被進候

一韮負義も罷出御嘶申上候
一今日伺御機嫌御上屋敷へ孫大夫・藤市郎初、熊吉迄罷出、昨日之通御酒鯛被下之
一七半時過大奥二而御膳被召上候、五時前表御締切相成候

御前様方 御広蓋一面 シ、牡丹 銅彩色茶碗五 三重組蓋物角御干菓子入
毛植狗小鼠二 玩物小箱二 急須一 弄び大鉢一
肥後杉原紙一束

右者思召物二而切中二被進之

一五時過御切中へ左膳金兵衛始当番之面々被為召、御三ノ間二而御酒、鱈こぶ清し且雑煮
被下之、哥島仲の養寿御錠口罷出居取計ノ事
一表御寝、御夜詰四半時過引

(九ページ)

正月八日 陰

一御目覚六半時

診 適齊

一五半時前御神靈御拜被遊、夫方御間内御掃除被遊候

御愛相物老台 品々 御年玉上り 哥島

多川

清心院様へ 御数盃十一 老台 六寸御重二御菓子御煮、常邸取計也
右者明日老女御祝義参上二付為御年玉例之通被進之、定式達無之

一九時過表御切御対顔御入、夫方大奥二て御膳如例

一八時前方柳生流一篇御居合一遍御遣初被遊、御打太刀孫大夫・金兵衛差上之

一八半時前方表御切、大奥二而御庭御徜徉被遊候

一伺御機嫌十三郎・平兵衛・清十郎・元珉罷出御切中二而御逢無之

一窺御機嫌一順罷出、被為召御逢御詩作御直等持参御閑話申上候

一今日韮負等罷出候 一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、金兵衛相願退出致候

一表御寝、御夜詰引四半時過

正月九日 晴光又暖和

一御目覚六半時

診 宗甫

一五半時前両御拜被遊、例之通り御掃除被遊候

一九時過御締切御対顔御入、夫方大奥二而御膳如例

一八時過大奥二而御庭御閑歩被遊候、今日ハ被相止候

一八半時過韮負罷出候、甚十郎も罷出緩々御嘶申上候

- 一七時過例日御湯被為召候
- 一七半時過大奥にて御膳被召上候
- 一六半時過方表御へ切相成四時過表二相成候

(十ページ)

一表御寝、御夜詰四時過引

正月十日 陰天

一御目覚六半時

診 仲庵

一五半時前両御拝被遊、夫方御掃除被遊候

一旧冬藤一郎・孫太夫罷越相頼置候、元日御祈祷御札守今日五郎太夫・源之丞御馬拝借

大師河原へ罷越致持参候事

干海苔二帖

五郎大夫

梨子 三ツ 差上之

源之丞

亀甲煎餅一箱差上之旧臘記落

藤一郎

孫太夫

一九時過御締切御対顔御入、夫方直二大奥二而御膳被召上候

亀甲煎餅・巻煎餅・有平入一箱ツ、差上ル 甚十郎・孫左衛門

七右衛門・所左衛門・三左衛門

一御上屋敷へ伺御機嫌罷出候、金兵衛・犀次郎・亥之助

一七時過方靱負罷出御嘶申上候 一八時過暫御締切相成候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時前方御へ切相成候

一表御寝、御夜詰四半時過引

正月十一日 晴光

一御目覚六半時

診 適斎 昨夜方宗甫

一五半時前両御拝被遊、夫方御間内御掃除如例

一今日御嘉例之通知上屋敷二而御具足餅諸士一統頂戴被仰付候

但金兵衛始御側向両番御用引出出勤不致候事

一 金百疋御年玉定式差上之 青松院殿方

右者旧臘御留守居共方懸合も在之先方御用人方も申来候義も在之先方老女

方此老女へも懸合在之御附取計、御小人等盆暮被下物も相送り大奥方之被下品も

(十一ページ)

相廻シ其上青松院殿定例御贈之盆暮廿五両ツ、一所二殿様方御送り之趣

二而大奥方相廻ル、前文之趣故殿様へ之御仕向二而右御目六相廻、十兵衛方此方へ相廻り候故差上候事、御金懸りへ相渡ス

一九時過御へ切御対顔御入、大奥二而御膳如例、数御長匏御汁粉差上之

一八時方御へ切、大奥二而御庭御閑歩被遊候 一御次飾御具足餅被下候 御附衆方一統手伝

台子迄

一七半時過大奥へ被為入御膳如例 一御二度御膳前御へ切御都合二付今日方被相止候

一今晚御有合御愛相品并御年寄此頃差止候品々外二匱末之御品壺両斗御買上

致御二所様御慰勞御福引御鬮頂戴有之左之通

但治部御附兩人・甚十郎・金兵衛・御医師三人御側向不殘岩吉・熊吉・次藏

金三郎 思召二而 連兵衛・奥坊主四人奥番心得二而内之不寢役兩人

哥しま

御錠口三人 ひなへも被下置之、外ニ養寿・樂寿・□寿

一 鎔落前小石川御先町伝通院近所出火、折柄北風強御上屋敷風下夕ニ相見へ不取敢

非番方大谷孫大夫乘馬二而御見廻として被遣候所先大火ニ相成追々鎮火之趣ニ付引取

申候、六半時頃夫方前記御鬮御支度ニ取懸り申候、御座之間御着座、御前様北御入

側御障子屏風困二而御透見被遊候、御座之間御闕之内へ御鬮御小広蓋へ入差出

置、治部方席順ニ頂戴之、御品物を持出品数申上入御覽、金三郎・次藏迄載、畢而御

三ノ間境へ御障子屏風建之御透見被遊手伝兵衛方台子四人頂戴之 御品物ハ御

三ノ間へ並ル

右頂戴相済表御締切相成、大奥之分頂戴在之候

小鯛 老尾

松井左膳

右者旧冬館六市結構被仰付候、聊為身祝差上之 御三度召上り

一大奥御寢御入、御夜詰四半時前引

一去ル三日立飛脚道中常振到着、御静穩恐悦候事、旧臘廿八日出立無之候

(十二ページ)

正月十二日 晴光 凍寒

診 宗甫

一 御目覚六半時表被為入

一 五半時前両御拝被遊、夫方御間内御掃除如例

一 九時過大奥へ被為入、御同座御膳如例

一 八半時過敬左衛門へ旧冬被仰付候認物持参罷出ニ付被為召、御菓子御茶被下之

一 七時過高田孫左衛門罷出御用状入御覽候

細川越中守様方 紅梅鉢植一 交御肴一籠 たい一 石かれ五召上り

右者御前様方之御伝へを以被進之 但咆一ツツ、靱負・孫左衛門海老二も魚三御膳番

当番へ被下候

一 鎔落前大奥二而御同座御膳被召上候

一 七半時過靱負近江罷出被為召、靱負ハ六半時過相下り申候、表御べ切相成候

一 昨十一日御嘉例之御福引御鬮頂戴之御式於御上屋敷当春ハ在之候処

此御側向へハ行渡り不申旨御用人方通達も在之候所存外ニ御品数も出来十兵衛始

之心配ニ而御側向金兵衛始金三郎・次藏迄御鬮被下候ニ付御品物相廻申候、金兵衛

十兵衛代鬮之儘致頂戴候、藤市郎始一統ハ御鬮仕直し頂戴仕候

一 御締切御寢、御夜詰四半時過引 一金兵衛相願退去致候

正月十三日 晴光

診 仲庵

一 御目覚六半時 六時過表相成

一 五半時前両御拝被遊、御間内御掃除被遊候

一 為伺御機嫌十兵衛罷出御逢被遊、御茶菓等被下候

一九時過大奥ニ而御同座御膳如例
御二書様へ

蓮性院様方 青目籠交肴野菜詰少々 尺二尺五寸斗
右者折からの御機嫌被為聞被進之 但 殿様方青松院殿へ被遣ニ相成

(十三ページ)

一九半時過表御へ切相成、御庭御閑歩被遊候

保命酒一瓶被下之御挨拶旁 高田孫左衛門へ

一八時過為伺御機嫌罷出被為召薄皮餅御茶被下之、長作喜三太・兵藏・三郎左衛門
金太郎・石五郎・小六 左司馬・一順・万順も罷出右同断

一杉浦幸右衛門義為伺御機嫌罷出ニ付久々ニ而御目見被仰付、御茶御菓子於
御前被下置候、御間内御神前等拝見被仰付候

一七半時過大奥へ被為入御膳如例 一六時過鞆負罷出暫御嘶申上候

一六半時過表御へ切相成候、四半時表ニ相成候

砂糖漬一箱・茶小箱十五

右者六大夫方差出入御覽、何方方之差上物歟頭ハニ不申上候事

一表御寝、御夜詰四半時過引

正月十四日 晴 陰雨

一御目覚六半時

診 適齊

一五半時過而御拝被遊、夫方御間内御掃除例之通り

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一八時過五郎左衛門・河合大郎太夫・高田孫左衛門■ニ伺御機嫌罷出、被為召御逢
被遊御大字拜見被仰付、御茶菓被下置之候、御留守居兩人も罷出御逢無之候

一七時過御定日御湯被為召候

一七半時前狛山城方被罷出御逢在之、御蓑盆差出御茶菓被下之

阿部伊予守様方御国産細肴干物百

右者御機嫌被為聞召上りニもと被進之、与一兵衛方甚十郎迄手紙添相廻ル

一鑑落前大奥ニ而御膳被召上候

(十四ページ)

一御年越ニ付御膳前表(ニ脱力)而御福茶差上之、但御膳番并御給仕上下着

一大奥御寝ニ被為入、御夜詰四時過引

正月十五日 陰天 殿様御入ニ付四時方一統上下平月ハ一統肩衣金兵衛上下

一御目覚六半時表へ被為入

診 宗甫

一朝御膳前小豆粥御祝被遊、尤数御長蛇差出ス、引続御膳如例、御膳番并御給仕上下

一五半時過而御拝被遊、御間内御掃除如例、御手備常某日之通り

一九時前殿様御登城、御退出懸為御対願被為入、直ニ御座之間江

御通り被遊候、其内御供之面々御控所御椽へ相通其段治部方申上之、御控所

ニ而御清メ御嗽御手水等差上之、御内庭通り五番口方御庭内神社末社

共御拝被遊候、中君大奥ニ而御膳被召上候、御留主中右御椽頼上ノ方御極

方御上り被遊候、御着坐之上御機嫌同列坐申上ル、金兵衛初一統熊吉迄、尤両番
仲庵・適斎・宗甫も伺御機嫌罷出此段申上之、此所ニ而御小弁当被召上候、御汁
切みたい干細魚御菜漬御小皿もり二被進、御二度御廻り御汁御皿物も被進、此所江
大奥方御帰座、御程合ニ而大奥へ被為入御対面被遊、御帰座之上砂糖漬被進
大奥方もころ柿被進之、御先番御供之面々十兵衛初何茂被為召御機嫌
相伺御茶菓子被下置候、暫有て御供揃被仰出無程御退散相成、八時過

御二所様へ 御籠入せんべい 飴玉 おこし 奥表半分ツ、
殿様方 両番へ被下相成

右者御側為御慰被進之、御席上ニ而御到来之御茶小箱五ツ被進之

- 一八時過表御締切ニ而御庭御閑歩在之候
- 一七半時過大奥ニ而御同座御膳被召上候
- 一六時過鞆負罷出御嘶申上候、五時過方御々切相成、仲庵被為召候
- 一表御々切御寝、御夜詰四時過引、但御々切相止

(十五ページ)

正月十六日 陰

御目覚六半時 診 仲庵

- 一五半時過御神靈前御拝被遊候、例之通り御掃除被遊候
- 一甚十郎罷出暫御嘶申上候
- 一九時過大奥へ被為入御膳如例
- 一八半時過鞆負罷出寛々御嘶申上候
- 一七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候
- 一金兵衛義相願退出仕候、六時前
- 一御帰座後五絶詩哥留多被遊、一統罷出御相手仕御前様御入側へ被為入
御見物被遊候
- 一大奥御寝被為入、御夜詰九時頃引、表御寝也

正月十七日 晴光

御目覚六半時表へ被為入 診 適斎

- 一五半時前御神靈前御拝被遊、夫方御間内御掃除被遊候
- 一九時過大奥ニ而御膳被召上候
- 一九半時過表御々切相成御庭御尙伴被遊候
- 一於御上屋敷例年之通大般若御祈祷御執行在之ニ付御召相廻ル
- 一七時前甚十郎鞆負罷出御嘶申上候
- 一七半時過大奥ニ而御同座御膳如例
- 御式所様へ 沖津鯛干物五
殿様方
- 右者御到来被遊ニ付被進御移リニ干細魚三拾被進之
- 一六半時過方詩牌被為取候、五半時過方御々切相成候

(十六ページ)

一大奥御寢御入、御夜詰四半時過引

正月十八日 晴 風寒

一御目覚六半時表へ被為入

診 宗甫

一五半時過兩御拝被遊、夫方御掃除被遊候

一御膳前小豆粥御祝在之、引続御膳被召上候、御給仕平服也

一九時過御奥へ被為入御同座御膳被召上候 一元珉伺罷出御逢在之、御菓子被下候

一為伺御機嫌罷出面々十兵衛・敬左衛門・三十郎・十三郎・剛右衛門・平兵衛・辰蔵・清十郎

治右衛門被為召御菓子御茶被下置之、折節甚十郎も罷出候

一七半時前大奥ニ而御膳被召上候 一韌負も罷出御申上候

一五時前御締切相成候、部や頂戴ニて一統へ御酒玉子豆ふ被下置候

一表御寢、御夜詰四半時過引

正月十九日 晴寒

一御目覚六半時

診 仲庵

一五半時過兩御拝被遊、夫方御間内御掃除被遊候

生魚 ほら一本 丘持入

右者先日仲の大名小路へ年頭参上之節先年御池之ほら被進候所格別御

賞美被為在候ニ付当御時節ニハ候へ共相成義候へハ御獵被進候而ハ如何との養寿

談事ニ付思召奉伺候而誠精得物御内々御側向ニて心配致見候得共取レ不申候

然ル処又々昨日心配致見候所幸ニ一本得物在之ニ付被進可然旨多川へ懸合

候所則先日仲野委細之訳合御先様ニて御晰申上候所御時節ニ付御堅く御断

追而時節来候節御賞被成度厚キ御配意之所ハ忝思召候へ共何分当節ハ

絶而御断被仰上度御旨之由多川申聞、如何ニも御厚キ御尤様之御義故

(十七ページ)

被進ハ相止稱丹精之得物故御放し相成候も余不本意ニ付御慰旁ニ

殿様へ大奥廻り長棹入ニ而目立ず様ニ致被進相成候事

一九時過大奥ニ而御膳被召上候

一九半時揃御初灸治被遊候、御締切相成御匙医兩人適齊父子万順罷出元珉

当番信良御用赦相願下罷出候、七半時前相濟子共御相伴ニ而七半時過表相成

益御機嫌克御感御宜被為在旨当番御医師申達其段奉申上候

御前様方石鱗五枚召上り 鉢盛切すし 奥表半分ツ、

酉様方御籠入 煎餅 最中 まんじう 同

清心院様方右同断 同

右者御初灸ニ付御上り且御側御慰として被進之 但御附金兵衛初一同被下候

すし手伝初へも少々被下候

一御二所様へ 水うハ玉 御熬菓子六寸一重 せんべい多月御医師共被下之

ねりかん

御扇子二 たが袖 御手目被下之 御匙医二人 三品

御猪口一 御いしや五人 二品

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候

細川越中守様方 干海老一曲
同 益姫様方 塩炮一曲

右者年首之御簾ニ而御品計被進、御時節故熊与老女ハ不被遣候由

一五時前方表御^レ切相成申候

一大奥御寢御入、御夜詰引四半時

正月廿日 凍寒

一御目覺六半時表へ被為入 診 適齊

一御好ニ而小豆粥ニ被召上、御膳一盛被召上候

一五半時過兩御拝被遊、夫方御間内御掃除被遊候

(十八ページ)

一九時過大奥へ被為入御膳如例

カステイラ一箱 石鰯一枚 御直書一封 思召もの

鉢盛 切すし 此分御上屋敷ニて被進取計在之

右者殿様御初灸ニ付思召ニて被進、御ニ所様方御側為御慰被進之

当秋迄詰延(越) 被仰付 川村藤市郎

来申春迄詰延(越) 被仰付 小栗五郎大夫

同 山野十太夫

同 上坂平八郎

右之通月番御用人前日呼出之手紙来今朝申渡在之、昨秋ハ御前御礼

書上候得共御礼在之方可然談事ニて今日ハ金兵衛差加御礼申上候事、肩衣用

来春迄詰延(越) 被仰付 三寺剛右衛門

同 吉田石五郎

当秋迄詰延被仰付 今村重太郎

来春迄詰延被仰付 加藤清十郎

同 小栗秋之丞

同 土屋小六

右ニ付剛右衛門・清十郎・治右衛門ハ非番故御礼罷出ル、御逢無之候

御内々伺御機嫌罷出候 浅見七郎右衛門

同断 皆川平右衛門

右者当春横浜へ到着、出府致候ニ付罷出、平右衛門ハ十二日也

一御上屋敷へ伺御機嫌罷出御灸治中故御前ニ而御茶御菓子被下置之候

金兵衛・源之丞・犀次郎・亥之助、今朝呼出候面々ハ不罷出候事

一八半時過方靱負罷出御咄申上候 一昨日御延之御湯被為召候

一七半時過大奥ニて御膳如例、金兵衛相願退出致候事

豊みいわし 左内へ被下之 金兵衛持参

御庭梅花

一六時過方御^レ切相成申候

一表御寢、御夜詰四半時引

A014300511 御側向頭取御用日記

(十九ページ)

正月廿一日 朝大方風雪

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五半時過兩御拝被遊、夫方御間内御掃除被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 岩吉義祖母病死ニ付去ル十四日方忌引込罷在候所御差支ニも相成ニ付今日方

忌御免出勤仕候、藤一郎差加御礼申上ル、昨夕治郎方通達在之候

一 近年御発駕前兩御屋敷学問所惣宰方申達在之候上書生輩へ御手元

方万寿被下且別段出精之族へハ御扇子式御風呂敷等被下在之所昨年者

御滞府其後種々差潰候御時節ニ付右被下無之、然ル所松田東吉郎

内達在之当春栄塾初之節御菓子被下相成候ハ、格別一統勅之品ニも

可相成ニ付内達ニ付御表方今日被下ニ相成申候、右ニ付御目付出席之筈之處折

節飛脚出立御用多ニ付難罷出且十兵衛も同様之義ニ而無抛依頼、其段奉

申上ニ而金兵衛義八時過方出席致候、上下着、東吉郎白鹿洞揭示ニ節相講ス

聴問畢而聖像東吉郎・金兵衛方一統拝礼、神酒・鯛戴之、此節金兵衛披露

一 統出精ニ付殿様方御菓子被下置、不相変出精致候様申述ル、夫方一統頂戴

相済退去候事

一 今晚道中常振飛脚出立之事、但靱負不罷出事

一 七半時過表御へ切御同座御蕎麦被召上候、引続大奥ニて御膳如例

一 六半時前方御へ切相成申候、六大夫・金兵衛始一統へ今日ハ寒も強候ニ付御酒御肴等

被下置之 玉子 御吸物 あさ漬

たゝみいわし

御前様方 きりさんしよう 昨日今日御側向一統へ被下置候

御にうめん

一 大奥御寝御入、四時過御夜詰引

(二十)

正月廿二日 晴

一 御目覚六半時表へ被為入

診 仲庵

一 五半時前御神靈前御拝被遊、夫方御間内御掃除被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳如例 一 御前様御初灸治ニ付鉢盛切寿し被進之

一 九半時過暫御へ切相成大奥ニ而御庭廻り在之候

為伺御機嫌罷出候

植原次郎右衛門

河合太郎大夫

右者旧冬御引移後御目見不被仰付候事故御側向ニ準し候御役前ニ付

思召を以被為召御逢被遊、御間内御庭等拝見被仰付御茶御菓子被下之候

一 七時前方靱負罷出緩々御嘶申上候

一 七半時過大奥ニ而御膳如例、五時過御締切相成

正月廿三日 晴光

一 御目覚六半時 六時過表ニ相成

診 適斎

一五半時過御神靈前御拜、御間内御掃除如例
一九時過大奥ニ而御膳如例

一八時頃為伺御機嫌罷出被為召燒芋・御茶被下、十兵衛・一順・元珉・長作・喜三太
兵藏・三郎左衛門・重太郎・石五郎・小六
喜撰 小箱一ツ
淺見七郎右衛門

右者横浜御陣屋へ早春到着、年来御側勤仕候輩故極御内々十兵衛方相伝へ
思召を以被下置之

一七半時過大奥ニて御膳被為召候、五時過方御締切相成
一表御寝、御夜詰四半時引

(二十一)

正月廿四日 曇

診 宗甫

一御目覚六半時

一五半時過兩御拜被遊、御間内御掃除被遊候

納戸絹半下着一、御袂落一 中根鞞負

右者御前様方日々寒天之所晚景相成罷出格別太儀ニ可被

思召旨ニ而頂戴被仰付、仲の方田川へ其段申達候由ニ而田川方受取相伝フ

金二百疋

猪子善十郎

右者去暮迄ニて九年皆勤ニ付御表方二幅対御懸物絹地絵頂戴相成

ニ付御当代様者暫之御義長々中将様へ相勤候御義故別段之訳ニ而長々
之皆勤故本文之通被下置候事、但此記不当ニ付相止候事

一九時過大奥ニ而御膳被召上如例

一為伺御機嫌泊山城方天方五郎左衛門被罷出御逢被遊御茶菓子被下、高田

孫左衛門・真杉所左衛門罷出被為召同断、秋岩小島五一書等為御見被遊候

一七時前例日御湯被為召候

一同刻過鞞負・甚十郎罷出寛々御漸被遊候

一盞落前大奥へ被為入御膳被召上候、六半時過方御締切相成

一大奥御寝被為入、御夜詰四時過引

正月廿五日 雨後晴光

診 仲庵

一御目覚六半時表へ被為入

一五半時前兩御拜被遊、夫方御掃除被遊候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

阿部伊予守様方八寸御重御盛合物一粕天羅一

(二十二)

右者折柄御機嫌被為聞藤田与一兵衛を以御広敷御用人迄持參御口上申述

御用人方此方へ相達及披露申候、但御半切二百竹月梅被進之

一八時過北御内庭ニ而つくばね御慰在之

一七半時過大奥ニて御膳如例 一御膳後鞞負罷出御漸申上候

一 殿様山王御参詣、夫方年始御返礼御勤所々、夫方溜池様へ被為入、御手間取二も相成趣故金兵衛義八昨日罷出候、藤一郎・孫大夫始八今日罷出候事
一 五時頃表御締切相成候
一 表御締切御寝、御夜詰四時過引

正月廿六日 暖雨

一 御目覚六半時、六半時過表二相成 診 適齋

一 五半時前両御拝被遊、夫方御間内御掃除被遊候

一 九時過大奥二而御膳被召上候

一 九半時過方今日雨中蕭然二付何茂罷出吟詩平一郎・犀次郎・亥之助・岩吉も非番方被出候、大キニ御慰ニ相成申候

一 七時前鞞負も罷出候

一 御前様方御すし 当番へ被下之

御盛交着

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 五時前方表御締切相成

一 御寝表、御夜詰四半時引

正月廿七日 晴

一 御目覚六半時 診 宗甫

一 五半時前御神靈前御拝被遊、夫方御掃除被遊候

一 九時過大奥二而御同座御膳被召上候

(二十二)

一 八時前御締切、仲庵金兵衛罷出居御庭廻り御徜徉被遊候

一 伺御機嫌ニ五郎左衛門罷出被為召、折節御大字被遊五郎左衛門へも被仰付畢而御茶菓子等被下之、引続近江鞞負も罷出被為召御漸被遊候、甚十郎同時罷出候

一 七半時過大奥二而御同座御膳被召上候 一 御前様方饅頭五ツ宛当番へ被下候

一 六半時過方御締切相成、四時過表二相成候

一 表御寝、御夜詰引四半時

正月廿八日 晴光

一 御目覚六半時 診 仲庵

一 五半時前御神靈前御拝被遊、夫方御掃除如例

一 九時前殿様御登城、御退出懸水野周防守殿年始為御返礼御勤被遊
夫方御館へ被為入直ニ御対顔被遊、御菓子粕テラ御茶差上之、暫有て大奥

被為入御前様へ御対面被遊、中将様直ニ大奥二而御膳被召上候、殿様表へ被為入御支度出来之上御小弁当被召上、御汁たい切身こぶ差上之、御蒸くハし御汁白うを

大奥方被進之、被為済中将様表へ被為入、暫有て御人払相成、御用中鞞負罷出御内話被遊、相濟十兵衛始御供御先番其外非番之御近習番等被為召御菓子御茶

被下之、畢而八半時頃御退散被遊候

一 為伺御機嫌一順・万順罷出被為召寛々御閑話、剛右衛門も再被為召同様也
御式所様へ 御小重入二 羊かん・うば玉 御入之折柄被進之

殿様方

御すし

- 一七半時過大奥へ被為入御膳如例 一金兵衛相願致退出候事
- 一今日十兵衛持参学塾書生輩へ松田東吉郎内達ニ付御風呂敷御扇子御枝折等両邸都合九人計へ被下之、十兵衛方呼出相渡ス、委細ハ略ス
- 一御茶方御定金之義御上屋敷同様ニ一旦相極候得共常第と者御振合も別段用

(二十四ページ)

不用一様ニ無之故石原甚十郎方談事も在之御膳番共申談候上以來ハ一ヶ月
金高ハ同断ニテ口々相減左之通相極り候事

三十七匁五分 召上り御茶

七拾匁 炭代 百廿式匁五分 此金 二両卜式匁五分

十五匁 御次茶

一六半時過方御締切御三ノ間ニ而左膳甚十郎初当番御側向御酒御吸物玉子巻いわし
等ニテ御酒被下置之

一大奥御寝、御夜詰四半時前引

正月廿九日 晴北風

一例之通老寸前御雨戸明ケ何茂御次へ相詰ル 診 適斎

一御目覚六半時表へ被為入

一五半時前両御拝被遊、夫方御掃除被遊候

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一八時過例日御湯被為召候

一突羽御慰両度在之候、蹴鞠御試両度在之、御始而被遊候

御前様方 清水焼急須一 御菓子皿一 御茶わん五 能画

右者今日為御慰被進之

一明後日御立二付高村長作為伺御機嫌罷出被為召、御意被成下御菓子被下之

一為伺御機嫌稲葉左司馬罷出御逢無之候

一七半時過大奥ニ而御膳如例、鞆負罷出暫御漸被遊候

一六半時過方表御締切相成

一表御寝、御夜詰四半時前引

正月晦日 曇

(二十五ページ)

一御目覚六半時

診 宗甫

一五半時前御神靈前御拝被遊候、夫方御間内御掃除如例

一九時過大奥へ被為入御膳如例

一為伺御機嫌御上屋敷へ金兵衛五郎大夫始罷出候

一去ル廿一日立飛脚道中常振山内一日步行逗留、大井川一日半帰留ニ付今夕到着静謐恐悦之事

殿様方 御鷹之臈一羽御国廻りニ付被進之

白玉糕一箱 水野風月

右者不相変差上度旨ニ而御機嫌伺書状添金兵衛迄相廻差出之

- 一八時過方御蹴鞠御運動被遊、相済治部仲庵罷出居御閑話被遊候
- 一七半時過大奥二而御膳如例 一 韃負御膳後罷出寛々御嗽被遊候
- 一五時過方表御締切相成申候
- 一表御寝、御夜詰四半時前引

二月朔日 晴光

一御目覚六半時

診 仲庵

一五半時前両御拝御定式御手備被遊、夫方御座之間御掃除被遊候

一堀平大夫・高村岩次郎昨夕到着二付為伺御機嫌罷出、上下着、無急度

一御目見被仰付、御意被成下金兵衛出席、夫方御間内方々大奥迄も拝見被仰付

御茶菓子被下置之御嗽被遊候

白玉糖一箱

堀平大夫

菓子皿二三国屋

高村岩次郎

右者此度致持参二付御内々差上之

(二十六ページ)

一高村長作義ハ今朝出立致候事

一九時過大奥へ被為入御膳如例、相済暫御締切相成

一為伺御機嫌狛山城方被罷出、御茶菓被下之

一高田孫左衛門罷出御用帖入御覽、御茶菓子被下之

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時前方御締切相成申候

為伺御機嫌罷出ル

御供頭共

一表御寝、御夜詰四半時引

二月二日 陰 初午

一御目覚六半時

診 適齋

一御下御爪被為取候

一五半時前両御拝被遊、夫方御間内御掃除如例

奥御坊主本役被仰付 奥助 藤田栄碩

奥番申渡

中鉢もり切すし上り 昨日当番被下 哥島始御錠口方

一九時過大奥へ被為入御膳如例

一伺御機嫌罷出一順被為召、暫御閑話御茶菓被下之、甚十郎罷出候

一八時過方北御庭御蹴鞠御運動在之、韃負罷出候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時前御締切相成申候

一表御締切御寝、御夜詰四半時過引 一金兵衛退出致候

二月三日 陰雨

一御目覚六半時、六時過表へ相成

診 宗甫

一五半時前両御拝被遊、夫方御掃除相済御臨書被遊候

一昨夕鎌落過五郎大夫・源之丞明日御用召二付御礼罷出金兵衛方申上御逢者無之候

(二十七ページ)

一昨夜御締切中御劍術御柔術被遊、御蹴鞠御投扇等被遊、御透見被遊内
一九時過大奥へ被為入御膳如例

清心院様方御蒸菓子折一 御重入玉子廿 御菓子折ハ御締切中御取扱
右ハ折から御機嫌被為聴被進之

中将様御附御近習

小栗五郎大夫

頭取被仰付

長谷川源之丞

御小姓頭取被仰付

香西敬左衛門

右之通御家老中被申渡、御前御礼治部差加り申上之、尤上下着、大奥へも御広

式御用人迄御礼申上候、当番二付廻勤濟方出勤八時頃

中将様御附左之面々以来御役名御附御近習と被仰付、御用人支配

被仰付、席之義ハ是迄之御小姓同様別段之席二而

殿様御小姓之上二被差置、身分座列之儀ハ役付順二被仰付候、尤勤方

之義ハ是迄之通相心得可申候

但頭取并御膳番奥番御裏役御書物方之名目ハ其儘

被差置候事

右被申渡二付尚又惣而表御小姓同様相心得諸事

御取扱等も如何候や、為念御側御用人へ相伺候所其通り

之心得二て宜旨被申聞候事

川村藤一郎

大谷孫大夫

小栗五郎大夫

長谷川源之丞

山野十大夫

上坂平八郎

白井幾太郎

小関犀次郎

横川亥之助

(二十八ページ)

右者御用人島田近江五郎大夫源之丞へ被申渡、藤市郎・孫大夫者呼出申渡之趣

二而五郎大夫迄被相託、十大夫以下ハ頭取方申達ス、非番之面々ハ御用人廻勤致候

但御国二罷居候権十郎・喜十郎義ハ彼地二て申渡在之筈

一為伺御機嫌十兵衛・岩次郎・十三郎・三郎左衛門・重太郎・善十郎・石五郎・兵藏・万順

罷出被為召御茶・御菓子御前二て被下之、平大夫義遅刻罷出同断

一元珉義早々罷出御膳中二付御逢無之、七時過方韃負罷出如例

来申春迄詰延被仰付

稻垣治部

一七半時過大奥へ被為入御同座御膳如例、四半時頃迄御締切

一表御寝、御夜詰四半時三寸廻引

二月四日 陰

一御目覚六半時

診 仲庵

- 一 五半時前兩御拜被遊、夫方御間内御掃除被遊候
- 一 九時過大奥へ被為入御膳如例、九半時前御内庭御蹴鞠在之
- 一 為伺御機嫌稻葉左司馬罷出御逢被遊候
- 一 同様狛山城方被罷出御逢被遊其節高田孫左衛門・大道寺七右衛門罷出被為召霰酒・御茶・御菓子等被下置之
- 一 七半時前定日御湯被為召候
- 一 同刻過大奥御膳如例、此已前表御締切御同座御蕎麥被召上候、同時鞞負被為召候

青松院殿方 小吉田鮪二十桶

右者殿様へ被差上候而御上屋敷方相廻御二所様江被差上之

嵐蕎麥粉 一袋勝山産 石原甚十郎

(二十九ページ)

右者御国表方到来ニ付差上之、今夕召上り相成

- 一 表御締切御寝、御夜詰四半時過引

二月五日 晴好

- 一 御目覚六半時、六時過表二相成 診 適齊

- 一 五半時前兩御拜被遊、夫方御間内御掃除如例

- 一 初午ニ付稻荷御祭礼御供物在之、御賽錢十二銅御裏役御代拜相勤御慎中ニ付太鼓為打不申参詣ハ相許ス

- 一 同断ニ付御上屋敷御裏役吉田石五郎御代拜相勤序を以御機嫌伺罷出ル

- 一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

頭取被仰付候ニ付例之通 長谷川源之丞

御飾懸り御免被成候

- 一 殿様九時御供揃二而被為入、御膳中ニ付暫御控所へ御着座、夫方無程御

座之間へ御通御対願被遊、御菓盆御火鉢御菓子御有合差上之、暫有て

大奥へ御対願被為入、御帰坐之上今日非番之御附御機嫌相伺フ、相濟半時

余鞞負罷出居御人弘御用談被遊相濟表御締切相成、御三所様御同

座、初午之折柄ニ付御吸物、白魚、御中皿かまほこ みかん 御酒被進、鞞負罷出居候

小くし肴

甚十郎被為召御酒被下候由、御締切中御供揃被仰出御帰殿鑑落頃

御三所様へ 鉢もり串団子 半分当番御附衆始一同へ被下之

殿様方

右者今日御入ニ付御側御慰として被進之

御三所様へ上り 幕之内折卅六 持名院

右者半分大奥へ出ス、十八箱御上屋敷へ被進之

一 初午之所幸大奥ニ御到来御酒在之、少々表にて相足さき鯛にて十兵衛始御供

御先番之面々へ御附申渡ニて被下置候、今日ハ御前へ不被為召候

(三十ページ)

一 鎔落過大奥へ被為入御膳如例 一金兵衛相伺退出致候事
一 六半時過方御締切四時前表二相成
一 表御寢御夜詰四時過引

二月六日 雪気

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五半時前両御拝被遊、夫方御掃除被遊御臨書在之
一 九時過大奥へ被為入、御同座御膳被召上候

御紋黒羽二重御綿入一ツ

御奉行御広式御用人兼 石原甚十郎へ立帰

納戸絹胴衣 一

ねり羊寒 一箱

同人へ

右者御内用ニ付明日御国表へ出立ニ付無急度御目見被仰付、其節別段之
思召を以御内々御召ハ老母へ之御意在之御直ニ被下置之

一 御膳所定夫甚三郎与申者昨年来何歟ニ付些と不正之趣在之哉ニも御膳番共
被相考候得共先見合セ置候所此頃御上り御肴之義ニ付横着不参届義在之
下地之人物故旁以何茂評義之上差替御料理方迄申渡御奉行へも此段申
通ス、尤御料理方も不行届之義ニ付先今度ハ嚴重申聞相済シ申候

一 八時過方大奥ニ而御蹴鞠在之候、鞞負同刻過方罷出候

一 七半時過大奥へ被為入、御同座御膳被召上候 一大奥方当番へ煮めん被下之

一 五時過方御締切相成、五半時過左膳始当番御三ノ間柿せんべい御茶被下之

一 表御締切御寢、御夜詰引四半時

二月七日 小雨

一 御目覚六半時、六時過表二相成

診 仲庵

一 五半時前両御拝被遊、夫方御掃除如例、御臨書在之

(三十一ページ)

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳如例 一大奥方御すし詰合之面々へ被下之

一 九半時過方八半時過迄大奥ニ而御蹴鞠衝羽御慰在之候

一 七半時過大奥ニ而御膳被召上候、五時過方御締切相成候、鞞負御膳後罷出ル

一 表御寢、御夜詰四半時過引

二月八日 陰天

一 御目覚六半時

診 適斎

一 五半時前両御拝被遊、夫方御掃除如例、御臨書被遊候

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳如例

一 為伺御機嫌元珉罷出、御膳中御逢無之、十兵衛始敬左衛門・三十郎・喜三太

剛右衛門・平兵衛・辰蔵・清十郎・治右衛門・小六罷出、被為召御茶煎辛被下置候、一順同断

一 八時過方大奥御座敷ニ而御蹴鞠衝羽御劍術等被遊候、何茂力業致候

一 七半時過大奥御膳如例、六半時前方御締切相成候

金百五十疋

坂井権左衛門へ

右者日本風俗備考彩色細画五枚被仰付出来、近便相廻候ニ付去夏同画七枚

被仰付、其節二百疋被下、出立前取込之所御用被仰付候義無急度御盃御莫入筒共御扇子二本被下置候、当りを以本文之通被下取計、則今便金兵衛方書状を添へ相廻候事、但去秋相廻被仰付候也

粕庭羅 一箱 水野風月へ

右者過日白玉糖被差上候御挨拶二被下置候、金兵衛方書状を以相送申候

一 今晚立飛脚道中常振継共出立

一 五時過方於二ノ間金兵衛始当番宗甫共被為召御酒御肴等頂戴在之

一 表御寝、御夜詰九時引

(三十一)

二月九日 晴光

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五半時前両御拝被遊、夫方御掃除御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳如例、引続御蹴鞠在之

一 八時過定日御浴湯在之、為伺御機嫌近江罷出被為召候、鞞負同断也

一 七半時過大奥へ被為入御同座御膳如例 一金兵衛義相願退去

一 六時過方御締切相成候

一 御夜詰四半時引

二月十日 晴夕景雨

一 御目覚六半時

診 仲庵

一 五半時前両御拝被遊、夫方御掃除御臨書如例

一 大道寺七右衛門方早春不相変白梅鉢植御慰二差出入、落花二付当年も

復御裏役方御返し相成申候

一 今般真杉金三郎泊り之節御錠口へ休息致候二付御貸夜具裏表木綿大模様

敷蒲団夜着共同断、島(縞)小夜着一ツ新規出来、極御内証出方は迄大奥御

貸夜具相用來候得共段々果も無之事故老女申出二付出来取計

一 御内庭四番御披キ口前へ今般新番所出来、夜分斗御作事方之者詰番被仰付候

然ル処御場所柄と申御庭内花并果物筍等之締方之為二ハ御庭方之者

被仰付候得ハ格別御庭支配之義右諸事何ケニ御締り可宜旨御鍵役内談二付

如何ニも可然訳二付御奉行へも申談候所至極相当之義二在之と之談事二而則

今日方御作事之者御趣意在之可被相止旨御裏役へ御奉行方申来以後昼飯

一 ヶ月二是迄とハ五ツ増、都合廿被下旨通在之候、右二付御庭方之者へ御裏役此段

(三十二)

申付今晚方相勤、尤夜分ハ定詰昼之内も御用無之節ハ相詰罷候筈之事

一 九時過大奥へ被為入御膳如例、表御締切相成御庭御閑歩在之

一 大奥ニテ御蹴鞠被遊候

一 為伺御機嫌常邸へ金兵衛・五郎大夫・源之丞・平八郎・幾太郎罷出候

一 七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、鞞負例之通罷出候

一 五時前方表御締切相成

一表御寝、御夜詰引四半時過

二月十一日 霽

一御目覚六半時

診 適齊

一五半時前御神仏前御拝被遊、御座之間御掃除如例、御手備御靈前二在之

一殿様五半時御供揃二而深川靈岸寺御靈前御廟共御拝被遊、夫より

御機嫌御窺として被為入、直二御対顔被遊暫御人払在之、十兵衛侍座、相濟

大奥へ被為入御対面被遊、彼是四半時過二相成御用意之御小弁当被召上候、御汁斗

差上之、春岳様八大奥二而御膳如例、殿様御膳濟大奥へ申上御帰坐被遊候

十兵衛始御供之両部屋御先番御近習番被為召御目見被仰付候、御供揃被仰出無程

御帰殿九半時老寸前、御弁当前御生菓子(やうかん・うば玉) 大奥方蓄饅頭被上、御熬菓子

今朝出来二付御膳後差上之候、但今日ハ靈岸寺御先番罷越御人少二付御小姓此御屋敷へ

不罷出、以来も御人少故御先番等罷出候様被仰出候

御式所様江 大御杉折御干菓子 御猩石かれ三

殿様方

右者御到合二付被進之、但御精日二候得共寺方御到来品故態と御猩付也

御蒸菓子杉折一 御二所様へ召上り 倉橋

右者先日多川天徳寺参詣致候所幸二倉橋参詣致折から相頼寸志日長

之御慰迄二差上度旨二而相廻二付差出ヌ

(三十四ページ)

一七時過御内庭御蹴鞠在之、七半時過大奥へ被為入御膳如例、五時前方御締切

一表御寝、御夜詰引四半時前、一御前様方詰合金兵衛始へ御そば被下置之

二月十二日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五半時前両御拝被遊、夫方御掃除御臨書如例

為伺御機嫌罷出、御医師部屋迄 千種宗伯 横浜方罷帰候

同断 今度到着二付 岩佐玄珪 益田宗三

白魚一鉢内献之、召上り跡御表様被上候

小栗五郎大夫

長谷川源之丞

唐豆腐二包同様召上り 白井留二郎

一四半時過頃方少々御感冒之御気味合二思召則仲庵被為召拜診被仰付候所如何二も

御聊御感冒状二被相伺候二付御床二御温養御宜候、依之御薬後和発汗湯

昼夜二五服差上之、御二度御膳御三度共表御締切、尤御頭痛御咽痛御増寒等

御聊ツ、御覚へ御鼻水被為在、御脈も少々御進ミ之方、併御当分之御様体二候得共

今夕之御灸治御延引被仰出候、但御床二被為入

御前様方 石鱗五枚 思召故御灸治相止候得共被進之

青松院殿方 益寿糖一箱

右者哥島方迄相廻り候而御内々被差上之候

小籠入最中煎餅參上ニ付上り

直氣院

一敬左衛門義風俗備考調方ニ付罷出ニ付被為召御嘶被遊、御茶御菓子被下之、此節御客体之義十兵衛迄言伝へ申候

一真氣院養寿被為召御嘶被遊候

一八半時頃御寝前と仲庵両度拜診仕候所今朝方ハ御聊御脈御進ミ之方候へ共

(三十五ページ)

別段之御様子も相伺不申旨申聞候、五時過方御締切、此已前鞞負罷出ル

一表御寝、御夜詰四半時過引、但御小寝ハ無之、宗伯被為召御按摩差上之

一七半時過一順当番中方殿様御容体御承知被遊無急度一順拜診旁被遣

被為召診察も被仰付罷帰、委細奉申上候筈

二月十三日 夜来 暖雨

一御目覺次第六半時過

診 仲庵

一東御入側ニテ御拭御仕廻、御櫛ハ御鬚棒ニテ御直斗差上之

一昨御三度小豆粥御好ニ而宜被召上、今朝七種御粥御好少々被召上御本飯少々也

一万順伺御機嫌罷出被為召拜診、且御頭痛御針治被仰付候

一十兵衛義為伺御機嫌罷出被為召候、万順と兩人今夕ハ御灸治ニ付朝天罷出候由

源平桃植木 御慰ニ差上之

稻垣治部

春蘭 同 同

中根鞞負

一昨夜中御平穩今朝御異状と申も不被為在并御脈ハ御進ミ被遊其余御様体

昨日御同様相伺候旨、何分御軽易之趣仲庵申達御前法四服差上之

一適齊被為召御按摩被仰付御二度御膳御締切

一八時前為伺御機嫌平大夫・岩次郎・十三郎・三郎左衛門・重太郎・善十郎・石五郎・兵藏罷出被為召御茶くハし被下置候

一七時前仲庵適齊宗甫罷出奉拜診候所弥御晚発之御様子も不被為在至極

御平穩相伺候旨申達ス、一御二度御飯御菜廻り共御相応被召上候

一七半時過鞞負罷出端元(橋本) 左内今日御呼出之所又々改而滝勘藏へ御預被成候旨申渡

調印等致候迄之事、外二数輩今日呼出之面々在之由、鞞負御締切中御酒御せん被下

一御前様方昨秋已来度々之御側向一統へ御酒肴并御鮓御煮めん御そば御菓子等

被下置甚御氣之毒之詛合ニ付奉伺候上今日御附始一統へ表御締切ニ而於御前

(三十六ページ)

(三十六ページ)

かすぬきみ な なつげ さよりはす五ぼう生か

御酒御飯豆ふ汁 浸し物香の物外ニに付御肴中皿もり 此品々被下置之、大奥ニ而諸品

出来御代■ハ跡方 相廻ス、御膳処御不都合ニ付養寿へ談之上也、御酒四升表廻り

御式方様へ召上り 六寸二重 やうかん 御すし

唐まんしう

中鉢盛串団子 黄赤三百 一人十五本ツ、御祐筆初

御半下子共迄廿人

右者毎度之御締切中御酒被下等之節諸事手数相成趣ニ付被下之

一大奥方今日も羊寒三切ツ、詰合一同へ被下置候

一五半時前々於溜左膳金兵衛始詰合被為召右頂たい品之通被下置候事

一御夜詰四半時前引、適齊御按摩差上ル、御頭痛ハ御進ミ之方

二月十四日 晴

一御目覚次第六半時過御拭等都而昨朝之通 診 適齊

一朝御膳白粥御三盛被召上候、御二度小豆粥御三度御そは被召上候筈

一仲庵奉拝診候所愈御異状先不被為在、夜中御寝御宜御脈も昨朝方ハ御緩ミ

之方、御頭痛ハ外御諸症方ハ少々御強キ方、乍去何も御深入之御様子不被相伺

旨申通、御薬前法四服差上之、御二度御膳後御脚御湯上り候筈

一為伺御機嫌五郎左衛門罷出被為召候、御嘶申上御茶せんべい被下候

大鯛一尾内献之、召上り

十太夫初

五人 亥之助 迄

一九時過表御締切、御同座御膳被召上候

一九半時過御脚湯被遊、夫々暫御閑珉、仲庵宗甫侍坐、御程克御発汗被遊候

一殿様方為御見廻敬左衛門被遣ニ付被為召、御様体近々奉伺罷帰申上ル

御前様方 有平細工枝珊瑚珠鉢植御慰ニ被進之岩吉熊吉被下候

清心君方 八寸重一御盛合御肴 無急度御機嫌被為聞被進之

一順信良為伺御機嫌罷出被為召拝診被仰付候

(三十七ページ)

一為伺御機嫌罷出狛山城方被為召御嘶被遊候、鞞負同様 御茶菓御酒御到来肴

被下候

茶一箱 春や昔被差上之 狛 山城方

菓子 氷室

一伺御機嫌罷出高田孫左衛門并真杉所左衛門大道寺七右衛門被為召御茶菓被下御咄被遊候

一右同様喜三太平兵衛辰蔵治左衛門小六罷出、御脚湯中御逢無之候

一鑑落前御締切御膳被召上候、御そは御好被仰付候、五時過表へ相成候

一御夜詰四半時前引、宗甫御按摩被仰付、先時御大便御快通在之

二月十五日 晴光

一御目覚六半時御仕廻等諸事昨朝之通 診 宗甫

一朝御膳小豆粥二盛御本飯少々被召上候

一仲庵適齊奉拝診候所今朝ハ御頭痛も御銚キ方御脈も追々御緩ミ被遊御氣先

も御宜何も御異状不被為在旨、依之御薬御前法よ服調上之段申達ス

一式日ニ付御神仏前御手備、金兵衛正服ニ而相勤、田安御分ハ左膳同断也

一殿様今日御登城、御退出懸為御見舞四半時過被為入直ニ御対顔被遊、夫々

大奥へ被為入御対顔被遊、御帰座之上御干菓子御有合差上之、中将様御同座ニ而

御膳被召上、御平切身たい等、御汁豆ふつミ入、御香の物被進之、焼鱈差上之、御前様二者

御別ニ大奥ニて被召上候、今日非番之御側向御医師一統罷出御機嫌相伺フ、大奥方も

御蒸菓子被進之、御供之内剛右衛門平大夫善十郎被為召、御茶御菓子被下御嘶等被遊候

鞆負十兵衛御下夕被下之、御供頭共兩部屋御供御先番不被為召面々御機嫌相伺
此段申上候、御帰殿七時前万順罷出、仲庵共柏餅被下之

御式所様へ 六寸御重一 御汁二仕立 小きます

殿様方 鉢もり柏餅

右者今日御入二付被進之、但奥表半分ツ、鞆負治郎初御供御先番御附金兵衛初
御側向兩番手伝台子向不残へ被下之

(三十八ページ)

一七時過表御締切、御対面御入、七半時前表へ相成申候

一仲庵適齊罷出拝診被仰付候処弥御異状不被為在旨申達ス

一盞落前御締切御膳被召上候、御締切中御膳番へ汁粉御仕立被仰付候

御二所様方 籠入せんべい 最中 まんじゆ

清心君江

右者御初灸治二付御機嫌被為聞被進之

若和布 過日遠来二付差上之 松平主馬方

猪子善十郎

一御夜詰四半時前引、宗甫御按摩被仰付 一金兵衛退出致候事

二月十六日 晴色

一御目覚六半時過御仕廻昨日之通り 診 仲庵

一朝御膳御本飯一盛被召上候

一仲庵奉拝診候所愈御順快之御運御諸症慚々御磷御脈も追々御緩和相成

何等之御異状無御坐旨御菓前法よ服調上之

一九時過御二度御膳、表御締切此節御入御対願在之

一去ル九日晚立飛脚到着、御静謐、恐悦之事

兩殿様御文事

七郎右衛門次男矢島怒介

御相手被仰付候

右者御側御用人申渡委細勤方之義ハ兩御側向頭取へ申談候様且御用透之節

御学問所之義も申談候様此両条演説在之、御国表二而ハ御文事御用二付

支度出来次第出府致候様被仰付候由、去ル十五日着初而今日面談、一応対応

致諸事申聞置候事

一八時過狛山城方被罷出御用状御覽御機嫌被相伺寛々御漸被遊候

鞆負同時被罷出同断、高田孫左衛門も罷出同断

若和布 一束 狛 山城方

(三十九ページ)

梨子 五 御前様へ被差上之 中根鞆負

味噌漬 ほふく三ツ 高田孫左衛門

若和布一束 大奥へ干がれ五把差上之 金兵衛

右者御国表方相廻り且到来二付差上之

金玉糖一箱

同人

右者御慰ニ差上之

一 梟御上屋敷方相廻ル、先脚申越候生姜糖二枚ツ、入廿箱相廻ル

一 七時過仲庵適齊信良罷出拝診候所御異状不被為在今朝之通申達ス

一 一順義御上屋敷方為御見廻被遣拝診被仰付候、罷帰御様子申上ル筈

一 鎔落頃御締切御膳被召上候、四半時前表ニ相成適齊父子御按摩被仰付

一 御前様方詰合六大夫金兵衛初一統へ御膳被下置候 御汁 はんへん 御皿にしめ

御中皿 いら豆ふ なづけ 香の物 御茶

一 御夜詰四半時前引

二月十七日 晴光 春分 二ノ午

一 御目覚六半時御仕廻等近日之通り 診 適齊

一 仲庵適齊奉拝診候所愈御異状ハ不被為在御順快之趣、御菓前法調上之旨申達ス

一 高田孫左衛門昨晚横浜方水野修蔵罷帰ニ付模様申上之為ニ罷出被為召候

一 今日春分ニ付御晝前御供物在之、金兵衛御名代相勤候

一 九時過表御締切相成、御入御対願直ニ御同座御膳被召上候

湯ワカシ小葉燗

矢鳥怨介

右者今般出立前牧野主殿介方到来ニ付差上之、但極内実ハ主殿介差上ル

阿部伊予守様へ 生姜糖七箱 一箱三枚ツ、

清心院様へ 同 三箱

(四十ページ)

右者毎度福山表方被進物も在之何ぞ為御答礼被進度御旨ニ候得共御廻

し方御六ツケ敷趣ニて花井へ田川相調御嵩ニ無之御品御宜との事ニ付此度

御取寄御国廻リニ而被進相成、尤清心君方御伝へ也、折柄故清君へも被進候

青松院殿へ若和布 生姜糖三箱 哥島方御内々被遣ニ取計

一 殿様方為伺御機嫌元珉被遣拝診被仰付候而罷帰御容体申上候筈

一 昼前方大方ハ御横臥、今朝方御頭痛近來方御強キ方、宗甫御按摩且ハ

御針治被仰付、御氣先も近日ニハ無之御宜からす方ニ相伺申候、七時前方少々御

発汗状ニ被為在、七半時過御締切御膳御相応ニ被召上海苔巻御酢少々被召上候由

一 六時過仲庵罷出奉拝診候所御惣体今日ハ御不出来、先御■■二段ニ御発表ニ

相成候趣、尤為御差御義ニハ無御坐、依之前法加礪砂今晚ニ二服差上候旨申聞ル

一 韃負七時前方罷出候、平大夫も為伺御様体罷出被為召候

一 御前様方昨夕之通り詰合左膳始一統へ御膳部被下置部屋頂戴仕候

一 今日之御発表ニ付夜中之御模様も奉伺度旨、仲庵も願出旁御用便之

為ニ御不寝相立申候、宵源之丞暁五郎大夫夜中御安眠之趣也

一 宗伯宗甫御按摩御頭痛御捻差上候

一 御夜詰四時過引

二月十八日 晴好

一 御目覚六半時御仕廻昨朝之通り

診 宗甫

一 朝御膳御白粥御二盛被召上候

一 仲庵拝診之所先昨夕方ハ御脈御頭痛等御穩御深入之御様子も不被為在

御菓昨夜之通差上旨申達ス
一 御伏枕宗伯御頭痛御捻被仰付候

(四十一)

一 御前様方御玩物小一台御慰ニ被進之候
一 御表様少々御風氣被為入、今日之諸流武技御覽御延引被仰出候
一 信良為伺御機嫌罷出、拝診被仰付清濁輕重測量器輿地凶等入御覽候
 早鮎五拾 御三度召上り 殿様へ十九被進之候
 金兵衛

右者草尾精一郎方到来致ニ付差上之候

一 九時過御へ切御膳被召上候、御対顔御入
一 八時過殿様方為伺御機嫌万順被遣拝診被仰付候、せんべい被下置候
一 十兵衛初敬左衛門・三十郎・喜三太・平兵衛・辰蔵・清十郎・小六為伺御機嫌罷出被為召
 御目見被仰付、直ニ退去へやニて塩入煎餅被下置之
一 近江為伺御機嫌罷出被為召御嘶被遊候、韃負罷出同断

殿様方御酒三升 鉢盛硯ふた物 五品

右者被為聞御機嫌御側為御慰被進之、但大奥ニて御取林し相成申候

一 七半時過御へ切御膳御同座ニ而被召上候、四時頃表ニ相成申候
一 七時頃仲庵拝診仕候得共今日者昨夕ニ引替御宜御晚登之御気味も無御座
 御異状不被為在旨申聞候、四時過方者多分御起坐替る々罷出候面々と御嘶等
 被遊、一昨日迄之御気先と御同様ニ被相伺申候

為伺御機嫌罷出候

御供頭共

一 五時過今日御到来之御硯ふた物・豆ふ・御吸物ニて御酒、御へ切中於御溜溜左膳初一統
 頂戴被仰付候

一 御夜詰四時過引、不寝宵藤一郎曉孫大夫相勤申候

二月十九日 晴光

一 御目覚六半時過御仕廻昨朝之通り 診 仲庵

一 朝御膳御粥御本飯御一盛ッ、被召上候

(四十二)

一 仲庵奉拝診候所今朝ハ大キニ御宜御気先、尤御宜候得共御菓御前法差上旨申達ス
一 殿様少々御様体被為在ニ付拝診且中君御容体申上旁為御見廻宗甫被遣
 罷帰委細奉申上候
一 九時過御へ切御対顔御入御膳被召上候
一 殿様方御機嫌御伺旁伺御機嫌ニ岩次郎同様三郎左衛門・重太郎罷出御膳中御逢無之候
一 殿様方為御見廻拝診一順被遣候、則診察被仰付且御嘶も被遊、適齊御按摩被
 仰付、八半時頃仲庵罷出拝診候所愈御異状無御座御発熱も不被為在旨申上候
一 七半時頃方韃負罷出寛々御咄在之候

一殿様へ御書添御有合益壽糖一箱被進、幸二一順罷出候故御直二御託被遊候
 一六時前御へ切御膳被召上候、一金兵衛相願退出致候事
 一五時頃方表二相成治部被為召罷出候
 一御夜詰四時過引、宵五郎大夫暁源之丞不寝相勤

二月廿日 晴光

一御目覚六半時御仕廻近日之通り 診 適齊

一朝御膳御本飯御二もり被召上候、追々御食料相増候方之御運ひ也

一仲庵奉拝診候所愈御異状不被為在御順快之御運之旨申達、御菓前法調上之

一今晚六日振飛脚出立、御様体御匙医方不申越筈也

一九時過表御へ切御対願御入、御同座御膳如例

格式番外席 御書院番飯筆頭御近習頭番取御膳番

被仰付 高田三郎左衛門 家督廿三

近藤左大夫 廿年目

武田平右衛門 同断

御書物方被仰付 御次詰 横田兵蔵

右之通御家老中被申渡候、依之無急度金兵衛御取合御礼申上ル、兩人上下着

一殿様方為御見廻辰蔵被遣、折から御機嫌も相伺此段奉申上候

(四十二)

一殿様昨日方ハ御様体少々御不出来被為在二付仲庵為御見廻被遣、罷帰御様体

奉申上候、一七時頃仲庵拝診弥御異状不被為在旨申達ス

一御上屋敷へ為伺御機嫌金兵衛始五郎大夫・源之丞・平八郎・幾太郎罷出御菓子被下之

一七半時過表御へ切御膳被召上候 一六時前勅負罷出御嘶申上候

一御夜詰四時過引、宵不寝孫大夫暁藤一郎相勤

二月廿一日 晴好

一御目覚六半時御仕廻近日之通 診 宗甫

一仲庵奉拝診候所愈御異状無御坐御順快之御運被為在候旨、御菓ハ矢張

前法二服差上候旨申達ス

殿様へ 鉢盛 切すし

右者御容体為御見舞慰二被進之、御上屋敷取計

一殿様為御見廻適齊被遣候、罷帰御容体申上ル、昨日方大キニ御快方之由

一九時過御締切御入、御対面御同座御膳如例

一殿様方為御伺万順被遣候二付被為召候

一為伺御機嫌御供頭次郎右衛門・太郎大夫罷出被為召御嘶被遊、御菓子御茶被下之

一同様五郎左衛門罷出被為召御菓子御茶被下御咄被遊候

若和布 一束差上之 天方五郎左衛門

一為伺御機嫌泊山城方被罷出御逢在之、近々四宿泊リニて浦賀へ被罷越候由

右二付思召を以御手自綿子一御猪口添被下置之

一七半時過御へ切御膳如例、五半時過表二相成、勅負も例之通罷出ル

一御夜詰四半時二寸前引、但今宵方御不寝相止ム

二月廿二日 晴 南風

(四十四)

一 御目覚六半時二寸廻り御仕廻近日之通り 診 仲庵
一 御容体愈御醒解之御運ニ仲庵拝診、依而御薬前法去礪砂加竜肝三服
調上之旨申達ス

御前様へ 六寸重一 おてつ牡丹もち 此分ハ思召もの也
鉢もり 切すし

右者今日御初灸ニ付御側御慰ニ被進之

一 殿様御様体御順快ニも被為在且御灸治ニ付御医師共も罷出候義故旁五郎大夫
為御見舞被差越候、愈御順快被為在候旨申達ス
一 九時過御締切御対願御入御同座御膳被召上候
一 為伺御機嫌罷出ニ付被為召候、一順斗 一御前様方御酢一統へ被下置之
一 七時過仲庵奉拝診候所愈御順快被遊御異状不被為在旨申達候

金二百疋

養寿へ

右者今曉来之大火ニ宿元類焼ニ付被下之

酒五升御直シ百疋 此分御内証 森六大夫

右者大火ニ付宿元近火、実家類焼ニ付旁金兵衛方手紙添被下之

一 七半時過御へ切御膳如例 一六時過韮負罷出例之通り、再御締切相成
一 御夜詰四半時過引

二月廿三日 晴光

一 御目覚六半時御仕廻近日之通御撫付差上 診適者

一 仲庵奉拝診候所愈御快然被為在候段御薬前法三服差上旨申達ス

一 右同人御上屋敷へ御見廻且為伺御機嫌罷出候

一 九時過御へ切御入御対面、夫方御同座御膳被召上候

(四十五)

一 為伺御機嫌十兵衛・三郎左衛門・平大夫・岩次郎・十三郎・重太郎・善十郎・石五郎・兵藏
罷出被為召候、退座後再三郎左衛門・平大夫・重太郎・善十郎被為召御咄被遊、塩煎餅
部屋頂戴被仰付候、韮負罷出例之通り、仲庵今日夕餉等罷出候事

一 七半時過御へ切御膳如例、四時前表へ相成

殿様方安国殿御神贖一箱 御神供一筐 交御肴一籠

右者当御時節格別之思召を以御祈禱被仰付被進之ニ付小宮御出来

御庭東南之方江御安置相成筈、右御肴召上り跡仲庵適齊父子へ被下之

一 御夜詰四半時引、宗伯被為召御按摩被仰付候

二月廿四日 雨

一 御目覚六半時過、御仕廻等昨日之通 診 宗甫

一 仲庵罷出奉拝診候所透と御醒解御快然被為在候旨御前法御薬差上候段申達ス

一 九時過大奥相成御へ切御対願御入、御同座御膳如例

月成奉書一束

右者阿部伊予守様方去五月頃方御蔵書日本風俗備考御立用御写被仰付
稍御出来、此頃御仕立ニ相成ニ付為御挨拶横川吉十郎へ相託被遣取計フ

清心院様方 七寸御重一 厚やき玉子一 御のり巻酢一

御二所様へ 鉢もり硯ふた物

御同所様方

御式所様へ 鉢盛串団子上り

花井方

右者折柄御機嫌被為聞花井参上ニ付思召物且御側御慰として被進、猶又

御側御取林しニ差上之、但右鉢盛奥表半分ツ、団子両番台子迄御肴当番切被下也

清心院様へ 梅半切紙百 墨一 御愛相迄ニ被進之

夜丹軸芦軸三

一 韃負如例罷出、為伺御機嫌高田孫左衛門罷出被為召団子被下置之

(四十六)

一 同断大道寺七右衛門・真杉所左衛門・河村三左衛門罷出、御逢無之

一 同断小栗治右衛門罷出不被為召候、此間中忌中引込居着住ニ付今日罷出

一 七半時過御へ切御膳如例、五時過表ニ相成

一 御夜詰四半時過引

二月廿五日 新晴

一 御目覚六半時 御仕廻近來之通 診 仲庵

一 愈御快然被為在候旨御菓今日切御前法調上之

一 御二度御膳後御櫛久々ニ而差上候、御障不被為在候

一 九時過御締切御入御対面直ニ御膳被召上候

一 為伺御機嫌金兵衛初非番之面々罷出候、御菓子被下之

為伺御機嫌罷出

御供頭共

殿様方 六寸二重 御干菓子

御移被進 若和布

茶筌玉子長芋節煮

氷室

右者御機嫌被為聞被進之

御二所様方

交御肴一籠内召上り 御附兩人被下候

出雲守様御二所様方

右者御容体為御見舞秀被進之

一 七半時過御へ切御膳被召上候、此已前韃負罷出如例

一 四時過表相成御夜詰四時二寸引 一金兵衛相願退出致候事

二月廿六日 和風 晴日

適齊

一 御目覚六半時御仕廻近日之通御撫付 診 宗甫

一 御養生ニ今日も御菓ニ服差上之、弥以御快然被為在恐悦之事

一 九時過御締切御入御対顔御膳被召上候

桜植木一御慰ニ差上之

金兵衛

(四十七)

一 九時前御手水被為召候 一八時過御内庭ニ而暫御蹴鞠在之

御前様方 七寸二重 小たい色付やき二 鉢もり 桜もち 奥表半分ツ、被下
やきます 竹子 当番台子迄被下

右者御機嫌被為聞被進之

為伺御機嫌罷出 御逢在之 今日着 宇都宮勘解由

一 韮負罷出例之通 一 七半時過御締切御膳如例

一 信良為伺御機嫌罷出、被為召御茶菓被下之

一 六半時頃方金兵衛初一統宗甫被為召吟詩被仰付候

一 御夜詰四半時過引

二月廿七日 晴光

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 御仕廻惣而御生平之通り被復御櫛差上ル

金拾両

森六大夫

右者近頃大火之節居室も近火且実家類焼二付甚失却多難洪之訳合

二而御取替金被相願候得共居室焼失二も無之不相当之義必然御附之事二而

外類例二も不相成暫当坐御取替金之義故御側御用人共内評之上盆暮御

合力之内方無遲带上納之筈二而則書附取置候而左膳迄相渡拝借取計

金五両

養寿

右者昨暮被下金廿五両之内絶而上納之事故先預り置候所今度宿元焼失之折

柄を以無急度被下旨御側御用人被申聞二付則田川迄相渡被下相成申候

一 仲庵奉拝診候所愈御全快被遊二付昨日方御菓御止二相成旨申達ス、今日ハ矢張二服也

一 九時過今日方大奥へ被為入御膳被召上如例

一 殿様一昨夕方御聊御頭痛氣被為在候由二付宗甫為御見廻被遣候所今日者惣而

(四十八)

御快然被為在候旨罷帰申達候

一 為伺御機嫌近江罷出御逢御漸等被遊候 韮負罷出同断

一 五時過方表御締切相成

一 御夜詰四時過引

二月廿八日 晴光

一 御目覚六半時

診 仲庵

一 愈御復常被遊二付今日方御休菓申上ル、御健胃御丸菓四粒ツ、差上之旨申達ス

一 昨朝方御間内御掃除被遊候

為伺御機嫌被罷出御逢在之 狛 山城方

匏塩漬青梅漬桜花漬一曲ツ、鶴岡生物小松三本御好之由

右者昨日浦賀方罷帰土産 御慰二被差上候

鉄扇一 御手紙一

中根韮負

右者近々倅牛之介大坂辺迄為試長劔支合罷越二付無急度御買上二而

思召を以被下之候、牛助部屋御礼罷出ル

一 九時過大奥へ被為入、御膳被召上候

一 九半時過御浴湯久々ニて差上、御障も不被為在先以恐悦之事

一 十兵衛初剛右衛門・平兵衛・辰蔵・清十郎・治右衛門・小六・敬左衛門・三十郎・喜三太・一順・万順
為伺御機嫌罷出、御目見被仰付候、剛右衛門・敬左衛門始三人再被為召御嘶被遊候
十兵衛始一統へ薄皮餅七ツ宛被下之

阿部伊予守様方 八寸重一 御国産浜焼玉子入七十 若免御移被進候
右者折柄御機嫌被為聞召上り之御様子御承知被遊御国表方相廻り候旨
二て与一兵衛御広式迄持参被進之、御広御用人方受取差出候事

(四十九)

一 七半時過大奥へ被為入御膳如例、六半時過方表御へ切相成

一 御前様方詰合金兵衛始へ団子一盆ツ、被下置候

一 御夜詰四半時過引

二月廿九日 晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五半時前御神仏前御拜、夫方御間内御掃除被遊候

金老朱宛

御料理方 長谷川友次郎

野村久左衛門

右者当正月殿様方三猷御略式鯛鮎御吸物被進諸事取計差上二付被下候
取計尤御式無之御時節之所被進二付御人少之中手数も懸り候故之義也

有平細工万年青小鉢一

金兵衛

右者御前様方度々御菓子等頂戴物も在之旁二而御慰ニ差上之

一 九時過大奥御入御対顔直ニ御膳被召上候、朝夕御蹴鞠被遊候

一 去ル廿一日立飛脚着、御国御静謐恐悦之事

御役御免御書院番組へ被入

御附頭取 浅井権十郎

御膳番格被仰付候

但明道館詰被仰付、御側御用人申渡

御側向頭取見習被仰付

御徒頭 井上弥一郎

但當春江戸詰被仰付候

御近習番被仰付御書院番へ被入候

大御番 河崎三郎助

根来紀之允

但當春江戸詰被仰付候

御書物方被仰付候

御近習番 田辺五太夫

右者去ル十一日於評定所御家老中申渡 江戸詰御右筆へや 弥二郎ハ御家老中也

一 右二付金兵衛義御兩殿御用人へ御礼申上候

(五十)

殿様方六寸重二若和布 中干鯉拾枚

右者御国廻二付御二三所様へ被進之

一 今日金兵衛斗御上屋敷へ為伺御機嫌罷出候、余人ハ今日不罷出候

一 高田孫左衛門御用帖持参罷出入御覽候、七半時過

若和布差上之、弄ひ馬卜人形被下

高田孫左衛門

一 靱負罷出例之通、七半時過大奥御膳如例 一金兵衛相願退出致候事
一 六半時頃方大奥二相成御夜詰四半時過引 上坂平八郎

龜甲煎餅一箱雁皮紙半切一

右者浅見七郎右衛門方到来致二付御内々差上之

三月朔日 晴光 南風 八半時頃方迅雷風雨

一 御目覚六半時 診 宗甫

一 五半時前御神前御靈前御拝、御手備被遊、御掃除御臨書例之通 宇都宮勘解由

若和布 雲丹二箱

右者今度持参仕二付御内々被差上之

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上、其後御蹴鞠被遊候

一 御文事 矢鳥怨介

御相手被仰付候、御礼申上金兵衛差加

右者初而今日罷出、上下着用、一旦退去再罷出、唐宋八大家文本之内留候

論一遍御読被遊、畢而怨介談申上ル、金兵衛仲庵侍座

一 七半時過大奥へ被為入御膳如例

為伺御機嫌罷出ル 御供頭共

一 六半時過方御へ切相成、御夜詰四時過引

三月二日 風止新晴

(五十一)

一 御目覚六半時 診 仲庵

一 五半時前御神靈前御拝、夫方御掃除御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御膳如例、暫御へ切之体二而御庭御閑歩在之候

為伺御機嫌罷出候、明日発足二付 中根牛介

一 八時過矢鳥怨介罷出、范增荀卿二論講読、畢而管仲論尊章御点刪之

訳合御糺問被為在詳解申上候、相濟候所へ靱負罷出如例

一 鎌落前大奥へ被為入御膳如例

一 御夜詰四時過引、大奥御寝被為入、但御様体後初て也

三月三日 晴日 清明

一 御目覚六半時 診 適斎

一 五半時前御神靈前御拝上巳御手備被遊、御掃除如例

一 為伺御機嫌一順罷出被為召、御茶御菓子桃花等被下置、御雜談被遊候

御前様へ 鉢盛硯ふた物 桜餅 山川酒二升 蛤一台末記

右者当年御雛御飾無御坐候へ共御賑やかし二被進之

御老所様へ 鉢もり切すし

殿様方

右者今日被為入二付御側為御慰被進之

殿様へ 雁皮紙百 早オリ墨一箱一挺 御席上御愛相二被進之

一 御目覚方金兵衛上下着、一統替り合方上下着

一 御前様へ御祝義申上御広式御用人迄申達候

当日御祝義申上ル

御広式御用人

御前様江 蛤一台

右者佳節御側為御慰被進之

(五十二)

大名小路

御二所様方八寸重四 硯ふた物 薄皮餅 殿様へ被進之

かすてら ちらしすし

右者節句之折から御側御慰として被進之

夜丹竹軸 五本 日記 細字 酒井雅楽助

右者御慰ニ被差上度旨にて相廻鞠負方差出ス

一四半時前殿様御登城、御退出懸被為入、直ニ御座之間へ御通被遊候上

御対顔御祝義被仰上、御長匏御干菓子差上之、御同伴大奥へ被為入

御対面被遊、御帰座後御供御先番十兵衛初御目見被仰付、九時前大奥へ被為入御同座御膳被召上候、殿様御上下ニ御召替被遊御小弁当被召上其節

御平御浸シ物被進候、大奥方も御肴ニ品御蒸菓子二品被進之候、相濟御帰座

之上子共蹴鞠御見物、御庭前御闊歩も鳥渡被遊、八時頃御酒御吸物御中皿

物にて数杯御勸申上被召上候、御供之内三郎左衛門敬左衛門毎度被為召罷出ル、無程

八半時過御帰殿被遊候、御饗応節句ニ付被進之

一節句ニ付十兵衛初御供御先番之面々且今日ハ御供頭へも桜餅被下置、御側向

江者御すしも被下之、大奥方も薄皮柏餅硯ふた物等頂戴被仰付候

一七時前方鞠負罷出如例

一大奥方金兵衛初一統へ両番共白酒ニ升硯ふた物柏餅薄皮餅等被下置之

一手伝初坊主共迄桜もちすし共少々、被下ニ取計

一七半時過大奥被為入御膳如例、五半時頃方暫御へ切相成候

一表御へ切御寝、御夜詰引四半時前

三月四日 晴

御目覚六半時

一五半時前御神仏前御拝被遊候

診 宗甫

(五十三)

一五半時頃方大奥御対面所へ御移被遊、表也、御留守中御二ノ間御天井小壁共御張付

出来之職人共十人斗立入九半時前迄ニ出来、御二ノ間堺御襖四御入側南北四張立出来

一今日橋本左内四時御呼出在之、評定所

一御二度御膳之節ハ御座之間ニ而御同座御膳被召上候、此節大奥ニ相成、無程表ニ相成

御対面所へ高田孫左衛門罷出ニ付被為召御菓子被下之

一八時過頃表御座之間へ御移被遊、為伺御機嫌泊山城方被罷出被為召候

一七時過為伺御機嫌宇勘解由島近江稻左司馬罷出被為召御菓子御茶被下

一御二度御三度御膳後御蹴鞠被遊候、鞠負六半時過罷出候、左内一条ニ付

一六時過暫御へ切再五半時過御へ切相成候

一表御寝、御夜詰四半時過引 一金兵衛相願退出致候事

三月五日 晴光

一御目覚六半時

診 仲庵

一五半時前御神靈前御拜、夫方御掃除御臨書如例

一大奥御寝、表御締切、御寝之義二付是迄度々間違心得違等出来御精日又月之御故障等之節々甚御順紛ハ敷候二付今度奥番御錠口共申談之上書付出来入御覽、思召も不被為在三付御錠口へ右書付差出、御附女中へも相廻置、御極り書付左之通 去月廿日頃懸合濟

以来大奥御寝中二日置若御定日御精相当り候節ハ御精進

明之日二大奥御寝有之、夫方又二日置之御順ニ相始り候事

但御中藤故障在之節ハ隔日大奥御寝之事

大奥御寝表御締切、表御寝

右大奥御寝ハ中二日置御切と表御寝之順ハ御精進之操廻ニ方前

(五十四)

後二相成候事も在之候事

但御前様御故障在之節ハ隔日御切御寝ニ相成候事

蛤一鉢差上之 昨夕也

白井留三郎

一九時過大奥へ被為入、御膳被召上如例

一八時過矢鳥怒介罷出候、秦始皇韓非論申上候

一御上屋敷へ為伺御機嫌金兵衛五郎大夫初罷出候

蓮性院様方 籠之内交御肴 鯛一 召上り

蛸二海老二 靱負左膳へ被下之

右者折柄御機嫌被為聞被進之

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、靱負罷出如例、五時前方御切

一大奥御寝、御夜詰四時過引

三月六日 曇

一御目覚六半時表へ被為入

診 適斎

一五時過御神仏前御拜、夫方御掃除御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳如例

今日到着二付

御礼御機嫌伺申上候

井上弥一郎 上下着

右者治部差加御目見被仰付、畢而被為召暫御嘶申上候

一八半時前方矢鳥怒介罷出石処士之席と雑説と申上候

一七半時頃方靱負罷出如例、鎌落頃大奥へ被為入御膳如例

一五時前方御締切相成四時表二相成

一表御締切御寝、御夜詰四時過引

三月七日 陰天

一御目覚六半時

診 宗甫

(五十五)

一五半時前御神靈前御拜、夫方御掃除御臨書如例

一九時過大奥にて御膳如例

小茶碗五ツ箱入九谷焼

石原甚十郎

猪口一ツ 若和布

右者去月七日御国表へ、御内用二付北行、今日到着常盤へ罷出夫方四半時

前当邸へ為伺御機嫌罷出、御逢被遊、再夕方被為召、其節本文之品

差上之、鞆負も罷出居候、八半時過方七半時過迄

急須壺 同

同人 齊民

中茶碗五 急須一 両品箱入 同

同人 市人山小

塩つむぎ 十

勝木十蔵

右者甚十郎致持参差上之

一七半時過大奥御膳如例、無程表御締切相成候

一御へ切中於溜りニ金兵衛初当番之面々并仲庵被為召御酒御そば山川酒頂戴

被仰付候

劍菱一升 六寸重一鯛煮付

石原甚十郎

右者今朝着ニ付思召を以被下置之

一表御寝、御夜詰引四半時過

三月八日 晴

一御目覚六半時

診 仲庵

一御手水御仕廻御召替濟御間内御掃除被遊、夫方御膳被召上候

一五半時前御神靈前御拜被遊、夫方御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳如例、暫時御蹴鞠在之候

一九半時頃為伺御機嫌一順万順罷出被為召、柏餅御茶等被下候

(五十六)

一為伺御機嫌二郎左衛門・平大夫・岩次郎・十三郎・重太郎・善十郎・石五郎・兵蔵・小六罷出

被為召候、再両部屋四五人被為召御咄被遊候、柏餅へや頂戴之

一七時前甚十郎罷出御閑話在之、鞆負罷出如例

一今日迄弥一郎見習勤二付十兵衛不罷出候事

白玉糖二箱 干鰯五枚

井上弥一郎

右者今度相携候二付差上之

一鎌落前大奥へ被為入、御膳如例、五時過方御締切

一大奥御寝、御夜詰四時過引 一金兵衛相願退出致候事

三月九日 霽 八半時頃霰

一御目覚六半時表被為入

診 適齊

一五時過御神仏前御拜被遊、夫方御掃除御臨書如例

一今日神明宮御祭礼ニ付御代拜、被供物等ハ如例、常邸方も御代拜在之

御慎中故御門外之者ハ勿論御屋敷内も参詣不致様伺之上取計フ

御前様へ 御庭孟宗筍二茎

右者大名小路へ被進相成候様被仰上被進之

青松院殿へ同二本御有合雲丹二箱 哥島方御内々相伝申候

一九時過大奥へ被為入御膳如例、九時半過定日御浴湯被遊候

一殿様方過日被進候安国殿御祈禱御神牘御宮新規御出来、御庭前へ

今日御安置二相成日々御参詣被遊筈、兎輩他言等之懸念在之ニ付御

へ切中之筈、被供物之義ハ至而御手輕ニ而今日ハ御神酒一対御土器御洗

米御手備被遊、以来ハ四月十七日斗今日之通

一御宮ハ御安置中御裏役ニテ支配被供品ハ御膳番取計、此段申達候事

(五十七)

一七時前方矢鳥怒介罷出、大石良雄手簡懸物御覽ニ付御跋御書キ

被遊候を御相談在之候、煎餅被下取計、御外庭花見物被仰付候

一七時半過近江為伺御機嫌罷出、被為召御茶御菓子被下候

一鎌落前大奥へ被為入御膳如例、靱負罷出如例

一五時頃方御締切相成、四時過表二相成

一表御寝、御夜詰四半時引

三月十日 晴光 桜満花

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御神仏前御拜、夫方御掃除御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳如例、暫御蹴鞠、八時過新宮御拜御へ切相成

玉露糖一箱

橋本左内江

右ハ思召を以御在合ニ付靱負御伝へニテ被下置之

一八半時過方矢鳥怒介罷出、仲庵侍座

一常邸へ伺御機嫌罷出、金兵衛・藤一郎初

一今晚飛脚常振出立、寺証文廻ス

一鎌落頃大奥へ被為入御膳如例、四時前迄御締切

一表御寝、御夜詰四半時過引

三月十一日 晴光

一御目覚六半時

診 仲庵

一五時過兩御拜被遊、夫方御掃除御臨書如例

一九時過大奥へ被為入、御膳如例、暫御蹴鞠被遊候、引続御庭御拜、夫方窃

松山辺桜林満開御見物御徜徉被遊候、尤御締切御附始三四人随従

(五十八)

五種詰茶一箱献上

御留守居兩人

一御家老山城方靱負五郎左衛門近江左司馬治部甚十郎孫左衛門七右衛門所左衛門前以

御移在之為伺御機嫌罷出、八時過方追々参着被為召、揃之上大奥出来之

麩焼五ツツ、被下、御茶差出ス、暫有て御庭花見物被仰付、御■■所前方何茂

罷出松山へ上敷三枚敷之、遠望鏡拜借罷帰七半時頃方御酒肴被下之、御肴

かれさわら煮付、生が中皿同酢七ツ何茂頂戴、程合ニテ御有合若和布差出ス、仲庵

あらめ甘に

当番適齊被為召取持被仰付、大奥へ被為入御膳如例、無程御帰座御酌被成下御
式匂

勸メ被遊、六時過幕之内一ツツ、被下之、余興甚十郎狂哥七右衛門同断、何茂
十分頂戴退出六半時過御給仕岩吉金三郎松五郎重々役之酒仕出ハ御膳番

詰所ニテ取計、右三人留三郎へハ老刃幕之内一ツツ、被下取計、酒ケン菱五升

一 御前様方小吉田酢桶十三御側御慰ニ被進之、但一ツ、六大夫始当番被下跡山城初被下由

一幕之内十五人前看之分廿人前右十人之外十兵衛被為召候所溜池様へ被為召ニ付不罷出候

頂戴物相送り候、六大夫御医師兩人老人前過御膳番被下

一 五時過方御々切、四時過方表ニ相成

一 表御締切御寝、御夜詰四半時前引

三月十二日 晴好

一 御目覚六半時

診 適齊

一 御膳前御掃除被遊、五時過両御拜、夫方御臨書如例

一 九時過大奥御膳如例

塩雪魚一本御有合 六寸重桜餅 森六大夫

右者当時実家焼失ニ付同居致候ニ付何となく被下ニ取計申候

一 高田孫左衛門昨夕被為召候御礼罷出一寸御逢在之、五半時前

(五十九)

一 九半時揃御養生御灸治表御々切ニ而被遊、仲庵宗甫罷出一順折節罷出候

二 付被為召、御前様ニも被為入、召上り御菓子御二三所様へ差上之、岩吉金三郎

御相伴被仰付、筆二墨 小紙一 頂戴之、八半時前相済益御機嫌克御感も御宜

筆二 錦絵三 小紙一

御前様方 鉢盛切すし 思召物車海老廿一 召上り相成

右者御灸治ニ付思召もの 且御側御慰として被進之 但奥表半分ツ、

両番被下、残手伝之坊主共迄

一 十兵衛義昨夕之頂戴物之御礼伺御機嫌旁罷出御逢在之

一 七時過御々切之体ニテ御庭御拜、御徜徉被遊候

一 七半時過大奥へ被為入御同座御膳如例 一金兵衛相願退出致候事

一 六半時過方御々切表御寝、御夜詰四時過引

三月十三日 晴

一 御目覚六半時

一 五半時前両御拜被遊、夫方御間内御掃除如例、御筆笥之内御書類

御仕分御用捨等被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳如例、暫御蹴鞠被遊候

一 為伺御機嫌弥一郎敬左衛門三十郎喜三太剛右衛門平兵衛辰蔵清十郎治右衛門罷出

被為召候、再剛右衛門敬左衛門被為召候、万順元珉も罷出、弥一郎御間内御神前等

等委敷拜見被仰付、畢而弥一郎剛右衛門敬左衛門万順へハ御茶御菓子被下置御啣

被遊、弥一郎初一統へ御菓子せんべい部屋ニ而被下置候

おこし

一八半時過方矢鳥怨介罷出、仲庵陪聽金兵衛侍座、七半時過相濟
一韮負罷出如例、鎌落過大奥御膳如例、五時過方御々切相成

藤 紫白二株差上之

稻垣治部

(六十)

干鱈二

石原甚十郎

右者御内々長谷部甚平差上度旨にて同人方差出ス

一御前様方左膳初詰合之面々へ盛合セ肴被下之

一表御寝、御夜詰四半時過引

三月十四日 雨

一御目覚六半時

診 仲庵

一御膳前御掃除被遊、御膳後両御拜被遊、夫方御臨書如例

一昨夕七右衛門所左衛門一昨日被為召候御礼として罷出ル、御逢者無之候

一今日常邸へ不罷出二付矢鳥怨介四時過方罷出候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一今日四時御供揃二而常邸へ出雲守様実之助様被為入候、右二付熊吉明番五時

御用捨被成下、支度次第上下着袴持参罷越、御馬二ツ御拜借之筈之所折悪敷

天色雨滴二付御馬事も御延引、金三郎も幸二非番故罷出候、御錠口も兩人御拜借

二付罷越候、附実之助様方板紙一束墨二丁ツ、熊吉金三郎兩人江被下之

御二所様方 八寸御重二 煮肴一 酢一

殿様江

此両様共常邸取斗

中将様方 忠臣銘々伝二冊 雁皮紙半切一々思召もの也

実之助様へ

右者今日出雲守様実之助様常邸へ被為入二付御取林ニもと被進之

一為伺御機嫌伯山城方高田孫左衛門大道寺七右衛門罷出、被為召御逢寛々御咄被遊

御茶菓被下置之候、所左衛門三左衛門も罷出御逢無之候

御二所様方

八寸重三

煮染 酢 蒸菓子

一丁字引

竹印

常邸仕出

清心院様へ

御小重一組

八寸重二組

被進候由

右者昨晚御近火之所御馬場迄御披被遊候二付御機嫌被為聞被進之

(六十一)

一七半時過大奥御入御膳如例 六半時過方御締切相成

一表御寝、御夜詰四時過引

三月十五日 晴

一御目覚六半時

診 適齊 御用召二付介仲庵

一五時過両御拜被遊、夫方御掃除御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳如例

御二所様江 御重入 御盛合物 御さしみ 御煮付肴 召上り相成

干かれ七枚 御国廻り

右者今日御客様二付御初尾取被進、且御国産品被進之、御錠口罷帰候節御重

入肴御に付一重御側為御慰被進之、但近江五郎左衛門十兵衛跡当番へ被下、昨記落

一為伺御機嫌近江五郎左衛門罷出、被為召寛々御話シ被遊候

御匙医師格 御附 佐藤適斎

勤中二人扶持被成下置 御針 上田万順

右へ御家老中被申渡候、治部差加り御礼申上候

一六半時御供揃御登城、御退出懸御屋形へ被為入 九半時過出御無之二付 御対顔御機

御退出御遅刻也

嫌御伺之上御同所二大奥へ被為入御対面被遊、中君へ御殘殿様へ御帰坐御小弁

当被召上、御汁つみ入な 御小皿わかめ差上之、相濟非番之面々罷出伺御機嫌申上候

御膳濟申上二而中君へ御帰坐、御供御先番之面々十兵衛初何茂御機嫌申上ル

殿様滿苑之桜花御見物旁御尙伴被遊候、御帰坐之上御供揃御退散、八半時過

御生菓子差上之、大奥方も御蒸菓子被進之、御供頭共伺御機嫌罷出ル、仲庵

伺御機嫌罷出殿様北御入側二而診察被仰付候、但御足御申分二付

御二所様江 鉢もり桜もち 紅白きぬた巻

御表様方 附奥表半分ツ、金兵衛初当番被下

(六十一)

殿様江 御庭筍三莖 生姜糖御国製二

右者御入二付被進、且又御席上二而被進之相成申候

一鞞負御先番秀罷出、寛々御閑話被遊候

一七半時過大奥二而御膳被召上候、御帰坐御蹴鞠御二度後も同断

一金兵衛義相願退出後六半時頃神田佐久間丁辺方出火、折節北西之風烈敷少

々風損二ハ候得共風筋悪敷風下夕二而御屋敷向役所部屋々迄取片付、段々西

風重モ二相成次第二火先薄く相成、惣而御道具類等取出候迄二而御土蔵へハ一切入

不申、其内追々鎮火之運ひ、常邸方早速小六・三十郎・弥一郎・平兵衛追々為

御見廻被差越御前へ罷出候、鞞負同断、金兵衛初両番御附兩人御医師等二而

取片付致候、恕介・甚十郎も罷出候、御駕一番口迄差出置、尤仕丁罷出付添

控居申候、鎮火八時過追々風休御道具其儘差置之、夫々非番退去

但御人数御上屋敷方早々罷超申候、弥一郎初追々退出被仰付候

一大奥御寝被為入、御夜詰九時過引

三月十六日 晴

一御目覚五時

診 宗甫

召上り跡当番被下

御式所様へ 御小喰籠一对 御添重一組 御にしめ二 菊玉子被取ふし 御香の物

殿様方 御食籠一对大 御添重一組 御にゞ二 御肴一 御浸し物一 香の物一

右者火事御見廻として召上り御次被下二もと被進之、但両様共奥表半分ツ、

但治部御附兩人金兵衛初御医師三人両番手伝台子迄御飯共二被下取計

一九時過大奥へ被為入御同坐御膳被召上候
御目見被仰付 今日到着ニ付金兵衛差加リ

側御用人

大岩主一 今夕を三日見習

左之通御右筆部屋申渡在之候

詰中奥勤 中将様御附被仰付、席之義別紙之通被仰付候、勤方

(六十二)

之義ハ御匙医師可申談候

御前へ罷出候節ハ奥勤御雜科之次、表席之義ハ表御雜科

之次ニ可被相心得候

一九半時過御庭御拜且御尙伴被遊候、八時過方恕介罷出例之通り

一金兵衛義御上屋敷へ罷出、昨夜弥一郎初被遣且被進物之為御挨拶被遣折節御屋敷廻り被遊候時故御供被仰付候

御式所様へ 八寸式重 御菓子御盛りあひ肴 召上り跡当番被下

清心院様方

御籠之内小平目一小なるニ 大奥御用ニ相成候由

右者昨夜之出火ニ而御騒ニ付被進之

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、鞞負罷出如例、金兵衛相願退出仕候

一六半時過方御々切御夜詰四時前引

三月十七日 陰 花盛

一御目覚六半時

一五時過兩御拜、御間内御掃除御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御同膳如例、暫御蹴鞠、夫方御庭新宮御拜、且御閑歩御々切之体也

一八半時過方恕介罷出八大家申上候、鞞負義罷出陪聴仕候

一鎌落過大奥へ被為入御膳如例

一御夜詰四半時前引

三月十八日 晴

一御目覚六半時

診 適齊

主一

一五時過兩御拜、夫方御間内御掃除御臨書如例日、今日御忌日御備物在之

一九時過大奥ニ而御膳被召上候、御帰坐後御蹴鞠被遊候

(六十四)

一為伺御機嫌十兵衛罷出御蹴鞠拜見仕候、御茶御菓子被下候

一同断ニ付三郎左衛門・平大夫・岩次郎・十三郎・重太郎・善十郎・石五郎・兵藏・小六罷出ニ付御目見被仰付、再三郎左衛門・平大夫・重太郎・善十郎被為召御咄被遊、甚十郎・信良も其節罷出候、部屋ニ而御くハしかるやき被下之

一七時過御庭御拜、且御閑歩在之、尤御々切之体也

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、鞞負罷出如例

一五時頃方御々切相成、四半時前御夜詰引

三月十九日 細雨

一 御目覚六半時

診 宗甫 主一

一 御膳前御間内御掃除御膳濟五時過御神仏前御拜、夫方御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入、御同坐御膳被召上候

文倍碎金四冊

土屋十郎右衛門

右者小六迄内々何也差上度旨申来候由二而五十疋差出候故幸御買上之折柄故

内献ニ取計差出候事

中将様御膳所

頭目付兼務被仰付

新番格 久能佐右衛門

右者去暮長谷川友次郎へ頭目付勤向之義も相心得居候様被仰付置候得共御用弁

彼是差支之訳合も在之又々御側御用人へ申達之上昨日被仰付、二日目三日置ニ見廻り候様

御膳番方申達置之

一去ル十二日立飛脚到着、御国表御静謐、恐悦之事

御小姓被仰付

大御番 高村荒次郎

右者去月廿八日於御用番宅被仰付、当春詰御用人申渡、十九日出立之筈

結構被仰付為御礼罷出、此段申上ル、 秋田弾正 小栗治右衛門

(六十五)

一 八時過例日御湯被為召、相濟恕介罷出大石良雄一軸御跋御相談被遊候

一 七時過高田孫左衛門罷出、御用帖入御覽候

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、御帰坐之上鞞負罷出例之通り

一 五時前方御々切相成

御二所様へ 七寸重一 散酢 桜餅 奥表半分ツ、

殿様方

右者今日御住居御比丘尼被為召ニ付御到来故與被進之

つむぎ十羽

本多修理方

焼小鮎一箱

岡部半兵衛

右者御側御用人迄つむぎ相廻被差上損ニ付召上り不相成、小鮎ハ御膳番へ相廻差上之

召上り相成申候

一 御前様方六大夫初当番へ御そば被下之、右酢桜もち六大夫始当番被下外ニ甚十郎・孫左衛門

恕介へも被下

一去ル十七日御庭之孟宗筈大小数本取レ候ニ付十太夫・平八郎大二本ツ、外三人江も

小二本ツ、其余小々分御庭方之者へも被下取計、但毎度召上りニも相成

一 大奥へ御寝、御夜詰四半時前引

三月廿八日 小雨

一 御目覚六半時表へ被為入

診 適斎

一 五時過両御拜被遊、夫方御間内御掃除御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 御上屋敷へ為伺御機嫌金兵衛初非番之面々罷出候

一 八半時過方恕介罷出八大家申上候、七半時過方鞞負罷出如例

一 鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、五時前方御へ切相成
一 表御寝、御夜詰四半時前引

(六十六)

三月廿一日 新膏

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 御膳前御掃除、御膳後例御拜、夫方御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御膳如例、暫御内庭御運動在之候

一 九半時過仲庵・主一一所二被為召、主一へ拝診被仰付候

一 為伺御機嫌御供頭次郎右衛門・幸右衛門罷出、被為召御嘶被遊御茶御菓子被下之

一 八半時過恕介罷出八大家申上候、仲庵詩草御跋御相談在之候

一 鎌落過大奥へ被為入御同坐御膳被召上候、六半時前御締切相成

七寸重四 今庄釣柿

大岩主一

一 右者今度御国方持参仕ニ付御内々差上之、但大奥へも同断差上之

一 表御へ切御寝、御夜詰四半時前引

三月廿二日 晴

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過両御拜、夫方御間内御掃除如例御臨書被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、御帰坐後御内庭御蹴鞠、畢而御へ切

御庭御拜御閑歩、折柄御馬一疋五郎大夫裸馬ニテ牽来御慰ニ暫時相成

一 八半時前方恕介罷出八大家申上候、七半時過済

一 鎌落前大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御締切相成

孟宗筍二本 一台上り

仲野

蕨 蛤

富田

一 大奥御寝被為入、御夜詰四半時前引、金兵衛相願退出致候

三月廿三日 晴

一 御目覚六半時

診 適斎

(六十七)

一 御膳前御居間御掃除、御膳後御神靈御拜、相濟御臨書如例

一 九時過御膳大奥ニ而御同坐被召上候、御膳前御内庭御運動在之

一 為伺御機嫌弥一郎初剛右衛門・平兵衛・辰蔵・三十郎・喜三太・清十郎・治右衛門等

罷出、被為召御茶切山しよ被下之、一順・万順罷出同断、弥一郎・剛右衛門・一順・万順

罷残御詩作等緩々拜見被仰付候

一 韮負今日横浜方罷帰ニ付罷出例之通り、甚十郎も罷出候

一 七半時過大奥へ被為入御同坐御膳被召上候、六半時頃方御へ切相成

天平革染木もん

定家袋入内

茶箱一

急須一

茶碗二

花手塩

半井仲庵へ

小やうじ指三

干菓子少々

帙入小本一

右者明後日出立ニ付今晚御へ切中へ被為召、同人主一・宗甫・甚十郎罷出御酒等

被下置、其節本文之品被下置之、但極思召もの

一表御寝、御夜詰四半時過引

三月廿四日 晴 暁七時頃震

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過兩御拜御忌月御手備在之、御間内御掃除如例

一九時過大奥へ被為入御膳如例、御帰坐後暫御内庭御運動在之

奉書袖花葵御綿入一ツ

半井仲庵へ

右者明日出立ニ付御目見被仰付、御機嫌相伺候上長詰中御様体之節々

等格別心配致何角御世話申上候義も在之別段之思召を以御手自

被下置、御茶御菓子并道中持鱈節煮付被下置、殊ニ御懇意之御意

等被成下候、金兵衛差加り罷居

黒縮緬御紋御羽おり地一ツ御在合

半井仲庵

右者定例ニ而昨年五月黒羽ニ重御紋御単物被下相成候簾を本文

(六十八)

之品御側御用人方被下ニ相成、尤一順義ハ竹印方頂戴相成、但黒羽ニ重重り

候故之事

一為伺御機嫌十兵衛罷出、大奥御留守中故直ニ退出

一為伺御機嫌伯山城方勘解由五郎左衛門左司馬高田孫左衛門大道寺七右衛門

罷出被為召御茶御菓子被下候、所左衛門御菓子ヲ被下御逢無之、山城方五郎左衛門并

孫左衛門ハ罷残被仰付、御々切御ニ所様御同坐於御前御酒御そば豆ふ吸物

青のりこぶ等ニて頂戴被仰付、治部左膳金兵衛罷出居、鞆負も同断也、大奥方

御干くハし被下

一右已前七半時過大奥ニて御膳被召上候、一御前様方御附始当番へ幕之内一ツ、被下之

一六半時過矢張御々切ニて御前様御屏風風囀ニ被為入、左膳金兵衛始当番一統

被為召前条同様頂戴被仰付候、御錠口諸事取計、畢而大奥女中も同断

頂戴在之由、台子当番へもそば被下之候

青松院殿方被差上候、そば大鉢盛、露付

一表御寝、御夜詰四半時前引

三月廿五日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一御膳前御間内御掃除、御膳後兩御拜被遊、夫方御臨書被遊候

御用人御奏者兼

稻垣治部

右者御表様於御前被仰付

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一御々切御庭御拜御徜徉、御膳前

御内庭御運動

一御上屋敷へ為伺御機嫌金兵衛始非番之面々罷出候、御菓子頂戴在之

一八半時頃方恕介罷出候

喜十郎着之上ハ

大谷孫大夫

勝手次第御国表へ出立候様

長谷川源之丞

仲庵出立後御匙同様諸事相心得候様 佐藤適斉

(六十九)

右者御側御用人申渡之廉ニテ治部方申通ス

一 御附御近習之義出立前出物其外御小屋拝借道具等惣而殿様御小姓同様相成候様御家老中方御奉行迄被仰付候

為伺御機嫌罷出候

御供頭 次郎右衛門・太郎大夫

一 横川吉十郎婿草尾精一郎新知百石被成下候ニ付為御礼罷出、此段申上候

御庭孟宗筍二本ツ、被下取計 御附兩人江

一 七半時過為伺御機嫌島田近江罷出被為召候

一 鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、六半時頃方御締切四時表江相成

一 御夜詰四時過引、表御締切御寝 一金兵衛相願退出候事

三月廿六日 細雨

一 御目覚六半時

診 適斉

一 五半時前御神靈前御拜、御間内御掃除御臨書如例

一 九時過御膳大奥ニ而御同坐被召上候、御帰坐後御内庭運動、夫方御

締切相成御庭御拜御閑歩在之候

一 八時過高田孫左衛門過日御酒頂戴之御礼伺御機嫌旁罷出、御逢ハ無之

一 昨夕七時過頃方御右足御痛所少々御腫氣在之、御痛も御覺被遊候ニ付

主一被為召診察被仰付、宗甫も罷出候、先今日之所ハ御見合セ被遊、明日ニ至リ

御爾々不被遊候ハ、御擦薬差上度旨申聞其段申上候

一 八半時前方矢島暉罷出八大家申上候、

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、御膳後御内庭御運動、六半時前

方御^レ切被仰出候

御二所様へ 八寸重一組 桜もち 薄かわ餅 奥表半分ツ、

(七十)

右者大道寺七右衛門娘今日大奥へ被為召候ニ付差上之、六大夫始当番へ被下候

左内恕介へも被下候

繪半切二百 弄物四品大奥御有合品被下置之、生が・とふ三被下之

御二所様へ八寸重一 玉子二十ツ、入 筍二本 御乳 はる

右者今日上り候ニ付差上之、生姜糖ニ被下之候

御腰物 懸り

川村藤市郎

御稽古

小栗五郎大夫

右者去冬可被仰付之所落ニ相成今度御用人申渡在之候

一 表御寝、御夜詰四時過引

一 暁八半時前築地小田原丁出火ニ付御手元方加藤清十郎・高村岩次郎・桑山十兵衛

為御見廻被遣、狛山城方五郎左衛門・高田孫左衛門・真杉所左衛門・河村三左衛門罷出 最

治部甚十郎も一旦ハ罷出候、御人数も參候へ共直様引取申候、本風不烈故態与

御目覚も不申上候事

三月廿七日 陰天

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 御膳前御居間御掃除、御膳後兩御拜、夫方御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御同坐御膳被召上候、御内庭御運動在之

一 八半時前方矢鳥恕介罷出八大家申上候

一 七半時前方靱負横浜方罷帰罷出候、鎌落前大奥へ被為入御膳被召上候

一 御足痛今朝ハ御宜候ニ付主一拝診之上御擦薬不差上候事

一 六半時過方御々切表御寝、御夜詰四時過引

三月廿八日 陰天 申ノ刻頃方追々雨

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過兩御拜被遊、夫方御間内御掃除、夫方御臨書如例

(七十二)

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、御帰坐後為窺御機嫌方順

罷出被為召、御茶御菓子被下之候、元珉罷出御逢無之、柏餅被下候、

一 九時御供揃ニ而殿様御機嫌為御窺被為入御対顔被遊、無程大奥江

被為入御対顔被遊、御帰座後御二所様方御別々御生菓子被進之、暫有て

御馬場辺方松山辺御閑歩被遊候、適齊・主一為伺御機嫌罷出、御逢ハ無之

御供御先番十兵衛始非番之面々兩人斗伺御機嫌申上被為召御嘶被遊候

部屋ニて柏餅被下置候、御入九半時過、御退散八半時過、其後御内庭御運動在之

御式所様江 御籠之内 御小肴召上り

御表様方

右者今日御入ニ付被進之、但御上り跡きすさより初て被下之 大岩主一へ

一 御前様方今日之御供御先番并左膳初詰合之面々へ御到来合御菓子被下候

一 七半時靱負罷出例之通鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候

一 五時過方暫表御締切相成

一 大奥御寝御入、御夜詰四時過引

三月廿九日 陰天午後雨

一 御目覚六半時

診 適齊

一 御膳前御掃除相濟御膳後兩御拜被遊米帳御臨書如例

一 昨廿八日殿様御入之節平服、朔日十五日廿八日共昼過御入之節ハ一統平服と相定

尤御登城御退出懸被為入候節ハ八時頃迄ハ継上下、格別御遅く相成候節ハ袴斗着

茶小箱一

土屋小六へ

右者十郎左衛門方御肴料昨年来兩度も差上候ニ付御伝へニて被下之

一 九口時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、御内庭御運動在之

一 八半時頃方矢鳥恕介罷出候 一八時過例日御湯被為召候

(七十二)

為伺御機嫌被罷出御逢被遊

山縣三郎兵衛

但今日東着御庭等拜見被仰付御茶御菓子被下之

一七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候
 一 鞞負罷出如例六半時頃退去、金兵衛相願退出仕候
 一 御召丸御紋之義先当分之所花葵斗ニ御召物御上下共同之上被仰付
 乍去追々御側向新役之面々頂戴位之為ニ丸御紋も少々ハ御染在之可然
 旨と之御沙汰在之候、藤市郎へ申聞置候事

一五時過方暫御へ切被仰出表御寝、御夜詰四時前引
 三月晦日 夜来方雨色

一 御目覚六半時 診 宗甫

一五時過両御拝相済御居間御掃除、夫方米帳御臨書如例

一九時過大奥にて御膳被召上候

一 常邸へ為伺御機嫌金兵衛・藤市郎娘罷出候、御菓子被下之

一 八半時頃方矢島@罷出如例日

一 六半時過大奥へ被為入御膳如例、鞞負罷出如例

一 七半時前方狛山城方被罷出御逢御用在之、金兵衛部やニ而時刻移候ニ付俄ニ

大奥へ頼御酒御吸物白すたゝみいわし醬油付焼表ニ而中皿さしみまくろ頂戴

取計御下夕物御汁御さしみ被下置候

一 八時過高村荒次郎今日到着ニ付為伺御機嫌罷出五郎大夫差加金兵衛留守故
 御目見被仰付候

一 五時前方御へ切相成、主一被為召拜診被仰付候所御聊御発熱之御気味合

相伺候ニ付直ニ御床ニ被為入、緩和発汗御薬御引迄ニ二貼差上之候旨申達

(七十二)

既今朝来御血色何敷不御宜様被相伺且雨湿ニ而時候も不宜、旁御予防

御洗足上ル

「」ニカミルレ御振出差上之、全今朝来方聊御感冒状と被相考候

一 表御寝、御夜詰四半時前引、夜中御安眠之趣

四月朔日 漸々晴

一 御目覚六半時二寸五歩頃 診 主一

一 御入側ニ而御拭御仕廻御撫付不差上候

一 適齊・主一拜診候所昨夜方御脈も御穩御熱氣も御薄く御頭痛も御軽く惣而

御平之趣奉伺旨申上、依而御薬前法ニ帖調上之

一 御食料ハ格別御減ハ無之御風味ハ不御宜趣相伺申候

御目見拜診被仰付 今日到着 田代万貞

同 明日出立 吉田仙格

同 勝沢一順

同 上田万順

御懇意之思召を以被下置候 仲庵被下 之通御菓子無之 勝沢一順

御茶 豊の曙

茶小箱一 駒の足影 被下置之 上田万順

但 御上屋敷にて一順黒ちりめん御紋御羽おり万順詰越ニ付別段之訳にて御紋服被下置候

一 殿様御登城御退出懸被為入御対顔被遊、無程大奥へ被為入御対面被遊為
御帰座之上唐饅頭差上之、大奥方も御蒸くハし被進之、御接養中故御へ切相成
御同座御膳被召上候、殿様へ御控所へ被為入御小弁当差上之、御汁斗被進候
御へ切明復御対面御嘶被遊候、御膳前御供先番之面々弥一郎初被為召
御逢御咄被遊候、四半時前被為入九半時過御退散被遊候

御二所様江 柏餅つゝじ餅鉢盛
殿様方

右御入二付被進之 奥表半分ツ、治部恕介御附始両番弥一郎へ被下之
今日到着 市村乙助

(七十四)

右ハ治部差加御目見被仰付退去、再孫左衛門罷出合一所二被為召暫御咄
被遊御茶御菓子被下之

一 八半時頃迄半時斗御閑珉被遊、御醒後適齊・主一奉拝診候所大分御発熱
御脈御数多く聊御発汗状二被為在御発表二而大キニ御宜旨申達候

一 七時過恕介罷出被為召御咄被遊候

一 七半時過表御へ切御同座御膳被召上候、鞆負罷出如例表二而也

一 今晚道中常振飛脚出立之事

一 六半時頃方御へ切五時過適齊・主一拝診候所先時方ハ大キニ惣而御平穩相伺
候旨申達、先日方御通便御結シ被遊候折柄御容体故見合居候所御好も被為在
為差御義二も不被為在、旁石僉丸一包差上之、翌朝御快通在之

一 四時過表二相成、御夜詰四半時過引、夜中御安眠之趣

四月二日 晴光

一 御目覚六半時

診 適齊・主一

一 御拭初都而昨朝之通、御撫付ハ差上之

一 殿様方当番中高村岩次郎為御伺御機嫌被遣御目見被仰付候

一 御容体先昨朝之趣御異状も不被為在御平穩相伺候旨適齊・主一申達御葉
前法三貼調止之

一 四時前方半時斗御閑珉被遊候、夫方御横臥被為入候

伺御機嫌申上ル

二 伊東安太郎 野服

井 忠太夫

同

一 河崎三郎助 初而故上下

同

三 根本紀之允

右者今日到着二付罷出御目見被仰付、治部出席御取合申上候
(七十五)

一 河崎三郎助義七時方出勤見習相勤、御灯り付退出致候事
一 九時過御へ切御同坐御膳被召上候

御発汗在之

一 八時前方宗甫・主一罷出御浴殿へ被為入御脚湯被遊候、其後御閑眠半時斗
阿部伊予守様方 七寸重二 粕てら 薯蕷「」

御貯

御取分大奥へ被進之

右者時候御障も不被為在候哉為御見廻御広式迄藤田与一兵衛を以被進之旨御広式御用人方御口上承り御品奉差上候

一 狛山城方明日出立被罷出被為召左之通被下置之 御到来御くハし被下之

御召茶博多縞御帯一 御盃一 狛山城方へ

外二缺一本御内々被下候由

一 鞞負近江罷出被為召如例、兩人へ御到来御菓子被下置之、御残左膳初被下

一 七半時過御締切御膳被召上候

一 五時前適齊・宗甫・主一奉拝診候所昼後伺之節方ハ御熱も御醒被遊何之御異状不被為在旨申達ス、五時過方御締切相成候

一 御夜詰四時過引、夜中御安眠之趣

四月三日 晴

一 御目覚六半時

診 宗甫 主一

一 御拭御仕廻御撫付昨朝之通り

一 御容体何之御異状無御坐御穩靜、昨朝方惣而御平相伺旨申達御菓前

法三貼調上之、少々加減在之由適齊罷出拝診被仰付、同意也

一 御目覚方三郎助見習出勤、御引後方退出候事

一 九時過御へ切御膳被召上候、御白粥御好ニて上ル

殿様方 鉢盛 柏餅 桜餅 但御庭新葉を為御取出来

右者御機嫌被為聞御側御慰ニ被進之

(七十六)

右御二所様へも差上之、御錠口初へも一重程被下取斗、診鞞負治部御医師三人

左膳初当番台子迄被下取斗

一 為伺御機嫌十兵衛初重太郎・五大夫・清十郎・小六・敬左衛門・三十郎・喜三太罷出被為召、於御前御茶・柏餅・さくら餅被下置候、万貞仙庵同断、仙庵御撫被仰付候、八半時前也

茶一箱 霜の花 池の尾 花橘 十楽製 田代万貞

右者今般相携候ニ付差上之

一 九半時頃方御閑眠、八時過御目醒御発汗被遊宗甫・主一拝診被仰付候所昨夕方ハ

御発熱御軽く御脈も御数少別ニ御替り無御坐旨申上之

一 七半時過表御へ切御膳被召上候、一昨朝方御食料も御減御廻り不被召上少々御舌胎故也

一 鎌落過方鞞負罷出如例、六半時頃主一被為召、相伺候所又御閑眠後御発汗被遊、昼後方ハ余程御熱勢御軽く昨夜方も御減被遊候旨申上、適齊も同意

御前様方御小肴一籠為御見廻被進之、今明日召上り跡御膳番被下

一 御前様方左膳初詰合之面々へ小たいに付被下之

一 七時過五郎左衛門為伺御機嫌罷出被為召候、御上り御下団子御茶被下、矢島恕介義

部屋迄罷出候、此段申上之

一 五時過方御へ切、四時過表相成、御夜詰四半時前引

四月四日 晴 立夏

診 主一

一 御目覚六半時

一 御拭惣而昨朝之通り

一 御脈も今朝ハ余程御穩御発熱も御軽く昨朝方ハ御平穩相伺候旨申聞ル
明日出立ニ付御目見被仰付
高田三郎左衛門
御機嫌相伺フ
菅沼平兵衛
猪子善十郎
横田兵蔵

(七十七)

鯉節煮付一曲 大奥出来
高田三郎左衛門
三ツ組猪口 菊まり三 亀甲散シ
猪子善十郎
右ハ再被為召思召を以被下置、善十郎義ハ御脇指懸一脚 弄坂雪網二
手細工物差上、且若和布杯も差上旁御在合品故被下置之 昨記落
金百疋
菅沼平兵衛

右ハ昨年来武家記事四冊御写被仰付出来ニ付被下之 同
一 適齊罷出拝診被仰付候所主一同案一段と御熱氣御磷被遊候旨申上、御菓前法
調上之、矢張三貼主一調進

一 今朝ハ朝御膳白粥御二盛御召上り口御宜其後始終御起坐、一昨日昨日二無之
御氣先御宜被相伺申候
御小姓
高村岩次郎

詰中

御附御近習頭取定介被仰付
山野十太夫
右者岩次郎義ハ御用召御家老申渡 十大夫義即日御用人申渡岩次郎ハ御礼
上下治部御取合ニ申上、三日見習相勤、今七時方十大夫ハ繼上下
一 三郎助義御目覚方罷出見習、御明り付方退出候事
但今般方別段ニ御裏役御書物方被仰付無之旨相極ル、鞆負申聞ル、尤
御近習上席兩人へハ已後別段ニ御側御用人方惣而御裏役取扱事
以来引受取斗候様申渡在之筈、上席二人へも別段申渡無之候

一 九時過表御レ切、御同座御膳被召上候、御廻り少々御肴付
一 御レ切明方暫御閑眠少々御発汗在之、田代万貞為御見舞被遣、適齊・主一
同時ニ拝診被仰付、今日ハ大キニ御熱氣御軽く御脈御平御頭痛も御聊、御惣体
御順病被為在候旨何茂申達ス、万貞へ御下御くハし本団子被下之
一 今朝為御見廻十三郎被差遣、御目見被仰付候

(七十八)

一 山縣三郎兵衛方宇都宮勘解由・稻葉左司馬罷出、被為召御機嫌被相伺串団子
御茶等被下置之、甚十郎出合居御家老御外庭迄拝見同道致候
一 真杉所左衛門・河村三左衛門為伺御機嫌罷出、御逢無之

御二所様江 玉子御重入廿 鉢もり串団子
清心院様方

右者折から御機嫌被為聞被進之、但奥表半分ツ、治部六大夫・金兵衛初当番
煮めん御三 御いしや三人被下候

一七半時過表御^レ切御膳被召上候、鎌落前為伺御機嫌罷出、御用状入御覽候
市村乙助・高田孫左衛門も罷出、一所二被為召候、兩人へくしたんご被下
浅黄博多御帶地一 数盃一 高田孫左衛門へ
右者詰中毎々差上物仕御挨拶秀思召を以御直ニ被下置之

玉子一重 上り 常善

花紙一束 酒猪口一ツ御返し被下候 同人へ

一 韃負罷出如例、矢鳥怨介被為召罷出、御嘶申上候

一 此頃御大便御不足ニ付石ケン丸一包調上之

一 御夜詰四半時前引、宗伯被為召御捻被仰付候、曉来御大用両度

四月五日 晴 診 適齊・主一

一 御目覚六半時過御拭御仕廻昨朝之通

一 今朝御容体御惣体一段と御宜追々御順快之御連ニ相伺候旨申達ス、御菓
前法三貼調上之、但今日方御転法解凝健胃劑

一 高田孫左衛門明朝出立ニ付為伺御機嫌罷出、被為召御目見被仰付候

一 朝御膳御粥御二盛今出川少々被召上候

一 殿様方御機嫌被為聞為御見廻中根喜三太被遣御目見被仰付候

一 四半時過方九半時前迄御閑眠被遊、御目醒表御^レ切御膳被召上、御本飯白粥共
御廻りも被召上

(七十九)

為伺御機嫌罷出、御逢無之 御供頭兩人

一 吉田仙庵為御見廻被遣拝診被仰付、退去

一 八半時過方怨介罷出御咄申上候、韃負罷出如例

一 為伺御機嫌御上屋敷へ罷出金兵衛・五郎大夫初御目見被仰付

一 鎌落頃表御^レ切ニて御同座御膳被召上候、熊吉・岩吉被為召御膳頂戴被仰付

一 畢而六大夫・金兵衛初当番外ニ見習岩次郎・十大夫・宗甫・主一被為召、御酒頂戴豆ふ

清し汁 小皿竹の子 何茂大キニ頂たい仕候

ふき

半へん

一 御夜詰四半時過引、夜中御安眠之趣

一 七半時頃宗甫・主一奉拝診候所愈御脈御発熱御頭痛等大キニ磷至極御平

一 穩相伺候旨申上之候、御氣先尤御宜与相伺候

四月六日 晴 夜雨 診 宗甫

一 御目覚六半時御拭等都而昨朝之通り

一 朝御膳御本飯輕く御二盛被召上候、御様体御惣様粗御平素近く相伺候旨申上ル

一 四時前適齊・主一奉拝診候所弥御宜御脈も大概御平脈御熱氣至而御薄く御順

一 快ニ被為在、御氣先も大キニ御宜相伺候旨御薬前法三貼内コロソ別匂散薬ニ而
御好ニ付差上之段申達ス

一 岩次郎・十大夫義御目覚後方見習罷出御明り付退出致候、諸懸り并御金懸り共
向後ハ御用人并御側御用人方申渡無之、頭取役前ニ相成候事、御裏役御書物方

も御近習役前ニ付同断

一殿様五半時御供揃ニ而太田侯御逢対御勤御書付御進達、夫方直ニ為御見舞被為入御機嫌御伺被遊候、暫勒負罷出居御人払在之、鳥渡大奥江も御対面被為入、十兵衛御供御先蕃被為召御逢在之、御菓子御在合カステイラ差上候

(八十)

大奥方も御蒸くハし被進之四半時前、御退去九時前 卯の花

殿様方 六寸重ニ やきゝす 鉢植 紫白藤 金銭花 鈴懸三

あんとえこ

右者今日御入之節為御慰被進之

殿様江 御国十楽茶池の尾一袋 青松子へ花橘一袋被遣之

霜の花御遣さし被下 哥島へ

右者万貞差上ニ而御在合ニ付被進之

蛭一籠小 おこし一台 御慰ニ差上之 歌島

花橘茶一筒 荒川南山へ 孫大夫持参相届

老楽一筒ツ、 高野真斉 一順持参相達

花木 馨

右者当春御三ノ間境御襖認方被仰付出来ニ付御挨拶被下置之

奥坊主定介・栄立交替中 八日出立 ふね役 鷺田清嘉

金百足 同 若山嘉順

右者年来相勤今般も定介可被仰付順ニ候得共別而当時坊主人少繁勤年配も

相増候者故難相勤候哉、依之評義之上御慈悲を以年々百足ツ、被下ニ取斗、奥番

申渡候事

一 九時過御ノ切、御同坐御膳被召上、表ニ相成勒負罷出寛々御晰申上候

一 八半時過方恕介罷出被為召御晰申上候、御延引夜分被為召候

一 大奥方金兵衛始詰合之面々へ御すし被下置之

一 七時過主一奉拝診候所愈御快方今朝之通申上候

一 七半時過御締切御同座御膳被召上候、御飯御廻共被召上候

白玉糖一箱大 山縣三郎兵衛

右者今度出府被致候ニ付御内々被差上之、但御前様方御伝大名小路へ被進之

一 御夜詰四半時前引、宗伯被為召候

(八十一)

四月七日 晴 診 主一

一 御目覚六半時過、御拭等近來之通

一 御様体弥以御醒解之趣、御薬ハ前法ニ貼御散薬ニ包差上之

一 朝御膳御本飯御二盛被召上、九時過御ノ切御膳被召上候

清心院様方 撫し子九鉢 唐饅頭大折

一 右者御機嫌被為聞御慰ニ被進之

一 八時前明日出立ニ付為伺御機嫌天方五郎左衛門罷出、被為召御茶御菓子大
奥方御そは被進候を御前ニ而頂戴被仰付左之通り、度々差上物御挨拶被下之

御下緒交打数様一

天方五郎左衛門

一 御筆全唐紙四枚相願候ニ付御認出来、南山風月淡水真斎へ為拝見御渡
相成持参仕候、拝見済之上上納之筈之事

一 八半時頃適斎拝診被仰付、弥以御快然奉伺候旨申達候

一 御膳後八時前御櫛上り申候

一 八半時過方恕介罷出御嘶申上候、七時過鞆負罷出如例

一 鎌落過御へ切御同座御膳被召上候、再五時前方御締切相成申候

一 御夜詰四時過引

四月八日 陰天

診 適斎

一 御目覚六半時、御拭等近日之通り

一 御容体御快然被為在候旨、御膳召上りも御平生ニ御復被遊候

御裏役御書物方之義者是迄之通り

右ニ付御内証御金懸りハ当分御免被成候 山野十大夫

御写物懸り御鉄砲懸り之義ハ御免被成候

右者相伺候上申達候事

(八十二)

一 主一奉拝診候所弥御復常被遊候旨御薬前法調上之段申達ス

今朝出立

藤田栄立

栄立跡諸懸り申付

筒井寿伯

奥坊主定介申付

鷺田清嘉

一九時過御締切ニ而御膳被召上候

一 為伺御機嫌弥一郎・平大夫・剛右衛門・三十郎・十三郎・安太郎・辰蔵・石五郎・治右衛門

元眠・仙庵罷出、被為召御目見被仰付、御菓子部屋頂戴、弥一郎初三人

再被為召御咄被遊、仙庵御按摩被仰付候

一 孫大夫・源之丞義末喜十郎着無之候得共何之御差支も無御座ニ付勝手次第出立

仕候様御沙汰在之、則金兵衛方此段申聞候、十二日出立治定致候

焼物盃三ツ組箱入 玉露糖一箱 大谷孫大夫

但一

被下旨

焼物盃三ツ組

長谷川源之丞

右者長詰中骨折 別て去冬已来何角心配ニ付被下置之、金兵衛方相渡ス

実之助様江 御弄心物壺台 百疋ヨ十一品

右者此頃種痘被遊候ニ付無急度御伝へ被進ニ相成候筈之事

一 七時過宗甫拝診候所愈御快然被為在殊ニ御腹合御宣伺候旨申達ス

一 七半時過鞆負罷出如例 一金兵衛相願退出仕候

一 五時前方御へ切四時過表ニ相成、御夜詰四半時過引

四月八日 晴

診 宗甫

一 御目覚六半時
一 四時主一罷出拝診仕候所愈御復常被遊候旨御葉前法調上之段相達ス
一 九時過御締切御膳被召上候、表二相成御下洗御洗足被遊候

(八十二)

御下緒一懸 しげ打二朱斗 真田五郎兵衛
右者御膳所向何角心配仕候二付御側御用人取斗二而被下置之、明日出立
一 為伺御機嫌万貞罷出、被為召拝診被仰付候、主一同意也、御茶御菓子被下候
一 亥之助義腹痛二付御用捨相願退出仕候、内実ハ祖母大病二付
一 昨日出立二付真田五郎兵衛義伺、御機嫌罷出御目見被仰付御茶御菓子被下候
一 信良義為伺御機嫌罷出、被為召暫御咄被遊、御茶御菓子被下置候
一 七時前方恕介罷出講読申上候
一 七半時過表御へ切御膳被召上候、表二相成靱負罷出如例、又御へ切相成
一 御夜詰四半時前引
四月十日 陰 診 主一

一 御目覚六半時 御拭等近來之通り
一 御容体愈御快然被為在二付今日方御葉前法二貼差上旨申達ス
大奥へ被為入

一 九時過御締切御膳被召上候、九半時頃御手水御洗足被遊候
袋入飴 一台上り 開帳参二付 養寿・重寿・楽寿
串団子

一 為伺御機嫌金兵衛初非番之面々罷出、孫大夫義明日当番二付出立之
御目見被仰付候、御用人披露御取合如例
今日到着二付伺御機嫌罷出候 近藤左大夫

為伺御機嫌罷出御逢無之 市村乙助

一 八半時過方恕介罷出、八大家御読被遊候
一 七半時過表御へ切御そは被召上、御引続御膳被召上候、表二相成靱負
罷出如例、五時前又御締切相成
一 御夜詰四時引

(八十四)

四月十一日 診 適齊

一 御目覚六半時
一 今朝方御手水御仕廻御平素之通り、御膳後御櫛差上ル
金五百疋ツ、 大谷孫大夫
長谷川源之丞

右者依先例三年詰越二付御側御用人方被下之、御内証出方
本直酒一瓶ヲ梅枝田夫一曲ツ、百五十文 兩人へ
右者幸ニ御有合品ニて被下置之、但出立俄ニ相成御精日も続キ御酒被下も無之ニ付
御帯地一紺島博多 兩人江

右者御前様方御内々昨年来太儀被思召被下置之

- 一 於御国表足袋并供連之義勝手次第被仰付候様支配頭へ相伺候所伺之通被仰付
- 一 於御国表願達之儀是迄御小姓老入御国表二罷居候節へ御近習番頭取二而諸事取扱来候得共此度御小姓同様被仰付候二付而者御国表二御小姓罷在候得へ御小姓二而取扱致呉候様若又御小姓不居合候節へ此迄之通御近習番頭取二而取扱候様可被仰付旨相伺候所伺之通被仰付候

殿様へ 唐饅頭大一折 御到来合二付被進之

- 一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

- 一 四時過主一罷出拝診候所愈御快然被為在御藥へ前法二貼差上候旨申達又

- 一 明日出立二付伺御機嫌罷出御目見御意被成下候、孫大夫・源之丞

但 孫大夫当番御目見後方御用捨被成下置候

白玉糖一箱 近藤左大夫

右者今度持参仕候二付御内々差上之

- 一 八時過左大夫被為召寛々御嘶被遊候、向後甚十郎同様御前へ罷出候様

(八十五)

御直二被仰付候

- 一 八半時過矢鳥皚罷出八大家申上候

- 一 七半時過大奥二而御同座御膳被召上候、此後鞞負罷出如例

- 一 六半時前方御へ切相成四時頃表二相成

- 一 中将様御儀御長髪之所御逆上御強御難渋被遊二付御挾被成度旨御腹合不

御宣二付御内庭御步行御運動被成度旨去ル六日御書取を以御老中江

太田殿方

殿様方御直達御内願被仰立候所今宵御留守居御呼出二而御差凶在之左之通

内願之趣通不苦候、尤慎方之義へ是迄之通可被相心得候事

右者鞞負方此方迄書付相廻入、御覽其後鞞負罷出候、大奥へも老女迄申達又

先以難有奉恐悦候、御近習長やへも頭取方申通御医師同断孫大夫始一統恐悦

罷出候事 但金兵衛承置申上候事

- 一 御夜詰四半時引 但今夜御蚊帳出ル

- 一 曉七半時過風雷雨雷鳴大分甚敷二付孫大夫始一統御医師三人御次迄為伺

御機嫌罷出候事 但金兵衛承置申上候事 鳥度御目見被為入

四月十二日 朝天下晴 診 宗甫

- 一 御目覚六半時

- 一 御膳後昨夜被仰出二付御中剃御髮眉差上之

- 一 為御歎弥一郎被遣御逢被遊候、金兵衛為御挨拶被遣御直書被進持参仕候而

奉差上候

御歎無急度申上二罷出

近藤左大夫 小林又兵衛

御供頭共 武田三十郎・十三郎

- 一 四時過主一罷出拝診仕候所昨朝之通申達、御藥前法差上之

- 一 埴原次郎右衛門被為召御逢被遊候

(八十六)

- 一 九時過大奥へ被為入、御同座御膳被召上候
- 一 殿様九時御供揃二而御歛御機嫌御伺旁被為入御対顔面被遊無程大奥へ被為入御対顔被遊、御帰坐之上御すし熊与御吸物御酒被進大奥方も御蒸菓子被進之、御先番御供十兵衛始被為召御歛申上候、鞆負罷出居御歛二御家老中被罷出御逢被遊、御吸物御菓子御下夕被下御酒頂戴被仰付候
- 一 九半時頃御入御披八半時前当番主一伺御機嫌罷出申上候
- 一 七時前方矢怒介罷出御嘶申上候

殿様方 御籠入中たい三 御吸物 明日召上り

御二所様江 八寸重三 おてつ 牡丹もち 大奥御用少々表へ出ル

右者今日被為入候二付被下之 召上り

此御二所様へ 交肴一籠 平目 小たい 鞆負へ被下

大名小路御二所様方 蛸三 治部・左大夫・金兵衛へ被下

右者昨夜被仰出御承知被遊、無急度被進之

一 七半時過大奥ニて御膳被召上候

一 今日ハ無急度御到来之趣ニて大奥へ御酒五升御そば大鉢被下置之候

三ツ宛又二ツツ、

鞆負六大夫始両番当番御医師手伝坊主不寝役迄御酒御そば等

被下置之候、怒介罷合居同様被下置候

一 六半時頃方御へ切相成四時過表へ相成 一金兵衛相願退出致候事

一 御夜詰四半時過引

四月十三日

診 主一

一 御目覚六半時

一 愈御全快被為入、矢張御菓ハ前法被召上候

一 九時過大奥へ御入御膳被召上候、九半時過御浴場被遊候

(八十七)

一 承休院様御忌月ニ付臨時思召ニ而御飯、寿留女御手備在之候、今日方御平常へ御復而御拝も被遊候、且御床も御取払相成申候

一 今晚飛脚出立

一 為伺御機嫌今般之御歛三十郎・喜三太・忠大夫・小六罷出御目見被仰付退去、於部屋薄皮餅被下置候、万貞も罷出被為召寛々御嘶申上候、焼菓子も被下候

一 御内庭御神拜、夫方御掃除被遊候

中将様御慎中御月代御挟并為御養生御庭内御歩行之義

殿様方御内願被仰上御願之通被仰出候、然ル処自然御慎御宥

免も被仰出候様ニ相心得御べり方等閑之義等有之候而ハ不相濟事ニ候得ハ

諸事は迄之通嚴重相心得可申し旨御沙汰之事

右之趣支配末々迄心得違無之様可被申聞候事

右書付寄之通達可致旨御家老被申渡候ニ付御目付方相廻候事

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、鎌落前御へ切相成無程表二相成
金三拾両 森六大夫

右者勝手向甚難洪之訳合ニ而手操融通も出来兼無扨致方無之趣ニ而御側御用人へ取継拝借と申義も難申上為体ニ付何卒何方也と口入借用被相頼候義ニ而御側御用人も別ニ工夫も無之御内証方引替御武具金之名目ニ而御武具方役所へ当人方証文を入置此方御金懸りへハ御武具方方受取書取置埴原次郎右衛門へ本久之金高相渡候事、但御側御用人承知無扨所置也

殿様方 芳野卷 紅白一 散シ鮎一 御へ切中御取はやし表へ少々被下候
右者承休院様御年回ニ付無急度為御見舞被進之

一市村乙助義昨日方横浜へ罷越ニ付今般之御歛御機嫌伺御用伺旁罷出

(八十八)

被為召暫御側被遊御菓子御茶被下候、又六半時過御締切相成

一表御締切御寝御夜詰四時二寸五歩引 大奥御差支中

四月十四日 晴光 診 適齋

一御目覚六半時

一御膳後御中剃御櫛差上之

一五半時前両御拝御掃除被遊候、米帖御臨書被遊候

一主一罷出拝診仕候、何之御異状不被為在旨御葉ハ前法調上之

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、御膳前後御庭御閑歩被遊候

一八時過方恕介被為召罷出如例

一為伺御機嫌宇都宮勘解由罷出一寸御目見被仰付御留守兩人罷出被為召

御側被遊御茶御菓子被下置候、河村三左衛門も罷出此段申上候

実之助様方 交御肴一箱左ニ被下、外今明日召上り

出雲守様御式所様

右者今般御月代御願ニ付被仰出候ニ付被進之

ほら二本 山縣三郎兵衛へ

右者未着後被下も無御坐ニ付右御到来之内被下置之 手紙添相廻ス

小あじ三 御到来ニ付被下之 石原甚十郎へ

いさき二

一鎌落過大奥へ被為在御膳被召上候、六半時頃方御へ切相成候事

一大奥御寝御入、御夜詰四半時過引

四月十五日 晴 診 宗甫

一御目覚六半時表へ被為入

一五時過両御拝被遊夫方御掃除御臨書如例

殿様へ 交御肴老籠三段

(八十九)

右者今般御内願之義何角御心配被成進為御挨拶被進之

御前様江 思召物 六寸二 鰻蒲焼一 編笠餅一 新鉢盛 笹巻鮓

右者兩度御側向詰合等へ被下物在之御挨拶被進之

一四時前方恕介罷出例之通り

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一八時過始而御庭八幡神明稻荷觀音等御拜、夫方於松山

御遠見、夫方海手御出格子ニ而御遠望、相濟御帰座七時前

一為伺御機嫌御上屋敷へ金兵衛・五郎大夫初罷出御菓子被下置之

御式所様へ 御酒三升 鉢盛硯ふた物 奥表半分ツ、

清心院様方

右者今般御月代被遊ニ付花井参上之折から被進之

但中将様へ 六寸御重 みそに かつを召上り 左膳初御附両番被下之

当番御いしや

実之助様方 籠之内御交肴 御赤飯一 食籠御附初両番被下之

右者種痘被遊ニ付殿様方御伝へ被進物在之、御挨拶御祝旁被進之

越中守様御二所様へ 右御肴

右者今般之折からニ付無急度御前様御伝へ被進之

一七半時過大奥ニ而御膳被召上候、韃負罷出如例

一六半時頃方御へ切四時過方表ニ相成

為伺御機嫌罷出候

壇原次郎右衛門

河合太郎大夫

一表御寝御夜詰四半時過引

四月十六日 晴

診 主一

一御目覚六半時

一五半時前而御拜被遊、夫方御庭八幡神明稻荷觀音社御拜被遊、夫

方御手習如例

(九十)

一御全快ニ付御休葉申上候、御養生ニ御丸葉昼夜ニ二包ツ、差上之

一九時過大奥ニ而御膳被召上候、九半時過方恕介罷出如例

かつを二本指上之 内一本召上り

一本竹印へ被進之

西川健次郎

一亥之助義父方祖母病死ニ付今日方引込、去ル九日夕方痛引ニ致居申候

一八半時過表御へ切中ニ而御二所様御同道御庭廻り被遊候、松山へ上敷十枚

斗敷之、御裏下駄二十足余差出置、提藍為御持ニ相成申候、韃負罷出居申候

七半時過表ニ相成大キニ御慰ニ被為成候由、島田近江罷出被為召候、暫御咄在之

一同刻過大奥ニ而御膳被召上候 一金兵衛相願退出仕候事

提藍差上之

金兵衛

金米糖振出箱一ツ差上之

藤市郎

一六半時頃方御締切、四時過表ニ相成候、御夜詰四半時前引

四月十七日 晴

一御目覚六半時

診 適齊

- 一五時過兩御拜被遊、夫方御庭諸社御參拜被遊、四時頃方恕介罷出如例
- 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候
- 一今朝御内庭新社へ御神酒御洗米御手備被遊候、但今日ハ別格ニ付
- 一為伺御機嫌十兵衛・左太夫罷出被為召御嘶被遊候、御臨書如例
- 一八半時過方御庭廻松山御遠望御徜徉、左太夫・恕介・宗甫随從被仰付候
- 一御前様方御附始詰合之面々へおてつ牡丹餅九ツツ、被下置候

御前様方 紅革一枚

右ハ夏御茵ニもと之思召ニ而被進之

- 一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、其後鞞負罷出如例

(九十一)

- 一五時過方御々切相成四半時過表ニ相成候
- 一御夜詰九時引

四月十八日 陰

- 一御目覚六半時

診 宗甫

- 一五時過兩御拜被遊、夫方御掃除、畢而御庭諸社御參拜在之候
- 一四時過方御臨書如例
- 一九時過方大奥へ被為入御膳被召上候
- 一為伺御機嫌弥一郎・万貞・仙庵・平太夫・十三郎・安太郎・辰蔵・石五郎・紀之允
- 一罷出被為召御逢被遊候、御菓子部屋頂戴
- 一八半時過御庭御散步被遊候、海老御釣被遊甚御慰ニ相成申候、鞞負も罷出候、主一も当番中より罷出候

口上之覺

私忤鉄蔵義不調法之筋御座候ニ付於

御国表評定所去ル十一日遠慮被仰付奉恐入候

依之私義遠慮仕罷在度願奉存候、此等之趣

宇都宮勘解由殿迄宜被仰達可被下候、以上

四月

山野十大夫

川村藤市郎様

- 一去ル十一日立飛脚到着、御静謐恐悦之事
- 一山野十大夫義忤鉄蔵去ル十一日於御国表評定所不行跡之趣相聞不調
- 一法之事ニ候、依之遠慮被仰付候、右ニ付重々十大夫義奉恐入候ニ付遠慮仕罷在度藤市郎迄口上書差出シ御用人月番宇都宮勘解由迄指出候
- 一所遠慮伺之義不及其儀指控罷在候様被申渡奉恐入候、則藤市郎当人へ此段申聞候、於御小屋急度相慎罷在候、附藤一郎取扱
- 一但當人御答方ハ一等軽く被仰付候由承り候事
- 一十大夫義五郎大夫相宿之所幸ニ三郎助一人御小屋故暫十大夫と振替致候事
- 一右一条ニ付弥以御人少ニ付亥之助昨日方忌御免被成下出勤之事

- 一七半時過大奥ニ而御膳被召上候、六半時過方御々切相成一
- 一十楽村茶師献上之寿楽小箱一相廻り候事

(九十四)

- 一大奥御寝、御夜詰四時過引

四月十九日 陰天 午後折々小雨

- 一御目覚六半時

診 主一

- 一五時過兩御拜被遊、夫方御庭諸社御拜且御散步相濟御臨書如例
- 一亥之助忌御免今日方出勤仕候、六日目也、頭取差加御礼申上ル
- 一九時過大奥ニ而御膳被召上如例
- 一九半時頃恕介罷出候得共段々雨色近寄候ニ付御庭御徜徉御釣被遊、八半時過方再御文章御詩作等之御嘶被遊候
- 一市村乙助罷出御逢被遊、御用帖御覽在之候
- 一七半時過鞆負罷出如例、鎌落過方大奥へ被為入御膳被召上候
- 一六半時過方表御々切相成四時過表ニ相成一
- 一表御寝、御夜詰四半時過引

御前様方 鮎一桶御到来ニ付御側御慰ニ被進之 鞆負初当番被下之

四月廿日 晴光

- 一御目覚六半時

診 適齊

- 一五時過御神仏前御拜濟御庭諸社御參拜、御帰座御臨書如例
- 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候
- 一八半時前方御締切相成、御二所様御同伴御庭御散歩、松山ニて御側女中江柏餅被下之、甚十郎・左太夫被為召罷出候、提藍入御干菓子被召上候
- 一七半時過大奥ニて御膳被召上候、後刻鞆負罷出同断
- 一為伺御機嫌金兵衛・藤市郎初罷出候、金兵衛義御乘馬拜見御次乘被仰付候
- 一六半時過方御締切相成四時前表相成候 一金兵衛相願御用捨退出候事

(九十五)

- 一大奥御寝、御夜詰四時過引

四月廿一日 陰 午後折々小雨

- 一御目覚六半時

診 宗甫

- 一五時過兩御拜濟御庭諸社御拜被遊候、夫方御臨書如例
- 一老年ニ相成候而親も在之候所追々長詰
- 一ニも相成ニ付格別之御憐愍を以 松浦幸右衛門
- 一御国表へ被遣候、七月中出府候様御用人被申渡候、十九日
- 一四時前幸右衛門義御暇乞之伺御機嫌罷出被為召御嘶被遊@@へ朝せん
- 一給・カ七板一曲格別御懇意之御意被成下候上思召を以被下置之、廿三日出立
- 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候
- 一七時頃方御庭へ被為入御釣被遊、鎌落前御帰座、夫方大奥御膳如例
- 一六半時過方表御々切四時過表ニ相成候 一敬左衛門罷出御釣御供被仰付候

一表御寢御夜詰引四半時過

常邸へ

一山野十大夫義今日方指扣御免被成下候旨宇都宮勘解由方申来、御礼二頭取罷出候、十大夫義不快二付引込り申候、但頭取岩次郎御前へ罷出御礼申上候

木瓜一苞十 御内々差上之 べん

四月廿二日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過兩御拜被遊夫方御庭諸社御順拜被遊御臨書如例

一九時過大奥二而御膳被召上候

殿様方 御酒三升 奥表半分ツ、被下

御二所様へ 幕之内卅五 同断 治部左膳初両番甚十郎・十兵衛手伝坊主被下候

(九十六)

右者今日御入二付御側為御慰被進之

一殿様九時御供揃二而被為入直二御対顔被遊、御生菓子差上之、大奥方も

葛饅頭被進之、大奥へも為御対顔被為入無程御帰座、御供御先番之面々

十兵衛始被為召御目覚被仰付、無程御客供立相揃候段申上二而御座之間

御掾側方被為入、北木戸御門方御廻り学問所御作事方役所稽古所等夫々

御覽被遊八幡口御門方御間内へ被為入、無程御庭御支度も整申上二而御同

伴御庭へ被為入御釣被遊、暫有て御休之節御干菓子御茶差上之、再御釣

被遊、相済松山二て御遠望、夫方海手御出格子へ被為入、夫々御尙伴御帰座

之上御酒・御吸物切ミたい、御中皿蛇・酢漬被進之、甚十郎罷出被為召候、御程合二而

御供揃被仰出御退散、七時過被為入候節八九半時過松山并御釣場際へ上敷

役之元御茶屋跡へ御次上敷役之火鉢茶出置、御供御先番并治部御附初

当番江柏餅被下置之、御殺生も在之、一統御相伴、甚御慰二相成候由

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御へ切四時頃表二相成申候

一左膳初当番、御前二て御猟之海老はぜ汁二て御酒頂戴被仰付候、御へ切前

一大奥御寢、御夜詰四時過引

今日到着二付御目見被仰付 去ル十日出立 吉田喜十郎

右八八時前着二候得共御混雜之折柄故御退散之上御目見被仰付金兵衛

差加ル、刻限間も在之ニ付上下着用致候

茶小箱一 秋の月 荒川南山

右者喜十郎へ相託被差上、金屋高之茶を宇治人製候由也

四月廿三日 晴冷

一御目覚六半時表へ被為入 診 適齊

(九十七)

一五時過兩御拜被遊、夫方御庭御順拜被遊、御帰座御臨書如例

壹番側 貳番類

藤市郎 五郎大夫

十大夫 岩次郎

喜十郎 平八郎
 犀次郎 幾太郎
 亥之助 三郎助
 熊吉 岩吉

右之通御番割伺之上被仰付候事

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一侍中御国并他国御用罷越候節ハ前々方往来共月番御用人へ達在之

候上入御聴候所達無之向も在之候間前々之通達可在之事

并

一御国表他国執行相願罷越候面々も達可在之事

一無息二而も御用向被仰付御国并他国へ罷越候面々ハ達可在之事

一病氣忌中等二而往来之節者月番并組合等方達有之、番組ハ筆頭

且同席方達可有之事

一到着出立達之義兼而心得ハ可有之候得共猶又別紙之通可被相心得候

右者御用人中の方通達在之事

一喜十郎義今朝御上屋敷へ到着、御目見罷出被仰付、如例四時過出勤当番

相勤候事、但御裏役御書物方惣而引受取扱之義別段申渡無之金兵衛方申聞置

八日目

一次蔵義祖母病死引込居候所今日方忌御免被成出勤可仕旨被仰付、藤市郎方申越ス

一為伺御機嫌仙庵罷出御目見被仰付候

一右同断敬左衛門・喜三太・荒次郎・重太郎・小六罷出御目見被仰付、重太郎・敬左衛門者

御留被遊寛々御漸被遊、一統へ塩せんへい被下置之、兩人へハ御前ニて柿被下候

(九十八)

一八半時過方御庭へ被為入御釣、松山ニて御茶等被召上候、七時過韃負罷出如例

一七半時過大奥へ被為入御同坐御膳被召上候、六時過方表御々切

一表御締切、夜詰四半時前引

四月廿四日 陰天 冷 小雨又晴

一御目覚六半時 診 宗甫

一五時過両御拜被遊、夫方御庭七社御拜被遊、御帰坐之上御臨書如例

山葵十本 蕨山産 五本大名小路へ被進之 齊藤弥九郎

右者御内々両君公へ差上度旨ニ而参政へ差出候を常邸方半分相廻候ニ付入御覽候

一今日常第へ実之助様被為入ニ付熊吉并御馬@巻御拜借被仰込在之、即被遣候事

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、九半時頃例日御湯被為召候

一為伺御機嫌御家老中被罷出御逢在之、御茶御菓子被下置、万貞罷出同断

島田近江・稲葉左司馬罷出右同断、河村三左衛門被為召同断

実之助様へ弄物一台 二階造茶屋一 涼ミ台 釣人之船

こんろきひしよ

右者今日御上屋敷へ被為入候ニ付無急度御愛相ニ被進之、但御馬事在之由

一八半時過方御々切相成、御前様御同伴御庭廻り、御池ニて御釣被遊御得物も

在之甚御慰二相成候由、左太夫ハ始終罷出居御世話申上御都合宜候趣、鎌落過表二相成、韮負罷出如例、六時頃大奥へ被為入御膳被召上候、五時頃方御へ切一金兵衛義相願退出仕候事 一御目付御留守居罷出御へ切中御逢無之
一大奥御寢被為入、御夜詰四時過引

四月廿五日 陰天 冷

一御目覺六半時

診 主一

五時過兩御拜被遊、夫方御庭七社御拜被遊候、四時過方恕介罷出如例 今朝方出勤

(九十九)

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、御内庭御閑歩在之

一御上屋敷へ為伺御機嫌罷出金兵衛・五郎大夫初一統

為伺御機嫌罷出

植原次郎右衛門太郎太夫

一九半時揃二而例月御養生御灸治被遊表御締切適齋・主一罷出、万貞被為召

罷出御前様ニも被為入七時過相濟、御感も言御機嫌克被為在旨御医師申達

御式所様へ御生菓子差上之、熊吉・岩吉・次藏御相伴被仰付

御前様方車海老廿五召上り 鉢盛 切鮓

右者御灸治ニ付例之通被進之、但奥表末分ツ、六大夫始兩番恕助手伝台子被下之

一御灸治濟御庭へ被為入御釣被遊、松山ニて御休息御茶等被召上候、韮負罷出如例

一鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、六半時過方御締切相成

一表御締切御寢御夜詰四時過引

四月廿六日 晴

一御目覺六半時 昨日御灸治ニ付御懸り湯 診 適齋

一五時過兩御拜被遊、夫方御庭御順拜被遊候、御帰座御臨書如例

一九時過大奥ニ而御膳被召上候、八時過方恕介罷出如例

一七時前々御庭御緩歩、松山御遠眺被遊御茶菓被召上候、左太夫・恕介

随從仕候、御釣ハ無之、鎌落前御帰坐、同刻過大奥御膳如例

一六時過方韮負罷出如例五時過方表御締切

一御前様方大たいかしわ鯛鉢盛治部初御附当番御医師御附両番被下候

一表御寢御夜詰四時過引

四月廿七日 晴

宗甫

一御目覺六半時

診 適齋

(一〇〇)

一五時過御神靈前御拜、夫方御庭諸社御順拜被遊御帰座御臨書如例

但御忌月御手備御規定之通り在之

一四時前々恕介罷出如例、九時過大奥御膳如例

一八半時過方御庭御閑歩、松山ニて御眺望、御茶菓等被召上候

一七半時過大奥ニ而御膳被召上候、鎌落前々御へ切相成無程表二相成

一今晚常振飛脚出立、繼共被差立候 一五時前々又表二相成

一表御寢、御夜詰四時引

四月廿八日 晴 午時方雨色

一 御目覚六半時

診 適齋 主一引込瘡疾

一 五時過兩御拜、夫方御庭諸社御拜、御帰座御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一 為伺御機嫌弥一郎・万貞・元珉・平大夫・三十郎・十三郎・剛右衛門・安太郎・辰蔵・石五郎・治右衛門
紀之允罷出御目見被仰付、御茶御菓子被下之、鞆負罷出如例

一 七半時過大奥御膳被召上候、鞆負再罷出候、五時過御締切相成候

一 表御寝御夜詰四半時前引 一金兵衛相願退出仕候事

四月廿九日 晴

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五時過雨御拜被遊、御庭御拜悪道二付無之、怒介被為召罷出如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、九半時過例日御湯被為召候

一 八半時過方表御へ切相成、御同伴御庭廻り松山にて御眺望御茶菓被召上

一 御側江も御つくね被下候由、左大夫被為召罷出候、鞆負今日不罷出事

一 鎌落過大奥二而御膳被召上候、六半時過御へ切相成、四時表二相成

(一〇一)

殿様方 塩焼鯛一枚 糸魚川産

右者御到来被遊候二付御遠来故被進之、弥一郎方相廻候事

一 表御寝、御夜詰四時過引

五月朔日 陰天

一 御目覚六半時

診 適齋

一 五時過兩御拜、御手備被遊、夫方御庭諸社御拜被遊、怒介罷出暫侍座

一 四時頃殿様六半時御供揃御登城御退出懸被為入、御控所一旦御着座

一 御座間へ御通御対顔被遊、御蒸菓子差上候、無程大奥へ被為入、御対面済

一 鞆負罷出御人払在之、畢而御供御先番之面々御目見被仰付、九時前大奥

一 江被為入御膳被召上候、殿様御小弁当差上、御汁御小皿煎玉子被進候、九半時前

一 方御同伴御庭へ被為入御釣被遊、八時頃御切飯・御すし・御にべ 大奥出来 被進之

一 漸々曇り雨近相成御帰座、過刻被進候御そは御付切差上之、大奥方御生菓子

一 被進之、御退散人時過、長日彼是御手間取相成二付臨時御供御先番へ籠菓子被下候

一 当番宗甫御機嫌伺罷出、御供頭次郎右衛門・太郎大夫同断夫々奉申上候

殿様へ 御蓑入筒共一通り 蘭黄らしや御有合品

御圭尺式 銅扇子形 小本一冊 蘭製御手前仕立

右者御圭三御払底之趣、小冊ハ御好被為在候由二付被進之

御同所様方 七寸御重二 加役共 御露共

右者今日御入二付御二所様へ被進之 但御二度召上り

一 御退散後再御庭へ被為入御釣被遊候、鎌落前御帰座、直二大奥へ被為入御膳如例

一 六時過方御締切、六半時過方左膳始被為召御酒御そば被下置候、昨晚も六大夫始

江御@立所ニ而臨時御下夕位ニテ御酒一杯被下置候
一表御寝、御夜詰四半時懸り引、靱負うなぎ三筋釣れ被下候

(一〇一)

五月二日 雨

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過兩御拜被遊、御臨書如例

一山野十大夫義不快ニ而引込罷在候所今日方出勤、頭取差加指控御免被成下候、御礼
申上候、但同人ハ御国表遠慮御免之左右相知候迄引込罷在候心得二候得共当月中旬これテハ相分り不申
御人少之中故出勤致候而宜候旨御沙汰ニ付金兵衛方申聞出勤致申候

一九時過大奥へ被為入御同座御二度御膳被召上候

一八半時前方怒介罷出如例、七半時過大奥ニ而御膳被召上候、靱負罷出如例

一六半時頃方表御へ切四時表ニ相成

一大奥御寝、御夜詰四半時前引

五月三日 漸晴 午後折々小雨

一御目覚六半時表へ被為入

診 適齊

一五時過兩御拜被遊、夫方御庭諸社御拜、相濟御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一為伺御機嫌十兵衛・仙庵斗罷出御目見被仰付、御菓子被下之候

一八半時前方御庭御廻り御釣御慰被遊候、七半時御帰座直々大奥御膳如例

一適齊ほら一本釣得召上り跡被下候、岩吉鰻一筋釣得被下候

一金兵衛相願退出仕候事 靱負罷出六半時過退出候事 御へ切相成

一白井幾太郎妹松原安芸守殿家臣へ縁付願差出ス、御内意伺相濟候上支配頭

斗へ御礼罷出候、尤御礼無之、本願下り候節も同断也

一表御締切御寝、御夜詰四半時前引

五月四日 陰晴不定 午後方雨色

一御目覚六半時

診 宗甫

(一〇二)

一五時過兩御拜被遊、夫方御庭諸社御拜、夫方御臨書如例

一万貞為伺御機嫌罷出被為召候

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

清心院様方 棹饅頭一折

右者折から御機嫌被為聞被進之

一壹月廿六日立飛脚到着、御国表御静謐恐悦之事

一孫大夫・源之丞・弥六・長作義御機嫌伺書状差出、南山馨助御茶被下ニ付
御礼状差出、五郎左衛門・高田孫左衛門頂戴物御礼状差出、何も入御覽候
加賀御所落雁一箱 中箱 到来ニ付差上之 天方五郎左衛門

大奥へカセイタ御挨拶被進之

一為伺御機嫌御家老中被罷出御逢、御茶御菓子被下置候、左司馬大道寺

七右衛門罷出御逢被遊、市村乙助罷出御用帳入御覽候
一七半時過大奥へ被為入御膳如例、鞞負罷出如例
一六半時過方表御締切、四時過表二相成
一表御寝、御夜詰四時過引
五月五日 陰天漸晴 御目覚方金兵衛上下、一統替り合方上下着
一御目覚六半時 診 適齊
一五時過両御拜、定式御手備被遊候、路次悪敷御庭無之
一六半時御供揃二而殿様御登城被遊、御退出懸四時過被為入直二御座
之間へ御通御対顔、御着坐御長蛇・御煙草盆・御茶御菓子御有合指上之、大奥江
御一所二御対面被為入御帰座御上下二御召替被遊候、非番之面々御機嫌相伺
御供御先番弥一郎始被為召、御機嫌相伺大奥方御蒸菓子被進、九時前御同
座二而節句二付御膳被召上候、御一汁きす清し・御皿やき小たい・御酒・御皿御到来二付石かれウニ焼

(一〇四)

御膳濟鞞負罷出候、御程合二而御供揃出御退散、九半時弥一郎・平大夫・重太郎
被為召御菓子被下、其他之面々御菓子部や頂戴被仰付、御供頭次郎右衛門・太郎大夫
御機嫌伺罷出御逢無之、元珉罷出鳥渡御目見被仰付候
一八時過節句二付葛蒲湯被為召候、今日御床飾御長蛇等差出候

殿様方 銅板細画十枚斗 小
御都合ニ 御籠入御小肴 但御二度御三度召上り
右者今日御入二付被進之 但小こち一 さより五 車海老五 井上弥一郎へ
同断 矢嶋怒介へ

御前様方 八代焼土瓶二 茶碗三 国府蓑一筐
御籠之内交御肴 内大たい一召上り
右者大名小路方御到来二付為御慰被進之

もうをニ 海老二 近江 大道寺七右衛門へ
あわび一 橋元左内へ
右御到来二付思召を以被下置之、手紙添相廻ス

一八半時前方表御締切、御前様御一所二御庭へ被為入御釣被遊候由、大奥方御切
飯御にゞ等被進候趣、鎌落過御帰坐、近江罷出御逢在之、夫方大奥御膳如例
一御広式御用人迄金兵衛御祝義申上候 一右御ゞ切中適齊父子被為召不
一五時前方御ゞ切四時過表二相成
一大奥御寝御夜詰四時三寸廻り頃引

五月六日 晴
一御目覚六半時表二相成 診 宗甫
一五時過両御拜被遊、夫方御庭諸社御拜被遊候
一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

殿様江 御茶御菓子少々ツ、 御直書一封
土瓶一 茶わん一 八代
右者今日中郷御屋敷被為入二付俄ニ治部御先番罷越候折から御託被進之

(一〇五)

殿様江 御小重二提重 御切飯御に 大奥出来

右者同断ニ付四時揃ニ而之御慰ニ思召を以被進之、中郷へ金兵衛手紙添相廻ス
一九半時前々恕介罷出如例市村乙助被為召ニ付罷出、御本中被為召恕介相下り候上
御人払御用在之候

一八半時過御庭廻り御釣被遊、恕介・適齊被召連候、鎌落頃御帰座

御二所様江 桜餅三籠

殿様方

右者御土産品御側御慰として被進之 但二籠大奥御取林一籠左膳初

当番へ被下

一鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、六半時頃方表御へ切相成申候

一表御締切御寝、御夜詰四半時前引

五月七日 晴 午後方追々烈風五時過雨風止

一御目覚六半時 六時過表ニ相成 診 適齊

一五時御神靈前御拝被遊、今日方新河之方板塀八拾間計取懸りニ付御庭御拝

御延引御座之間御掾明り窓雨戸取付致懸りニ付五時過方大奥御対面所江

被為移、表ニ相成御本箱類其外御茶所等迄皆々指運申候

一四時頃方恕介罷出如例

関ヶ原凱歌扇 二握 泰平扇卜近年改 勝沢一順

右者御慰ニ差上之 吟草差出ス 花木馨介同断何茂入 御覽候

一九時過大奥にて御同座御膳被召上候、相濟表ニ相成

一八半時前御対面所北ノ方御庭口方表塀二番口南之方五番口へ御出被遊海手

御馬場辺御閑歩被遊候、暫御尙伴ニ而御帰座七時前山縣三郎兵衛方同御用

之旨ニ而出勤御逢被遊候、韃負も罷出如例

一七半時前御掾明り窓御雨戸出来上りニ付御掃除之上御引移り相成申候

(一〇六)

一同刻過大奥へ被為入御膳如例 金兵衛相願退出致候事 烈風ニ付止

一御前様方六大夫始詰合へおてつ牡丹もち九ツツ、被下置候

一六半時過方表御締切相成

一表御寝、御夜詰四時三寸廻り引

五月八日 漸々晴

一御目覚六半時 診 宗甫

一五時過両御拝被遊御庭御拝者無之、御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

御前様江 御茶風爐一 唐金

右者紅草先日被進之処為御挨拶被進之

一八時過為伺御機嫌弥一郎初両へや・万貞・元珉罷出、御目見被仰付御菓子被下候

弥一郎・万貞・敬左衛門・重太郎罷残御漸被遊候、御内庭御閑歩被遊候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、鞆負罷出五時前退出致候、夫方御々切
一金兵衛義相願退出仕候事
一表御寢御夜詰四半時引

五月九日 晴

診 主一 昨日方出勤

一御目覚六半時
一五半時前御神仏御拜被遊、御内庭神社計御拜在之
一四時前方恕介罷出八大家申上ル

一殿様六時御供揃二而天徳寺へ被為入、御経中御詰被遊、夫方御帰殿懸四半時過

御機嫌為御伺被為入御対顔被遊、御茶御生菓子被進無程大奥へ被為入

御対顔被遊、大奥方も御生菓子被進候、中将様大奥御膳如例殿様御弁当

(二〇七)

被召上御汁御平御到来御煮々等被進候、昨日御機嫌伺罷出候、面々罷出

御機嫌相伺申候、中君御帰座之上御供御先番之面々御目見被仰付

弥一郎義御先番罷出候、無程御退散九半時過

御老所様江 六寸重二 御汁仕立 御茶 御干菓子

殿様方

右者松栄院様三回御忌御法会ニ付為御見舞被進之

御二所様へ 七寸重一 御に々 御蒸菓子 御三方様召上り

蓮性院様方

同 八寸重一組 御に々二 腰高まん一 とくさ餅一

越中守様御二所様方 とよぐし一 むしやうかん一

但大奥二而被下相成候よし

御二所様へ 野菜一台 七品 奥表半分ツ、

伊予守様方

右者御法事中ニ付被為聞御機嫌被進之

一御法事中ニ付為伺御機嫌十兵衛罷出御逢被遊候、七半時過大奥御膳如例

千五百疋ヲ 重一組 倉はし

法経院

遊好院

三千疋ヲ 同 宝昌院 初

妙勝院 初迄 十人

千疋ヲ 戒行 初 三人

智鏡 初 式人

梅寿

御二所様より

御側向頭取御用日記
右者松栄院様御三回御忌御法会ニ付御供養として御送り相成候事

三百疋ヲ

本立院

右者松栄院様御逝去之砌御懸りも致御法事ニ付何角御世話申上三付

A014300511

中将様方御送り相成候事

百疋ツ、

寿操
智仙

(二〇八)

式百疋

知法

右者御法事ニ付兩日共御手伝ニ遣れ是骨折御世話申上ニ付

中将様方被下置之

但 此三口御懸り被下御出方御右筆部屋方受取大奥へ相廻ス

一六半時過方御々切相成四時過表ニ相成

一表御寝御夜詰引、四半時前

五月十日 陰天

一御目覚六半時

診 主一 適齋ニ付御寺詰ニ付

一五時過御神仏前御拝、松君御法事ニ付御極り通り御手備被遊候 御代々様同様御年回ニ付

染御帷子麻上下

冬ハ御ノシメ

一殿様へ昨夕御直書を以被仰進今日常邸御靈前へ御封物御備相成且又

御花一筒、縁高入御菓子 村雨もち 二品共白三方居老女を以被供之 御内証御出方也

お目@ニ紅白

腰高饅頭一台 御靈前へ被供之 但新御定外常邸取計

殿様へ 御蒸ろふニくみ 同断

右者御法事ニ付御側被下ニもと被進之

御二所様江 御蒸籠三組 同二組 清心君方 大奥取計 両邸老女初一同

殿様方 御前様方 鉢もり焼饅頭 但大奥取計ニ而治部初御附金兵衛方一統 御広式向

御いしや三人江被下相成

右者御法事ニ付御機嫌被為聞被進之

野菜 昨日御到来品召上り跡之分 適齋父子元珉

饅頭 鶉餅 大奥方出ル 手伝台子不寝役

両役所小遣共

焼饅頭 但 十一ツ、 韃負 甚十郎 十兵衛

中将様 思召もの也 十三ツ、 哥島 田川 十一 養寿 主一 恕介

十一ツ、 藤井 石の もん

(二〇九)

右之通御法事ニ付夫々頂戴相成候事 但願之上手伝初台子ふね役小遣へも

少々ツ、被下取計候事

御二所様江 七寸重一 御に染一 御蒸くわし一

右京大夫様御二所様方

右者御法事ニ付御機嫌被為聞被進之

金式百疋上り 奥番へ渡ス

倉はし

法経いん

遊好ゐん

同三百疋上り 同

宝昌院初

放光院同

好勝院同

一四時前方恕介罷出八大家如例、九時過御膳大奥ニ而被召上候

一八半時過方御庭御拝御道遙被遊候、韃負罷出如例

一御上屋敷御霊、前御備御菓子十四ツ、饅頭 せん餅 一昨年詰合計四人金兵衛

最中

藤一郎・岩次郎・喜十郎へ被下候

一今朝御内庭御拝被遊候、御精進御歴代様御年回之通前夜方御当日終日也

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、五時前方御締切相成

一表御寝、御夜詰引四時過

五月十一日 陰天 漸々晴

診 宗甫

一御目覚六半時

一五時過両御拝被遊、夫方御庭惣社御拝被遊候、四時前方恕介罷出如例

一今日方日々御痲疾御予防之為ニ泥菫根三把ツ、差上之

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候 金兵衛計伺御機嫌罷越ス

一為伺御機嫌信良罷出、被為召緩々御咄被遊御菓子被下之

一同断埴原次郎右衛門・河合太郎大夫罷出被為召御嘶被遊候

一七時過方御庭廻り御乗船等被遊候、午後御臨書被遊候

一鎌落頃大奥御膳如例、五時過方御へ切相成

(一一〇)

一御前様方切鮓詰合之面々へ被下之

一表御寝、御夜詰四半時前引

五月十二日 漸々晴

診 主一

一御目覚六半時六時過表ニ相成

一五時過御神靈拜夫方御庭七社御拝被遊、相濟御手習被遊候

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

梨子一籠 五

近藤左太夫

右者昨日大奥老女代りニ大師河原へ御表様御前厄ニ付御代拝罷越相携候ニ付指上之

一九半時過方恕介罷出如例

一島渡松山へ被為入、越中島大砲稽古形状を遠望鏡ニ而御覽被遊候

一九半時頃方金兵衛義頭痛療養之為ニ御用捨相願退出致候事

一八時前方恕介罷出如例

一八半時過方表御締切相成、御前様御一所ニ御庭へ被為入御釣被遊、鎌落

前頃御帰座、直ニ大奥ニ而御膳被召上候、六半時頃方御へ切相成

一 御夜詰四半時過引

五月十三日 陰天 入梅

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時過兩御拜、直二御庭諸社御參拜被遊候

一 南御椽明り取窓御雨戸切込合セ致候ニ付御作事方罷出、右ニ付昼時分迄大奥

御対面所へ御移被遊候、御二度御膳後方表へ御帰坐被遊候

一 九時過大奥ニ而御膳被召上候、御対面所御締切相成

一 八時前為伺御機嫌十兵衛・平太夫・三十郎・十三郎・剛右衛門・安太郎・辰藏・石五郎・治右衛門

(一一一)

一 万貞・仙庵等罷出被為召候、十兵衛・平太夫・剛右衛門・万貞・御留被遊御嘶在之御菓子御茶被下之、跡之分ハ御菓子部屋頂戴之

一 七時前方御庭廻り御釣等被遊候、鎌落前御帰座在之

一 鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、六半時過方御締切相成

一 表御へ切御寝、御夜詰四時過引

五月十四日 陰 宗甫

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時過兩御拜夫方御庭惣社御參拜被遊候、御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御膳如例、八時前例日御浴場上ル

一 為伺御機嫌山県三郎兵衛方被罷出御逢、御茶菓被下候、大道寺七右衛門罷出同断

市村乙助も罷出同断

一 七時前方御庭廻り松山遠望鏡御慰被為在候

一 鎌落前大奥ニ而御膳如例、鞆負横浜方罷帰ニ付罷出如例

一 五時前方御締切相成四半時前表ニ相成

一 表御寝御夜詰四半時引

五月十五日 陰天

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過兩御拜被遊、夫方御庭諸社御拜被遊候、恕介罷出如例

夏菊鉢植 鉢拝借 御慰ニ差上ル 藤井

花菖蒲 同 同 宗甫

同切花 同 同 養寿

同断 姫百合 同 橋部治部

(一一二)

薺花小鉢ニ 同 中根鞆負

一 殿様六半時御供揃ニ而御登城御退去懸四半時二寸頃被為入、直ニ御対顔被遊、御茶御干菓子御有合差上之、大奥へ被為入御対顔相濟御機嫌

一 窺規定日ニ付御医師三人藤一郎初五人罷出御目見被仰付、九時前

中將様二者大奥へ被為入御同座御膳被召上候、御表様二者御小弁当被

召上御汁御皿物被進之、大奥方御生菓子被進之、弥一郎始御供御先

番被為召、御目見被仰付候、平大夫・剛右衛門・重太郎被為召御嘶等被遊候
九半時御帰殿相成候

御二所様江

御籠入煎餅

奥表半分ツ、

殿様方

岩おこし

御医師三人へ被下之

右ハ今日御入二付御側為御慰として被進之

粕漬小たい一 明石様方御到来二付御福分被進之

一今日細雨二付御庭廻り無之、七半時過大奥へ被為入御膳被召上候

一五時過方表御々切

一今晚道中常振飛脚出立、継共

一表御締切御寝、御夜詰引四半時過

五月十六日 陰々

一御目覚六半時、六時過表二相成

診 適斉

一五時過両御拜、夫方御庭諸社御参拜被遊、御臨書如例

一白井幾太郎義母方之叔父細川様御家来兼友大助内実ハ昨日病死表

向弘ハ明日之由、乍去承知致候義故昨夕方腹痛ニ而御用捨願退出仕候

一右二付御櫛懸り無之兼而平八郎義ハ巧者ニ髪月代出来候故臨時奉

伺候而既ニ今朝御差支ニ付平八郎御撫差上之、已後御人少之節斗御撫付

(一一三)

之義ハ相心得居候様金兵衛方申聞候事

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、九半時頃午時頃御庭廻り被遊候

一同刻過方恕介罷出如例、七半時過大奥へ被為入御膳被召上候

一韃負罷出如例、其後御々切 一金兵衛義御用捨相願退出致候事

一表御寝、御夜詰四半時過引

五月十七日 晴雨不定

一御目覚六半時

診 宗甫

一六半時頃十兵衛方方手紙到来、左之通申来ル

殿様御義昨日方御聊御鼻水御頭痛氣御覺被遊候得共夕方ハ御劍術表遣

御掟竹ニ而打込等御試被遊候位、明日御拜ニ付御清メ御湯ハ御流し相成、御二度者

小豆粥御相応ニ被召上、六半時頃方御聊御腹滿御腹痛御覺被遊ニ付元珉被

為召拜診被仰付候所御熱候少々相伺フ、御按腹指上候内御大用被為入御水瀉

御跡御腹痛相止不申、万貞召候内御二度御上り物御吐逆在之、御診御熱御寒

も御腹痛も差而御覺も無之候得共御風邪と不同全く時候御障ニ被伺候旨

今日御骨折御響キ可在之旁三黄瀉心湯調上四半時過迄ニ大用二度御瀉り

二度、夜半御うとうとと御快寝不為在先輕キ御霍乱状ニ相伺候旨此段

中将様へ御案事不被遊様可申上旨且亦主一為御見廻被遣可然旨申遣ス

一依之主一義罷越候様申聞ル、金兵衛早出勤委細前記之趣詳悉申上之

葛根加半夏湯

直ニ金兵衛為御見廻被遣罷出候、金兵衛・主一共罷帰委曲奉申上候
八時前方適斉も為御見舞被遣、罷帰候所午後少御熱御強キ方ニ而追

々御醒江相伺先何も御深入之御様体不被為在旨申上之、主一義も七時方
罷出拝診候所余程之御発汗ニ而又御一層御熱も御減被遊都而今朝

(一一四)

拝診之節方御平穩ニ相伺候旨申上、矢張御腸胃熱之趣申達候

殿様江 六寸御重三 鱧焼 あん 白玉団子 新

右者御容体為御尋思召を以被進之

一五半時過方怒介罷出如例 一九半時過方御臨書如例

一九時過大奥御膳如例 一八半時過方御庭廻り御散步在之

一鎌落前表御締切御そば被召上、引続御膳被召上候、五時前方御々切

一今朝例刻両御拝被遊候、御庭御拝ハ夕方御徜徉之節在之候

一例年之通常邸大般若御祈祷御執行在之、御召相廻ル

一今日方幾太郎義母方叔父病死ニ付定式之通十日来ル、廿七日迄引込申候、十五日記ニ委シ

一大奥御寝被為入、御夜詰四半時前引

五月十八日 陰 漸々晴

一御目覚六半時表へ被為入

一五時過両御拝、夫方御庭諸社御拝被遊候、御臨書如例

一九時過大奥へ被為入、御膳被召上候

一殿様御容体弥一郎迄問合差越候所昨宵六時頃御菓并御空返被召上候御温

養被遊候所又々御発汗、夜中先御安眠今朝之所御脈御平穩御熱氣御磷

最早御進之御模様ハ無御座旨方貞申達候趣御菓紫胡桂枝乾姜湯加茯苓

差上候段返答書来着、此段奉入御聴候

一九時前常邸へ主一罷出候所罷帰御容体御直ニ申上、前条々之模様同断愈御

熱氣も大キニ御醒被遊先追々御快境之趣拝診候旨、且夕方宗甫も被遣七

時過罷帰主一同案直ニ申上候、金兵衛義も為御見廻被差越候

一為伺御機嫌弥一郎始敬左衛門・重太郎等罷出御目見被仰付御菓子被下候

(一一五)

一八半時過方御庭御散步御釣等被遊候

一鎌落前大奥ニ而御膳被召上候、韌負罷出如例、五半時頃退出候事

御二所様江 鉢盛団子 赤黄

清心院様方

殿様江 右御品

右者折柄御機嫌被為聞御側為御慰被進之、其儘幸御到来ニ付

御側御慰として被進之

一五半時過方御締切相成

殿様方 六寸重三 生菓子一 御煮々一 鰻蒲焼一

右者折節御到来合ニ付被進之、但御三度御上り御跡韌負等へ被下之

一表御締切御寝、御夜詰四半時過引

五月十九日 朝天雨

一 御目覚六半時、六時過表二相成
一 五時過兩御拜被遊、夫方四時前方恕介罷出如例
一 為伺御機嫌吉田仙庵罷出被為召、御表様御容体被為聴、昨暮合頃方
今朝何之御異状不被為在之漸々御熱も御醒解、昨御三度方ハ御口返も御目
方相増候由、都而御順快之趣申上之候

殿様江 夏黄菊 鉢植

撫し子 同

右者御容体中御慰情御眺二もと被進之

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候
一 今日も主一義常邸へ罷越拝診仕候所仙庵申上候通愈御順快之御連二而何之御異状
不被為在候旨申達ス、依而明日当番二付旁不罷出筈之事
一 今朝も弥一郎迄御容体伺ニ書状差出ス、主一方申上候筈ニ付略答而已也

(一一六)

一 九半時過定日御湯被為召候 一 御様体二付不時伺ニ藤一郎始罷出ル
一 御肴屋尾張や鉄五郎之義是迄御定置段ニ而相納来候処当御屋敷へ御引移ニ而
遠方ニも相成且亦召上り御肴之外御用向も一切無之入合候訳合も更無之必至
難渋之趣申立色々理解御用部屋ニ而相施候得共無抛次第ニ而已後ニ割増ニ被成下候
様御広式御用人御膳番へも歎願差出候ニ付様々申談取調見候得共別ニ致方も無之
無余義訳合ニ付夫々申談之上願之義ハ御取上無之、類様相響候訳合も在之ニ付
別段為御手当ニ割増ニ相当ル金高相渡候様取極候事 御広式御用人談之上四月
分もニ割増之御手当被成下

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、其後鞆負罷出如例五時前方御へ切
一 表御寝御夜詰四半時引

五月廿日 雨 追々晴色

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五時過兩御拜被遊候、四時前方恕介罷出如例
一 常邸へ為伺御機嫌金兵衛罷出候、昼後五郎大夫始一統ハ罷出御菓子被下之
一 九時過大奥ニ而御同座御膳被召上候 一 幾太郎今日方忌御免、御礼罷出ル
一 八半時過方御締切御前様御一所ニ御庭へ被為入御釣等被遊候、鎌落頃御帰座
左大夫罷出居御世話申上候由、直ニ大奥へ被為入御膳被召上候

一 鞆負罷出五時頃退去 金兵衛義相願退出仕候
一 五時過御庭前御閑遊暫被遊、同刻方御締切相成
一 大奥へ被為入御寝、御夜詰四時二寸廻り引

五月廿一日 晴

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過兩御拜被遊、御臨書如例、恕介も罷出如例

(一一七)

一 常邸へ為拝診主一義ハ罷出候、弥御異状無御座御順快之趣申達候

- 一 九時過大奥ニ而御膳被召上候
- 一 壇原次郎右衛門・河合太郎太夫義御機嫌伺罷出被為召御嗽被遊御茶菓被下置之
- 一 七時前方御庭御順拜、夫方御閑歩御釣等被遊候、七半時過御帰座鞞負罷出如例
- 一 鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、五半時過方御締切相成
- 一 表御寝、御夜詰四半時過引

五月廿二日 陰冷 夏至

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時過兩御拜被遊、夏至ニ付御備物在之御庭諸社御拜被遊候

木綿中形切地二丈

白井留三郎

松田門太郎へ

右者每度被為召御慰ニ相成候ニ付御内証方御買上ニ而被下置之

一 御拜後御臨書如例、四時頃方恕介罷出如例

殿様江 民政要編一帙三冊 六寸御重一 御蒸菓子 但思召物

も□もち鉢盛 常邸取斗

右者此頃御容体被為在ニ付思召ニ而被進、且御側御慰として被進之

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 御前様方御鮓鉢もり治部御附衆金兵衛始兩番へ被下置之候、甚十郎子供五人

御医師当番斗御深心ニ在之故手伝初台子不寝役御料理方并未々迄被下取斗

御二所様江 八寸重一 梅干形菓子 笠松金三郎

右者御慰ニ差上之 但奥表一重ツ、左膳始兩番被下之

一 八時過今朝方御大用三度被為入、少々御不和之御心持且御緩ミ之方ニ而

宗甫被為召御大用等拜見被仰付、主一も呼出拜診仕候処御熱氣も不被為在

(一一八)

候得共不時候之折柄矢張少々御障り之御気味合敷ニ付随分御温腹被

為召召上り物御用心御宜旨兩人申達ス、コロンホ大黃丸一包差上之

一 七時前方御庭廻り御釣被遊、七半時前御帰座、御袷差上之

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 今夕適齊義拜診旁御側向被遣候代りニ被差越候、兩三日以前之御釣合ニハ御腹

御拘攣も御緩み被遊益菓敢之度御引立も御薄キ方御食量も御割合

二者此節御少キ方別段御異状と申御義ニも不被為在旨申聞候、但常邸行候

一 五時過暫御べ切相成四時前表ニ相成、今晚大奥御寝之所御腹合ニ付思召表御寝

一 表御寝、御夜詰四時引、但宗伯被為召御按摩被仰付

五月廿三日 快晴 冷 診 宗甫

一 御目覚六半時 但昨夜中御安眠今朝御熱候不相伺旨

一 御櫛御月顔差上之 一 コロンホ大黃丸一包三度程カミルレ差上候

一 五時過兩御拜被遊候、御庭御拜其後御臨書も如例

御二所様方 鉢盛 切すし

清心院様へ

右者久々被進物も無之日長之折柄御側御慰として被進之 明日ニ相成

- 一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候
- 一 常邸へ御見廻且伺御機嫌旁金兵衛義罷出候
- 一 主一義当番中方盤邸へ拝診且御菓御加減申談旁罷越、別段御異状も不被為在候旨罷帰申上候
- 一 為伺御機嫌十兵衛・平大夫・剛右衛門始何茂御目見被仰付、一統へ窓月被下元珉罷出同断
- 一 七時前方御庭へ被為入御釣御閑歩被遊、七半時前御帰座

(一一九)

- 一 七半時過大奥へ被為入御膳如例御麦飯也、鞆負罷出如例
- 一 五時過方御へ切相成、五半時表二相成
- 一 表御寝、御夜詰五半時過引、宗伯被為召候

五月廿四日 陰天 冷

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過両御拝被遊、夫方御庭諸社御拝、相濟御臨書如例

杏実折枝二

右者昨日松田門太郎方御慰ニ差出候ニ付常邸へ被進相成

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一 八時過例日御湯被為召候、陰鬱冷氣ニ付御庭廻り御延引

一 為伺御機嫌市村乙助・真杉所左衛門罷出、被為召寛々御咄被遊御茶菓被下候

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、六時過方鞆負罷出五時過退出

一 今日も拝診御機嫌伺旁主一義常邸へ罷出候、何等之御異状も不被為在

御惣体昨日方者御宣方ニ相伺候旨申達候

一金兵衛義御用捨相願致退出候事

一 五半時頃方御締切四時過表二相成

清心院様方 枝豆老台 但大奥御年寄始御錠口へ被下之

右者為御側御慰折柄御伺被進之

一 表御寝、御夜詰四時三寸引 宗伯被為召候

五月廿五日 晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時過両御拝、且御庭御拝、相濟御臨書引統恕介罷出如例

(一二〇)

一 九時過大奥江被為入御膳被召上候

一去ル十三日立飛脚道中常振之所逗留ニ而今日到着、先以御対顔恐悦之事

鮎焼からし被差上之

本多修理方

花橘茶ブリーキ大筒入一内献之

半井仲庵

一天方五郎左衛門去月出立之砌御渡相成候、御浄書御内々発句遣又南風同月淡水等

江拝見被仰付、五郎左衛門方披露、相仕廻候ニ付相廻今脚上納在之落手差上ル

一 八半時過御庭廻り御へ切御前様御一所へ被為入七半時過御帰座

- 一 韃負罷出如例、六時過方御締切四時過表二相成
- 一 常邸へ為伺御機嫌金兵衛・藤市郎始罷出御菓子頂戴之
- 一 孫大夫・源之丞方旅中詩作差出入御覽候
- 一 表御寝御夜詰四半時過引
- 一 御目覚六半時 診 宗甫
- 一 五時過兩御拜被遊、御庭御拜陰鬱二付御延引、恕介罷出如例
- 一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候
- 一 八時前御家老中被罷出御逢被遊、昨日飛脚着二付何歟申上在之趣、畢而御目付罷出御逢、御用帖御覽被遊候
- 一 陰冷雨湿二付御庭御徇伴無之、韃負七半時前罷出如例
- 一 七半時過大奥御膳如例 一 今朝主一常邸へ罷越御異状不被為在旨

御手許御内用 元金五百兩也

内

百兩

未五月御内用相成

貳拾五兩

外土御貨出シ但証書在之

残而主四百七拾五兩也

當時御有金別箱入

(一一一)

右元金証合有之去々巳年中表御勘定所方御手許御内用之方江

差出候所内書之通追々払切并御貸出相成當時殘金四百兩之分

此度御評儀之上靈岸嶋別御備金二被相定御手元御内証金之内へ

納置以来無抛御用之節ハ御預り三役申談之上可致出納者也

安政六己未年五月

御側御用人

中根韃負 印

御奉行

石原甚十郎 〃

御側向頭取 荻原金兵衛 〃

右本紙并出納通元金箱へ入今廿六日封立御金懸り藤市郎へ相渡、写一枚御金懸り受取証文都合二一通一封二致右箱へ添置、御用筆筭ハ懸念も在之ニ付如此
右朱書之分九月廿五兩入金ニ付証文相改候事

一 御小道具方小遣御大用替之分当邸ハ常邸振合二不拘去冬以来二役打込勤二而

可也二御間合出来候所当節ハ寒天之頃と違一日兩度位之御大用替二而ハ甚臭氣

高く御難渋之訳合ニ付御奉行へ申立以来是迄之通度毎御取替致候様

相成申候、下地御人少之所事毎二相成義故昼飯一月三三十相立候様御奉行申談

之上相極り候事、但一人七ツ半一月分被下

一 御附近習部屋小遣之義当邸二而者御料理方并御用部屋又ハ御庭方等へ使ニ遣候義

日々毎度二而大分困窮之訳合ニ付是又評義之上御奉行へ申達昼飯一月二耆人

江五ツ宛被下ニ相究り候事

一 五時過方御締切相成、四時過表二相成

一御夜詰四半時過引

(七)

五月廿六日 晴色

一御目覚六半時

診 主一

一五時過兩御拜、夫方御庭御拜被遊、引統御臨書恕介罷出孰も如例

(一一三)

一今夕主一義常第へ罷出ル、愈御快然之趣申達ス

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一武田三十郎明後日出立ニ付伺御機嫌罷出御目見被仰付、御菓子被下之、明日当番ニ付

一八半時過方七時過迄御庭御閑歩被遊候

一七半時過大奥御膳被召上候、韌負罷出如例

一五時過方御へ切四半時表ニ相成

一御夜詰四半時過引

五月廿八日 晴 出梅

一御目覚六半時

診 適齊

一五時前兩御拜、夫方御庭御拜濟少々御臨書被遊候

末番外席被仰付 御小姓頭取 堀 平太夫

右者御用部屋ニ而被申渡候、昨夕御礼二者不罷出候、今日四半時過罷出御礼

申上候、金兵衛差加申候

一四半時過香西敬左衛門義明日出立ニ付為伺御機嫌罷出御目見被仰付

德利一 平猪口一 袂落一

御扇子一對 半切紙一

香西敬左衛門

右者折々御書人物并武家記事三冊御写致候ニ付被下之、昨夕廻し置

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一為伺御機嫌弥一郎・重太郎始罷出御目見被仰付、御菓子被下候、仙庵同断、

弥一郎・重太郎ハ居残御漸被遊候

一八半時過方御へ切御前様御一所ニ御庭廻被遊、海手東隅番所御掃除致

御屏風御檀等建敷設置海辺御眺望被遊候、雜菓子御次被下ニ盆也

御ニ所様へハ御有合御于菓子指上之

(一一三)

一今晚常振飛脚出立 一金兵衛相願退出致候事

一六時前大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御へ切相成

一御夜詰四時二寸五歩引

五月廿九日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過兩御拜、夫方御庭諸社御拜、相濟御臨書濟恕介罷出如例

殿様江 六寸二 御煮へ五品 葛製菓子 友千鳥 水晶寒

右者思召ニ而為御見舞被進之

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、八時前御湯被為召候
 一 常邸へ為伺御機嫌金兵衛計罷出候
 一 八半時過方御庭御閑歩被遊候、七時過鞞負罷出如例
 一 七半時過大奥へ被為入御膳如例、六半時過方御締切相成
 一 御庭方之者去冬御引移後小頭共五人二而勤來候所御庭広大是迄荒來
 候事故別而御掃除等届兼候趣申立も在之候得共先々誠精心配致候様申聞
 置候所既二先達而方ハ晴光之節ハ日々朝夕御庭廻りも被遊候義故精々御掃除等
 隅々迄心配致候得共尤行届兼弥増困窮相勤兼候趣自然彼是事多
 二も罷成候二付口上書を以兩人定取人被成下候様御口役迄歎願書差出、依之様々
 申談見候得共如何二も困窮手詰之義ハ実二目前相違も無之事故御奉行へ
 右口上書を以御裏役方申達尚委細之訳合内談致旁願意取持致候所表二而
 評義之上附紙を以願之通被仰付候、右二付御裏役方御庭方へも此段申渡尚
 亦御掃除等は迄と違念入候様申聞ル、御奉行へも兩人二撰之上定渡り相成候
 様通達致候事、但はつひ鞞手相渡候筈之事、
 御舟二艘竿、湍替等支配候様御庭方へ申聞候事
 アカ

(二二四)

一 御夜詰四半時前引

六月朔日 夜来雨

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過御神仏前御拜、定例御手備被遊候、御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一 四時過方恕介罷出如例

一 九半時頃方御伏枕在之候

伺御機嫌罷出候、御逢無之

埴原次郎左衛門太郎太夫

一 八半時過方御庭御尚伴鎌洛過御帰座

一 鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、鞞負罷出如例

一 六半時過方表御締切相成、四時過表二相成

一 御夜詰四半時引

六月二日 晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時過両御拜、夫方御庭御巡拜被遊候、御臨書恕介罷出如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 万貞義為伺御機嫌罷出被為召御茶菓子被下之

一 八半時過方御庭御逍遙御遊船在之、鎌洛前御帰座御懸り湯被遊候、直二

大奥へ被為入御膳被召上候、五時過表御へ切相成

一 大奥御寝御入、御夜詰四時過引

六月三日 晴

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五時過両御拜、夫方御庭御順拜、相濟御臨書如例

(一一五)

一 波々伯部弥六・高村長作義昨夕到着ニ付為伺御機嫌罷出、御目見被仰付
御茶菓被下置候、上下着、但敬左衛門・三十郎義今朝出立昨夕御機嫌伺ニ別段不罷出候
一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 為伺御機嫌十兵衛初両部や之面々罷出御目見被仰付候、御菓子被下候

但御小姓ハ御番替ニ付老人も不罷出御近習番ハ何茂廿人罷出候面々故不罷出候

一 御肴屋尾張屋鉄五郎必至引合不申趣ニ付難渋歎願御広式御用人御膳番江も

差出ニ割増願ハ御取上無之、別段之評義談合之上無扨義ニ付相当之御手当被成下

候様相極ル、則去月十九日記之通月々増金御出方之義ハ御側御用人御奉行へ拙者

御膳番共懸合之上彼之御分量御定金六百七拾兩外ニ右増金御入増ニ而受取可

申答之事

一 昨年中諸御入用清算之所百五十兩余も御残金出来ニ付先例も在之奥番

御金懸り中手伝始台子向小遣迄割合を以格別御省略行届候ニ付五月六月

二ヶ月分并七月方十月迄ハ竹印と兼勤致候ニ付月割を以被下ニ取計

但十一月方御隱殿之方ハ是迄いつとなく御残金出来候年柄ハ本文之廉

被下来候得共元来御金懸りニ而夫々心配之廉ニ而暮被下も在之事故別段

被下之義ハ御残金出来候共相止候旨去秋規定在之事

一 八半時過方御庭廻り御釣等被遊候、信良伺御機嫌罷出ニ付御帰座緩々御啣

等被遊御茶菓被下候、其中鞞負義横浜方罷帰ニ付罷出候、但昨日方交易始ル

一 鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、六半時過方御締切相成候

一 表御締切御寝、御夜詰四半時引

六月四日 曇

一 御目覚六半時

診 主一

(一一六)

一 五時過兩御拝、夫方御庭御順拝、夫方御臨書如例

木瓜

埴原岩吉

右者茶園ニ出来致ニ付御上りニもと五七本程ツ、三度差出之

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、九半時過例日湯被為召候

一 御家老中并稻葉左司馬御目付真杉所左衛門等為伺御機嫌罷出、御逢

被遊御茶御菓子被下置之

一 七時過方御庭御尙伴被遊候、鎌落前御帰座、鞞負罷出如例

一 鎌落過大奥御膳如例

一 六半時前中分之地震ニ付治部・甚太郎・左大夫・又兵衛御附非番之面々御医師

不殘恕介等伺御機嫌罷出候、常邸へ思召を以当番五郎大夫義為

御見舞被遣候、常邸ハ至而輕動ニ而御使ハ不被遣候、同刻過御々切

一 御夜詰九時前引

六月五日 漸々晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一五時過兩御拜、夫方御庭御順拜、相濟夫方御臨書怒介八大家如例
御二所様方 鉢もり硯ふた物 常邸ニ而出来取計
清心院様江 同 交御肴
伊予守様へ

右者今日御参府ニ付御取林ニもと且御着御歡被進之
一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

御二所様江 御籠之内交御肴
殿様方

右者今日被為入候折から被進之候

御肴召上り跡小こち一 海老二 市村乙助

(二二七)

右者着後初而被下置之、金兵衛方手紙ニ而相達ス

一殿様今日方御出勤被遊、九半時御供揃ニ而被為入直ニ御対顔被遊、大奥御

都合宜段申上御対顔ニ被為入、無程御帰座御菓子差上之(東錦、芳ノ川)、無程

今日非番御側向五郎大夫始御機嫌相伺御医師同断、御供御先番弥一郎初

被為召御目見被仰付候、御庭御供支度宜段申上ニ而御同道御庭廻り被遊御池

端へ仮御目覆出来御敷物役之、東ノ方隅番所屏風を建御氈を懸薄端を敷

置、御庭廻り懸此所へ暫御着座海辺御眺望、夫方松山へ被為入遠眼鏡御慰

夫方御日掩出来候場所へ御座着、白玉紅白団子御サトフ差上之、尤御代り付御場所ニ而

御膳番取計御附立致差上之、久敷在而御同道御遊船在之、相濟神明

辺方御馬場口御内庭通り御座之間へ被為入御供揃被仰出候無程相揃候而

御退散七時三寸廻り、御側へ薄縁を敷置鞆負治部御供御先番之面々も被為召

候而御茶煎餅被下置之、但大奥方萬万寿一盆編笠焼一盛被進之候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、六半時過方表御締切

一大奥御寝御入、御夜詰四半時五步前引

六月六日 南風

一御目覚六半時表へ被為入

診 宗甫

一市村乙助昨夕御肴頂戴之御礼罷出、且横浜方之書状持参入御覽候

一五時過兩御拜、夫方御庭御順拜被遊、相濟御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、九半時過方怒介罷出如例

御二所様江 御籠之内大たい二尾 但一枚宛

清心院様方

右者御参府之折柄被進物之御膳ニ被進之

右大たい一性合十分ニ無之故被下取計 手伝始台子四人江

(二二八)

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、鞆負罷出如例、五時前方御締切

一表御締切御寝、御夜詰四半時過引

六月七日 微雨 追々晴

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過兩御拜被遊候、御臨書如例、恕介罷出八大家如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、八時過暫訳合在之御締切相成

一 八半時前々御庭御閑歩且御釣被遊候 熊本国府葺一箱御愛相二被下之

一 大奥方御附金兵衛始詰合之面々へあんころ餅七ツ宛被下置之

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上如例、鞆負罷出如例

清心院様方餅柚べし三竿御到来二付思召を以被進之

一金兵衛相願退出致候事、五時過方表御締切

一 浅見七郎右衛門近々横浜御陣屋御普請追々御出来二付引越被仰付罷越候二付

御内々御機嫌伺金兵衛迄申上ル、其段執奏仕候

一 表御寝、御夜詰四半時過引

六月八日 小雨

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五半時前御神仏前御拜被遊、夫方御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 為伺御機嫌弥一郎初平太夫・剛右衛門・長作・荒次郎・安太郎・辰蔵・清十郎・治右衛門

罷出、被為召於御前御茶かくてん被下置之、万貞・仙庵罷出同断

一 七半時大奥へ被為入御膳被召上候、鞆負罷出後宮一義御研究在之

一 五時過方御~~べ~~切四半時過御夜詰引

(二二九)

六月九日 漸々晴光

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五時過兩御拜被遊、夫方御庭御順拜被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 九半時揃御養生御灸治表御締切二而被遊如例、御前様ニも被為入

御医師三人罷出、八半時前相濟御感も御宜御機嫌被為在候段申達

表二相成候而岩吉・金三郎・次蔵御相伴被仰付、岩吉義御手居被遊御錠口

養寿・樂寿ハ罷出居申候、岩吉へ黒扇一、金三郎・次蔵雁皮紙台扇二本ツ、被下

御前様方鉢盛切すし 石かれ五枚 過日被進候所御延引

右ハ例之通思召もの御側御慰として被進之

但奥表半分ツ、御附金兵衛始一統当番御いしや被下、台子へも少々被下

御前様方御到来之由二而鉢もりそふめん露付被下之

但治部御附衆金兵衛始両番御いしや三人手伝台子向御膳所向

等迄御沢山ニ付被下取計

一 七時過方御庭御閑歩御乗船御慰在之候、恕介罷出被召連、鎌落

頃御帰座、直二大奥へ被為入御膳被召上候、鞆負罷出如例五時過方御~~べ~~切

一 御夜詰引四半時前

六月十日 小雨 午前々南風強

一 御目覚六半時

診 主一

一五時過兩御拜被遊、御庭諸社御拜被遊、夫方御臨書如例
昨日忌明二付久々不罷出故伺御機嫌罷出ル 横川吉十郎
一九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一御前様方奈良布一反例年之通被進之

(一三〇)

一八時前例式日御湯被為召候、但昨日之御替日
一同刻過方恕介罷出如例、市村乙助義申上候義在之罷出ニ付鳥渡御逢被遊候
一七時過方暫御庭御尙在之候、韃負罷出如例
一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方表御締切相成
一為伺御機嫌常邸へ金兵衛・藤市郎始罷出候

係命

六味地黄酒一瓶

金兵衛江

右者老人役ニテ可為太義旨御意被成下於御前頂戴被仰付候

一御夜詰四半時過引

六月十一日 昨夜来南風強晴

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過兩御拜、夫方御庭御順拜被遊候、御臨書如例、恕介罷出如例

清心院様へ 索綿 八寸一重

右者過日御献上そふめん四千把御国廻り候内を被進之、四百把入ノ由

伊予守様へ 七寸重五 硯ふた一 蒲焼一 酢一 小くらかん 葛□

うば玉紅白

友千鳥
芳野川

右者此頃御参府ニ付御在國中毎度々与一兵衛御使を以被進物在之候故

此度御答礼として甚十郎御使ニ而被進之、但外御用も在之昨日罷出御口上

申達御品ハ今日手紙添相廻ス

カヨヒ

一去午年十一月十二月分計新御定外本手形相極仮手形与引替相済申

者也 但御金方御納戸方共当未正月方十二月之分ハ当暮本手形相極り候筈

本手形案文ハ手伝方ニ留記在之ニ付略ス

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

御式所様

鉢盛交御肴半分ツ、表之分小たい三 こち一 あら四

伊予守様方

えひ二 平らき一

右者過日御肴被進之為御返し被進之 但当番被下跡御膳番方御料理方二人へ

一八半時過御々切御前様御一所ニ御庭へ被為入、但烈風ニ付御々切ハ相止御庭廻り

(一三一)

御閑歩御釣も暫被遊候、七半時過御帰座直ニ御懸り湯被遊候、韃負罷出如例

七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時頃方御々切相成

一金兵衛相願退出仕候事

一御夜詰四半時前引

六月十二日 快晴

一 御目覚六半時 診 宗甫

一 五時過兩御拝済夫方御庭御順拝、相濟御臨書如例

 万古焼急須一桑名産 矢島怒介

 右者牧野主殿介方到来ニ付差上之、但内実ハ被差上度旨也

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 八時過壇原次郎右衛門・河合太郎太夫伺御機嫌罷出、御逢無之、韃負近江罷出候而

 寛々御嗽被遊候、御茶御菓子被下之

一 七時頃方御締切ニ而御前様御一所ニ御庭廻り被遊、御側御慰ニかくてん

 五十本差出ス、七半時過御帰座、直ニ御懸り湯有之、大奥御膳如例

一 五時過方御締切相成

一 表御へ切御寝、御夜詰四時過引

 六月十三日 晴

一 御目覚六半時 診 主一

一 五時過兩御拝、夫方御庭諸社御拝被遊、御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

 亀甲煎餅一箱 山県三郎兵衛方

 右者昨日横浜方罷帰相携楚ニ付御内々被差上之、但弥一郎より相廻ル

(三三)

一 八時過為伺御機嫌十兵衛始両部屋弥六・重太郎等一統罷出、被為召出

 御前御茶御菓子被下置之、元珉・仙庵罷出御逢在之、御菓子御次ニ而被下

一 八半時過コツテル御船一番丸着岸ニ付八幡社横御出格子御成御門横

 御出格子并隅番所前ニ而船進退帆懸下シ等極御内々御透見被遊、七半

 時過御帰座、御懸り湯被遊候、御前様ニも隅番所海干御出格子等ニ而

 御見物被遊候、鎌落前大奥へ被為入御膳被召上候、韃負過刻方罷出居申候

一 五時過方御締切相成候、金兵衛相願退出致候事、森引込之様子ニ付

一 表御締切御寝、御夜詰四時二寸引

 六月十四 晴光

一 御目覚六半時 診 適斎

一 五時過兩御拝、夫方御庭御巡拝被遊候

一 為伺御機嫌市村乙助罷出、御櫛中ニ付御逢無之、但夕方御乗馬拝見ニ付

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 為伺御機嫌方貞・信良罷出被為召御嗽被遊候、御茶御菓子被下置候

 御二所様へ 七寸重 二 大名小路へ行 同三 玉子廿 一

 伊予守様方 御もり合肴 ちんく麦 二

 御生菓子

 右者過日伊予守様へ中將様方御重詰被進御器物御返シ之折柄与一兵衛

 御使ニて御広式御用人迄御口上、過日被進之御挨拶格別難有思召之段且亦御在

 國中毎度御細やかニ被進物等之御厚礼被仰上度旨御盛合肴御生菓子ハ御台所

 ニ而御出来折から被進、跡三重ハ御移として中君へ被進之、乍御序清心君方も過日

被進物之御挨拶被仰進度旨右之趣逐一件々奉申上御相答之御口上申達ス
一今朝方藤一郎・辰蔵・十大夫・喜十郎・犀次郎・亥之助・熊吉も罷来汐留之内おぼこ沢山居候二付為御
執二相成大分執レ候を直二右御海へ御放シニ相成候事、右二付格別骨折二付左之通被下

(一三三)

且あかり候おぼこ鰻四五筋計被下取計候事

酒老升 そは三ツ宛 藤一郎方熊吉迄江

一為伺御機嫌宇都宮勘解由罷出御逢在之、御家老被罷出御庭へ被為召御茶菓
被下候、七時過御庭廻り御釣等被遊候、御得物三郎兵衛へ被下候、但海老斗也、治部も罷出候
一鎌落前被為入御行水被為召候、但此頃方御行水被仰出候
一同刻過大奥へ被為入御膳被召上候、鞆負罷出如例寛々御咄申上候
一五時過方御々切相成
一表御締切御寝、御夜詰引

六月十五日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過両御拜、夫方御庭諸社御拜被遊候、御臨書如例

一恕介罷出八大家講談如例

一九時過大奥へ被為入御膳如例

一山王御蔭祭り二付殿様方御二所様へ御酒御吸物被進筈之所当御時節二付
御断被仰進候、但御影祭故旁也

一殿様九半時御供揃二而八時前被為入直二御対顔御機嫌御伺被遊、御茶井

御菓子差上之(水セシ巻、桔梗万寿) 大奥へ被為入御対顔被遊御帰座、五郎太夫始御機嫌

伺罷出御目見被仰付、御袴へ御召替御医師共御機嫌伺罷出、御逢無之

御供御先番之面々弥一郎始御供頭次郎右衛門・太郎大夫被為召御嘶被遊、夫方御同

道一統御供被仰付御庭廻り被遊、隅番所へ被為入コツテール碇船御見物

被遊、暫有て追々松山辺御緩歩御河戸辺桜林へ御涼台二設置御休息被

遊、御茶菓子等差上之、呉座敷へ着座次郎右衛門・太郎大夫・弥一郎始一同へ御茶菓子少々

(一三四)

御在合物被下候、無程御帰座大奥方御生菓子御素めん等被進被召上候、御供揃
被仰出御退散七時前

一同刻過再御庭へ被為入御釣被遊、御帰座御懸り湯被遊、大奥へ被為入御そば
御膳被召上、如例五時過方御締切相成

御二所様へ 鉢もり切すし 奥表半分ツ、

殿様方

右者今日御入二付御側御慰として被進之、但金兵衛始両番一同当番御いしや被下

一今晚飛脚道中常振継共出立、但御国方飛脚大延着二付

一御夜詰四半時引

六月十六日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過兩御拜、夫方御庭御順拜被遊候、御臨書如例

清心院様へ 五寸重一 水仙巻 きつこふ万寿 御供二もと惣思召被進之

切花 御庭前

六寸重二 御寿し 小くらかん 上 新

友千鳥

右者良徳院様三回御忌御法事二付御見廻として被進之

諏訪平袴地一反ツ、

熊吉

岩吉

中形木綿一端ツ、

金三郎

次蔵

右者思召を以為御手当御手自被下置之 但兩三年之中例式可然事か

一九時過大奥へ被為入御膳如例、九半時頃方怒介罷出如例

一一昨日大名小路へ被進相成候御重二今日御煮染御蒸菓子御移として被進候を殿様へ被進相成候、但内実ハ実之助様被為入毎々御到来二付而也

一七時過方御庭御尙伴、於桜林涼台御茶被召上候、鞆負罷出御相伴七半

時過御帰座、御懸り湯被遊、再鞆負被為召候、鎌落前大奥へ被為入御膳如例

(二三五)

一五時過方御締切

一御夜詰四半時過

六月十七日 晴

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過兩御拜、夫方御庭御順拜被遊候

一一昨日十五日晚御締切之節左之通思召を以被進相成申候

御前様へ 越後縮一反 瀧島 御中臈も可在之敷

御二所様方 八寸重一組 常邸取計二而遣ル

清心院様へ

伊予守様へ 鉢もり焼万寿 同

右者良徳院様三回御忌御法事二付被進之

一五半時揃土用前二付御灸治被遊、表御々切御医師式人罷出候、例之通り

御前様二も終始被為入、熊吉老人御相伴被仰付紙筆被下候、四半時相済

御微も宜御障も不被為在旨申達ス

御前様方 御肴代り 御すし代り

窓の月一折 鉢もり染ふ餅 奥表半分ツ、

右者御灸治二付被進之、但左膳始一統頂戴台子へも少々ツ、被下之

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

奈良布御単物一御仕立 中根鞆負へ

同断 金兵衛江

右者御前様方日々之通勤暑氣之頃太義被思召御仕立二而被下之

金兵衛ハ老人勤暑氣之時分可為太義旨にて思召を以被下置之候、田川方相達

一七時過方御庭廻り御遊船在之、其節唐茄子五ツ塩煮被下、治部左大夫被為召上候
御二所様へ唐茄子十五ツ、差上之 金三郎

但 御錠口三人へ三ツツ、被下、一ツ五郎太夫被下

(一三六)

精進酢一重上り

御年寄二人養寿

阿部様方戴候ニ付御側為御慰差上之、左膳始当番被下候

一七半時過御帰座御懸り湯、相濟大奥御膳如例

一金兵衛義相退出致候事 一六時過方韃負罷出如例

一五時過方御締切相成候

一御夜詰四半時引

六月十八日 晴 七時頃方少々過雨

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過兩御拜、御忌日定式御手備被遊、夫方御庭御順拜被遊候

一米帖御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御膳如例

一去ル六日立飛脚五日大井川滞留、追込今日到着、御国表御静謐、恐悅之事

一為伺御機嫌弥一郎・平太夫・剛右衛門始罷出、被為召於御前御茶菓被下之

一七時過御庭廻り暫時被為遊候、御懸湯大奥御膳如例

一韃負罷出如例、五時過退出、五半時過方表御締切相成

一御夜詰四半時過引

六月十九日 晴 嚴暑

一御目覚六半時

診 主一

一五時過兩御拜、夫方御庭御順拜被遊、御臨書如例

一御菓御下ケ之義ニ付先達而一旦奉伺夫々評義之上規定出来ノ処其

後差支之筋も在之ニ付又々思召相伺御側御用人十兵衛等へも申談之上再

規程左ニ記置、但適齊方万貞へハ申達ス筈

一御用意御菓御下ケ願之義訳合在之ニ付向後ハ現金ニ而御下ケ相成事

一兩御屋敷御側向御医師御役人其外ニも夜中急病無拋節者

(一三七)

御下ケ相成候事

但 以来御菓相用候先方急度相達可申候、用意菓等之義ハ御

下ケ無之候事

未六月

御膳番

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一殿様九半時御供揃二而一番丸為御見分被為入、御老中御伺濟也、御対顔被遊候

御葛湯御茶差上之、大奥方葛切被進候、大奥へ為御対面被為入、御帰坐御供

御先番被為召御逢在之、御船御仕度御宜段申上候而八時頃御座之間御掾方

四番口御成御門へ被為入、尤走り方三板懸ル、押送り船ニテ御渡船伝馬舟繫舟

方一番丸へ階子懸り夫方被為入、御船中内外上下帆上ケ下ケ等積り御見

分在之、畢而被為入海手御成御門下■にてバツテラ乗船帆之懸下シ等
御覽被遊、畢而御間内へ被為入、余大暑ニ付暫御袴も御取被遊冷シ索めん
御三盛被召上候、大奥方粕てら被進之候、明日常邸へ罷出候面々御機嫌伺
無程御退散、七時過、但御平服御舟之節ハ御袴斗也

御二所様江 桃御籠入 奥表半分ツ、御側御慰ニ被進之
中将様方 雁皮紙団扇五本 上物 暑中へ向う折柄被進候
殿様へ

御前様方 焼あじ一重 御到来合ニ付被進之

一 御供御先番之面々へ砂糖水被下候、大奥方も御供御先話一統へ葛切被下置候
一 七時過方御庭へ被為入御遊川而已、過刻も海手御出格子ニ而御内覽在之候
一 鎌落前御帰座御行水被為召大奥御膳如例
一 六時過方一廉之雷氣、雨ハ少ク常邸方平大夫為御見舞被遣則被為召候
一 五半時前方詰合へ於御前桃頂戴之、御前様御透見被遊候、御錠口等罷出

(二三八)

居何茂退去御切相成、大奥ニ而も桃被下候由

一 御夜詰四半時過引

六月廿日 晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時過兩御拝御庭御拝如例、恕介罷出如例

一 一番丸新造十三日着船、今朝五時過先品川沖迄出帆之趣也

一 船頭役乗込人頭取加藤藤左衛門へ裁付地木めん一反・平骨扇二・手拭一・内藤普兵衛へ同断、一反斗
野村与三兵衛へ同断、殿様方韃負取斗被下之、水夫之者へ酒觴御酒代被下候由也

一 九時過大奥へ被為入御膳如例 一 常邸へ金兵衛斗御機嫌伺罷出候

一 八半時過方御庭へ被為入御遊船在之、七半時過御帰座御懸り湯大奥御膳如例

一 六時前方韃負罷出如例、五時頃退出 一金兵衛相願退出致候事

一 五時過方御締切相成

一 大奥御寝御入、御夜詰四半時前引

六月廿一日 晴 暑甚 土用入

一 御目覚六半時表へ被為入

診 宗甫

一 五時過兩御拝、夫方御庭御順拝被遊候、恕介罷出如例

金百疋

故松田東吉郎

右者存生中春來も楠公一軸差上每度書扇子も差上詩集類も每度差出忠実之
之事柄、不計病死ニ付恕介方内々本文之趣申達無急度被下候事

八寸重一 包餅青白

養寿へ

右ハ又姪病死致同居之事故思召を以被下置候事

一 今日方於学問所御小道具御虫干相成候事、但御干所無之ニ付無扨御側御用人へ申達

之上本文之通御目付へ奥番方申達ス

一 五半時前市村乙助罷出御人払御用在之

(二三九)

- 一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候
- 一 次郎右衛門太郎大夫伺御機嫌罷出、被為召御咄被遊御茶菓被下置候
- 一 御家老中伺御用在之二付被罷出由二而御逢在之、御茶菓被下之
- 一 七時過御庭御閑歩御釣等被遊候、御帰座御懸り湯大奥御膳如例
- 一 鞞負罷出如例、五時頃方御締切相成
- 一 表御締切御寝、御夜詰四半時前引

六月廿二日 晴

- 一 御目覚六半時 診 主一

- 一 五時過御神靈前御拝、御庭御順拝被遊候、御臨書如例
- 一 九時過大奥へ被為入御同座御膳如例
- 一 九半時過恕介罷出如例 一 為伺御機嫌近江罷出被為召御茶菓被下之
- 一 七時過鞞負罷出如例、同刻過方御庭廻り御釣被遊、おぼこ五ツ始而御得物在之
- 一 御次ニても廿余釣得之、鎌落過御帰坐、御懸り湯大奥御膳如例
- 一 御前様へおぼこ七ツ被進、六大夫適齊へ九ツ程ツ、被下之
- 一 五時過方表御締切
- 一 御夜詰四半時前引

六月廿三日 晴暑

- 一 御目覚六半時 診 適齊
- 一 五時過両御拝、夫方御庭御巡拝被遊候、御臨書如例
- 一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候
- 森六大夫下
- 銀七拾匁宛
- 松井左膳上

右者暑中例年之通縮代として被下置之、金兵衛方相達ス、表出方也

(二四〇)

- 津縵子丸御紋御肩衣地 浅黄 中根鞞負
- 右者日々通勤大義ニ思召され御手自被下置之
- 白縵子襦袢地 石原甚十郎
- 右者日々常邸へ通勤暑中別而太儀被思召御直ニ被下置之
- 晒布手拭一ツ、 近藤左大夫
- 桑山十兵衛
- 井上弥一郎

- 右者暑中思召を以御直ニ被下之 金兵衛へ
- 御紋紹御肩衣 浅黄
- 右者老人ニて太儀被蒙御意御直ニ被下置之
- 木綿手拭一筋ツ、 治部是ハサラシ
- 御附衆兩人
- 藤一郎方亥之助迄
- 適齊宗甫主一

右者暑中太義被思召御直ニ被下置之

雁皮紙団扇二本思召を以被下置之 田代万貞へ

一 哥島・田川・養寿御錠口三人御中臆へ晒紙御手拭三ツ、思召を以被下置之候

御二所様へ 籠之内交肴 大たい一 星かれ二 召上り相成

清心君ろ 大こち二 炮二 奥表半分ツ、

同様 七寸重二 御盛合肴御蒸菓子召上り跡鞞負十兵衛被下

右者暑中ニ付被聞御機嫌花井参上之折から被進之

清心院様ろ 絹地団扇一 小急須一 手ずま物一台

焼物短冊形御花入一

右者御慰ニ思召を以被進之

御同所様へ 雲形半切百 苜夜■軸筆三 御墨一 玩物

右者御有合品御愛相ニ被進之

枝豆一台上り 花井へ

半切一々 猪口三ツ 晒布手拭一被下之 同人江

一 次郎右衛門・太郎大夫暑中御機嫌伺罷出、御逢無之

一 御家老中同様被為召御茶菓被下候、万貞罷出同断、仲庵も罷出

(二四一)

一 十兵衛始弥六・十三郎・喜三太・記之允・小六為伺御機嫌罷出、御目見被仰付部屋頂戴阿部川餅

此節枝豆頂戴

一 七半時過御懸り湯、夫方御々切御膳被召上候、六時過表ニ相成鞞負罷出如例

五半時前方再御々切相成

一 大奥御寝、御夜詰四半時前引

岐阜形絵提灯二 丁子 差上之 金兵衛

三菱

大こち 一 御内々被下ニ取計 千本弥三郎

大炮 一 被下相成申候 六大夫江

六月廿四日 陰暑

診 宗甫

一 御目覚六半時表へ被為入

一 五時過両御拜御庭御順拝被遊、御臨書如例

一 九時過大奥御膳如例

一 暑中為伺御機嫌弥一郎罷出被為召候、御留守居兩人罷出御逢無之

一 御前様へ暑中為伺御機嫌御広式御用人迄金兵衛惣名代藤一郎斗罷出候

一 今晩六日振道中ニ而飛脚出立

大名小路御二所様ろ 佐賀関鯛十枚

朝鮮飴大一曲

右者暑中ニ付被進之

一 六大夫屢次郎へ釣被仰付候所稍大ぼら三本釣得候ニ付御前様ろ御伝ニて御内々

越中守様へ岡持入ニ而被進之、但おほこも少シ釣候故六大夫・犀次郎へ被下候、
 六大夫御賄一汁一菜御酒犀次郎へそば七ツ被下取計
 一七時過御庭御閑歩御釣被遊、おぼこ御得物在之候、おぼこ当番被下候
 一七半時過御帰座、御行水被為召大奥御膳如例、御帰座被遊候所余程

(一四二)

御発熱御脈御数多く御頭痛等御覺被遊候旨ニ而主一被為召拝診被仰付
 候所如何ニも御逆上御強被為在、思召之通相伺御惣身御倦怠も被為在
 全く御聊御中暑之御様体ニ奉伺候旨、仍之五苓散ニ貼調上之直ニ御
 床ニ被為入、六半時頃韌負罷出如例、金兵衛相伺退出仕候事
 一五時過方表御締切相成
 一御夜詰四半時過引、但御様体ニ付表御寝、夜中御安眠

六月廿五日 漸晴 暑甚敷

一御目覺六半時

診 主一

一御仕廻御平生之通ざつと被遊候、朝御膳御一盛被召上候
 一御様体今朝ハ御脈も御落付御氣熱も薄く御頭痛も御軽く御氣先も随分
 御宜く被為在候旨、依之五苓散三貼調上之夜分石ケン丸一包差上之
 一御床ニ被為入御拝御流、恕介御嘶相手ニ被為召候
 一常邸へ為伺御機嫌金兵衛罷出、暑中ニ付御右筆部屋へも罷出候
 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

蜺籠入 枝豆御台 上り

養寿 楽寿

中将様へ 御呉座五枚 備後表御到来之由

殿様方

御二所様江 御小重入ニ 御肴 御干くハし 召上り相成申候

右者今日御入ニ付被進之

殿様へ 御印章一箱 彫刻 三郎助 語撰 左内 箱桑

六顆 角肉池 印矩共

右ハ格別之思召ニ而被仰付御出来被進之

一殿様暑中為伺御機嫌人時御供揃ニ而被為入御対顔被遊、御継上下
 砂糖水差上之、御菓子吉の川、大奥方も葛万寿被進之、大奥へ被為入御対面

(一四三)

被遊御帰座、暑中ニ付両番二度も罷出御機嫌相同、畢而御供御先番被
 為召候、寛々御咄被遊候、七時頃御同道御庭へ被為入、中君ハ松山下御池
 御釣被遊おぼこ御得物在之、殿様御茶園御池ニて御垂綸おぼこ御得物
 在之、御火入御茶具御菓子御敷物げんば桶等廻置、七半時頃中君ハ御帰座
 殿様七半時過御帰坐、御継上下被為召、畢而御切飯御煮、御香の物差上之
 御代り付御供揃出ル、御退散鎌落前
 一中将様御拳御次共被進、殿様御得物十一御二所様へ被進之、但表之分石原被下
 一御供御先番へ砂糖水前記枝豆被下之、当番一統へもサヤ豆被下之

一八時頃六時過適齊・主一拝診候所今朝方御惣体些与御進被遊候方、乍去格別之御異状相同不申旨申上候、少々御晚発状也

一鎌落過表御^レ切御膳被召上候、御上り御宜く五時前表二相成

一再五時過御^レ切相成、甚十郎内献之西瓜大奥にて被下候由、四時前表相成

一御夜詰四時引、宗伯被為召候

六月廿六日 晴 炎暑 八時頃九十四度 七時小雨

一御目覚六半時

診 適齊

一御仕廻昨朝之通、何敷もさつと被遊、御櫛御撫付御膳少々御二盛被召上候

一適齊・主一拝診候所先昨朝御同様何も別段御進不被為在御穩静相伺候旨

依之御薬前法三貼調上之

暑中二付

伺御機嫌罷出

横川吉十郎

小井又兵衛

一常邸弥一郎方書中を以御様体問合昨日之御挨拶申来ル

青松院殿方絵物灯五ツ被差上之

奈良布一反 御到来品

橋本左内へ

(二四四)

右者御詩作御直多々被仰付其他様々御世話申上候筋も在之御内々

思召を以被下之、金兵衛持参相達申候

一為伺御機嫌罷出恕介被為召候

御二所様へ 平骨団扇五 枝豆一台上り 秋水・梅寿

表へ出候分当番へ被下之

一九時過表御^レ切御膳被召上候

一今朝方折々御閑眠被遊折々御起座も被為在随分御氣先も御宜相伺申候

伊予守様方 山手産焼酎二瓶五合入 八寸重一 粕てら

右者昨日中御機嫌被為聞与一兵衛御使を以被進之御相答申述候例之通御

広式御用人方相達ス 但御有合ニ付朝セン飴一曲御器物御返之折被進之

一七半時過大奥御膳被召上、表御締切相成申候、六時頃表二相成

一右已前適齊始三人拝診、大者御平御晚発状昨夕方ハ御余程御軽く何之御異

状不被為在旨、御寝前御洗足御好ニ付差上之

一六半時頃方表御締切相成詰合へそふめん被下之

一御夜詰四時過引

六月廿七日 陰涼 追々晴

一御目覚六半時、御仕廻等昨朝之通り 診 宗甫

一御膳少々、御二盛被召上候、昨日来御咽吭少御痛御覺被遊御舌根も少々被為在

候故御食味ハ不宜方ニ被相伺申候

一適齊父子主一拝診候所昨朝之御釣合ニ今朝別ニ御醒解之方ニも不被為在御咽

痛之趣全御経動御上部ニ被為付候御義故御転法涼膈散三貼調上

之旨申達ス

一四時頃迄御安眠、夫方御起坐御漸被遊候、左大夫・恕介伺御機嫌罷出御咄被遊候

(二四五)

一九時過表御締切御膳被召上候、八時過迄御閑眠、其後随分御氣先も御宜被為在
御前様方御側御慰として葛切中鉢盛被進、六大夫・金兵衛始当番一統へ被下候
殿様方御小重一 火取ふし 弄物一台 水からくり 水排ちんめん之類
右者御容体ニ付御側御慰ニもと被進之

一七時過主一 相伺候所少々御晚発ハ被為在候得共何之御異状不被為在旨申聞候
一七半時過表御々切ニ而御そは被召上、六盛 御飯不被召上候

殿様方御菓子折一 陸の花

右者御到来ニ付為御見廻被遣候折から被進之 但剛右衛門被為召宇和島臘

一五時頃方表御締切相成 一本被下之

一御夜詰四時過引、宗伯被為召 此時雨降

六月廿八日 陰涼 漸晴 夜雨

一御目覚六半時二寸頃 診 主一

一今朝涼氣ニ付御入側御拭計御仕廻御撫付御膳少々、御二もり被召上候

一主一・適齊拝診仕候所今朝者一段と御脈御平穩、御熱氣も大キニ御醒被遊御頭痛
も大キニ御軽く御咽痛矢張少々御覺被遊、依之御藥前法去芒硝調上之、時々御通便

一殿様方御様体拝診旁為御見廻方貞被差越、則拝診被仰付右同様申上候

青松院殿江哥島方御内々被遣之 索めん 御重入 三百五十杷

鯨ほね一袋 船頭二人方桑名サン

青のり砂とふ漬 左大夫方

一壇原次郎右衛門義為伺御機嫌罷出、不被為召候

一今朝者大キニ御氣先御宜く御帰坐勝ニ而少々御出見被遊候

一九時過御締切ニ而御膳被召上候、相濟御書見被遊候、八時頃方半過迄御安眠

御二所様江 御小重一 紅白水仙卷 御二度召上り跡半分ツ、

蓮性君方 御煮々 但両品当番被下

右者折柄之御機嫌被為聞被進之

(二四六)

枝豆茄子一台上り 小枝

三島

一為伺御機嫌弥一郎・剛右衛門・平大夫・長作・荒次郎・辰蔵・清十郎・治右衛門罷出鳥渡被
為召候、弥一郎・平大夫・剛右衛門義罷殘被仰付御咄申上候、一統へ御菓子被下之

一同断元眠・仙庵罷出拝診被仰付御菓子被下之

一七時過方韋負義横浜方罷帰ニ付罷出緩々御咄如例

墨形落雁大一箱内献 三国 西光寺

角小杉重二重 干くわし 山県三郎兵衛方

紅白うば玉

右両様韋負持參被差出披露在之、但清心君へ被進相成申候
一殿様へ御到来品紅白水仙卷・粕てら御小重入ニ而被進之

一七半時過適齊・主一拝診候所御晩発も余程御軽く被為在御惣体至極御平ニ奉診察候旨申達ス、同刻過御締切御同坐御そば五もり被召上候御飯不被召上候
 一五時過方表御締切 一金兵衛相願退出致候事
 一御夜詰四半時過引、宗伯被為召候

六月廿九日 清涼 晴 上州辺大雨之由

一御目覚六半時、御入側御拭御仕廻昨朝之通 診 主一
 一朝御膳六拾匁被召上候、御大用後御書覽御筆事等被遊候

一主一診察候所今朝ハ御熱氣も大キニ御軽く御頭重と申程御咽痛も追々御宜方御惣体御順快之趣被為在、依之御転法解凝発汗湯三貼差上旨申達ス

一十兵衛方紙面を以御容体伺申来返答差越ス

金二両御趣意拝借願出被仰付 当時奥定介 鷺田清嘉

一九時過御へ切御同座御膳被召上候、九半時過表ニ相成

殿様方 六寸重ニ 御煮めん仕立御露付 八寸一重 兼夜 当番一統へ被下

(一四七)

右者為御見舞召上り仕立 且御側御慰として被進之

一為伺御機嫌十兵衛・島田近江罷出、被為召御菓子被下之、市村乙助同断御逢無之怨介御へ切中故不被為召退出致候

今日到着ニ付為伺御機嫌罷出候 御聞番見習 榊原幸八

但御席へ被為入不被為召候

一七半時過宗甫・主一罷出拝診候所今夕者御晩発状も無御坐御惣体御平らニ奉拝診候旨申達ス

一鎌落前御締切御膳被召上候、相濟鞆負罷出如例、五時過又御へ切相成

一御夜詰引九時

六月卅日 涼氣 晴陰不定 時々雨

一御目覚六半時三寸頃御拭御仕廻御撫付 診 宗甫 適齊

一今朝御膳五十五匁被召上候、御咽痛透与御宜被為在御頭痛も大方御忘被遊候由

一主一罷出奉拝診候所御脈御熱候御惣状一段と御穩静御醒解之方ニ被相伺

御薬者前法調上之旨申上候

一殿様方為御見廻安田元珉被遣ニ付拝診被仰付候

一九時過御締切御同座御膳被召上候、午前も御起坐御書見御詩作被遊候

一大奥方夏越御被ニ付茅の輪小幣指出奥番持出上又之輪御潜り被遊、御直ニ

小幣ニ而御被被遊候、例年之通り

一為伺御機嫌常邸へ藤一郎初罷出、金兵衛義ハ御様体中ニ付不罷出候

一怨介義伺御機嫌罷出寛々御漸被遊候

一七半時過御締切御膳被召上如例、鞆負罷出如例

一五時前御締切相成申候

一御夜詰四時過引

(一四八)

七月朔日 陰冷小雨

一 御目覚六半時、御拭等昨朝之通り 診 主一

一朝御膳御目方七拾匁被召上御平常へ被為復恐悅之事

一 愈御容体御快然、大抵御平常相伺候旨、御菓へ前法調上之旨申聞候

一 殿様六半時御供揃二而御登城被遊、御退去懸被為入直二御対顔

被遊、御茶御菓子小くらの差上之、大奥御対面如例、大奥方も御菓子被進、主一

御機嫌伺罷出候、中将様大奥江被為入御膳被召上候、殿様御小弁当被召上

御汁きす御皿石かれ・う二焼御到来合二付焼あじ・生か等被進候、靱負も罷出候、御帰坐

之上御供御先番被為召御目見被仰付候、平大夫・剛右衛門・重太郎別段被為召御咄

被遊、御二所様御大字御認被遊候、八時過御汁粉差上之、御供揃被仰出候

御退散八半時一寸前、再靱負被為召候

一 今朝御神仏前御備物在之二付金兵衛義御代拝相勤申候

御前様方 六寸重二 御にしめ 鉢盛御仕立肴

くづまんしゆ

右者御容体二付御見舞召上り且御側御慰として被進之

殿様方 六寸重一 御汁粉 あん団子 幕之内廿五箱

右者今日御入二付為御見廻召上り且御側御慰として被進之

殿様へ右六寸重二被進之

右御仕立肴 御三方様へ御初口取 御年寄二人養寿御錠口等四人へ

靱負治部・甚十郎・左大夫・弥一郎御附衆始両番へ被下

同幕之内 御年方二人御錠口等四人へ被下之、次藏へも被下

御年方二人御錠口等四人へ被下之、次藏へも被下

一 七半時過表二而御そば被召上之、相濟御締切御膳被召上候

一 田川差上之小花大御締切相成、御同座御覽被遊候、暫表二相成又御へ切

一 御夜詰四時前引、宗伯被為召候

(一四九)

七月二日 陰冷 時々霧 八時頃地震少々

一 御目覚六半時過、御拭御仕廻御撫付 診 適齊 主一

一 御忌月二付御備物在之、金兵衛御代拝相勤申候

一 愈御快然御復常被遊不順氣故尚御養生被為在候様御菓前法調上之

金五拾匹 御口立 源次へ

右者去々月藤三郎と応対之上同人御国表へ罷越留守中相對と八乍申老人立

詰二而相勤、困窮之義故為御酒代本文之通一昨晦日藤三郎着二付被下取計

一 御料理人野村久右衛門義不快二付引込且不輕病体無間も出勤之程も難計

二 付御側御用人江も物語之上久能佐太郎御雇被仰付候事

一 九時過天奥へ被為入御同座御膳被召上候 一 今日御櫛口つと差上候事

一 去月廿四日立飛脚今日到着、御国表御静謐恐悦之事

一 勝沢一順方詩稿差出ス、先便も同断、孫大夫・源之丞義痛所二付白山湯治仕度旨

依之金兵衛方相廻り御内意伺書を以相伺、思召等被為在候事、但御小姓故御内意伺之例有

則近便兩人へ相達候筈之事

一殿様方御到来御菓子折むつの花御前様へ御愛相ニ被進之

一万貞義明日当番ニ付為伺御機嫌罷出、被為召拜診被仰付候

一七半時過大奥ニ而御膳被召上候 一鞞負罷出如例、金兵衛相願退出仕候事

一五時頃方御締切相成候

一御夜詰四半時過引

七月三日 陰 小雨 小暑

一御目覚六半時、御手水御洗足御下洗御仕廻御平生 診 宗甫・主一

一愈御快復被遊恐悦、不順氣ニ付先御床ハ其儘御葉も御養生之為ニ前法調上之

(二五〇)

御二所様方 七寸重二 御にべ 御蒸くハし 鉢盛 硯ふた物

清心君江

中将様方 岐阜桃灯 七ツ

清心君へ

伊予守様へ 七寸重二 御にしめ 御むし菓子

右者暑中ニ付御機嫌被為聞老女罷出候折柄被進之、但常邸取計也

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

短冊挟一黒柿 上り 真乘院

一為伺御機嫌弥一郎・小六罷出、被為召御茶御菓子被下置候、御出殿在之不快引等も在ニ付兩人計罷出候也

一御家老中御用帖持参出勤在之、御茶御菓子被下置之

殿様方 御酢一桶 大奥御取林し相成筈相止

右ハ今日溜池様へ被為入折柄御到来合ニ付被進之

金三百疋 松井左膳へ

右者靈岸之図全唐紙ニ御間内御障子腰鶴鳩認被仰付、其外每度

縮画等認被仰付、依之被下置金兵衛方相達ス

一七半時過大奥へ被為入御膳如例

一六時過市村乙助罷出御逢在之、御用状差上置、今日左内御呼出之始末

申上候由、御調筋平穩ニ而吉之由、引続甚十郎も罷出候

清心院様方 上雁皮紙団扇五 砂糖漬一箱

右者今日老女罷出帰り候折柄被進之

一御到来之御酢左膳初当番へ御前ニ而頂戴被仰付、畢而五半時過御へ切

御前様へ右団扇二本被進之、右御酢御年寄御錠口へも被下相成候事

一御夜詰四半時前引

(二五一)

七月四日 小雨 冷

一御目覚六半時

診 主一

一殿様五時御供揃太田侯間部侯御逢対御勤、昨朝大老御逢対も在之

一 今朝御中剃御櫛差上之、御養生御菓者前法調上之
一 御容体愈御全快被遊候ニ付今夕方者主一義夕伺不罷出旨申達ス

蓮性院様へ 杉重ニ重組末記

右者過日被進物在之候故幸之御到来合ニ付大奥方御伝へを以被進之

杉重ニ重組紐付 干菓生菓子 永平寺

右者為御見舞内献之、韃負方被差出之

砂糖漬一折 稻垣治部へ

右者先日真鍮龜付小急須被差上外ニ折々差上物少々ツ、在之ニ付被下置候

一 御臨書被遊候、九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 九半時頃久々ニ而御湯被為召候、御好ニ付御風呂也 御神拝被遊御床御取扱也

一 十兵衛義被為召ニ付罷出御逢、暫御人扱相成、畢而御茶菓被下之

一 為伺御機嫌宇都宮勘解由・稻葉左司馬被罷出、御逢御茶菓被下之

一 韃負罷出如例 一 為伺御機嫌罷出市村乙助御逢在之

一 鎌落前大奥へ被為入御膳被召上候、六半時過方御締切相成

一 御夜詰四半時前引、但今晚方表御へ切御寝始ル大奥御故障ニ付

七月五日 陰涼 小雨

一 御目覚六半時 診 適齊

一 五時過御神仏前御拝被遊候、御庭御順拝も今朝方始ル、雨天ニ付止

一 主一罷出拝診仕候所御平常、不時候ニ付御菓へ御養生ニ前法加減調上之

(二五二)

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一 今朝御臨書被遊候

一 為伺御機嫌次郎右衛門・太郎大夫罷出被為召御嘶被遊候、御茶菓子被下之

一 御前様方御酒少々御酢枝豆一盛ツ、詰合一統へ被下置之

一 為伺御機嫌金兵衛・五郎大夫始常邸へ罷出候

銀糸石硯 一箱

多葉粉 一筐 献上 熊藩 横井平四郎

鯛 三把

御前様へ 東肥織 一反

殿様 素麩 一箱

唐筆 五握

砂糖漬棗 二瓶 箱入 献上 小曾根六郎乾堂也

右者榊原幸八持参致候由、御側御用人方被差出候

一 韃負罷出如例 一 六半時過方表御へ切相成申候

御筆

全唐紙七絶一枚 蘇子口詩 願ニ付頂戴 川村藤一郎

一 御夜詰四時前引

七月六日 小雨 陰 霧漸々晴光

一 御目覚六半時 診 宗甫

一 五時過両御拜、夫方御庭諸社御拝被遊、相濟御臨書如例

御趣意二付

御料り方

御国表へ罷帰候様被仰付

野村久右衛門

右者春来方之病氣、別而近來ハ甚衰弱虚脱ニ付連モ此表ニ而養生方之見詰更ニ無之旨主一モ申聞ル、然ル処当秋ハ孰レ罷帰筈、其跡ハ久能佐太郎江被仰付内調ニ在之候事故只今御帰シ相成候而も佐太郎□□候得ハ御差支無之ニ付罷帰養生仕度旨願出候様内々申諭候得共当人義ハ輕易之事ニ心得

(二五三)

是亦相願候而私ニ罷帰候義ハ一切望無之強情之趣、乍去罷帰候様被仰付候得ハ難有罷帰り候旨申張候趣、不惠ラ心底不便之訳合ニ而御側御用人へ申達候上御評議御慈評ニ而本文之通御奉行申渡ス、但病氣ニ付道中介抱人被下候

全唐紙七絶一枚 御自作牡丹ノ御作 稻垣治部へ

右者当御時節故御内々思召を以被下置之 御取替頂戴、是ハ岩次郎へ頂戴

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一清心君へ数寄屋縮一反御引移ニ付被進之

御二所様江 籠之内交着 大なる一 小なる一 大こち一

殿様方

右者御到來ニ付被進之 但表へ小なる大こち出る

一八半時過為伺御機嫌榊原幸八罷出、被為召御茶御菓子被下置之、着後始而也

右小臈一尾 思召を以頂戴之 榊原幸八

同大こち一尾 御内々被下ニ取計候 長谷部協

一今朝主一罷出拝診被仰付、御異状無御座御菓ハ矢張前法差上之

一七時前方御々切御前様御一所ニ御庭廻御釣在之、大奥へ唐茄子塩煮被下之表へも当番へ被下置之 一三郎助義中暑之気味ニ而御用捨退出致候

一鎌落過被為入御懸り湯 大奥御膳如例、韌負罷出如例、金兵衛相願退出仕候

一五時前方御締切相成 一今朝実家病人大病之旨申来直ニ退去被仰付候

一大奥御寝御入、御夜詰四半時引

七月七日 晴 南風

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神前御靈前御拝、御定式御手備在之、相濟御庭御順拝如例

一御前様へ当日御祝義申上御広式御用人迄金兵衛義罷出候

一殿様六半時御供揃御登城、御退出懸四半時頃被為入、直御対顔被遊

(二五四)

御熨斗御茶御菓子月雪花差上之、大奥へ御対顔被為入如例、大奥方も御菓子被進之、今日者大奥へ中君被為入御三方様御同座、暑中并七夕御目録御取替七御式在之、殿様御帰坐縮半御上下御召替被遊候、相濟申上二而中君

四百日懸通シ

御帰坐舶来御時計二柄蘭画数枚御持七相成被入御覽候、畢而如例

中君大奥御膳中殿様御小弁当被召上候、御精進二候得共今日者態と御腥二かつを付御汁御中皿物被進之、相濟御供御先番被為召御漸被遊候、八時

頃白玉団子差上之、始終韋負・十兵衛罷出居御供之面々へ砂糖水被下二取計、御退散八時二寸五歩頃、当番適齊御幾兼伺罷出ル

御二所様江 箱入枝豆 奥表半分ツ、当番被下二相成申候
殿様方

右者今日御入二付御側御慰として被進之

一八半時過方御庭へ被為入御釣御慰被遊候、七半時過御帰坐御懸り湯如例御引続き大奥へ被為入御膳被召上候、但韋負適齊御相伴、御釣之節

一六半時頃方御締切御同座ニ而於御庭御錠口差上候火花表ニ而御あげ

□勢御見物被遊候、大奥方道明寺水一統へ被下置之候

一今日御殺生并御次殺生之いな韋負七ツ跡廿計当番へ被下候、節句二付旁御酒壺升被下二取計申候

金壺両也 拝借

御膳番へ

右者野村久右衛門義病氣ニ付明八日御国表へ出立、然ル処極窮家ニ而甚

難義之趣、殊ニ不輕病症長之道中雜費も過分、於御膳番も見兼候

為体殊更昨冬已来ハ格別出精相勤別而不便之次第二付御膳番方

絶而歎願、無拋訳合已後之類様ニ不拘本文之通拝借相願御側御用人

へも申談之上拝借被仰付、久能左右衛門へ相渡上納者差凶次第と申聞ル

(二五五)

佐右衛門方久右衛門へ相渡候所落涙大悦之事之由

一御夜詰四時前引 一今日方主二御休業申上候

七月八日 雨 漸晴

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過御神靈前御拜被遊候、御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一為伺御機嫌方貞・長作・辰蔵・治右衛門罷出、被為召御逢於御前御茶菓被下候

一七時過方御庭御拜被遊候、御懸り湯如例、七半時過大奥御膳如例

一幾太郎義今朝方頭痛発熱難義ニ付御用捨相願退出致候事

一夜二入韋負罷出如例、五時過方御締切相成申候

一御夜詰四半時前引

七月九日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御拜、且御庭御順拜被遊候、御手習如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、八時過方恕介罷出如例

一七時前方御庭へ被為御垂綸被遊、御得物少々在之を治部へ頂戴之

玉子十七 一重 紫生姜三把上り 御乳はる

陶器砂鉢 石菖二石あしらい差上之 稻垣治部

一鎌落前御行水被為召候、韋負罷出如例、六時前大奥御膳如例

一五時過表御締切相成申候

初音香□焚 花橘茶一箱六ツワリ 中根韋負

右ハ故平学義来月十一日一周忌相成飛脚都合も在之今便相廻可申旨

(二五六)

二而別段之思召を以被下置之候、金兵衛方相達ス

一御夜詰四時過引

七月十日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過兩御拜、夫方御庭御順拜被遊候、御臨書如例

一常邸へ為伺御機嫌罷出、金兵衛始藤一郎方五人也、勝手ニ付朝之内罷出飛脚立

一九時過大奥へ被為入御膳如例 一八時過方恕介罷出如例

一今晚道中常振飛脚出立、但兩人入湯御内意伺済申越ス

一七時前方御庭御閑歩、松山ニ而御休被遊御茶被召上候、七半時過御帟坐御懸り湯

相済大奥御膳如例 一金兵衛相願退出致候事

一五時頃方表御締切相成

一御夜詰四時前引

七月十一日 晴

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過兩御拜、夫方御庭諸社御拜被遊、相済御臨書在之

一四時頃方恕介罷出如例 一今朝岩吉義霍乱之気味ニ付御用捨退出

一今日方御書物方御虫干於学問所始之、平八郎初三人罷越ス

一御小道具御虫干過日方相始候所気候不宜ニ付十日計休居又始、一昨日迄ニ相済

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一為伺御機嫌御供頭兩人罷出御逢無之

一八半時過方御庭へ被為入御垂綸被遊、七半時過被為入御懸り湯相済鞞負

罷出如例、鎌落頃大奥御膳如例、五時過方御締切相成

一大奥御寝、御夜詰四半時前引

(二五七)

七月十二日 晴 四時前方夕立雨 夜中迄折々大雨

一御目覚六半時表へ被為入

診 宗甫

一五時過兩御拜、夫方御庭御順拜例之通、御臨書如例

金七百疋ヲ御出方御内用廻り 御用部屋惣中へ

右者去暮極り之通当盆何角心配御用多ニ付被下之

一松栄院様御忌日之義一昨年方前夜御当日共表御寝之所今日

思召を以以来八十日ハ大奥御寝無御構、九日ハ矢張是迄之通表御寝被遊候旨

御精進ハ九日御三度方十日御三度迄被遊旨、御三年も相立候ニ付被仰出奥番心得候事

一盆中御精進是迄之通十三日御三度方十五日御三度迄被遊候事

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一八時過鞞負罷出如例、恕介罷出寛々御斬申上候

一鎌落前御懸り湯、相済大奥へ被為入御膳如例

一五時過方御締切相成 一主一義当番中より近江為診察被差越候
一表御締切御寝、御夜詰四半時前引

七月十三日 朝来凉 漸々晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過両御拝被遊候

清心君江 刺鯖一

右者先日御国廻之御事故被進之、青松子へも三刺哥島方御伝へ被進候

白鳥子紙 百枚二十五匁 千本弥三郎方差出ス 平田内蔵介

右ハ韃負毎々国学書籍借受差出候ニ付同人方相伝へ被下取計フ

中将様御膳所当分振退勤被仰付 御料り方 久能佐太郎

(二五八)

右者御側御用人へ申達同人方御用人へ通達、同人申渡ス

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一八時過韃負罷出如例

一今日方十七日迄恕介不罷出子共手習休之事

一為伺御機嫌弥一郎・十三郎・清十郎・紀之允・小六罷出、御目見被仰付御菓子被下候

一八半時過方御釣二被為入御奉少々在之、御次共十五当番へ被下候

一御懸り湯相濟表ニ而御そば被召上候、夫方大奥へ被為入御膳如例

一五時過表御締切相成

一御夜詰四時過引

七月十四日 晴 清暑

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過両御拜、夫方御庭諸社御拜、相濟御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一為伺御機嫌御家老中并宇都宮勘解由御留守居三人罷出、被為召寛々

御嗽被遊候、御茶御菓子棗砂糖漬被下置之

振出壺入棗砂糖漬 思召を以甚十郎御伝へ被下之 橋本左内へ

一御肴屋見張屋鉄三郎義先日二割増ニ可相当御酒代被下候様相極り候所不相替

御用便御差支在之ニ付御広式御用人御膳番共申談之上花屋 へ御肴

御用被仰付候、惣て御用部屋懸合也

一鎌落過御行水被遊候、引統大奥御膳如例、韃負罷出如例

一五時過御へ切相成 一金兵衛相願退出致候事

一御夜詰四半時過引

七月十五日 晴

(二五九)

一御目覚六半時

一五時過方両御拜、夫方御庭御拜例之通、平月十五日御手備之通り違無之

一金兵衛義中元二付出勤方上下着昼時迄御広式御用人迄御祝義申上候

一九時過大奥へ被為入御膳如例

A014300511 御側向頭取御用日記

一 御側向平八郎初両親有之面々且養実共父在之面々江御有合之鯛一枚宛
 思召を以被下置之、怨介罷出候節同断被下候、幾太郎・犀次郎へ御下御菓子被下候
 一 殿様九半時御供揃二而中元活身魂之御祝儀二付八時前被為入、直二御対
 顔御祝儀被仰上、御茶御菓子菊衣差上之、大奥御支度宜段申上御一所二
 大奥へ被為入御対面、御三方様御同座御目録御取替七在之畢而御帰坐
 殿様島縮御袴と御召替差上之、五郎大夫始非番之面々御機嫌伺罷出、御
 医師三人部や迄罷出候、引続御供御先番之面々被為召御逢被遊候、大奥方葛饅頭
 被進之末記被進物差出ス、御庭御支度宜申上二而喜十郎御先立御供之面々十兵衛
 初随従、殿様調練場際御池二而御垂綸二被為入、御釣道具岡持等相廻置
 尤御敷物同断、御跡方御刀掛御火鉢金米とう御茶道具榎火鉢鉄瓶等追々相廻ス
 御拳いな七ツびく共御二所様御へ御祝義被進之、追々御御次共凡二百有余も
 御得物在之、八半時前御二所様御一所二御締切二而適齊鞞負治部被為召御供
 被仰付候、松山下御池二而御垂綸被遊、御二所様少々ツ、御拳在之、七時過殿様
 御へ切中へ御釣道具御持參被為入御一所二御釣被遊、同刻過方松山南下ノ方御
 涼台三御敷物敷置此所二而御三所様御切飯御に提箱御酒具入御取林
 在之、鞞負治部御酒御切飯桃梨子等頂戴、十兵衛・金兵衛被為召同様頂戴、適齊
 も同断、桃梨子御投物在之女中子共何茂頂戴之、御供揃被仰出金兵衛
 相下り申遣ス、無程御帰座鎌落過表二相成、殿様御召替御継上下指上候、

(一六〇)

御供揃申上御開相成、刻六時前

一新さつまいも大奥御側へ被下候、御供御先番十兵衛始御附当番へも被下置之
 一 御前様方御供御先番并当番之面々金兵衛始へ冷しそふめん被下置候
 一 御前様御殺生物直様大名小路へ被進大奥廻り、殿様御拳五十びく入溜池様へ被進
 十兵衛方相廻候事、但御膳所方取人兩人取置七候事

一 殿様方 紅毛無尽灯一箱 先日御印章被進之御答礼被進之

一 御同所様へ 御扇子五本 守口画 岐阜挑灯三ツ 御有合二而被進之

一 御二所様江 御籠入御小肴半分ツ、 召上り跡甚十郎へ被下之

一 梨子一台 同 左膳始両番へ被下之

右者今日之御祝義且御入二付御側御慰として被進之

一 殿様江 西瓜五ツ 御側御慰として被進之

一 六時頃御懸り湯被遊、夫方大奥へ被為入御膳被召上候

一 五時過方表御締切

一 殿様御次殺生えいな五十斗此方へ相残治部適齊へ七ツツ、被下、大奥へも廿計被下候
 犀次郎・亥之助・熊吉へ七ツ程ツ、被下候、中君御拳いな七ツ鞞負被下置候

一 中君御得物いな十斗干物相成追而青松子へ被遣之筈

一 御締切御寝、御夜詰四半時前引

七月十六日 晴 午後方陰 雷雨

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過両御拜夫方御庭御順拜被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候
一 六大夫義実父病氣ニ付去ル六日方不快引込居候所今朝病死達在之忌中引

(二六一)

籠申候、左膳迄相達申上ニ相成

松平静寿斎様方 温飩粉一箱 川越産

右者御機嫌被為聞被進旨ニテ常邸へ御側御使者を以被進相廻申候

一 常邸方御機嫌為御伺平大夫被差越候ニ付御逢在之、西瓜御前ニ而頂戴被仰付候、但常邸江当第方大分雷鳴強候趣也

西瓜一ツ上り

御錠口三人

一 右西瓜御前ニ而当番被為召頂戴被仰付候、治部適齊罷出同断

一 七半時前御懸り湯被遊候、同断過表ニ而御そば被召上候、相濟大奥御膳如例

五時過方御そば切相成、韃負罷出如例

酒 二升

残酒両役所小遣共部屋小遣御警立へも少々ツ、遣ス

玉子 そば 二ツ宛

金兵衛始当番御医師

両番へ盆ニ付部屋頂戴

酒 壹升

手伝台子不ね坊ハ式ツツ、被下候

そば 三ツツ、

右者盆ニ付被下取計、且亦今日韃負中郷御屋敷へ殺生ニ罷越、幸ニ大ぼら一小鯉一

差出候ニ付御膳所ニ而煮付ニ致頂戴取計、小鯉者部屋ニ而酢漬ニ相成頂戴也

御二所様方

九こん 三升

常邸ニテ取斗

清心院様江

幕之内廿五箱

右者明後十八日丸山御屋敷へ御引移ニ付御先移女中共へ被下ニもと被進之

一 御夜詰四半時過引

七月十七日 晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時過御神仏前御拝、夫方御庭御拝被遊候

一 御泡剤御調合ニ方貞罷出ニ付被為召暫御嘶被遊候、棗御茶被下置之

一 御臨書被遊如例、恕介罷出如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、七時過方韃負罷出如例

(二六二)

一 七半時過御懸り湯、相濟大奥へ被為入御膳被召上候

一 表御締切五時過方

一 表御締切御寝、御夜詰四半時引

七月十八日 涼且陰天 漸々晴

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五時過兩御拝被遊、夫方御庭御拝被遊候、御臨書被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 去ル七日立飛脚三日逗留今日到着、御国表御静謐恐悦之事

一 高村岩次郎義留守母事兼々病氣之所次第衰弱疲労相加飯糗共甚
腹用収り兼弥以危篤難洪之趣留守方申来、依之帰省奉願上候所即刻
願之通被仰付候二付八半時頃出立、東海道通例之通御貸人老人被下候、臨時之
思召にて金米糖振出箱六角五郎大夫方被下置候事

但中将様へ御内意治部方奉伺候所思召不被為在候、藤一郎願書御用人月

番へ持参御用人方御家老中へ被差出即刻願之通被仰付候

一 金二拾両 用意拝借罷帰上納之筈着日上納 高村岩次郎

一 為伺御機嫌十兵衛・平大夫・剛右衛門・長作・辰蔵・石五郎・治右衛門罷出 被為召
御漸被遊御茶御菓子於御前被下之、元珉も同断

一 御用帖入御覽御目付罷出候、引統鞞負罷出如例

一 岩次郎急出立二付喜十郎助之義奉伺候所不及其義旨、誠二金兵衛二而も
相心得殿様被為入候節等ハ非番方廻り助相勤候事

一 七半時過御懸り湯被遊、夫方大奥御膳如例、五時過方御締切相成

一 御夜詰四半時前引

七月十九日 晴

(一六三)

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過御神靈前御拜、夫方御庭諸社御拜被遊候、御臨書如例

一 近江義長々不快二付御飯御焼付ます五小重入二而思召を以被下置、治部方相廻ス

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 八時頃御家老中昨日飛脚着二付被罷出候趣也

一 八半時過恕介罷出如例、七半時過鞞負罷出如例、鎌落前方暫時御垂

綸被為入、六時過御帰坐御行水被遊候、表二而御蕎麦被召上、相濟大奥

被為入御膳如例 一金兵衛相願退去致候事

一 五時過方御締切相成候

一 表御へ切御寝、御夜詰四時過引

七月廿日 晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時過御神靈前御拜、夫方御庭御順拜被遊候

川越温飴 一箱

森六大夫へ

金貳百疋 御右筆部屋出方

同人江

右者過日実父病死二付表向被下、且又御手元方御内々思召を以被下置候

二付金兵衛方手紙添相廻申候

中将様方 御料紙御硯箱 紫檀木地富士越竜時絵

清心院様へ

殿様方 二幅対 岩牡丹 探信筆

御同所様江

但中君方別段の思召を以数寄屋縮一反被進之

右者去ル十八日丸山御屋敷へ御普請御出来二付御引移被為在候折柄

(二六四)

被進之

御当□被進

御二所様方

御重一組 御肴一 御にしめ二 青赤包餅一 こし高万寿一

清心院様へ

同

御式所様方

鉢盛焼あじ なす 生か 花井始一統へ

御二所様方

交御肴一折ヲ 追而御使之節被進候由

清心院様へ

右者御引移之節被進被下相成、右孰も常第仕出

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一 恕介罷出八大家講読如例

一 常第へ為伺御機嫌金兵衛・喜十郎始罷出候、藤一郎・十太夫義御□二付引

一 七時過方御池へ被為入御垂輪被遊、鎌落頃御帰坐御懸り湯被遊候、引

続大奥へ被為入御膳被召上候、鞆負罷出如例

一 五半時方御締切相成

一 御夜詰引四半時過

七月廿一日 晴

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五時過御神前御晝前御拜、夫方御庭御拝例之通、恕介罷出如例

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 九半時揃御養生御灸治御締切二而被遊、御医師三人罷出候、八時過

相濟、御微も宜く御障不被為在旨申達、小君も被為入表二相成岩吉

金三郎・次藏御相伴被仰付、岩吉御手居被遊、熊吉義少々熱氣在之御相伴

無之候、御紙墨一被下之、御二所様へ菊衣差上之

御前様方 車海老廿 鉢盛切すし 奥表半分ツ、

右者例之通思召もの御側御慰として被進之、例之通金兵衛始両番へ被下

(二六五)

一 為伺御機嫌次郎右衛門・太郎大夫罷出御逢無之候

一 八半時過御庭へ被為入御垂釣在之、七半時過御帰坐御懸り湯大奥御膳如例

一 鞆負罷出如例 一金兵衛義中暑之気味二付御用捨相願退出致候事

一 五半時頃方表御締切被仰出候

一 御夜詰四時過引

七月廿二日 陰鬱 無風 蒸熱

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過両御拜御庭御順拝も被遊候、御手習被遊候

一 九時過大奥御膳被召上候、八時過恕介罷出如例 一金兵衛今日方引込申候

一 七半時過御懸り湯、夫方大奥へ被為入御膳如例、鞆負罷出如例

一 五時過御締切相成申候 一 思召を以粕たい御下夕被下之、金兵衛へ

一 大奥御寝、御夜詰四時過引

七月廿三日 晴 炎暑 明六時前輕震

一 御目覚六半時表へ被為入 診 適齋

一 五時過兩御拜被遊候、御臨書如例、四時過方恕介罷出如例

一 九時過大奥御膳如例

一 為伺御機嫌弥一郎・弥六・十三郎・喜三太・重太郎・清十郎・紀之允罷出、御逢被遊

御菓子被下之 一 思召を以此頃方不快ニ付御肴御下被下候 甚十郎へ

一 七時前方御庭へ被為入御垂綸被遊、諸社御拜も被遊候、鞞負罷出如例

一 七半時過御懸り湯被遊大奥御膳如例、五時過方表御へ切相成

一 表御へ切御寝、御夜詰四半時引

七月廿四日 晴 七時前通雨 晚來時々雨

(二六六)

一 御目覚六半時 診 宗甫

一 五時過兩御拜御庭諸社御拜被遊候、御臨書如例

一 中暑快ニ付金兵衛義今日方出勤仕候

一 九時過大奥御膳如例

一 為伺御機嫌罷出方貞御前ニ而御泡劑調上被仰付相濟御茶菓被下之

一 土屋小六義此頃方追々大病相成ニ付御内々思召を以御在合益寿糖一袋被下之

藤一郎常邸へ御虫干ニ付罷出候節相伝へ被下置候事

一 主一義当番之処小六追々衰弱相加不輕様体ニ付一診相頼度旨市村乙助方

金兵衛迄主一当番中暫御用捨之義相願度旨申越ニ付相伺候所願之通被仰付候

故助番を取早々主一為差越候事

一 為伺御機嫌御家老中被罷出御逢被遊候、御茶菓子被下之

一 為伺御機嫌榊原幸八罷出、御逢被遊御茶菓被下之、左司馬罷出同様

七右衛門相勝レ不申由、乙助義小六大病ニ付御用捨相願不罷出候事

一 七半時過御行水被為召候、相濟大奥へ被為入御膳被召上候

一 鞞負罷出如例 一 五時過方表御へ切相成候

一 大奥御寝御入、御夜詰四時過引

七月廿五日 風雨四時前方暴東風雨、七時前方弱薄暮方南風雨、五時頃地震

夜中風雨強

診 主一

一 御目覚六半時

一 五時過御神前御靈前御拜被遊候、恕介罷出如例

一 九時過大奥御膳如例 一 九半時頃鞞負罷出湖月抄誦之

一 為伺御機嫌次郎右衛門・太郎大夫罷出、御逢寛々御咄被遊御茶菓被下之

一 八半時頃方追々風静之趣ニ付常邸へ為伺御機嫌金兵衛・五郎大夫初罷出御酒

鯛被下之候

(二六七)

一 七半時過御懸り湯被遊、大奥御膳如例

一五時前地震ニ付為伺御機嫌治部御医師三人御側向非番之面々怒介
左大夫・又兵衛・甚十郎等罷出候 一五半時前方御へ切相成
一表御締切御寝、御夜詰引四半時過

七月廿六日 夜中風雨強 朝天方快晴風

一御目覺六半時 診 適齋

一五時過御神靈前御拝被遊、御臨書如例
一昨日丸山御屋敷へ老女御使相勤御膳納為御所替ニ付御内々清君御伝へにて
伊与守様へ籠之内交御肴被進之、常邸取斗也

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

清心院様方 鉢盛御仕立肴御三度上り相成、御下金兵衛初被下

右者御引移後御機嫌被為聞被進之

一八時過恕介罷出如例、七半時過御懸り湯被遊、夫方大奥御膳如例

一市村乙助義夜来之烈風旁為伺御機嫌罷出、鳥渡御逢被遊候

一五時過方御締切相成 一御小道具御虫干両邸共今日切ニ而相濟

一御夜詰四時過引

七月廿七日 晴光

一御目覺六半時 診 宗甫

一五時前御庭御拝被遊、夫方御神前御靈前御忌月御手備御拝被遊候

但御土蔵破損所繕ニ大工入候ニ付御送ニ御拝被遊候事

梨子一台 御内々思召ニ而常邸御靈前へ今日被供相成申候

薄皮餅一折 三〇 御内々父病死ニ付被下之 御錠口 石野へ

(二六八)

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一七半時過御懸り湯大奥御膳如例

一韮負罷出如例 一五時過方御締切 一金兵衛相願退出致候事

一田川義昨夕父方伯父病死ニ付引込候所明日殿様御入ニ付御差支ニ付明日方

忌御免被成候段養寿へ申達候事

烏羽玉一折 紅白 近藤左大夫

右者到来合ニ付差上之、但御内々養寿方花井何角心配ニ付被下ニ取斗

一御夜詰四時過引

七月廿八日 晴涼

一御目覺六半時 診 主一

一五時過御神靈前御拝、夫方御庭諸社御拝被遊候

一今日御前様御誕生日ニ付為御祝義左之通被進之候

数御長匏 御汁粉餅紅白 御小皿 平かつを一 御腰高 沢庵大こん

御さと一

御吸物 さゝめき五 塗御盆 松立御取肴 鉄御爛鍋

一生御魂御祝義ニ付殿様方御式所様へ左之通被進之、竹印方大奥へ御酒肴

被下在之、先例之由

数御長匏 御繪 御汁 一 御平五品一 御焼物三

御香の物 御めし

御吸物 御中皿 小串□ 塗御盃 御爛鍋 松立御取肴 御干菓子

御二所様 鉢盛 煎し芋 枝豆 奥表半分ツ、

殿様方

右ハ御入ニ付御側御慰として被進之、但靱負・治部・十兵衛・金兵衛始当番被下、台子へも

少々被下

一殿様五時御供揃ニ而御登城、御宝塔御供養ニ付御老中被謁候、御退

出懸御生身魂御祝義ニ付御二所様へ御膳為御上被為入、九半時懸り直ニ

御対顔御菓子差上 小くらかん 大奥御支度宜段申上ニ而御二所様御一所ニ

亀甲万寿

(二六九)

被為入御対面、相濟御誕生日御祝義ニ付御交肴御目六御取替セ在之、引継

御膳御上御挨拶ニ御交肴御目六被進之、畢而御三所様御同座前記御祝

物、相濟御二所様御同座御本膳并二三与御直ニ被進御挨拶被遊、表江

暫被為入、御替り付申上ニ而再殿様被為入御付替等被遊、又御挨拶済ニ而御

帰坐直ニ御膳御酒被進、一汁一菜御焼物付 御祝御ノシ 此分常邸方相廻ニ付

御酒御吸物

差上之、間違之由、御酒御勸メ申上御膳、相濟御嗽差上之、御袴ニ御召替被遊

大奥へ申込中将様御帰坐、大奥方御菓子被進御蓋物入砂糖漬棗被進之

御供御先番之面々伺御機嫌罷出候旗共御目見被仰付、部屋ニて薄皮もち

被下之、靱負・十兵衛罷出居八時過方御同道御庭廻り松山御遠望、夫方御茶

園御池ニ而御垂簾被遊候、御得物少々在之七時過松山下御池縁通方御

帰座、冷シ素めん御替り付差上之、御供揃遣ス、御開七半時一寸廻り

一為伺御機嫌万貞罷出候、常邸方主一罷帰候上当番適齊哥島不快ニ付

万貞願ニ付被差遣候、先刻思召を以主一義も被差遣候

一七半時過方表御へ締切御同道御庭廻り被遊候、六時前御帰坐御懸り湯被遊

夫方大奥へ被為入御膳如例 一五時過方表御締切相成

一常邸方今日被進之御膳御献立前以前御膳番方相伺候廉を十兵衛方相廻奉

伺候上返答申遣ス、菱印へ被進御献立ハ昨朝又兵衛江相達入御覽候

但今日之御二方様江被進之義ハ已後年々御定日相成可申哉

一御夜詰四半時一寸前引 一当番五郎大夫老人ニ付十大夫罷揃助相勤

七月廿九日 晴

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過両御拜、夫方御庭御拜被遊候、御臨書如例

(二七〇)

かたくり粉紙包 二合

哥島江

和三盆白 一曲

右者此頃方不快之所不輕容体ニ付思召を以被下、田川方相伝へ申候
一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一 八時過方恕介罷出如例
一 今晚道中常振飛脚出立

一 七半時過暫御庭御徜徉被遊、御帰坐御湯被為召候、夫方大奥御膳如例
一 哥島義不容易様体ニ付常邸ニ而者不便利之訳合も在之且又乍恐
御案思も被遊候御義故旁田川義常邸へ罷越居哥島義ハ薄暮頃部屋へ
引移候所先々途中無申分其後も平ラ之趣、当人兼而方存之義ニ而万貞
執匙之処主一へ転葉ニ相成申候

一 五時過方御々切

一 御夜詰四半時前引

八月朔日 晴

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五時前御庭御拝、相濟夫方御靈前御拝、御忌月御備且御神前常式
御備御拝被遊候

一 今日御登城者被為在候得共一昨日御入之事故御断被仰進候ニ付御入ハ無之候

一 九時過大奥へ被為入御膳如例 一 伺御機嫌罷出御供頭二人御逢無之候

一 七半時過御懸り湯被遊、夫方大奥御膳如例、靱負罷出如例

一 今朝万貞哥島診察ニ罷出ニ付被為召容体御聴被遊候

一 五時過方御締切 一 御前様方詰合へ御すし被下置候事

一 御夜詰四半時引

八月二日 少々陰

(二七一)

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時前御庭御拝被遊、夫方御神靈前御拝被遊候

六寸重ニ 御余多仕立 煮染 哥島方へ

右者不快御尋被遣被下之、一昨日御札守百疋御猩付百疋ニ而被下候由大奥取扱

一 四時過恕介罷出如例 一 九時過大奥へ被為入御同座御膳如例

殿様方 六寸重ニ 御菓子 生干

右者哥島義不快ニ付一昨日当邸へ引越候折柄御見廻被仰進、御機嫌

被為聞多川罷出ニ付御直書添被進之、御移リニ鰻蒲焼一芳野川一御返

書添被進之

一 哥島願出候ニ付熊膽カシ被下、藤井大病ニ付願出候ニ付麝香□□シ被下ニ取斗

一 七時過方御庭御閑歩被遊候、鎌落前御帰坐御懸り湯、靱負罷出如例

御法

鎧ノ袖 御葉 大奥へ七貼

表へ十三貼 思召を以時候柄故被下之

白砂糖 二斤

仙台糯 五袋

右者大奥兩人へ大病ニ付女中末々迄骨折之事故被下取斗

一 今晚方昨年之例ニ依尤御容体ハ不被為在候得共少コロリ病流行之趣故
為御予防日々三帖差上之、今日者御一貼也、但加減健胃劑

一金兵衛義相願退出致候事 一五時過方御締切

白銀三枚

藤井江

内実成ノ下刻病死

右者極々大病ニ付多川方願出御幼年様方相勤田安様方之御附ニ而

年来出精相勤候事故別格之口を以思面召而病中御尋被下之

一 御夜詰四半時二寸五歩引

一 今晚大奥御寢之所俄ニ藤井一条ニ付表御寢相成、当分御人少ニ付御々切御寢御用捨

(一七二)

八月三日 陰 蒸暑 無風

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時前御庭御拝、夫方御神靈前御拝被遊候、御臨書如例

梅が枝でんふ 一曲ツ、 三百文ツ、 真杉所左衛門 草尾精一郎

河村三左衛門

右者今日韃負横浜表へ罷越候折から御内々被下之ニ韃負取計

一 九時過大奥へ被為入御膳如例

一 御錠口辰野父病死、忌中宿下り未七日内之所藤井一条ニ付無御扱御人少御差文ニ付
今日方忌御免被成罷帰相勤候事

一 為伺御機嫌弥一郎・万貞・仙庵・長作・辰蔵・治右衛門罷出御目見被仰付、御

茶菓子被下置之 一 今朝殿様間部候御逢対御勤、過日大老へも同様也

一 七時過方御庭御尙佯被遊、鎌落頃御帰座御懸り湯大奥御膳如例

一 五時前方御締切

一 大奥御寢御入、御夜詰四時引

八月四日 晴

診 宗甫

一 御目覚六半時

一 五時過御庭御拝、相濟御神靈前御拝被遊候

一 近来吐瀉病流行之趣ニ付龜井戸天神々職大橋内記へ御右筆部屋方
被仰付昨夕常邸御座之間を初詰所部屋々々迄悪邪祓在之、当邸表奥

共段々遅刻相成ニ付今朝ニ延引、御玄冠ニ而夫々備物在之御祈禱執

行、相濟候段堀太喜右衛門申達ス、御座之間御道具類並在之所へハ御障子屏

風建之御床之上塗三方 御神酒一对 同土師器盛 小鏡餅焼塩御幣餅之、厄邪

桃七ツ

にらみ小たい

除祈誓執行在之、奥番山野十太夫・堀太喜右衛門御入側出席上下着 御神酒

(一七三)

桃御載被遊候、御幣毎朝御拝被遊筈、御祈禱中暫大奥御対面所へ

御移被遊候、表ニ相成御帰座、四時過詰所向部屋ニ迄鳥渡、栞在之、大奥向も同様也

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一 八半時頃為伺御機嫌御家老中并御目付罷出御逢、御茶御菓子被下之
 一 七半時前々御庭廻り暫御垂垂被遊候、御帰座御行水相濟鎌落頃
 大奥へ被為入御膳被召上候、六時過方表御締切大奥一統へ御酒被下置之、
 引続五時過方治部初金兵衛・藤市郎外詰合之面々江御三ノ間にて御酒被下之
 一 御夜詰四半時過引

八月五日 晴 風

一 御目覚六半時 診 主一

一 五時過御庭御拝、相濟御神仏前御拝被遊、跡暫御臨書被遊候

一 御錠口藤井義昨夜亥ノ下刻病死之段表向達在之候、依之左之通被下、且又
 思召を以兩種被下置候

金百疋 故 藤井へ

安息香 一箱 同人へ

切 花

一 四時過方恕介罷出如例 一 九時過大奥御膳如例

一 去月廿六日立飛脚一日逗留今日到着、御静寧恐悦之事

一 高村岩次郎義去月十八日帰省願即日出立廿三日着、母義ハ去月十五日病死、当月朔日

御国表出立仕候旨、右二付上坂平八郎義養家母方之叔母ニ而十日忌懸り之日数相立候

二 付聞懸一日之遠慮、然ル処今日殿様被為入御人少之事故暫御小屋へ相下り無
 程御免被成、出勤当番相勤之

焼酎一瓶 御到来品 適齊父子へ被下之

(二七四)

御二所様江 六寸重一 葛万寿 御三方様召上り

殿様方 白口玉子露付 御三度召上り

御籠入煎餅 丸山軽焼 奥表半分ツ、当番被下候

中君江 大海老一 大炮一 御到来合之由 ゑひ召上り

蛸 御口立被下

右者今日御入之節被進之

一 哥島へ過日小火取ぶし被下、葛そふめん御下今日被下置之

一 殿様八時御供揃ニ而被為入八半時前御対願被遊候、無程大奥へ被為入御対面被遊

御帰座之上葛そふめん差上之、御代り付、非番之面々伺御機嫌罷出御目見

被仰付、十兵衛罷出居久敷御人扱御用之趣也、大奥方粕てら被進葛饅頭も指上ル

御用明キ平大夫・剛右衛門始伺御機嫌申上被為召、御供頭兩人同様御逢無之候

七時過御退散被遊候

一 同刻過方御庭廻り被遊候、鎌落頃御帰座御懸り湯、相濟大奥御膳如例

一 六時過方御締切相成、五時過方左膳初当番之面々へ昨夜之通御酒被下之候、適齊罷出候

一 大奥御寝、御夜詰四半時過引

八月六日 晴

一 御目覚六半時 診 適齊

一 五時過御庭御拝被遊、夫々御神靈前御拝被遊候

- 一 五半時前御家老中被罷出、御用状被入御覽候趣也
- 一 九時過大奥へ被為入御膳如例 一 恕介八時過方罷出詩作等之御話申上候
- 一 御目付御用状持參罷出、御留置御逢無之候
- 一 九半時過方土砂吹立候ニ付御手自御水まき被遊、何茂御手伝申上候、梨子少々御まき被下、御前様水遊等御透見被遊候由

御二所様方 鉢盛葛切六寸重三 白さとふ一 生くハし一 に付鮎一
御二所様方大名小路

(二七五)

- 右者折から御機嫌被為聞被進之、但召上り大奥被下相成候由
- 一 七半時前御庭廻り清水へ飯水溜伏セ候を御覽被遊候事、過刻御懸り湯在之故只今ハ不被遊候、鎌落頃大奥御膳如例 一金兵衛相願退出候事
- 一 五時過方御締切
- 一 御夜詰四時過引

八月七日 夜来涼気

一 御目覚六半時

診 宗甫

- 一 五時過兩御拜被遊、小雨故御庭御拜者無之、御臨書如例
- 一 四時過方恕介罷出如例 一 九時過大奥へ被為入御膳御同座被召上候
- 一 七時前方御庭御拜旁御尙伴被遊候、御懸り湯御流し漆氣故也
- 一 七半時過大奥へ被為入御膳如例
- 一 今夕御同道御庭廻り可被遊旨被仰出候所御用多御後レ且氣候も不審旁以御延引相成申候、御支度致候召上り御分薄かわ餅并御次被下、せんじ芋
- 二 鉢夜分六時過方御締切相成候節差上之、且被下相成申候、御沢山之趣
- 二 而大奥方表へ一鉢出候を金兵衛始詰合并手伝台子向小遣迄へ一盆御料り方
- 其他末々迄へ一盆被下ニ取計、跡又大奥へ差出ス、五半時過表ニ相成
- 一 御夜詰四時前引

八月八日 漸々晴

一 御目覚六半時

診 主一

- 一 五時過御庭御拜、相濟方御神靈前御拜被遊、御臨書如例
- 金五十疋 手伝 連 伝兵衛
- 同五拾疋ツ、 御小道具懸り 御坊主二人

(二七六)

銀拾匁ヲ 平御坊主二人へ
同五匁ヲ 御小道具方小遣二人へ
金二朱ヲ 奥御納戸方手伝始小使迄

右者御虫干骨折候ニ付例年之通御酒代被下之 但此方常邸之分被下無之

常邸方も同断、諸人用ハ半分ツ、也

銀毫匁八分七〇外二竹〇印方も同断被下 連 伝兵衛
右者御書物方御虫干骨折ニ付御酒代被下之

金一朱ヲ外ニ竹印方も同様被下 表坊主 高橋金齊
同御雇 鶴沢虎三郎

一 右者御書物方虫干骨折ニ付御酒代被下之
一 九時過大奥御膳如例

一 為伺御機嫌十兵衛・弥六・重太郎始罷出御目見被仰付、例之通煎餅被下置候
一 鞆負義横浜方今朝罷帰罷出候、七時過方御内庭水捲被遊候

御前様方竹節急須一 松二雀茶碗三 一台
蓋物一ズンギリ干くハシ入

右ハ御慰として被進之

中根鞆負

庭前之葡萄一箆差上之

一 五時過表御締切

一 御夜詰四時過引

八月九日 晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五時前御庭御拜被遊、夫方御神仏前御拜被遊候、御臨書如例

九こん 二升

富田へ

切すし 一重

九献二升 鉢盛煮肴もり合

哥島へ昨日也

右者不快御尋として被下置之

(二七七)

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一 八時過恕介罷出如例

一 七半時前御行水被為召候、御上下御爪被為取候、表ニて蕎麦被召上候

一 鎌落前大奥へ被為入御膳被召上候 一 鞆負罷出如例

一 五時過方御締切

一 御夜詰四半時前引

八月十日 晴 午後微雨

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五時過御庭御拜被遊、夫方御神仏前御拜被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候 一 八時過暫御庭へ被為入候

一 常庭へ為伺御機嫌金兵衛・五郎大夫始罷出候事

一 八半時過御家老中為伺御機嫌被罷出御逢御すし被下候、御移りニ而罷出

一 八時過鞆負罷出如例

一 七時過方御庭御尙在之候、鎌落過御懸湯大奥御膳等如例

一 五時過方表御締切 一 御通剂御丸菓一包差上之

一 大奥御寝被為入、御夜詰四時過引

八月十一日 朝天小雨 漸々晴

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過御神靈前御拜被遊、夫方御臨書如例、御庭御拜御廻御運動在之

為伺御機嫌罷出御目見被仰付

杉浦幸右衛門

獅子口花入一手作 御筆洗石三内金生石一
右者先日北行之節御内々相移シ候義も在之、則昨日東着之折柄致持参
差上之、甚御愛賞被為在候、サトフ漬棗被下寛々御咄申上候

(二七八)

御式所様へ 籠之内交着たい一 こち二 末記
伊予守様方 小たい二 大奥へ出ス

右者先日お銀様御結納之節御交着被進候御むすびとして被進之

鯛一 古十二本 青木雄五郎へ

右者毎度之認物御用被仰付候ニ付御内々金兵衛方被下ニ取計

御二所様江 交御肴一折 大名小路御二所様へ被進之

清心院様方

中将様江 越後縮二反

右者先日御引移之節品々被進物之為御答礼被進之、今日花井参上

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、八時過方靱負罷出如例

一八半時過方表御へ切相成御同道御庭へ被為入御垂釣被遊候、適齊被為召候

一鎌落頃御庭方御帰座御懸湯、夫方大奥御膳如例、五時過方御締切

一表御へ切御寝、御夜詰四時式寸廻り引

清心院様方 キヤマン瑠璃徳利一對蓋付 赤鍬針金虫籠一

右者不爭齊様方御到来之由にて思召を以被進之

一御前様方御切飯御煮染金兵衛始詰合之面々へ被下置之候

八月十二日 陰 午後方時々大雨

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過方御庭御拝、御序ニ御運動之為三遍御廻被遊、相濟御召替ニ而

御神霊前御拝被遊候、御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御同座御膳如例、八半時頃方暫御垂釣、七時過方

降出候ニ付御帰坐御懸り湯被遊、七半時過大奥御膳如例

一今晚道中常振飛脚出立之事

一高村岩次郎義去ル朔日御国表出立、中仙道通今夕到着之事

(二七九)

一五時過方表御締切相成四時過表

一御夜詰四半時前引

八月十三日 曉来風烈

一御目覚六半時

一五時過御神霊前御拝被遊、御臨書如例

御余多仕立 御煮へ ヤキ、ス 玉子 長芋 六寸二 富田

御飯御下夕

歌島江

右者不快ニ付御尋として被下之

一朝天方晴雨不定、時々烈風発起、午後方追々晴、雨休風弱ム

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一為伺御機嫌弥一郎・平大夫・剛右衛門・長作・荒次郎・辰藏・安太郎・治右衛門罷出

御目見被仰付、万貞・仙庵同断御菓子被下之、弥一郎・平大夫・剛右衛門・万貞

居残御席申上候、鞆負も罷出如例、七時過方御庭廻り出水之模様御見物

無程御席坐御懸り湯被遊、七半時過御々切相成、御同道御見物被為入

鎌落過御席坐、直二大奥へ被為入御膳被召上候、五半時過方御締切

一大奥御寝被為入、御夜詰四半時過引

八月十四日 快晴 涼

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神仏前御拜被遊、御庭御新宮計御拜、夫方御運動二二三

遍御廻被遊候

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

薩摩芋一籠上り 大奥御取林し

多川

芋の子一苞差上 菓かも御やしき御樹木 吉村武右衛門

きざわし一籠差出ス

(二八〇)

右ハ御上屋敷へ差出シ十兵衛方相廻ル

一為伺御機嫌御家老中・稲葉左司馬・七右衛門・幸八・御目付罷出御逢

被遊御菓子被下之、七右衛門ハ御逢無之候、鞆負・甚十郎罷出御用在之

一六時前御行水被為召表二而御そば被召上候、夫方大奥二而御膳被召上候

一御目見二付御附始当番詰合御いしやへ御酒・玉子・そば二盛・芋に付等二て部屋頂戴在之

台子へも並そば二・酒少々被下

一五時過方御締切 一金兵衛相願致退出候事

一表御締切御寝、御夜詰引四半時過

八月十五日 晴 涼

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過御庭御拜、引続二遍御廻歩被遊、夫方御神前御霊前御拜

御手備被遊候、一岩次郎義聞懸二七日を經御人少故今日方忌御免被成候二付

当直相勤候也

一御誕生日御祝儀二付左之通被進之、但去十三日御膳番方此方へ相達二付披露

数御熨斗 御小皿平かつお 御小皿さと 御汁粉餅紅白

御腰高たくはん大こん 御吸物たいひれ 松立御取肴御盃

御爛鍋

一殿様六半時御供揃御登城御退出懸四時過被為入御控所二暫御着座、夫方御

座之間へ被為入御対面被遊、無程御同道大奥へ被為入御対顔、御目六御取替合セ在之

直二御一所二御帰座御菓子中花饅頭御茶差上之、大奥方も御蒸菓子被進

藤一郎始御機嫌伺申上候、御供之面々被為召伺御機嫌申上候、九時前

大奥へ被為入、右御汁二餅御祝在之、引続御膳被召上候、御留守中二御

弁当被召上御汁たい被進之、畢而中君御帰座、無程十兵衛罷出居

御烹

御人弘御用在之候、相濟御同伴御庭廻り松山にて暫御休息御茶
御菓子差上之、夫方御帰座御継上下二御召替被遊、夷団子差上之

(二八二)

御退散七時一寸前、御供頭三人伺御機嫌罷出候

一八幡宮御祭礼之所御慎中二付御備物御裏役御代拝幟立候計御屋
敷中参詣等ハ禁之、但御上屋敷方御初尾被供御裡役御代拝相勤之

御式所様江 八寸重二 切すし 奥表一重ツ、但当番被下之

殿様方

右者今日御入二付被進之

一御供之面々へ月見二付臨時夷団子被下取計、但尤十兵衛始御側向也

一月見二付御汁団子思召二而被仰付、御三度御膳之節被召上候、

一七時過方表御締切御同道御庭へ被為入御釣被遊候宗甫被為召候、鎌落

過御帰座御懸り湯、相濟大奥へ被為入御膳被召上候、五時過表へ被為入

一月見二付治部金兵衛始御側向詰合并宗甫御酒玉子そば すし 部屋にて

芋に付

被下置之、但台子手伝へも御酒そば被下不計

一月見二付大奥へも御酒御吸物等被下在之、御前頂戴之趣也、但御広式取扱

一鞆負罷出如例、中ノ郷方ほら二・鯉一・大鮎一・似こい一御用魚御残相廻り二付

常邸へほら一・似鯉一被進、越中守様へ大ほら・鯉一■大鮎一菱方被進相成

一五時過方表御へ切相成

一御夜詰四半時引 明月

八月十六日 陰天 漸晴 七時過方小雨

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時頃御庭御順拝、相濟御上下被為執御運動二御順道二遍御廻歩被遊

相濟御神前御靈前御拝被遊候

一御臨書如例、怨介罷出如例

一九時過大奥へ被為入御膳如例

(二八二)

一九半時揃御養生御灸治被遊候、宗甫・主一罷出適齊義風氣二付御用捨
相願、岩熊金次子共御相伴被仰付、紙筆頂戴之、始終御締切相濟

候所七時御徵官御障不被為在旨御医師申達二付其段奉申上候、雪月花

最中御二所様へ差上之

御前様方中かつを一尾召上り 鉢盛切すし 奥表半分ツ、

右者御灸治二付例之通思召物御側御慰二被進之 金兵衛始両番坊主

等へ被下候

一七時過鞆負罷出如例、御家老中為伺御機嫌被罷出御逢、御くハし被下

一七半時過御懸り湯御流被遊候、引続大奥へ被為入御膳被召上候

一五時過方御締切相成
一御夜詰四半時引

八月十七日 晴涼

一御目覚六半時

一五時前御庭御順拜、引続御運動御順道二篇御廻歩在之、夫方御神
靈前御拜被遊候、御臨書被遊候、怒介罷出如例

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被為召上候

御余多御露物小たい

干ぎす ふどう二ふさ

島田近江へ

右者主一方近來之様子入御聴格別之思召を以被下置之、手紙添相廻ス

一八半時過方御運旋之為二御庭二篇余御廻歩被遊候、七半時前御懸り湯

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候 一金兵衛相願退出致候事

一鎌落頃方鞆負罷出如例、五時頃退出、夫方御々切相成申候

一大奥御寝、御夜詰四半時過引

八月十八日 晴光 新涼

(二八三)

一御目覚六半時

診 適齊

一五時前御神靈前御拜、夫方御庭御順拜、相濟又三遍御廻歩被遊候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一九半時御供揃殿様被為入直二御対面被遊、大奥へ御対顔も如例御菓

子も被進、十兵衛罷出居御人私御用談在之、七時前相濟、夫方御供之面々等

御目見被仰付、御菓子部屋頂戴、仙庵義過刻罷出ル、相濟御庭御閑歩御

茶園御池御一所二御垂釣被遊、中君ボラ御拳在之、いな少々ツ、御釣得

在之、七半時頃御帰座之上御汁粉差上之、御退散七半時過、鞆負も罷出候

御二所様へ 御籠之内御着 たい一 召上り 奥表半分ツ、

殿様方

大なる二 大きす二

右者今日御入二付被進之 但大なる一 きす一 甚十郎へ被下之 御挨拶

有平入巻煎餅一箱 フラスコ一 河村三左衛門

右ハ久々ニテ横浜村方罷帰二付伺御機嫌罷出御内々本文品々差上之

一鎌落過大奥へ被為入御同座御膳如例、御懸り湯御流相成

一五時過方御締切 一今日御殺生之いな十四五計大奥被下相成候事

一御締切御寝、御夜詰四時過引

八月十九日 陰涼 晚來方漸々大雨

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時前御神仏前御拜、夫方御庭御拜、夫方御廻歩三遍被遊候

一御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上

一昨夕御拳之ほら御仕立三而御前様へ御二度之節被進、御殘鞆負・金兵衛始両番

適齊・主一・養寿へも御仕立ニテ少々ツ、被下置之候

一河村三左衛門義今日結構被仰付候為御礼罷出鳥渡御逢御茶菓被下之

(一八四)

- 一万貞昨日当番二付為伺御機嫌罷出御逢被遊候
- 一七時過恕介罷出如例 一八時過御行水被遊御上計御爪上ル
- 一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候 鞆負罷出如例、五時前退去

角大瓶一 金百疋

右ハ水野修藏横浜ニ而異人ニ貰候ニ付鞆負へ差出候故又鞆負方奉差上候
依之本文百疋鞆負方修藏へ無急度相伝之

煉羊寒一箱一朱 鯉節二本 河村三左衛門

右者差上物御答礼旁明日横浜へ罷越候ニ付持参致候様申伝金兵衛方手紙
を添相達頂戴ニ取計申候

一五時過方表御締切相成

一御夜詰四半時前引

八月廿日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神前御靈前御拜被遊候、米帖御臨書被遊候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一常邸へ為伺御機嫌罷出ル、金兵衛・五郎大夫始一統

一八時過方恕介罷出如例 一七時方調練場御池御垂釣被遊候

一鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、鞆負七時過方罷出如例、五半時方御へ切

一御締切御寝、御夜詰四半時前引

八月廿一日 陰冷

一御目覚六半時

診 適齊

一五時前御庭御順拝計被遊、夫方御神靈前御拜、相濟御臨書被遊候

一去ル十二日立飛脚着、御静安恐悦之事

(一八五)

一恕介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御膳御同座被召上候

一次郎右衛門・太郎大夫為伺御機嫌罷出御逢無之、鞆負罷出如例

一七時過方御庭へ被為入臨時御調練場御溜ニて御釣被遊、少々御得物在之

御放し相成、鎌落頃御帰座大奥ニて御膳被召上候、五時過方御締切金兵衛退出

一御夜詰四半時前引 一今晚七時長震、常邸方清十郎被遣、此方方岩次郎被遣候

治部金兵衛始非番之面々罷出ル、左大夫・又兵衛罷出金兵衛も罷出ル

八月廿二日 晴涼

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御神前御靈前御拜、夫方御庭御拜、相濟三遍御廻歩被遊候

一四時過恕介罷出如例 一九半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

殿様へ 六寸重二 やき鱧 粕ていら

右者此頃少々御容体被為在候ニ付為御見廻被進之

一白山玄成院コロリ流行止祈祷御札守差上常邸方相廻ル、御二所様へ指出ス

酒一升德利入 七寸重一鯉二付 本多飛驒

松平主馬方へ

右者今日到着ニ付思召を以銘々江被下置之、金兵衛方手紙を以相達ス

一八半時前方調練場御地ニテ御垂綸被遊候、韃負罷出候

一七半時過表ニ而過刻大奥方被進之御そば宜被召上候、夫方大奥へ

被為入御膳如例、五時過方表御締切相成申候、金兵衛初詰合へ大奥方

御そば被下候

一御へ切御寝、御夜詰四時過引

八月廿三日 陰 時々細雨

診 主一

一五時過御神靈前御拝被遊、米帖御臨書如例

一九時過大奥ニ而御同座御膳被召上候、御帰坐御庭御順拝被遊候

(一八六)

一為伺御機嫌弥一郎・平大夫・剛右衛門始罷出御逢、於御前一統へ御茶御

菓子被下之、万貞も罷出同様也

一昨夕到着ニ付為伺御機嫌本多飛驒方松平主馬方被罷出御逢被遊

御人払御用彼是一時計、御茶御菓子被下置之、はぎ餅

一甚十郎罷出鳥渡御用在之、引続高田孫左衛門昨夕到着ニ付伺

御機嫌罷出御逢、御人払御用、畢而御茶牡丹餅被下、御余多物二品頂戴

肥後国分 越の雪

萆一箱 菓子一筥 氷餅一包差上 高田孫左衛門

青蓮院殿へ 越の雪一筥被遣相成申候

一六時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時前方表御締切

御肴料金百疋差上孫左衛門方差出ス

出渕伝之丞

一御夜詰四時過引

八月廿四日 陰

診 適齊

一五時過御神仏前御拝、夫方御庭御拝被遊、御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上

一今朝常邸へ為御見舞金兵衛罷出、御直筆被進ニ付持參仕候

細川越中守様方御籠之内交肴 中鰯二 中鰯二 鰯二

大かつお一 御すたりもの也

右者過日中ノ郷之鰯被進御満悦思召御答礼として被進之

鰯一鰯一今度到着ニ付被進下之 高田孫左衛門

鰯一鰯一御返礼旁被下之 近藤左大夫

鰯一本御到来故被下之 石原甚十郎

鰯一御焼肴相成 不快ニ付 中根雪江へ被下候

(二八七)

一八時過御例日御湯被為召候

一為伺御機嫌山県三郎兵衛方被罷出、御逢御用在之、畢而御嘶被遊、左司馬所左衛門幸八被為召御咄被遊候、御茶御菓子被下置候

一為伺御機嫌高田孫左衛門罷出御逢御用在之候、七半時過方六時過迄

洋製胴服

同々 菱へ 差上之 金三郎

一大奥にて御同座御膳被召上候

雲丹一箱 五合入 塩 鮎卅 本多飛驒方

五色雲形

鳥子紙 五十枚 塩 鮎卅 松平主馬方

右者今般出府二付被差上之、但、本文雲丹一箱青松君へ被遣之候

一六半時前方御締切相成

一御締切御寢、御夜詰四時過引

八月廿五日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時前御神靈前御拜、夫方御順拜御廻歩被遊候、御臨書如例

一恕介罷出御閑話被遊候、八時過御庭へ暫被為入御垂釣被遊候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一為伺御機嫌松浦幸右衛門罷出鳥渡御逢在之、御茶御菓被下之、次郎右衛門義

も罷出候得共遅く相成御逢無之候、一伺御機嫌常郎へ藤一郎始罷出ル、金兵衛へ不罷出

為伺御機嫌罷出申上候 皆川平右衛門

御二所様方 御有合

殿様江 塩鮎七ツ 鉢盛 もや餅

右者御容体御見廻として御側御慰二被進之

清心院様方 御蒸菓子一重

(二八八)

右者折から御機嫌被為聞被進之

石かれ五召上り 蛇二ツ内一大奥へ出ス 富田

右へ御二所様へ今日出勤仕候二付差上之

蛇一 塩鮎三 思召を以被下之 橋本左内へ

一為伺御機嫌本多飛驒方被罷出御逢、御人私御用在之、御茶菓被下之

鎌落

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、六半時頃方御締切、金兵衛相願退出仕候

一大奥御寢被為入、御夜詰四半時前引

八月廿六日 晴光

一御目覚六半時

診 主一

一五時前御神靈前御拜、夫方御庭御順拜、且三遍御廻歩被遊候

一四時過方恕介罷出如例、九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

- 一 九半時前方中木戸内御溜ニ而御垂釣被遊、十太夫鯿一本釣得之
 - 一 八半時前為伺御機嫌松平主馬方被罷出御逢在之御人弘相成、畢而御茶御菓子被下之 一 右鯿一本外二一本釣得候ニ付幸ニ飛驒主馬方へ被下置之候
 - 一 鎌落過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、六半時方御締切無程表ニ相成
 - 一 再御締切相成申候
 - 一 御夜詰四半時前引
- 八月廿七日 晴
- 一 御目覺六半時 診 適齊
 - 一 五時過御神仏前御拜、夫方御庭御拜濟三篇御廻歩在之候
 - 一 常邸へ御様体為御見廻罷出候、金兵衛
 - 一 四時過恕介罷出如例、一六大夫今日方不快引込之処出勤致候

(二八九)

- 清心院様へ 塩鮎十五 御籠入ニ而被進之
- 一 九時過大奥ニ而御同座御膳被召上候
- 一 御用向在之被為召十兵衛罷出御人弘御用有之、畢而御菓子被下之
- 一 甚十郎罷出暫御用在之、高田孫左衛門罷出御用有之
- 一 鎌落過大奥へ被為入御同座御膳被召上候
- 一 六半時頃大道寺七右衛門方水府一件申来直様申上候
- 一 五半時頃方御締切相成申候
- 一 御夜詰四時過引

八月廿八日 陰雨 寂寞

診 宗甫

- 一 御目覺六半時
- 一 五時過御神靈前御拜被遊、夫方御臨書如例
- 一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候
- 一 為伺御機嫌方貞・弥六・重太郎始罷出御逢被遊、部屋ニ而阿部川餅被下候
- 一 韌負罷出御内話寛々被遊候
- 一 鎌落前大奥ニ而御膳被召上候、五時過方御へ切
- 沢之丞着之上ハ御都合も在之

候間出立心組致候様

川村藤一郎

右者御側御用人方内達之廉を以金兵衛方心得申通ヌ

一 御夜詰四半時前引

八月廿九日 陰天 細雨

診 主一

- 一 御目覺六半時
- 一 五時前御神仏前御拜被遊候、御臨書ハ如例日
- 一 四時過方恕介罷出如例、 一 九半時過大奥へ被為入御膳被召上候

(二九〇)

- 一 為伺御機嫌山梶三郎兵衛方被罷出、御逢御人弘御用在之、畢而御茶御菓子被下之

- 一七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、金兵衛相願退出之事
- 一五時過方御締切
- 一御夜詰四時過引

九月朔日 雨

一御目覚六半時

診 適齋

- 一五時過御神仏前御拜被遊候、怒介罷出暫御漸被遊候
- 一殿様六半時御供揃御登城被遊、御退出懸被為入直二御対顔被遊候
- 無程大奥へ被為入御対面如例、相濟御帰座御菓子おてつ牡丹餅差上之
- 御供之面々被為召御逢在之、大奥方御生菓子被進候、九時前御膳被仰付
- 大奥へ被為入御同座御膳被召上候、表二而御弁当差上之 御汁蜆 うに 焼たい
- 石かれに付 御到来二付

相濟申上表へ御帰座十兵衛罷出居御人扨御用相成御供頭御機嫌

伺罷出奉申上候、御用濟大奥方御生菓子・御に染御到来二付被進之

八時過御退散被遊候、御入四半時過

御二所様江 御籠之内 小肴 小たい 石かれ 召上り相成

殿様方 同木座わし・ぶどふ 奥表半分ツ、当番へ被下候

右者今日御入二付被進之、但御肴御残之分哥島へ被下之

一七時過高田孫左衛門罷出御逢、御用濟御菓子御茶被下之

一鎌落前大奥へ被為入御膳如例、五時過表御へ切

一御夜詰引四半時前 一今晚常振飛脚出立

一御前様御到来二付硯ふた物一重治部初詰合之面々へ頂戴在之

(一九一)

九月二日 漸々晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御神靈前御拜如例、怒介罷出如例

葡萄三総

稲垣治部へ

右者近來不快引込三付幸御到来合二而被下之昨記落

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一九半時過御庭御巡拜、夫方二遍御廻歩被遊候、八時過方鞆負罷出如例

一七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、五時過方御締切

一大奥御寝御入、御夜詰四半時前引

九月三日

一御目覚六半時表へ被為入

診 主一

一五時前御神靈前御拜被遊候、夫方御庭御順拜三篇御廻歩在之候、

夫方如例米帖御臨書在之候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一八時前方御締切相成御一所二御庭へ被為入御垂綸被遊七半時過御帰座

一為伺御機嫌弥一郎・弥六・重太郎初万貞・元眠罷出、弥一郎義幸二御目見

被仰付、跡御逢無之候、部屋御菓子被下之

一七半時過方靱負罷出如例

金二百疋御着代 鉢盛そば 哥島方

右者長々不快之所今日出勤候二付為御礼差上之

鯿一尾被下之 哥島江

一右鯿と都合二本被仰付候所幸釣得山県三郎兵衛へ思召を以被下之手紙付相廻ヌ

(一九二)

一於御庭御二所様へ唐万寿差上之、御次へもきんつばやき被下候由

一六時前大奥へ被為入御膳如例 一金兵衛相願退出致候事

一五時過方御々切相成、大奥御酒御そは御前頂戴、畢而於御三ノ間六大夫始

詰合之面々御酒御そは頂戴在之候、四時頃相下ル、四半時過表二相成

一御夜詰四半時過引

九月四日 雨

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過御神靈前御拜、巍光院様御十七回忌二付思召御手備物在之

一九時過大奥へ被為入御膳如例 一八時前御例日御入湯

一去月廿六日立飛脚到着、御静謐恐悅、但コロリ大流行所々御祈禱在之

一河崎三郎助父方叔父大白黙叟去月廿五日病死、半減十日之忌中二而引込退出致候

明後六日方出勤致候筈

一為伺御機嫌稻葉左司馬罷出一寸御逢在之、靱負罷出如例

一山県三郎兵衛方本多飛驒方被罷出御用在之、御茶菓子被下之、相濟孫左衛門

乙助・所左衛門罷出御閑話御茶菓子被下之、

一七半時過大奥御膳如例

一大岩主一義舎弟和泉領間村法満寺病死、定式忌懸り之所御人少、且流行病

二而病用も多く候故相伺候上明日方忌御免二取計候事

串団子少々 忍々菊一株 養寿・楽寿・重寿

右者御慰二差上之、但大奥御取林し二相成

一五時過方御締切

一御夜詰四時過引

(一九三)

九月五日 漸々晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御神靈前御拜被遊候、甚十郎罷出御用在之

一四時過怨介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御同座御膳如例

茶 一箱 故高村藤兵衛へ

右者今度病死之所御引移之砌方長々御小姓相勤居候輩故御内々

思召を以岩次郎方荒次郎へ相伝へ被下相成申候

一殿様九半時御供揃二而八時過被為入御対顔被遊、大奥御対面も如例、今日者

五郎大夫始御機嫌伺罷出申上、相濟御菓子雪月花差上之、大奥方中華饅頭被

進之、十兵衛罷出居御用談之趣也、八半時過相濟御供之面々御目見被仰付御供頭御機嫌相伺フ、七時前方御庭へ被為入御茶園御池御垂綸暫被遊候、七半時頃御帰座直ニ御退散七半時過韃負罷出如例

殿様方 亜米利加唐紙三十枚 今日御入之節被進之

一大奥畑ニ出来候紫蘇穗一台 御慰ニ出候ニ付常邸へ被進相成申候

大干菓子一折到來ニ付差上候 哥島 田川

養寿

一鎌落過大奥へ被為入御同座御膳如例、五時過方御々切

一大奥御寝御入、御夜詰四半時前引

九月六日 晴

一御目覚六半時表江被為入 診 主一

一五時過御神靈前御拜、夫方御庭御順拜、二篇御廻步被遊候

一松井左膳義過日方不快引込罷在候処妻義俄之発病養生不相叶

遂五日晩病死、定式之通昨五日方来ル廿四日迄忌懸り之義達在之

(一九四)

一米帖御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一菅沼重記一昨日到着之所頭痛難義ニ付今日為伺御機嫌罷出、御目見被

仰付部屋ニ而御菓子被下之

一九半時過方暫御庭へ被為入御茶園御溜御垂綸被遊候、八半時頃方松平主馬方

為伺御機嫌被罷出御人払御用在之、畢而御菓子被下置之

一七時過怨介罷出暫御閑話被遊候、韃負罷出如例

一鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方表御締切相成

金二百疋 御肴代 土井彦兵衛

右者哥島宿元長々不快罷在格別御懸命難有奉存御礼之寸志被指

上之、哥島方金兵衛へ差出奉入御覽候、御金懸りへ渡置

一御夜詰四半時引

九月七日 微雨 漸々晴

診 適齊

一御目覚六半時 一五時前御神靈前御拜被遊候、御臨書如例

一四時過方怨介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一稻垣治部義先日方不快今日方出勤、昨日焼小たい御余多被下置之

一八時前方暫御庭へ被為入御垂綸御船遊在之候

一八半時過方山県三郎兵衛方被罷出御用在之、畢而御酢被下之

御酢一重 栗一籠上がり 倉はし方

但三郎兵衛・甚十郎・左大夫御附初詰合へ被下取計

一七半時過大奥御膳如例、韃負罷出如例、金兵衛相願退出致申候

近々出立伺御機嫌罷出、御覗在之

御内々御くハし被下 浅見七郎右衛門

(一九五)

一六時過於御三ノ間押シおきねまり角力御させ二成御覽御慰ニ相成候、砂糖水頂戴

一五時前方御締切

一御夜詰四半時過引

九月八日 陰

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過方御神靈前御拝庭御順拜相濟御馬場間敷御取被遊候

焼饅頭卅一重 金二百疋 表出方也 松井左膳へ

右者今般妻義病死ニ付御内々為御尋被下置之、金兵衛方手紙添相送ル

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

土芋の子籠入 清心君方御慰ニ被進之

一八時前方御庭廻り椎実御拾被遊、夫方御舟遊在之候

繪奉書一箱台居百枚

菅沼重記

右者今般相携候ニ付御慰ニ被差上之 エガ栗一籠上り 石野

一為伺御機嫌万貞・剛右衛門・長作始何茂罷出、被為召御茶御菓子被下之

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、鞆負罷出如例、五時過方御締切

一御夜詰四半時前引

九月九日 雨

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神仏前御拜、佳辰ニ付御手備被遊候

一殿様六半時御供揃ニ而御登城被遊、御退出懸四時過被為入直様御対願

被遊、御長蛇差上之無程大奥へ御同伴被遊、御目録為御取替合在之、御対願

等相濟御帰坐御菓子差上之、御供之面々御目見被仰付、鞆負・十兵衛罷出居、九時

(一九六)

御膳被仰付中君大奥へ被為入、殿様暫御上下被為取御酒御膳差上之 一汁御焼物

外ニ御さしみ

相濟中君御帰座、大奥方御菓子被進之、八時過暫十兵衛罷出居御内話在之候

畢而八時過御退散被遊候、但御供之面々今日ハ御菓子被下ニ取計

御式所様へ 籠之内交御肴奥表半分ツゝ 湯手中栗一籠当番被下

殿様方

右ハ今日御入ニ付被進之

右小肴

菅沼重記

内小たい石かれ 折々被為召ニ付被下之候 十兵衛

右者今般着ニ付御到来合被下之、金兵衛方手紙添相送ル

殿様江 源氏たばこ一箱 御有合也

鼠呉絹御蓑入御筒共 御買上品

右者近來被進之御品も無之ニ付今日御席上ニ而被進之

一今日栗入御赤飯思召ニ而被仰付御ニ所様へ差上之

網袋入栗三升計差上之被下相成 森六大夫

一御拵御脇差御二腰兼光今般於御国御出来埴原次郎右衛門方御腰物懸り受取也

正広

正広ノ方御平常御帯被仰付候

一七時過大奥御対面所へ被為入暫御蹴鞠御運動被遊、一統罷出ル

一七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、御帰座後再鞆負罷出如例

一五時過方表御締切 一今朝方金兵衛義膝痛着坐難義二付御用捨相願退出

一御夜詰四半時二寸五步廻り引

九月十日 雨

一御目覚六半時

診 適斉

一五時過御神仏前御拜、御忌日御手備被遊候

御櫛懸り被仰付 但治部申渡在之 上坂平八郎

(一九七)

一九時過大奥へ被為入御膳如例

早松茸十二本上り

よつ

一金兵衛義膝痛弥難義二付今日方引込相達ス、右早松同人へ被下置之

一常邸へ為伺御機嫌藤市郎始何茂罷出候

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、鞆負罷出如例

一五時過方御締切

一御夜詰四時過引

九月十一日 雨

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御神靈前御拜被遊候

一九時過大奥御膳如例 一御有合竹林麦八寸一重ツゝ哥島・多川へ被下取計

今日到着

御近習番 梶川沢之丞

右者罷出二付御目見被仰付候、但藤一郎御取合

一為伺御機嫌次郎右衛門・太郎大夫罷出寛々御話被遊、御茶菓被下置之

一此頃方多川不快二付今日石野見廻二罷出候折柄 さとう半斤 被下置之

くつのご五合

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御締切

一御夜詰四半時引

九月十二日 雨

診 主一

一御目覚六半時

一五時過御神靈前御拜、御忌日御手備被遊候

一九時過大奥御膳如例

御前様方手遊ひ物一台 鉢盛小豆餅浸し物

(一九八)

右者連日之雨天二付御側御慰として被進之、但弄ひハ奥番御預ケ

御鉢もり八被下二相成

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、五時過御締切
一御夜詰四半時過引 一重之内白玉あん 多川不快ニ付御尋被下之
玉子

九月十三日 漸々晴

一御目覚六半時 診 適齊

一五時過御神靈前御拜被遊候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳如例

御前様方 石鰈五召上り 内一枚金兵衛へ頂戴被仰付

鉢盛薄皮餅與表半分ツ例之通御附始両番被下

右者今日御灸治ニ付召上り且御■中■ニ被進之

一九半時揃月並御養生御灸治被遊適齊初三人罷出ル、御締切相成、畢而如例
熊吉・岩吉・金三郎・次藏御相伴被仰付紙墨被下之、七時過済益御機嫌克
御感も宜恐悦之事、但御二所様へ紅白うば玉差上之

一為窺御機嫌重太郎始何茂罷出御灸治中ニ而御逢無之、御菓子被下之

一為伺御機嫌山県三郎兵衛方被罷出、御灸治後御逢在之

一御灸治被遊ニ付伺御機嫌書中を以申上ル、金兵衛引籠中ニ付

一七半時過表ニ而御そは被召上候、哥島方差上御膳番取計

一右相済大奥へ被為御膳如例、軈負横浜方罷帰罷出ル、大奥へ被召候

一五半時頃方表御締切相成

一大奥御寝被為入、御夜詰四半時引

九月十四日 晴

一御目覚六半時 診 宗甫

(一九九)

一五時過御神靈前御拜、夫方御庭諸社御拜、相済御廻歩被遊候

一明日如御例殿様御入之所神田祭礼ニ付御断被仰進、金兵衛方十兵衛迄

申達ス、但当年ハ尤御覧者無之候得共送々敷日柄ニ付御断相成申候

御前様江 六寸重ニ 御煮染五品

御生菓子小くらかん きつかふ万寿 鉢盛切酢

右者今日たまさかの御灸治ニ付両種被進之

一九時過大奥へ被為入御膳如例

御前様方にふめん仕立一重露付 不快ニ付頂たい 金兵衛へ

御くハし 御にメ 被仰付

一八時前定例御浴場

梅ひしほ 二曲 飛驒方

主馬

右者横浜表へ被参候折から持参ニ而被差上之、十兵衛方相廻り申候

一為伺御機嫌菅沼主記宇都宮勘解由被罷出御逢御茶菓被下之

一為伺御機嫌飛驒方主馬方被罷出御人払御用在之、畢而茶菓被下之

阿部伊予守様方 八寸御重一 御煮染 御三度召上り

保命 本直シ 二瓶

右者久々御機嫌不被為聞二付時候御見廻之御口上二而與一兵衛御広式御用人へ応対御品物相廻差出申候、但御二所様御相合也

一七半時過大奥御膳如例、鞆負罷出候、五時過御へ切相成候

一表御締切御寝、御夜詰四半時前引

九月十五日 晴光

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神靈前御拝、夫方御庭御拝御廻歩も在之

一熊吉義今日当番之所思召を以四時方七時迄御用捨、岩吉義も明番二候へ共五時方御

用捨、次藏義も今日当番之所御用捨被成下候事 但明番御用捨二ハ不及也、当番も九時方

暮合迄御用捨之方可然也、時宜次第

(1100)

殿様方赤飯一重

右者神田御祭札二付被進之、御側向へも一重頂戴在之候

一九半時過大奥へ被為入御挨拶如例、一常邸へ伺御機嫌五郎大夫始一統罷出ル

一八時過方御前様御一所二御庭へ被為入、鞆負・甚十郎・左太夫・適斎被為召、終始御締切也、召上り

御菓子かのこ餅差上之、御次菓子金鍔やき 八寸二重差出大奥被下二相成

一為伺御機嫌次郎右衛門・幸右衛門罷出、御逢無之

新米奩箱 常邸方御膳番へ相廻召上り二被仰付候

一鎌落前大奥へ被為入御膳如例、五時頃方御締切相成

一御夜詰四半時前引

九月十六日 雨 午後晴

診 適斎

一御目覚六半時

一五時過御神靈前御拝被遊候

中将様御附

御近習頭取被仰付

奥番 柳下小十郎

奥御納戸役被仰付

御裏役 吉田石五郎

詰中は迄之通り

加藤清十郎

御書物方被仰付

小栗治右衛門

右者御家老中被申渡候、九時前当邸へ罷出何茂上下着御礼申上之、頭取差加ル

一右二付小十郎義今日七時方見習出勤十八日迄相勤申候

小十郎見習相濟候へハ勝手

次第出立致候様鞆負申聞ル

川村藤一郎

今日到着 去二日立 両役所手伝

川崎善兵衛

藤田 栄立

当分奥定介其儘被仰付

鷺田 清嘉

但栄立着之上文悦御用捨順之所願之上不罷越、寿伯義来申春相願度旨内達

依之暫之所下地御人少之中故評義之上本文之通

一九時過御膳大奥二而御同座如例

(1101)

一昨日之御替日ニ而殿様九半時御供揃ニ而被為入、直ニ御対顔御程合ニ而大奥御対面如例、御帰坐之上御菓子差上之 亀甲万寿大奥方も被進之、御供之面々御目見

小くら山

被仰付十兵衛・靱負罷出居御供之面々へ御在合せんへい被下取計、御退散八半時過

一七半時過大奥へ被為入御膳如例

中筆一本 香箱一 枝折二

繪半切二卷 養老扇一本 高田孫左衛門

右者明日出立ニ付為伺御機嫌罷出御目見被仰付候節思召品御直ニ被下置候

一五時過方御締切相成 一御二所様へ殿様方おてつ牡丹餅二重被進之

一御夜詰四時二寸五歩廻り引 但奥表半分ツ、孫左衛門始御附詰合之面々被下相成

九月十七日 晴

一御目寛六半時 診 宗甫

一五時過御神靈前御拝、夫方御庭御拝御廻歩も被遊候

一今日如例年常第大般若御祈祷御執行在之、御召相廻奥番取斗

一九時過大奥へ御入御膳如例 一八時過御庭御閑歩被遊候

胴着一御盃一ツ 真綿ニ而大奥出来 本多飛驒方へ

右者明日出立ニ付伺御機嫌罷出御逢在之、思召を以御直ニ被下置御茶菓も被下

焼物三ツ組盃一箱 頭取近例 川村藤市朗

紋呉紹蓑入筒共 三年詰二付 同人

御盃一御持扇子二 御写物被仰付二付 同人

金七百疋 御内証詰越金御側御用人方被下候 同人

同三匁七分五厘 御右筆へや仕出飯御供頭相勤二付被下候 同人

但御省略中半減之由

右者近々出立ニ付被下置之、御品物之分金兵衛方相渡筈、引込ニ付五郎大夫方相伝フ

一当邸へ罷越候折を以伺御機嫌罷出、御逢ハ無之候 弥一郎

一土屋小六義今日出勤ニ付病中頂戴物御礼伺御機嫌罷出、其段申上候

(1101)

青松院殿へ御到来合本直シ一瓶御贈ニ相成申候

一七半時課大奥御膳如例、靱負罷出御閑話如例

一市川斎宮義先年三十両拝借年々元利上納致来候所靱負殿方内話之訳合も在之

今日靱負方六両壹歩ト銀式匁五分ハン受取御金懸りへ相渡ス、但去丑年方一朱ノ利ニ今度相成候也

一五時過方表御締切相成

一大奥御寝御入、御夜詰四半時引

九月十八日 晴

一御目寛六半時表へ被為入 診 主一

一五時過御神靈前御拝、夫方御庭御拝、相濟御廻歩も被遊候

一九時過大奥へ被為入御前如例

A014300511 御側向頭取御用日記

一松平主馬方明日出立ニ付為伺御機嫌被罷出寛々御逢在之、飛驒方同様之頂戴物被仰付、左之通拝領物御託被遊候

奉書細黒花葵綿入羽織一紐付 横井平四郎へ

一為伺御機嫌剛右衛門・長作始何茂罷出方貞同様御用中ニ而御目見ハ無之、例之通御菓子被下之

一七時前方御庭御尙佯被遊候、七半時過大奥へ被為入御膳如例

大鯿老本

右者昨夕御舟遊之節老込候ニ付御前様方御伝へ越中守様へ被進相成申候

若年寄

石野

御錠口

もん事 磯田

同介

さて

右者今日結構被仰付在之候

(11011)

御二所様へ

出雲守様御二所様方 御籠之内交御肴

右者折から御安否被為聞被進之、御両所様方伊予守様へ過日之為御挨拶被進之、御広式御用人方相廻候様取計

出雲守様方芋の子老籠

右者御慰として可被進之折々召上りニ被仰付候

一白鞆御脇差身上坂伊与之助・正利作献上之由、御側御用人方被差出頭取御預ケ也

一五時過御締切相成

一御夜詰四時過引

九月十九日 晴

診 適齊

一御目覚六半時

一五時前御神仏前御拜御庭御拜、御廻歩も被遊候

一御近習御番割相伺候上左之通被仰付

一番側 二番類

五郎太夫 岩次郎

小十郎 十太夫

御櫛 喜十郎 御櫛 平八郎新

犀次郎 同 幾太郎

三郎助 亥之助

ノ

金七両壹歩一朱 但當春方月ワリ被下 川村藤一郎

一定日御湯明日ニ相成申候 手伝

金貳両

川崎善兵衛

藤田栄立

右ハ当秋江戸詰被仰付罷越ニ付手伝へハ御手当被成下候先例も在之ニ付御側御用人へも申達取計候事

一金二両三朱銀式匁三厘御本丸無尺懸銀御上屋敷方書付相廻二付相廻候事

(二〇四)

御二所様へ

殿様方 雲丹焼石かれ五御重入 御三度召上り

中将様江 菊鉢植二紅白

右者今日御入之節被進相成申候

一九時過大奥被為入御前如例

一大目付方御達二付御袖留之由殿様五時御供揃御登城、御退出懸九半時過被為入

御対面、無程御入御対面、相濟被為入此所にて中君暫大奥へ御入、御留守中御小弁

当被召上御皿物 ゆりね・ほしそ被進之、被為濟中君御帰坐、御菓子 きん鏝差上之、大奥方

御汁 清しきす

被進之、御供之面々御目見被仰付無程御帰殿、八半時過鞆負如例罷出、御先番十兵衛也

一七時頃御庭廻り在之、七半時過大奥へ被為入御膳如例、夜分御へ切如例

明日出立二付御目見被仰付今朝也 川村藤一郎

但此節実父秋田晴山へ御意被成下、砂とふ漬箱入被下置之

一藤市郎義昼過御帰殿之上常邸へ罷出御目見被仰付、御用人披露例之通

一為伺御機嫌暮時頃罷出又々御目見被仰付、御酌二付御酒御下夕御肴御菓子

等頂戴被仰付、格別御懇意之趣也、藤一郎殊更難有狩落涙致候

一去十二日飛立脚今朝到着、御静泰恐悦之事

一五郎大夫義中村鉄吉養母病死、姉之続合定式之通去ル十日方廿九日迄引込罷在度段

相達ス、然ル処御番替之折柄御用御差支二付明後廿一日方忌御免被成候

一岩次郎平八郎義母方叔父本多政之助実父五郎右衛門病死之所定式之日数相立候

二付一日遠慮仕度段相達ス

一松井左膳義先日妻病死、今日二而二七日相立二付忌御免被成候所頭痛難義二付直

二引籠養生致度旨相達ス

一伺御機嫌坪井信良罷出被為召御閑話在之、御菓子被下置之

(二〇五)

一御夜詰四半時引、大奥御寝

九月廿日 晴

診 宗甫

一御目覚六半時

一五時過御神靈前御拜被遊候、御庭御拜之神明宮へ新米御備被遊候

一川村藤市郎義無滞今朝出立致候 一砂トフ漬藁一箱松浦一族へ花入差上二付

藤一郎持参被下之

一九時過大奥へ被為入御膳如例、昨日御延引之御湯被為召候

一八時過方御締切二而御庭へ被為入、御両所様紅白うば玉差上之、御次被下串団子

鉢もり差出ス

一葛巻庄兵衛出府二付御内々伺御機嫌罷出ル

一神明宮御祭礼二付御裏役御代拜相勤、御時節故御備物斗

一清心君少々此頃御不例被為入御案思被遊、主一思召を以被遣、罷帰御様体具二申上之、尤致而御輕易之御事之由

清心院様へ六寸重二 御汁仕立ます

御くハシ 芳の川 東錦 詰合

右者無急度御機嫌被為聞被進之

御前様へ 早汁粉折詰差上之 金三郎

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、鞆負罷出如例夜分御へ切如例
一表御へ切御寝、御夜詰引四半時

九月廿一日 晴

一御目覚六半時、六時過表二相成 診 主一

一五時過御神靈前御拝、夫方御庭御拝御廻歩も在之

一五郎大夫義忌御免、今日方出勤御礼申上当番相勤

一九時過大奥へ御入御膳如例

(二〇六)

一為伺御機嫌島田近江罷出被為召御菓子被下之、市村乙助罷出御用在之

一右同様杉浦幸右衛門罷出被為召御嘶被遊候

一清心君御容体申上旁伺御機嫌罷出候、田代万貞へ御菓子被下候

一八半時過御庭廻り御遊船被遊候、鞆負罷出如例

一鎌落前大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御締切如例

一御夜詰四半時過引

九月廿二日 晴

一御目覚六半時 診 宗甫 適齊升

一五時過御神仏前御拝、夫方御庭御拝御廻歩も在之候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、其御御庭へ暫被為入

為伺御機嫌罷出候 明日出立二付 稲葉左司馬

右御逢之ノ節御直ニ金米糖小箱一 御松相ニ披下置之

殿様へ 枝豆一括 御内庭御手作之事故思召ニ而被進之

但御残豆奥表半分ツ、表之分ハ御前ニて頂たい被仰付候

一八時過方恕介罷出如定例

一安国殿黒本尊御供物大奥方相廻り入御覽、明朝召上之筈

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、夜分御締切例之通り

一表御へ切御寝、御夜詰四時二寸五歩引

九月廿三日 陰 追々晴

一御目覚六半時 診 主一

一五時過御神靈前御拝、夫方御庭御拝被遊候

一先達而方被召上候御養生御藥追々時候も相直り候趣故今日方二貼ツ、調上之旨主一申達ス

(二〇七)

一九時過大奥へ被為入御膳如例

一八時過方御庭廻り被遊、其節伺御機嫌罷出候重太郎始被召連候由、部屋御菓子頂たい例之通り、仙庵も罷出同断

籠之内 小肴 出勤二付上がり 多川

右之内たい召上り 蛸 さより 被下置之 靱負

同 ます五 金兵衛江

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、靱負罷出如例、夜分御へ切例之通り

鶏卵一箱 葛巻庄兵衛

右者金兵衛引込中故兼而之別懇故常ニ御前へ罷出候事故左太夫迄御内々差上度旨にて入御覽候

一御庭廻り之節熊吉義不慮之怪我致御用捨願退出致候、先格別之義無之

一御夜詰四時過引

九月廿四日 晴

診 宗甫

一御目覚御例刻

一御神仏御拝御庭御拝御廻歩如例

一九時過大奥御膳如例

一七時過定例御浴場相濟七半時過御膳大奥にて如例

一為伺御機嫌御家老中并近江重記被罷出御逢、御菓子被下之

一右同様御目付御留守居も罷出被為召、御菓子も被下候、靱負罷出如例

一五時過表御締切

一表御へ切御寝、御夜詰四半時前引

九月廿五日 晚来小雨

診 主一

一御目覚六半時

一五時過御神前御仏前御拝、夫方御庭御拝、相濟御廻歩被遊候

一金兵衛義痛所順癒ニ付今日方出勤、当番相勤候事、但昨夕頭取迄相達ス

一四時過方恕介罷出如例 一九時過大奥御膳如例

一八時過甚十郎罷出、引続靱負罷出如例

一今晚道中常振飛脚出立之事 一為伺次郎右衛門・太郎大夫罷出御逢無之

(二〇八)

陶器盃三箱入 上書 坤 輿蓋 竜峰書 横井平四郎

右者思召を以被下置之、靱負方主馬方へ相廻同人方相伝へ候筈

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、夜分左大夫被為召御漸被遊候

一五時過方表御締切相成

詰中非常之節御時宜役 小栗五郎大夫

兼勤相心得候様

右之通藤一郎跡御右筆部屋申渡在之、昨日落

唐まんしう折一 柳下小十郎

白うを

右者知人之者方幸ニ到来致候ニ付無急度差上之、兩度也

小たい二枚

土屋小六

右者今度大病之所快氣致寸志身祝ニ差上度旨ニ而御膳番取斗フ
一御夜詰四半時過引

九月廿六日 小雨

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過御神靈前御拜被遊候

一御臨書中々少々御鼻水出御クシヤミも出御眼勢も不御宣、御声音も些と御
濁被遊候様ニ被相伺候故気候も甚陰冷旁加美類連御泡剂差上之、主一義被為召
候所同人感冒ニ而温養致居候最中ニ付思召ニ而御用捨被成下、宗甫拝診被仰付候
所至而御輕微之御感冒氣ニ被為入御脈少々御進被遊、尤御氣熱御頭痛も相伺
不申位之御義、依而主一方へ罷越申談候上緩和発汗湯御薬ニ貼主一調上
之御茶之御替りニ加美連召上り候様相願申候、御二度後御脚湯御寝前同様
被遊候様申出候、先御平生之儘御温覆被遊候而御宜旨ニ付御厚召等差上之置
一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、御帰座後御脚湯被遊候

(一〇九)

一宗甫被為召御肩御按摩被仰付、恕介罷出御本不被遊御漸而已也

一 韃負罷出如例 一 鎌落前大奥へ被為入御膳如例、御二度御三度共如常

金二百疋 御小道具方小遣 清助

右者当春不思議ニ拾金致候ニ付冥加之為年末御手元御奉公無難相勤候ニ付銀札
百匁奥番迄差出、奇特之訳合ニ付御受納在之、依而奥番ニ而無急度被下取斗

為伺御機嫌罷出ル、此頃出府ニ付 三岡助右衛門

一 信良義私用ニて罷出候を被為召暫御話被遊、拝診も被仰付候所御宜之義ニ被為在旨申上ル

一 五時前方御締切五半時過表相成御脚湯被遊候、十分御発汗在之候

一 御夜詰四時過引、宗甫御按摩被仰付、夜中御安眠也

九月廿七日 晴

一 御目覚六半時過

診 宗甫

一 御入側ニて御拭御仕廻御撫櫛御膳も御召上り御平生之通

一 宗甫奉拝診候処御平生方ハ少々御脈御進被遊候位、御氣熱も格別御厚召被為

在候故位之御義、且亦主一義御膳後罷出拝診仕候所尤御輕易之御義ニ相伺申候旨
御床も無之御温養被遊候、依之御薬前法ニ帖調上之

一金兵衛義御忌日ニ付御靈前御代拝被仰付相勤、上下着

一 四時過方恕介罷出御本如例 一 九時過大奥へ被為入御膳如例

繪奉書百枚過日重記献上品

右者歌島へ被下、同人方宿土井彦兵衛方へ相送ル、彦兵衛義ハ筆姫様御附御用人
相勤罷在候事故彦兵衛方御内々差上候趣之御内意被為在、即歌島へ申聞候

一 為御見廻常邸当番方仙庵被差越拝診被仰付候所至而御輕微之御様子ニ奉伺
候旨罷帰申上候様申聞ル

(一一〇)

一 七半時過表ニ而御そば御好ニて宜被召上候、相濟大奥御膳如例

- 一 韃負罷出如例、金兵衛相願退出致候事
- 一 七半時前主一拝診仕候処、御異状無之御晩発之御様子も不被為在旨申上ル
- 一 五時過方表御締切、五半時過表二相成御脚湯被遊少々御発汗被為在候
- 一 御夜詰四時引

九月廿八日 陰 晚来雨

- 一 御目覚六半時 診 主一

一 御拭御仕廻御櫛御撫付等昨朝之通り

一 御容体愈以御言御脈も大抵御平生之如く何も御異状不被為在旨主一申上候

御薬前法三貼差上之、今日方御転法解凝発汗湯

一 御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御膳如例

一 為伺御機嫌十兵衛始何茂罷出御目見、御菓子被下等如例、仙庵罷出同様

殿様方八寸重三 玉子 大和餅一

右者此頃之御容体二付御機嫌被為聞被進之

一 秋田弾正今日到着二付為伺御機嫌野服之儘被罷出、御目見被仰付御菓子并

御茶右被進之兩種御直二被下置之、過刻韃負罷出如例

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 夜分治部金兵衛始当番何茂於御前右被進之御菓子御茶被下之候

一 五時過御へ切相成、此節大奥へも大和餅被下相成候由

一 御夜詰引四時過思召二て表御寝也

御金懸り被仰付

山野十太夫

右者御側御用人申渡 但当春定介被仰付候へ共是迄之通御裏役之義も心得居候事故

御金懸りハ先不被仰付候へ共当節二而ハ御裏役も御用少二付本文之通

(一一一)

九月廿九日 快晴

一 御目覚六半時過

診 適齊

一 御拭御仕廻御櫛御膳等昨朝之通り

一 適齊・主一拝診仕候所愈御平穩御異常不被為在旨御薬前法三差上之

一 九半時過大奥御膳如例、怒介御用捨相願候

一 常邸へ金兵衛不快中頂戴物御礼伺御機嫌旁罷出候、明日ハ不罷出候

一 七半時過大奥へ被為入御膳如例、韃負罷出如例

一 夜分御へ切如例

一 御夜詰四半時過引

九月卅日 晴

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 御拭等昨朝之通り、主一拝診愈御異状不被為在、御薬ハ前法調上之旨申聞候

一 御臨書如例 一去ル廿七日方連日金兵衛義御神仏前御代拝相勤

一 九半時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 九半時過方長閑二付暫御庭徇伴被遊候

一 香西敬左衛門武田三十郎去ル十七日立今日到着二付為伺御機嫌罷出御目見

被仰付御茶御菓子被下置候 一鳥肉一羽分塩本多修理方被差上之
 一八半時過彈正靱負罷出御用如例 但少々召上り跡靱負甚十郎へ被下候
 御前様方 御鉢盛そば 治部金兵衛始両番へ被下置之
 一七半時過大奥へ被為入御同座御膳如例 五時過御々切相成候
 金二百疋 両役所手伝 川崎善兵衛
 右者今度於御国結構被仰付支度出来次第罷越候、老入御小屋新所代

(一一一)

二而身分二者不容易雜費も多く甚難義之趣、則伝兵衛方聊御手当之義
 歎願申出奥番方内達も在之如何難洪之訳合ニ付御側御用人江も申達候上
 本文之通被下ニ取斗候事、但以後台子又不寝役等ニも如此節ハ取斗可然事
 一御夜詰四半時前引
 十月朔日 晴好

一御目覚六半時

診 主一

一御拭等都而昨朝之通り、御膳後さつと御櫛差上候
 一御神靈前今日之御手備御拜金兵衛御代拜相勤申候
 一未御聊御咳氣被為在候故前法加減調上之旨主一申上候
 一 浜なつと五曲到来ニ付差上之 大道寺七右衛門
 一 中鹹一 海老二 秋田弾正へ

右ハ今般到着ニ付被下置之 御買上取計
 一殿様六半時御供揃御登城被遊、御退出懸被為入御対顔、九時大奥御入
 如例、御帰坐御菓子差上之、かのこ餅中君大奥へ被為入御膳如例御表様御弁
 当被召上御汁蜆御焼物小たい被進、相済中君御帰坐、無程御両所様御一所ニ
 御庭廻り被遊御供御側向一統罷出候、別段御供之面々御目見不被仰付無程
 御帰座、大奥方御くハし粕てら被進候、御供頭共御機嫌相伺御弁当後御煮麵
 御替付被進之、御帰殿八時三寸頃、御先番彈正弥一郎罷出候
 御二所様江 御煮麵仕立御重入 直ニ召上り相成
 殿様方

右者今日御入ニ付被進之
 清心院様方御重入玉子廿御籠入最中饅頭
 右者折から御様体被為聞被進之 御々切中御取林し
 表当番被下

(一一二)

一七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候
 一靱負罷出如例 一金兵衛義相伺候而退出致候事
 一五時過方御締切如例
 一御夜詰四半時前引

十月二日 晴
 一御目覚六半時

診 適齊 主一

一今朝方愈御快然被為在二付御手水御洗足御下洗御平生之通り
一御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御膳如例 御菓ハ前法調上也

英勇画史一冊宛 御菓子一包 熊吉

画譜

右者先達而方怪我致長々引込居候二付被下置之、父誠五郎御礼罷出ル

一八半時過方暫御庭へ被為入御徇徃被遊候、七半時過大奥御膳如例

一今日橋本左内義御調二付評定所御呼出之所揚り屋入被仰付、鎌落前甚十郎

罷帰右次第入御聴候、六時過鞆負も罷出例之通り

一五時過方御締切相成候 四時過市村乙助罷出御用有之、左内一条申上也

しら玉とう一箱

香西敬左衛門

生姜とう 一包

武田三十郎

右者今度持参仕候二付寸志御慰ニ差上之

一六時過桶丁辺出火二付為伺御機嫌治部始非番之面々御次迄罷出候

一御夜詰九時引

十月三日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一御手水等都而御平生之通り、御菓ハ前法調上之

御式所様方 八寸重 葛万寿 すし

清心院様へ

(二二四)

右者不爭斉様御妾腹お釧様御事去ル朔日午ノ中刻御卒去二付為御見廻

伊与守様へ御伝ニて被進之、但常邸ニ而取計

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、今日御中剃御櫛差上候

一八半時過御庭へ被為入御徇徃被遊候、為伺御機嫌罷出候万貞・長作・重太郎

始御供被仰付候 部屋頂戴御菓子在之候

一殿様方左内一条二付何角御心痛可被遊旨御機嫌被為聞今朝十兵衛被差出候

一為伺御機嫌御家老中被罷出御逢菓子被下之、昨夕御代拜二付

一鞆負罷登如例 一七半時過大奥御膳如例、五時過方御締切

一御夜詰四半時引

十月四日 晴 南風

一御目覚六半時

診 主一

一御様体弥御快然被為在御菓前方調上之

一去月廿六日立飛脚一日逗留今日到着、御国御穩静恐悦之事

一御臨書如例被遊候 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一九半時過久々ニて御入湯被遊候、相濟御神靈前御拝在之候

鶏卵十五折入

堀 平大夫

右ハ長々不快ニ付幸御在合品故無急度長作罷出候節相伝へ被下ニ取計

殿様方 八寸重 窓の月一 おすし一

右ハ靈明院様御年回二付御機嫌被為聞被進之

雲丹三箱 宇治の里 小箱一ツ、秋田弾正
玉あられ

右ハ今度出府ニ付御次被下ニもと被差上之

一為伺御機嫌勘解由近江罷出御逢被遊、梨子被下之、引続弾正鞞負

(二一五)

罷出例之通り相濟市村乙助罷出候、御留守居兩人御用捨相願候

一為伺御機嫌信良罷出被為召御漸被遊候、今日ハ怒介も罷出暫御咄被遊候
兩人ハ梨子・柿被下之

端溪硯一面御買上相成尅兩二歩二朱 後御取替相成二兩三歩也

一六時前大奥ハ被為入御膳如例、五半時前表御締切相成

一大奥御寢被為入、御夜詰四半時前引

十月五日 晴

一御目覺六半時表ハ被為入

診 適齊

一今朝方惣而御平常之通り

一御神靈前御拜如例、御庭御順拜被遊候、怒介罷出如例

一九時過大奥ハ被為入御膳被召上候

一今日快晴ニ付大奥方御内移も在之旁八時過方御締切御庭御尙大ニ御慰

ニも相成候由、大奥方当番詰合へ御酒少々いもころに一盛ッ、被下之

大こん抜き

青松院殿へ 宇治の里 哥島方相伝被遣ニ相成申候

生かとう

一為伺御機嫌次郎右衛門・幸右衛門罷出、御々切中御逢ハ無之

一常邸へ為伺御機嫌金兵衛・岩次郎始罷出候

一鎌落頃御帰座、鞞負罷出如例、夜分御締切如例

一表御締切御寢、御夜詰四半時前引

十月六日 晴光

一御目見六半時

診 宗甫

一五時過御神靈前御拜被遊御庭御拜、畢而御廻歩在之候

一御臨書如例 一九時過大奥御膳如例

(二一六)

金拾六兩 機那焰十瓶 一瓶一兩二歩一朱也

右ハ過分之廉価ニ付主一絶而御買上願出ニ付御用意ニ御貯ニ相成候事

金五兩有故被下之 端元景岳へ

一為伺御機嫌今日横浜方罷帰候ニ付罷登御目見被仰付、御茶菓被下之、所左衛門

一八時過方兩三政被罷出如例 一七半時過大奥ハ被為入御膳被召上候

一七時過方暫御庭ハ被為入御遊船被遊候、夜分御締切如例

一御夜詰四半時過引

十月七日 陰晴未定

一 御目覚六半時

診 主一

一 五時過御神靈前御拜、夫方御庭御順拜被遊候

一 御様体御全快二付今日方御休薬、兼而コロリ御予防御薬も共二相止、主一申達

一 今日五時不遅様評定所へ留守居御呼出石谷因幡守殿様方申来、御用人方申上五時

一 四時過方恕介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 八時前鞞負罷出左内被仰渡之申上在之、御目付ハ御用多二付不罷出候

一 右一件二付弥一郎義為御見舞被差越鳥渡御目見被仰付候

一 為伺御機嫌治部初御医師御側向之面々罷出候、恕介も罷出候

一 鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候

一 夜分三郎兵衛方弾正被罷出左内義巖科二被処候書付持参入御覽候

一 御前様方御家老御側御用人甚十郎等へ御葛湯被下置之

一 常邸へ為御見廻五郎大夫被差越御挨拶旁也

一 御予防ニ沈痘飲二貼主一申出差上之、五半時過方暫御締切相成候

一 御夜詰四半時前引、非常二付五大夫・喜十郎不寝相勤候、小十郎ハ御錠口番也

(二一七)

十月八日 晴

診 適齊

一 御目覚六半時

一 五時過御神靈前御拜被遊候

一 沈痘丸一粒ツ、并同法御煎薬二貼被召上候、主一調進之

一 常邸へ為伺御機嫌金兵衛罷出候、十兵衛義も同断罷出御逢被遊候

一 為伺御機嫌恕介罷出ル 一九時過大奥御膳如例

殿様方御籠之内煎餅 おこし

中将様方 串団子 鉢盛 赤黄

右者折柄御見廻右御返し旁被進之

土さつま芋 一台上り

但 御年寄御錠口并表御附始両番へ被下之

一 為伺御機嫌剛右衛門・敬左衛門始何茂罷出右おこし部屋頂たい、弥一郎義御用捨願

万貞仙庵も罷出如右

一 御家老被罷出御逢御用在之有事弾正鞞負別々ニ被罷出候、御目付も為伺

御機嫌罷出候 一七半時前大奥へ被為入御膳如例

一 夜分甚十郎罷出貝筆洗佐渡石筆立御慰ニ持参差上之

御前様方六寸重御汁粉召上り 鉢もり蕎麦 御酒 露付

右者折柄為御見廻召上り御側為御慰被進之 但右御酒御そば御側御用人

始御役人江被下之

一 五半時過方表御締切

一 御夜詰四半時過引、但御不寝岩次郎・十大夫相勤

一 殿様御義今般佐内蔵科二被処候二付御差控之御内意御伺ニ相成候所七時前御
差控御伺御差出相成候様御差凶在之二付即刻七時過御進達相成候所夜二入

(二一八)

其御儀二不及旨御差図在之、難有事御坐候、五半時頃此段治部方申上二相成

十月九日 雨天

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御家老被罷出御逢被相願御用在之候、畢而御神仏前御拝如例

金七百疋

不断院へ

右ハ景岳一条ニ付大奥御年寄取斗百ヶ日迄経料として相達ス、尤御内意

在之ニ付取斗候事

一今晚道中六日振飛脚出立之事

一愈御變動不被為在難有主一拝診之上御薬ハ前法調上之、御丸薬止

一九時過大奥御膳如例 一九半時過定式御湯被為召候

殿様方 六寸重二 御干菓子 御すし

右ハ今日御入之節被進之处御入御延引相成候得共其儘被進之

御前様方 鉢盛すし 御酒一徳利

右者御側御慰として被進之、但御へ切中御取林跡両番被下、手伝等へも少々ツ、被下

一恕介暫罷出御咄被遊候 一七半時過大奥御膳如例、五時過方御締切

洋製二響銃 一箱 劍鑄形鹿袋付

赤銅色絵鴛鴦目貫一具 程乗作折紙付 中根鞆負

右者一昨年来不容易勤勞且長詰被思召太儀別段之訳ニ而罷出候節

御直ニ被下置之 一金兵衛義相願五時過退出致候

挽拔番表一袋 紺更紗服紗一 鞆負

右者今日内藤殿へ罷出候所載候ニ付不取敢御慰ニ差上之

一御夜詰四半時前引、五郎大夫・喜十郎 不寝相勤

(二一九)

十月十日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神仏前御拝被遊、御臨書如例

干海苔五

河村三左衛門

舶来大瓶

草尾精一郎

右者此頃横浜方罷帰御内々差上之、精一郎義ハ小十郎方御内々差上度旨申出候也

一愈以御異状不被為在至而平担ニ付御薬不差上旨主一申達ス

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、御庭御順拜被遊候

御二所様へ

殿様方 菊切花二括被進之

一殿様九半時御供揃ニ而八時前被為入御対願、無程大奥御対面、御帰坐之上御菓

子うば玉差上、大奥方も被進、非番五郎大夫始何茂御機嫌窺罷出御目見被仰付、畢而

御供之面々被為召候而剛右衛門・敬左衛門罷殘御脇差等拜見被仰付、御供頭共為伺

御機嫌罷出候、八半時過暫御用談在之、相濟御退散、正七時十兵衛罷出候

一七半時過御家老被罷出御逢被相願候、彈正靱負罷出候
一鎌落前頃御締切相成御同座御之被召上、彈正靱負御相伴被仰付、引続
御膳被召上候、相濟彈正靱負へ御酒肴被下置 さしみ 御飯 汁 きらず抜き身 頂戴
竹ハ 大こん はんへん な
肴に付

被仰付、御取持甚十郎・宗甫後金兵衛被為召候、御二所様御酌御飯御直盛等二而
御懇意之御事、畢而御菓子被下、御前様御薄茶御直立二而被下置、尤兩人斗
彈正此頃到着靱負者出立二付被召、何レも大奥へ頼取斗出来御払者御内証出也
右相濟四時過表二相成

一大奥御寝、御夜詰四半時前引

十月十一日 雨

一御目覚六半時表へ被為入

診 適齊

(一一〇)

一五時過御神靈前御拜被遊候、靱負被下之御大字被遊候
一四時過方恕介罷出如例 一九半時過大奥へ被為入御膳被召上候
一中根靱負明日出立二付鎌落前為伺御機嫌罷出、其節頂戴物左之通り

全白紙御認 送中根師資

汝將帰郷啓行在明日予不堪別離之情夫汝之忠貞

清染吾所夙感心緒万縷総在不言之中自今以後公務有

暇優游以養其身哉

安政六己未初冬憶識 外二送別御詠御短冊一枚

唐硯一面 唐墨一挺 唐筆一握 何茂御机上二在之御遣ひ之御品也

御二度御廻り小鯛色付焼二枚 十分之御懸命不可過之

一七半時過大奥へ被為入御膳如例、五半時過方御締切相成

一御夜詰四半時過引 一御前様方八丈島一反

上々御細工物品之一品包頂戴之 靱負へ

十月十二日 雨追々晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御神靈前御拜被遊候 御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、御帰座後暫御庭御徜徉被遊候

一彈正罷出暫御人払御用在之、無程恕介罷出如例

一七半時過大奥へ被為入、御膳被召上候、夜分五時過方御締切相成候

一大奥御寝御入、御夜詰四半時過引

十月十三日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神前御靈前御拜、相濟御庭御例拜被遊候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

御前様方 車海老十五 御三度召上り 鉢もり切酢 奥表半分ツ、
表之分例之通被下

右者今日御灸治に付思召物且御側御慰として被進之

- 一 九半時揃御養生御灸治御締切ニ而被遊候、御医師三人共罷出候、金三郎・銀蔵御相伴被仰付小点墨被下之、御二所様へ御生菓子差上之、御相伴共七時過相済申候御徴も宜く益御機嫌克被為在候段当番適齊申達ニ付申上候事
- 一 右御締切中へ伺御機嫌罷出候、十兵衛被為召御酔御茶被下候事
- 一 為伺御機嫌重太郎・長作始罷出御目見ハ無之御菓子被下之、元珉同様仙庵へ御灸治中暫被為召候
- 一 七半時前暫時御庭御尙伴被遊候、御帰座大奥へ被為入御膳如例
- 一 今御三度御膳方文昭院様御忌月ニ付御精進之所へ御肴差上召上りニも相成候趣御沙汰在之、御膳番無申訳不調法至極奉恐入候、然ル所御憐愍之御沙汰ニ而金兵衛取計ニ而者事輕過候間治部方何差出度御内意相伺候旨被仰付候ニ付則治部を以近藤左大夫・小林又兵衛并御膳番当五郎大夫・岩次郎・当小十郎・十太夫義不調法奉恐入、依之何差出度旨御内意相成候所、少々召上りニも相成候御義故不及其義旨被仰付御憐愍難有仕合奉存候、其段左大夫始へ治部方申渡候依之左大夫義ハ当番ニ付御礼申上、又兵衛義ハ部屋迄罷出候、五郎大夫始四人ハ金兵衛差加り御礼申上候、何も治部宅へ挨拶罷越ス、但此所置御隱殿御慎中故如斯
- 一 右一件ニ付御料理方友次郎・佐太郎義も同様恐入候次第ニ付当邸御用兼頭目付を以同差上度旨御膳番迄申出候段此方へ相達ニ付此段奉伺候所御膳番同様ニ被仰付候ニ付其段御膳番へ申聞当方頭目付へ申聞候事
- 一 五半時前方御締切
- 一 御夜詰四半時引 宗伯召御按腹等被仰付候

(一一二)

十月十四日 陰雨不定

一 御目覚六半時

診 適齊

- 一 五時過御神前御靈前御拜被遊候、御臨書被遊候
- 一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、九半時過定日御湯被為召候
- 一 長尾順庵昨夜佐倉表へ外療罷越居候所此頃暫中帰致候ニ付為伺御機嫌罷出鳥渡御目見被仰付候而御菓子被下置之候
- 一 為伺御機嫌御家老中弾正被罷出御逢御菓子被下之、勘解由も同断万貞昨日当番ニ付今日罷出候
- 一 七半時過暫御庭御尙伴被遊、其節伺御機嫌罷出御目付并大道寺七右衛門真杉所左衛門御供被仰付候、御菓子被下之
- 一 鎌落頃大奥へ被為入御膳被召上候、五時前方御締切相成候
- 一 大奥御寝御入、御夜詰四時過引

十月十五日 晴

一 御目覚六半時

診 宗甫

- 一 五時過御神靈前御拜、御例之御手備被遊候、御庭御順拜被遊候

雲丹五箱 内藤御隠居様へ

上月成奉書 一束

斎藤弥九郎へ

宇丹十箱

右者鞆負内藤殿へ罷出候折柄被進取計、斎藤ハ渡辺登山絹地竹画三枚
差上候ニ付御挨拶被下ニ同人取計在之

一殿様六半時御供揃ニ而御登城被遊、御退出懸被為入直ニ御対顔、無程大奥
へ被為入御対顔之上御帰座、御菓子差上之白玉饅頭 非番之面々罷出御機嫌

大和錦

相伺申候、御供之面々被為召御逢在之候、大奥へ被為入御同坐被進之御そば続而

(一一三)

御膳被召上候、御留守中ニ被進之、御そば御小弁当被召上 御汁 玉子 差上之、畢而

御平 菜 切み

中君御帰座、大奥方御菓子被進之、御帰殿八時前、弾正弥一郎罷出候 御供
頭共伺御機嫌罷出候

御二所様江 八寸重ニ しつぼく仕立 露付

殿様方

右之通今日被為入候ニ付被進之、但御三所様召上り相成

御式所様江 八寸重ニ 御煮染 ます 長いも 御汁ニ仕立

蓮性君方

右者折から御機嫌被為聞被進之、但御三度召上り御べ切中御取林し

一八半時前方御庭廻り被遊候 一七時前方恕介罷出如例

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過御締切例之通り

一御夜詰四半時前引 一金兵衛義相願致退出候事

十月十六日 快晴

一御目覚六半時

一五半時前御神靈前御拝被遊御庭御順拝被遊候、御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

殿様江 七寸重ニ 烏羽玉 紅白御すし

右者今日実之助様御出被成候御様子故無急度被進之

一八半時頃方御締切御庭廻り在之、召上り御有合御干菓子差上之、御次被下
雑菓子一盆差出ス、左記樽柿被下ニ相成申候、鎌落前御帰座適齊罷出候

樽柿一盆 附木故差上之 亥之助

一鎌落頃大奥へ被為入御膳被召上候、五時過御締切如例

一御夜詰四半時前引 宗伯召御按摩被仰付候

十月十七日 晴好

(一一四)

一御目覚六半時

診 適齊

一五半時前両御拝被遊、夫方御庭御拝如例

うに三箱

藤田与一兵衛

八寸重御にゞ一

右者近來余々々御尋等も無之先日方少々、不快之趣ニ付無急度甚十郎

方添翰ニて被下ニ取計候事 但此一条相止御にゞハ清心君へ被進相成申候

一四時過方恕介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一八時前方御庭御散步左太夫被召連候

八寸重老組四 煮肴 酢 色餅二 藤田与一兵衛

右者近來漸々大病之趣ニ付俄ニ常邸取計ニ而被下相成候事

六時過御前様松山へ被為入御炎上之様子御見物被遊候 山下ニ金兵衛・五郎太夫控居

一七半時過大奥御膳如例 一五時過方御締切例之通り

一金兵衛義少々風氣ニ付養生之為御用捨相願退出致候事、炎上ニ付不相下

一治部始非番之面々御医師恕介等伺御機嫌罷出候事

一七半時前方御本丸炎上絶言語奉恐入候、夜五半時頃方追々鎮火、二丸西丸者

無御別条西北風弱ク御櫓四ツ御焼失之由

一殿様即刻御登城被遊、御下乗御床几懸り津山様・因州様・肥前様・高松侯

御登城有之由、御目付方方御達ニ相成御老中方益御機嫌克段御達在之御勝

手ニ御退出被成候旨御達ニ付御下りニ相成候由

一不取敢為御見廻当番方小十郎被差越常邸甚御人少之義故非番方岩次郎

幾太郎・亥之助被差遣候、御帰殿之上三人共引取委細御模様申上候

籠入巻煎餅 窓の月 上り 真乘院

たはこ一箱 御在合ニ付被下之 同人へ

一大奥御寝被為入、御夜話四半時前引

十月十八日 晴光美日

(二二五)

一御目覚六半時表へ被為入

診 宗甫

一五半時前両御拜被遊御庭御順拜被遊候

一御炎上ニ付為伺御機嫌金兵衛罷出候、但昨夜番外以上伺御機嫌御用引ニ付

一殿様今朝御触達ニ付四時前即刻御供揃ニ而西丸へ御登城被遊惣出仕、昨夜御炎上

ニ付御機嫌伺御老中被謁候、御退出懸被為入御機嫌伺被遊、九時前

御一所ニ大奥へ被為入御対面、中君ハ御同座御膳如例、御表様ハ御帰座御弁当被召上候

御汁とふゝ 御皿御さしみ差上之、相濟中君御帰座御菓子金ツバ焼差上之、大奥

方御菓子被下之、御供之面々御目見被仰付、部屋ニ而伺御機嫌罷出候面々

共御菓子被下之、彈正十兵衛罷出候、飛脚到着、御二所様へ治部御用状入

御覽候、十兵衛持参致真砂糖一箱明石産御到来ニ付被進之、御披キ八時過

一去ル十一日立飛脚道中六日振一日滞留到着、御静謐恐悦之事

一金兵衛義五大夫於御国御裏役被仰付候ニ付治部迄御礼申上、岩次郎・平八郎義大関彦兵衛

結構被仰付候ニ付同断、常邸へハ明日罷出候

一川村藤一郎義去ル四日着、御機嫌伺且頂戴物御礼書状差出入御覽候

一高田孫左衛門義も出立前頂戴物御礼書状差出入御覽候

御徒頭被仰付御役料五十石被下置候 御附頭取 大谷孫大夫
右二付御内々御礼書状差出入御覽候、但御礼ハ無之廉歟、跡部幸八跡也
金百疋 鮎川浦 弥左衛門 金五兩 天王村 加藤与次兵衛
同五兩 家久村 甚兵衛 同同断 土打村 松原五郎兵衛
同老兩 下兵庫村 野村弥三郎 銀五拾匁 波寄村 源介
銀五匁 光明寺村 応助 金百疋 舞や村 吉兵衛
金老兩 下広瀬村林正寺老僧 同二兩 御預所 舟寄村
徳成 恩地唯之助

(二二六)

金十九兩二歩下五十五匁也

右者今便御国頭取方此方頭取迄相廻り入御覽候

一昨夜御近火二付田安様へ今朝御食籠御添重外二御次被下等常邸方被進二相成

青松院殿へも夫々被遣物在之由承り申候

御二所様へ 御小重二 御蒸くハシ 八寸四重組 御そば三 御合くさ一

細川御二所様方

御すし

右者折から御機嫌被為聞被進之、但何も大奥にて召上り取はやし相成候

白砂糖

富瀬へ

く(二)

右者長々不快二付今日養寿罷越候折から無急度御尋被下置之

一御炎上二付為伺御機嫌御家老中近江重記被罷出御逢被遊候、引続

大道寺七右衛門・榊原幸八罷出同断、万貞・元眠罷出同断

一七半時前暫時御庭御遊歩被遊候、鎌落大奥御膳如例

一五時過方御締切如例 一焼鮎一箱市橋環蔵方御内々御膳番迄指出ス

一御中臈ひな宿元致而貧家ニ而諸事仕向方不行届色々難渋之訳合

も在之由、齊藤弥九郎鞆負へ口解無抛次第二付是迄引替来候趣

依而今度内許之上不得止義二付当盆方暮迄之分三兩鞆負へ相渡ス

申ノ盆暮二六兩相送候様相定候事、惣御内証出方

何方方弥九郎へ相廻り宜や、談事もの也

一御夜詰四半時前引

十月十九日 晴光

診 主一

一御目覚六半時

一五時過御神靈前御拜被遊御庭御例拜も在之

一御用状持参市村乙助罷出入御覽候

一九時過大奥へ被為人御膳被召上候、九半時過例日御浴湯在之

一七時前方恕介罷出暫御閑話被遊候、七半時過大奥御膳如例

一今晚道中六日振飛脚出立之事、主一へ御託仲庵へ砂糖漬棗小箱一被下置候

金七百疋

故藤田与一兵衛へ

右ハ勤中何角御用向相勤候二付被下置之

六寸重二 御飯

仲野へ

(二二七)

右者此頃不快罷在二付御内々御尋被下置之、明日

一五時過御締切如例 一金兵衛義御用捨相願退出致候事

一大奥御寢御入、御夜詰四半時前引

十月廿日 晴寒

一御目覚六半時表へ被為入

診 適齊

一五時過御神靈前御拜、夫方御内庭ヲ御拜被遊候、御臨書如例

一九時過大奥御膳如例、九半時頃方御庭御閑歩被遊候、諸社御拜も被遊候

一彈正罷出如例、怒助罷出八大家如例

一常邸へ為伺御機嫌金兵衛始五郎大夫何茂罷出候

一七半時過大奥御膳如例、五時過方御へ切如例

一御夜詰四時過引

十月廿一日 晴雨不定

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過両御拜、御忌月御定御手備被遊候、御庭御順拜被遊候

一御焼捨物配当方仕分如例年今日方相始候事

一御庭方之者日々御庭廻り等にて御掃除等甚手張迷惑之趣申立、実ニ相違

も無之義ニ付御奉行へも其段申達盆後方定取人式人出来致候、然ル処御舟二艘

之世話并御馬場番所昼夜之見廻り等之方へ昼飯も少々且又御船二付尤昼飯

無之過役旁困窮難洪之旨頻ニ申立在之、右ニ付当月ニ至り候而者御庭生草

其外御掃除ハ少手透キ之方故右取人二人元部やへ来月三ヶ月相返シ其昼飯

を前条申立之方へ差遣シ勤込為致度旨御奉行へ懸合内評之上今日御裏役

方表向手紙差越ス、尤来申ノ二月方又取人二人這入候筈之事、但明年方ハ十月方正月迄之筈

(二二八)

一九時過大奥へ被為入御膳如例、八時前御庭廻り被遊候、怒介罷出如例、今朝也

一阿部伊予守様方御朦中ニ被進物御挨拶、御側使者三留甚左衛門御広式江罷出

候旨御用人方承り其段奉申上候

肥前守様方御国産刻菓十五包

筆姫様方 同 十五包箱入

右者此頃御参府ニ付御内々被進、過日哥島宿方無急度絵奉書一箱被進之御

挨拶として御内々哥島迄相廻被進之

青松院殿方籠之内大平目一 小たい一

右者殿様へ被差上候ニ付此御方へ相廻申候 平目一

仲野へ被下

小鯛一 御返し 小林又兵衛へ被下

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御締切如例

一為伺御機嫌次郎右衛門・太郎大夫罷出御逢ハ無之

一御焼捨御召類配当仕分手廻宜く出来金兵衛見分之上御覽被遊、今日ニも

頂戴相成候而差支も無御座ニ付先例ハ来月朔日被下之仕来ニハ候得共手廻し出来

候義故奉伺候上今日頂戴ニ取計候事

- 一 御側御用人秋田彈正御上下一稲垣治部同様、金兵衛奉書袖御綿入一頭取御四品ツ、平之分ハ三品ツ、熊吉・岩吉二品ツ、金三郎・銀藏太織島一反ツ、恕介青目島御袷一ツ、手伝方以下爰ニ略ス、大奥御年寄兩人養寿御中臈御錠口三人表使二人近例之通被下、御附衆兩人黒羽二重二御綿共白御下着同御帶一夫々如例年頂戴相成候事
- 一 御側向頭取ハ近年御断申上頂戴無之候得共十兵衛方御側御用人へも申達御紋服一ツツ、ハ頂戴仕可然義ニ付当年方頂戴仕候、附彈正ハ通勤之廉ニ而被下置候
- 一 頭取四ツ平二ツと申も昨年ハ御二三所様打込ニ相成御数多故之事也、当年ハ尤御時節柄故御数少々候得共亦御人少故御数も在之ニ付昨年之通配当相成年々御品数之多少ニ依り四ツ三ツ之所ハ定り無之筈之事

(二一九)

- 一 御平生召袖御上下何茂大御穢ニ而当り前敷之内へハ這入兼候所十具余も在之
- 二 付当年限り御在合故金兵衛方亥之助迄別段二一具ツ、被下相成候事
- 一 表使梅義ハ介ニ付綿被下無之、御錠口介そで事も当年ハ暫之義故綿百匁被下、明年方百五十匁被下候様申出ル、尤御襦袢被下も無之事、御坊主被下絹御下帯ハ無之ニ付一朱ツ、被下
- 一 御夜詰四時過引

十月廿二日 晴

一 御目覚六半時

診 主一

- 一 五時過御庭御順拝被遊、夫方御神靈前御拝被遊候、御臨書如例
- 一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、九半時過御庭御閑歩被遊候

御札守 籠之内御肴 但御初尾 百疋 仲野へ

右者此頃大病ニ付御祈禱被仰付御札守等被下置之

- 一 七時前方恕介罷出如例 一七半時過大奥御膳如例、五時過方御々切如例
- 一 御夜詰四半時前引

十月廿三日 晴陰 九時微震

一 御目覚六半時

診 適齊

- 一 五時過御神靈前御拝被遊、夫方御庭御順拝被遊候

御裏役御免被成候 頭取定介 山野十大夫

右者定介被仰付候砌方は迄相心得居候所追々御用少且喜十郎・平八郎義も事馴候ニ付御側御用人申渡之廉を以金兵衛方本文之趣申聞候

ヒヨシヤモスエキス 目方 拝借願出被下相成 仲野へ

四匁

- 一 御近習頭取へ御奉行方差出候旨ニ而御用人方相渡候書付写置
- 御家中末々迄江戸詰中致病死遺物等御国へ引取或ハ病氣依願
- 御国へ御返シ被成候節是迄馬銀雜用銀等不被下置候得共此度格別之御憐評を以以来左之通御取扱可被下旨被仰候

(二三〇)

別紙

- 一病氣二付願申上罷帰候節其分限二応馬銀雜用銀可被下候事
- 一病死二付遺物等御国表へ引取候節当人分限二応馬銀可被下候事
- 一御貸人在之面々并小役人以下諸下代迄遺物御国表へ引取候節御荒子老人御貸渡可被下事

- 一九月前輕震候得共長く候故為伺御機嫌非番之面々御医師左大夫・又兵衛一寸罷出候
- 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、御帰座後御庭暫御徇伴被遊候
- 一為伺御機嫌彈正十兵衛初重太郎・長作何茂罷出御逢被遊候、万貞仙庵も罷出串団子被下之

- 一七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、五時過方御締切如例
- 一御夜詰四半時引、宗伯召 一金兵衛相願退出致候事

十月廿四日 陰

一御目覚六半時

診 宗甫

- 一五時過御神仏前被遊、夫方御庭御順拜被遊、御臨書被遊候
- 一九時過御膳大奥二而被召上候、九半時過御浴湯被為遊候
- 一為伺御機嫌御目付罷出御逢、彈正重記近江罷出御逢、七右衛門・所左衛門信良同様也、河村三左衛門も罷出御逢無之候

金五兩御内証新御定外半分ツ、出方 仲野へ
右者追々大病之趣二付為御夜喰料被下置之

- 一七半時過大奥御膳如例夜分御締切如例
- 一昨夜方貞觀政要御輪読相始ル、何茂罷出ル
- 一御夜詰四半時前引

(三三二)

十月廿五日 陰

一御目覚六半時

診 主一

- 一五時過御神靈前御拜被遊候、夫方御庭御例拜被遊候
- 一四時頃方恕介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候
- 一玉霰小箱一小栗治右衛門義先日方長々不快罷在不輕病体二付無急度岩次郎持参致被下二取計、先日小六へ被下物在之故也

一常邸へ為伺御機嫌金兵衛始岩次郎等何茂罷出候

- 一為伺御機嫌杉浦幸右衛門罷出御逢被遊候、夫方御庭御逍遙在之
- 一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、夜分政要御輪読被遊、御々切も如例
- 一御夜詰四半時前引

十月廿六日 追々晴

一御目覚六半時

診 適斉

- 一五時過御神靈前御拜、夫方御庭御順拜被遊候、御二度御膳後相成

清心院様へ 六寸重二 御にゞ 酢

右者持名院此頃逗留之由二付被下二もと被進之、常邸取計

御前様へ 六寸重二 御汁粉あんだんご 御なべやき物

右者仲野義漸々大病之趣ニ而御心配被思召ニ付為御尋被進之

九こん三升

御附 富田始へ被下之

鉢盛切すし

一御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一彈正罷出例之通御家老中被罷出御用在之、畢而怒介罷出如例

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、六時過方政要御輪読被遊候

中將様振退勤ニ而当番失脚却も在之趣ニ付 佐藤宗甫

当年方年々銀七枚被下置候

(三三三)

右ハ御用人方即刻呼出ニ而御書付被相渡候、尤父子共此方迄御礼罷出ル

一五時過方如例御締切、其節甚十郎罷出千本弥三郎到着ニ付御国表

左内一条之九日立飛脚着之上之模様委敷申上候趣也、尤暫御人払之由

一御夜詰四時過引 一御前様方串団子金兵衛始両番へ頂戴之

十月廿七日 陰 午後雨

診 宗甫

一御目覚六半時 一五時過御神靈前御拜被遊候、御庭御順拜被遊候

御下緒一懸 御盃一 河村三左衛門

右ハ明日出立ニ付為伺御機嫌罷出御目見被仰付、御懇之御意被成下一昨

年来松君御一件当邸御普請横浜御陣屋御普請等格別骨折

心配致折々差上物も在之、旁本文之御品御直ニ被下置之

一怒介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一七半時過大奥御膳如例、五時過方御締切如例、金兵衛相願退出致候事

一六時過貞觀政要御輪読被遊候、何茂罷出候

一御夜詰四時引 宗伯召

十月廿八日 快晴

診 主一

一御目覚六半時 一五時過御目付罷出御用状入御覽候廿九日

一五時過御神靈前御拜被遊、御内庭斗御拜在之、相濟御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

紀国蜜柑一盆到来ニ付被差上候 山県三郎兵衛方

一為伺御機嫌剛右衛門・敬左衛門始罷出御目見被仰付、阿部川餅御茶等被下置、弥一郎

義頭痛病氣ニ付御用捨相願不罷出候、仙庵信良罷出同断

(三三三)

御式所様江 七寸重三 御汁仕立二 御蒸菓子一 御庭御取林

大名小路御二所様方

右者折柄御機嫌被為聞被進之

八寸二重 煮染 薄皮もち 御庭御用相成 仲野

右者御二所様へ御側御慰ニ到来ニ任セ差上之

家覺一番到来ニ付差上之

宗甫

一八半時前方御締切御庭へ被為人、召上り御くハしふくら雀御次被下、きざわし差出ス、
彈正被罷出被為召、六大夫・左大夫・金兵衛・適齊等被為召御酒御肴御吸物御菓子等
頂戴被仰付候、鎌落過御帰座、無程大奥へ被為人御膳被召上候

一去ル廿一日立飛脚今夕到着、御国表尾靜謐恐悅之事
一夜分政要御廻読被遊、何茂罷出候、五半時過方御締相成申候
一御夜詰四半時引 一鴨一羽本多修理内献在之、切肉被下相成候

十月廿九日 晴

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過兩御拝被遊、夫方御庭御順拝被遊候
一九時過大奥へ被為人御同座御膳被召上候、九半時頃常式御浴湯
一御家老中被罷出御用状被入御覽候、万貞昨日当直ニ付今日罷出御逢在之
一怒介罷出如例 一熊吉義痛所快復ニ付今日方出勤致候
一七半時過大奥御膳如例、五時過方御締切如例
一御夜詰四半時前引

十一月朔日 陰

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御神靈前御拝例日御手備被遊、夫方御庭御順拝在之候

(一三四)

一五半時頃方怒介罷出如例、九時過大奥へ被為人御膳被召上候
一殿様六半時御供揃ニ而西丸御登城、御退出懸九時過被為人、直ニ御対顔
夫方大奥御対面、無程御帰坐、暫中君大奥へ被為人、御跡ニ而御表様御弁当
被召上、御汁とふ、御焼物小たい差上之、相済中君御帰坐御菓子うば玉差上、大奥
方も御蒸菓子被進、暫十兵衛罷出居御人私御用在之、無程相済御供之面々被為
召、畢而御同伴御庭廻り、松山ニ而御休御遠見御茶菓被召上、御側向御供一統
罷出候、夫方暫御船遊在之候、畢而御帰座薄皮餅差上之、御供揃被仰出候
御帰館八半時過、驛正義遅々方罷出候

御二所様へ 八寸重二 薄皮餅 御入二付被進之

殿様へ 御葺七包 御短冊三々御席上被進之

一今晚道中六日振飛脚出立致候

一御供待中御供頭共御機嫌相伺フ、此段申上候

一七半時過大奥御膳如例

一夜分治部左太夫金兵衛始当番被為召薄皮餅於御前頂戴被仰付候

一五半時頃方御締切如例

一御夜詰四半時前引

十一月二日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神靈前御拝御庭御順拝被遊、御臨書如例

一九時過大奥へ被為人御膳被召上候、八時前方御庭廻り御舟遊在之候

- 一八半時過方恕介罷出如例、相濟御大字被遊候
- 一七半時過大奥御膳如例、夜分政要如例御読、畢而如例御締切

(二三五)

- 一大奥御寝御入、御夜詰四時過引 一金兵衛義相願退出致候事

十一月三日 晴

- 一御目覚六半時

診 適齊

- 一五時過御神靈前御拝、夫方御庭御順拝被遊候
- 一九時過大奥へ被為入御膳如例
- 一為伺御機嫌十兵衛始剛右衛門・敬左衛門初何茂罷出、万貞・仙庵同様被為召
- 一御菓子御茶被下置之候、弾正罷出候、御庭廻り御遊船網被仰付候
- 一七半時過大奥へ被為入御膳如例、夜分政要御廻読、畢而五半時前方御々切
- 一御締切御寝、御夜詰四半時前引

十一月四日 晴 晚来雨

診 宗甫

- 一御目覚六半時六時表二相成
- 一五半時前兩御拝如例、御庭御順拝も亦如例
- 一九時過大奥御膳被召上候
- 一為伺御機嫌重記・近江罷出御逢、御菓子被下御目付御留守居罷出同断
- 御家老中出勤無之候

清心院様方 八寸二重 盛合せ肴 御生菓子召上り相成

御式所様江 鉢もり御仕立肴 大奥御取はやし御用

御同所様方

御二所様江 籠之内おこし上り 花井

右者今日花井参上ニ付御機嫌被為聞被進之、且差上之半分当番被下

- 一七半時前方暫御締切被仰出候、直ニ御膳も被召上候、花井被為召御酒被下置候
- 甚十郎・左太夫も被為遊召御酒頂戴在之由、六半時過表二相成御残物ニ而御酒
- 少々金兵衛始へ被下置候、五時過再御々切相成候

(二三六)

- 一御夜詰四時過引、宗伯召 一清心君へ包苴三 御たにざく五被進、花井へ

御在合うに三被下之

十一月五日 陰

診 主一

- 一御目覚六半時
- 一五半時前御神靈前御拝被遊候、御庭御拝無之
- 一今朝四時御用人呼出ニ付金兵衛罷越今夕之御機嫌伺申上候、五郎大夫義同断
- 被相渡候御書附左之通り

来年御帰国之儀昨年御代替後御滞府ニ付一日も早く

御入部被遊海岸御備向を始御国政御取締之義尚亦厚被仰付度ニ付

来三月上旬御参駕被遊度旨御願被差出候所御願之通被仰出シ

左様可被相心得候

右之趣御附へも可被申聞候、但松井・森へ其段相達ス

一 伺御機嫌申上候節上下着恐悅申上候、五郎大夫義も同様常郎十兵衛始何茂詰合之面々上下着恐悅申上候二付相準シ候事、今夕小十郎始罷出候面々も同断也尤番外以上等恐悅無之御手許之故之義也

一 中将様江金兵衛始詰合何茂罷出平服之儘御飲申上候事

一 四時過方恕介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一 九半時頃暫御庭廻り被遊候、彈正罷出如例

一 為伺御機嫌次郎右衛門・太郎大夫罷出御逢無之

一 七半時過大奥御膳如例

一 今朝方少々御鼻水被為入、別二御異状不被為在候所六半時過例之政要御廻読被遊、其中風与聊御感冒之様被思二付直二当番適齊・主一拝診被仰付候所御聊御脈御數多く御背部御汗氣被為在御手へ却而御冷被遊、御肌

(二三七)

熱口敢而相伺不申旨孰れ御養生二御脚湯被遊、御菓差上度旨申上右二付御締切ハ無之御脚湯被遊、相濟御床へ被為入宗伯召御按摩被仰付、緩和発汗湯二貼調進直様差上之

一 御夜詰四時過引、不寝無之折々御様子相伺申候、夜中御安眠

十一月六日 快晴

一 御目覚六半時、御拭御仕廻御撫櫛 診 適齊 主一

一 愈御輕微之御義相伺候旨御養生二御床二ハ被為入多分御詩哥御慰被遊御菓鎮疫発汗湯二貼差上之

一 御二度御三度表御べ切二而被召上候、御相応被召上候、夕方恕介罷出如例

一 御沙汰在之旁金兵衛義左内參罷越、五半時出宅七時過罷帰

一 彈正義被召出候 一 御前様方為御慰すし一重被進金兵衛始詰合へ被下置候

一 御三度御膳之節御締切方終始表二不相成

一 金兵衛御用捨相願致退去候事

一 御夜詰四時過引

十一月七日 晴

一 御目覚六半時、御拭御仕廻御撫付 診 適齊

一 愈御容体御輕易二被為入、御菓ハ前法三貼調上之主一申達ス、適齊罷出候

金五両

小関犀次郎

右者勝手向難洪二付御趣意金拝借願出願之通被仰付

清心院様へ 島ちりめん一反台居

右者お勝様御鉄漿御祝二付無急度御伝へ二て被進之

一 仙庵当番中方為御見舞被遣拝診被仰付、罷帰御様体申上ル

(二三八)

一九時過御締切御式度御膳被召上候、八時過表二相成申候

烏羽玉折一 茶一袋

十兵衛江

- 右者左内絶日ニ付志会集之趣ニ付無急度被下ニ取計申候
- 一八時過方恕介罷出御閑話被遊候、万貞伺御機嫌罷出拝診被仰付候
- 一適齊・主一・宗甫追々罷出診察被仰付、愈御平ラニ被為在候旨申上ル
- 一御氣先も御宜始終御起坐御哥或御嘶被遊候
- 一七半時過神原幸八横濱方罷帰為伺御機嫌罷出御逢被遊候
 - 羊角灯一器 茶碗五箱入 九谷焼 神原幸八
- 右者横濱表方持参致御慰ニ差上之
- 一七半時過御締切相成御膳被召上候、再五時過御締切相成
- 一御夜詰四半時前引
- 十一月八日 雨 午後晴
- 一御目覚六半時、御拭御仕廻御撫櫛 診 主一
- 一御容体愈御異状不被為在先以難有恐悦、御薬前法三帖差上之
 - 内願ニ付不寝役御免被成候、病身申立 若山嘉順
 - 中将様御附不寝役定介被仰付 西尾宗眠
 - 奥御坊主格被成下候
- 右者奥番御道具役差加申渡之
- 一御様体ニ付御見廻被仰進御運可申上旨弥一郎方奉簡来ル
- 一九時過今日ハ大奥へ被為入御同座御膳被召上候
 - 一為伺御機嫌重太郎・長作始何茂罷出、御目見被仰付御菓子如例被下之
 - 弥一郎御用捨相願不罷出候、弾正被罷出御用在之候、元珉仙庵罷出同断
- 為伺御機嫌罷出御目見被仰付候 御用人 斎藤民部
- 御菓子被下之
- (二三九)
- 一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御締切如例
- 一七時過御家老被罷出御逢、御人払御用在之
- 一御夜詰四半時過引、宗伯召
- 十一月九日 暁風
- 一御目覚六半時、御拭等明朝之通り 診 適齊 主一
- 一愈御快然ニ被為入、御膳後御床も御取除相成、御薬も昨日之通り差上之
 - 清心院様へ 七寸二重 あん団子 御酢
 - 御二所様方 鉢盛しつぼく仕立そば
 - 御同所様江
- 右者丸山御屋敷へ御引移後始而哥島参上ニ付折から御機嫌被為聞召上り且御側為御慰被進之
- 殿様江 蜜柑一鉢 ・御籠之内中たい一 海老五
- 御直書一箱
- 右者此頃御発疹ニ而御屈伸等御難義被遊候趣ニ付為御慰被進之
- 一恕介罷出如例 一九時過大奥へ被為入御膳如例、今日御櫛ざつと差上之
- 一御容体ニ付為伺御機嫌市村乙助罷出御逢被遊候

一七半時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、五時過方御締切相成
一御夜詰四時過引

十一月十日 晴

一御目覚六半時、御拭惣而昨朝之通 診 宗甫

一四時過恕介罷出如例 一愈御快然被為在御菓へ前法調上之旨主一申聞候

一九時過大奥へ被為入御同座御膳如例、相濟御手水御洗足被遊候

一常邸へ為伺御機嫌金兵衛・岩次郎始何茂罷出候

詰中

中將様御用兼被仰付 斎藤民部

(二四〇)

右ハ御家老申渡、仍而為伺御機嫌被罷出候、暫御嘶被遊候、左之通り
今度持参之品被差上之

白玉糖一箱 雲丹二箱 斎藤民部

蕨茸製短冊懸短冊哥二首 靱負

右者民部相携候而被差上之

一今日晴好ニ付暫時御庭御遊歩被遊候

一七半時過大奥へ被為入、御同座御膳被召上候、夜分五時過如例御べ切

御帰国御道中御幕被仰付 御附奥坊主 酒井寿伯

右者来春交代之順ニ在之所本文之通被仰付難有次第之事

一御夜詰四時過引 一金兵衛相願退出致候

十一月十一日 陰

一御目覚六半時、御手水御平常之通り 診 主一

一愈御快然ニ被為入、御菓へ前法差上之

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、今日御月代御櫛差上之

一彈正罷出如例、伺御機嫌ニ近江罷出候、緩々御咄被遊候

一為伺御機嫌次郎右衛門・幸右衛門罷出、御逢御菓子被下之

一恕介罷出暫御嘶被遊候 一七半時過大奥御膳如例

小倉袴地一反被下之 蘭服差上ニ付 金三郎へ

一五時過方御締切如例、此已前政要御廻読在之候

一御夜詰四半時前引、宗伯召

十一月十二日 晴

一御目覚六半時 診 適斎

(二四一)

一御様体御復常被為在ニ付今日方御休菓主一申上之

一為伺御機嫌宇都宮勘解由罷出御逢在之

一四時過方恕介罷出如例 一九時過方大奥へ被為入御膳如例

一八時過御浴湯被遊候 一信良為伺御機嫌罷出御嘶被遊候

殿様方 御直書 御籠之内たい一 ほら二 大砲二 鯛召上り

右者御到来之由ニ而被進之 ぼらニ 蛸一 富田へ被下
大あわび一 信良へ被下

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御締切如例
一大奥御寝御入、御夜詰四時過引

十一月十三日 晴

一御目覚六半時表へ被為入 診 宗甫

一五半時前御神靈前御拜被遊候、御庭御順拜被遊候

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、御帰坐後暫御庭廻り被遊候

一為伺御機嫌十兵衛・敬左衛門・剛右衛門始何茂罷出御逢在之、例之通御菓子被下之

一齊藤民部罷出御緩話被遊候、万貞御機嫌伺罷出御逢被遊候、御菓子被下候

中将様御用相勤候様被仰付 千種宗伯

右御用中奥御医師同様被相心得候

右之通御側御用人申渡在之、依之適齊指加御礼申上之

一去ル六日立飛脚六日振之所一日逗留、今日到着、御静穩恐悦之事

大沢

茶一箱 初緑 池の尾 霜の花 清水 淡水

荒川南山

水野風月

右者御内々被差上之、治部方差出ス

一七半時過表ニ而御そば被召上之、無程大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一六半時前方政要御廻読被遊候、五時過方御締切相成申候

一御夜詰四時過引、宗伯召

(二四二)

十一月十四日 晴

一御目覚六半時 診 主一

一五半時前両御拜被遊、夫方御庭御順拜被遊候、御臨書被遊候

一九時過大奥へ被為入、御同座御膳被召上候、暫御庭御遊歩被遊候

一為伺御機嫌宇都宮勘解由菅沼重記罷出御逢在之

一定例御湯被為召候

一御家老中弾正被罷出長々御用在之、御目付罷出同断御菓子被下之

一為伺御機嫌榊原幸八罷出候、右同断

一鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、夜分御へ切如例

一御夜詰四時過引、大奥御寝

十一月十五日 晴

一御目覚六半時

一五半時過御神靈前御拜、御庭御巡拝も在之、甚十郎罷出御用在之

一恕介罷出御漸被遊候 一そば粉二袋 遠来ニ付差上之 甚十郎

山葵

一中将様御誕生日御祝之義昨年ハ御近火之折柄御慎中と申旁御延切

相成、天兒様御備ハ十二月ニ相成在之候、山王御代拝御用人者不相勤御初尾者御留守居方相廻當時も同様也、当年ハ当番少々御寛宥も被仰出在之
外御祝とハ別段御誕生日御祝之義故当年ハ御祝ニ相成候、御二度御膳之節左之通御祝被遊候、引続大奥御膳被召上候

数御長蛇 御せんざい紅白餅 御酒 御吸物 塩たい 松立御取肴
右御前様ハ御同座、殿様へも被進相成、御膳番方十兵衛迄御献立差出ス
御前様ハ御広式御用人迄御膳番方差出ス、殿様御入ニ候得ハ御同坐御祝

(二四三)

之筈、今日ハ御入無之ニ付相廻申候、差懸り御肴差支ニ付八時前御祝ニ相成申候、大奥ニて御目録御取替由在之趣

一御神前へ御莊餅一重紅白・御神酒老対御備有之

一天兒様へ如御例御莊餅一重御神酒老対二汁五菜御料理御備在之

一常邸へ為伺御機嫌金兵衛・五郎大夫初何茂罷出御菓子被下之

一八時半前方御締切御庭廻り被遊、召上り御菓子小くらかん、御次被下大福餅

一鎌落過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、五時過方御締切相成

一御夜詰四時過引

十一月十六日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五半時前御神靈前御拝被遊、夫方御庭御拝被遊候

一米帳御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一八時過御庭御閑歩在之候、恕介罷出暫御嘶被遊候

一彈正罷出御用、近江民部罷出御閑話被遊候

一鎌落過大奥へ被為入御膳如例、夜分御締切如例、政要御廻読如例

錢二貫三百文箱入廿一波四文残 岩城藤左衛門事野本帰祭

右者年来相集置候所御慎中廿一難除守護之義ニ付老情思立御内々

為冥加御手元へ差上度旨喜十郎方内達ニ而今日差出、奇特持之義故披露之

直ニ御覽之上奥番へ御預ケ相成候事

一御夜詰四時過引、宗伯召

御二所様江

おかつ様方 交御肴御籠入 たい召上り 奥表半分ツ、

右者御鉄漿付御祝義ニ付被進之 但大石かれ一 左膳へ被下之

(二四四)

ぼら一

なる一 着後初而被下、金兵衛方手紙ニ而相廻候 斉藤民部

十一月十七日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過両御拝御庭御順拝も被遊候、恕介罷出八大家御読如例

御二所様へ 中鯛二尾

金兵衛

右者今日心祝二付差上之 但御到来小たい一被下置之

郡奉行被仰付御役料五十石被下置之 香西敬左衛門

有者御礼金兵衛迄申上候、表役故御逢ハ態と無之候

一 九時過大奥御膳如例、八時過方御庭廻り被遊候

一 今晚道中常振飛脚被差立候事 一金兵衛相願致退出候事

一 七半時過大奥御膳如例、夜分御締切如例

一 御夜詰四半時前引、召宗伯

十一月十八日 晴

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五半時過兩御拜、夫方御庭御順拜被遊候

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、暫御庭廻り在之候

一 為伺御機嫌弥一郎始何茂罷出御目見被仰付、御菓子被下如例

一 弾正近江民部罷出御用等在之候、七半時過大奥御膳如例

一 六時過方御締切、例年之通り八天狗二付於御前御酒小豆飯八杯豆ふ御肴

二品等にて被下置之、民部・治部・甚十郎・左大夫・六大夫・金兵衛・五郎大夫始熊吉・金三郎迄

罷出何茂大頂戴之、畢而暫御締切、宗甫罷出居

一 御夜詰四半時前引

(二四五)

十一月十九日 陰 漸々晴

一 御目覚六半時

診 宗甫

一 五半時前兩御拜被遊、夫方御庭御順拜被遊候

一 九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一 九半時揃御養生御灸治御締切二而被遊候、御医師三人罷出宗伯義も被為召

相濟候所八半時頃御微も宜益御機嫌克段主一申達、金三郎・銀藏・岩吉御相伴

被仰付何茂残墨被下置之召上り御菓子おてつ差上之

御前様方 石かれ五召上り 鉢盛きりすし 例式被下取斗

右者御灸治二付召上り品并御側御慰として被進之

殿様方 御重詰六寸 御さしみ 御すい物仕立 大奥御用

清心院様方 大平目一枚 召上り御用

右者折から御機嫌被為聞被進之

御二所様へ御側御慰として差上之 岩吉

一 七半時過表二而御そは被召上候、無程大奥へ被為入御膳被召上候

一 六時過方御締切、八天狗二付弾正六大夫・金兵衛・又兵衛・適齊・主一・岩次郎・十大夫始何茂

於御前御酒御膳等頂戴被仰付候

一 御夜詰四半時前引

十一月廿日 晴

一 御目覚六半時

診 主一

一 昨夕御灸治未御浴湯前二付御拜無之候、御臨書如例

一 九時過大奥へ被為入御膳如例 一九半時過御浴湯御内神仏御庭共御拜在之

一常邸へ為伺御機嫌金兵衛・岩次郎・十大夫初何茂罷出候、御菓子被下之

(二四六)

一八時過御庭廻り被遊、其後恕介罷出如例、鎌落過大奥へ被為入御膳如例

一金兵衛相願退出致候事 御小姓頭取被仰付御前御礼申上ル 御小姓高村長作

御近習番

大御番鈴木十五郎

一左膳へ玉子とし一盛酒一銚子被下取斗 但八天狗両日居合不申二付

一昨夜台子へ御残飯并御酒頂戴被仰付御錠口ニ而御透見被遊候就而者片落相成

候而者如何二付相願候而今晩も御量所前ニて手伝二人台子寝役へそば酒被下二取斗

昨晚之通相濟、五郎太夫鴨包丁等御透見被遊甚御慰ニ相成、畢而大奥方御菓子并

御茶被下在之候

一御夜詰四半時前引

十一月廿一日 晴

一御目覚六半時

診 適斉引介宗甫

一五半時前御神仏前御拝、夫方御庭御順拝如例、恕介罷出如例

一九時過大奥へ被為入御同座御膳如例

一殿様九半時御供揃二而八時被為入御対顔、夫方大奥へ被為入御対顔御帰座

御菓子雪月花差上之、大奥方も御蒸菓子被進之、彈正罷出居暫御用相成

相濟御一所二御庭御廻歩、彈正始御供頭共弥一郎両部屋之面々被為召御供被

仰付候、松山へ御登山蜜柑山下へ御投被遊、何茂拾之頂戴ス、相濟御帰座

御汁粉差上之御代り付、南山献上之十棗茶三種御取分箱入被進之、御帰殿

懸御同道表御右筆部屋御役人部屋辺御覽被遊直ニ御退散相成 七時

御二所様へ 御小肴一籠 小鯛 ほふく 召上り相成 仲のへ被下相成

殿様方

きす さより 車海老

右者今日御入二付被進之、昨夕御到来二付鴨一羽被進之

一七半時過表御へ切御同坐御膳被召上候、南御入側へ御障子屏風立之鴨しぶ煮御

膳番取斗差上之候、無程表ニ相成五時前再御締切被仰出候

(二四七)

一表御締切御寝、御夜詰四時過引

十一月廿二日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五半時前両御拝、夫方御庭御順拝被遊候、御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、御帰座御庭廻り被遊候

芋かしら十五 御慰ニ差上之 大道寺七右衛門

一近江民部并恕介罷出御閑話被遊候

一鎌落前大奥へ被為入御同座御膳被召上候、五時過方御締切如例

一御夜詰四時過引、宗伯召

十一月廿三日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一 五半時前兩御拜被遊夫方御庭御順拜在之

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、今日平八郎始而御櫛差上候

一 為伺御機嫌十兵衛初向へや之面々罷出御菓子被下之御庭廻り御船遊被遊、剛右衛門始御供被仰付、富三郎差上之みかん御投頂戴之、剛右衛門初斗也

一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、夜分御へ切如例、政要如例

一 表御へ切御寝、御夜詰四半時前引、金兵衛相願退出致候事

十一月廿四日 晴

一 御目覚六半時

診 主一

一 五半時前御心霊前御拜、夫方御庭御順拜被遊候、御臨書如例

一 八幡社先達而方御普請之處御出来二付御遷坐、依之御裏役御代拜相勤ム

一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、定日御湯被為召候

(二四八)

一 為伺御機嫌菅沼重記罷出御逢、御家老中弾正罷出られ御人私御用も

在之、御目付七右衛門・幸八罷出御晰被遊候、何茂御菓子被下之

一金兵衛義昨年御引移後今二老入役非番相立不申勤来候所いつ迄と申跡

も無之二付十兵衛を以平学主税老入勤之例二依而相願候所願之通り禪正方申渡在之左二記ス、左大夫も同人申聞在之

非番日昼後御用無之節ハ

金兵衛へ

退出致候様

金兵衛退出後非常等之節ハ

近藤左大夫へ

心得罷在候様

一 鎌落過大奥へ被為入御膳如例、五時過御締切如例

一 大奥御寝被為入、御夜詰四半時前引

十一月廿五日 晴

一 御目覚六半時表へ被為入

診 宗甫

一 五半時前兩御拜被遊、夫方御庭御順拜被遊候

一 九時過大奥へ被為入御膳如例、恕介罷出如例、民部罷出候

一 常邸へ為伺御機嫌金兵衛・五郎太夫始何茂罷出候

御下緒一

香西敬左衛門

御盃 一

右者明夕出立二付伺御機嫌罷出無急度於御三間御目見被仰付、御懇之

御意被成下御手自右御品并御菓子被下置之、金兵衛方先日大谷孫太夫義於

御国表結構被仰付候二付右御品物敬左衛門へ相託被下二取斗相渡ス

一 為伺御機嫌次郎左衛門・幸右衛門罷出、万貞も罷出御逢ハ無之候

御二所様方

籠之内交御肴

常邸取斗

伊予守様 清心君へ

右者御婚禮御整二付被進之、伊予守様へハ清心君方御伝へ被進之

一 鎌落頃大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御へ切、火事二付表二相成

(二四九)

一五時過方永代橋見付方失火、三丁火消出張北方東風故風裡ニ而当邸恐悅
為御見舞小六被遣候、追々十兵衛始非番向へや・万貞・御家老中・弾正・民部・勘解由・
重記・七右衛門・幸八罷出何茂御前へ被為召候、尤治部始甚十郎・左太夫・御附非番之面々・
御医師・恕介罷出候、御酒裂鯛被下二取斗、常邸方御人数御仕向、実之助様方
も同断、両彼方方も同様也、九半時頃鎮火、常邸方台子も両三人罷出ル
一表御締切御寝、御夜詰九時過引

十一月廿六日 晴

一御目覚六半時

診 主一

御二所様江 六寸御重五 茶せん玉子一 節に長いも一 いり豆ふ一

殿様方 やき小たい しぼりゆば一 御香の物一

右者御近火為御見舞被進之、八時過相廻ル 朝と御二度召上リ

一御側向之面々台子向等へ御焚出相廻被下候事

一五半時過御神仏前御拜被遊、御臨書暫時被遊候、神明社御普請ニ付御拜無之

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、恕介罷出如例、不罷出候

一金兵衛義今日方御用済退出仕候人時過 一暫時御庭廻リ在之候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、政要御輪読如例、御~~レ~~切如例

一御夜詰四時過引、宗伯召

十一月廿七日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過両御拜被遊候、御臨書如例、恕介罷出八大家申上ル

一九時過大奥御膳如例、正罷出候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、夜分御締切如例

端溪研一面二両一分二朱御買上相成申候

(二五〇)

薄紅梅一株差上之

稲垣治部

一御夜詰四半時引

十一月廿八日 曇

一御目覚六半時

診 主一

一五時過御神靈前御拜被遊候、御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一為伺御機嫌弥一郎・重太郎始何茂罷出候、御菓子被下如例、万貞同断

一近江横浜方罷帰、罷出緩々御閑話被遊候、金兵衛七時過退出致候

一七半時過大奥御膳如例、夜分御締切例之通り

一大奥御寝御夜詰四時過引

十一月廿九日 陰風 冬至

一御目覚六半時

診 適斉

一五時過御神靈前御拜被遊候、御内庭御拜ハ在之、御臨書被遊候

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、九半時過定例御湯被為召候

一去ル廿一日立飛脚山之内一日逗留、今日到着御静安恐悦之事
 一彈正罷出御用帳入御覽、恕介罷出共御閑話被遊候
 一七半時過大奥御膳如例、夜分御_レ切如例
 御二所様へ 献上梟二羽 秋田彈正
 金百匹 結講被仰付為冥加御内々差上之 大谷孫大夫
 梟一羽 殺生二付御内々差上之 平本但見
 一モルモツト鼠之類渡り候由細川様方御借受大キニ御慰ニ相成御返却之節前記
 鴨老被進相成申候 一平大夫義出勤二付伺御機嫌頂戴物御礼罷出候

(二五二)

一御夜詰四時過引 宗伯召

十一月卅日 陰寒

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過御神靈前御拜被遊、神明社御普請出来二付御庭諸社御拜在之候
 一御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、暫御庭廻り在之候
 一常邸へ為伺御機嫌金兵衛・十大夫始何茂罷出候 金兵衛罷歸退出致候
 一七半時過大奥御膳如例、夜分御締切例之通り
 一民部罷出候、御家老中被罷出彈正も罷出御用在之、御目付罷出御逢へ御延引
 夜分甚十郎被為召御用在之候 哥島
 靈岸島振退勤被仰付 常邸御用向申談候様 多川

一御夜詰四半時前引

十二月朔日 晴

主一

一御目覚六半時

診 適斎

一五時過御神靈前御拜、定日并御忌月御手備在之、夫方御庭御拜も在之候
 一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、暫御庭御廻歩被遊候
 一神明社御普請御出来二付御代拜御裏役相勤、今朝御遷座也
 一近江罷出候、昨日横浜へ罷越二付榊原幸八罷出被為召候
 一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、政要御廻読、夫方御締切如例
 一御夜詰四半時前引

十二月二日 晴

一御目覚六半時

診 適斎

一五時過兩御拜御庭御順拜被遊候

(二五二)

一今日御座之間御疊替、御二ノ間裏返兩御入側等縁取替相成候事、右二付御庭
 御拜濟方直二大奥御对面所へ御移被遊表ニ相成申候、御座右御本箱御手
 道具類御茶所等同所へ相移ス、御臨書如例

来申年御道中倒立

御附頭取 小栗五郎太夫

御供御雇被仰付

御附御近習 上坂平一郎

右者御用人呼出二而申渡在之、繼上下着 御前御礼在之金兵衛差加

- 一 九時御対面所御へ切相成、大奥御膳如例、表二相成御庭廻り被遊候
- 一 彈正罷出御用在之、甚十郎罷出御用在之
- 一 七半時過大奥御膳如例 一 御疊替御出来二付鎌落過御移被遊候
- 一 今晚道中六日振飛脚出立之事 一金兵衛鎌落頃方退出致候
- 一 夜分御締切如例 一大奥御寝被為入、御夜詰四時過引

十二月三日 晴

- 一 御目覚六半時 診 宗甫

一 五時過御神靈前御拜并御庭御順拜被遊候

一 昨夕手紙来齊藤民部方今朝呼出、罷出候処左之通書附被相渡候、番外以上恐悦在之

一 一 昨朔日松平和泉守殿江御聞番御呼出二而別紙之通被仰出候

右之趣御附之面々へも可被申聞候、松井・森へ申聞ル

御本丸御普請二付金老万両又者鳥子紙両様之内差上度旨内願之趣達

御聴尤之儀御機嫌二被思召候、神奈川御警衛被仰付置候二付容

易二難被仰出候得共一不通御時節柄を恐り致右様相願候段神妙之至

二付内願之通上納可被仰付、尤両様之内何れ二而も不苦段御沙汰二候

蜜柑一台指上之 大奥御用 御中らう ひな

(二五二)

一 九時過大奥御膳如例

一 九半時揃御養生御灸治被遊候二付表御へ切御医師三人罷出召上り御菓子差

出ス、熊吉・岩吉・銀藏御相伴被仰付、紙一筆一ツ、被下置之、七時頃相済益

御機嫌克御感も御宜段主一申達二付申上候、為伺御機嫌罷出二付仙庵被為召候

御前様方 石かれ七召上り 鉢もり切すし 配当例之通り

右者御灸治二付如御例被進之

殿様へ 鉢盛しつほく仕立そば露付

右者此頃少々御容体被為入二付御側為御慰被進之

一 民部罷出候二付鳥渡御逢在之、為伺御機嫌弥一郎・平太夫・剛右衛門始何茂罷出

御灸治中故御逢無之、せんべい被下之 一 御灸治之節宗伯被為召候

一 七半時過大奥御膳如例、五時過方御締切如例

一 御夜詰四半時前引

十二月四日 晴

診 主一

一 御目覚六半時

一 五時過御神靈前御拜、御忌日御手備被遊、引継御庭御拜も被遊候

一 今日北御入側疊裏返御二ノ間敷替等為致候二付殿様御扣所へ御移被遊候

至極御都合宜く御両使被為入候節ハ奥番詰所方大奥本御廊下方被為入筈

一 御臨書如例 一 九時過大奥御膳如例、御帰坐之上定日御湯被為召候

一 八時過御疊替相済候二付御座之間へ被為移候

一 彈正罷出候為伺御機嫌御目付罷出一寸御逢被遊候、昨日当番二付万貞罷出御逢無之

小鷹檀紙百枚 御在合 三しま

うに 五箱

右者毎度ニ鈴木重胤和歌懷紙認等縁家ニ而差出候ニ付為御挨拶被下之
金壹両 月々相渡筈 当月方相始ル 極御内証出方也

(二五四)

右者は迄月々奥番方御錠口へ相廻ス、御定金二歩三朱ト銀壹匁六分壹里之所
御慎中ニ而御城女中方之差上物御寄金等も無之其上何角御締切中又
者御庭等之節召上り物被下品子共へ之菓子等不廉立瑣細之御入用多相成
候得共何かな御慎中御慰ニも相成候事故誠ニ諸事御錠口ニ而も格別心配
致来候所如何ニも御定金にてハ中々足不申義ニ付内々御年寄中方御増金談も在之
ニ付弾正・甚十郎江も申談候所御時節柄無余義御入用之義ニ付極御内証方
御定金之外二月々壹両ツ、相廻候様相極候也、依而奥番方御錠口へ差出候事
一為伺御機嫌御家老被罷出御逢被遊候、近江・大道寺七右衛門罷出何茂御くハし被下候
一犀次郎義御用召御切紙到来ニ付御用捨退出被仰付候、頭取方御礼申上候
一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、夜分御締切如例
一金兵衛御用済ニ付鎌落頃方退出致候事
一御夜詰四時過引

十二月五日 晴

診 適齊

一御目覚六半時
一五時過御神前御靈前御拜并御庭御順拜被遊、御臨書如例
一九時過大奥へ被為入、御膳御同座被召上候
御近習番被仰付、御書院番へ被入候 御附御近習 小関犀次郎
御附御近習御雇被仰付、無息ニ付御手当銀十五枚 理兵衛忰 松田誠次郎
右者御家老中被申渡候、誠次郎義ハ理兵衛御用人呼出被申渡、一旦罷帰誠次郎同道
御右筆部屋へ御礼申上、御側向頭取へも御礼申上候、七半時過当邸へ罷出治部
方頭取へ引渡在之、治部差加御礼申上之、過刻金兵衛差加犀次郎義ハ
御礼申上候、尤上下着

(二五五)

一六半時二寸五歩廻り迄誠次郎見習相勤御用捨被成下退出致候
一小林又兵衛義犀次郎・誠次郎甥之続合ニ付御礼罷出候
一為伺御機嫌幸右衛門罷出御逢、御菓子被下之、次郎右衛門も罷出ル
一八時過方御締切御庭廻り在之、みかん一盛御慰ニ差出ス召上り、きんつば焼差上之
亀甲せん餅大一箱差上之 金三郎
一横浜方昨日罷帰、真杉所左衛門罷出御逢在之、弾正罷出候、恕介も一寸罷出候
一七半時過大奥御膳如例、夜分御へ切如例
一大奥御寝、御夜詰四半時引
十二月六日 雷氣満地白 午後方晴
一御目覚六半時 誠次郎罷出御引方退出致候

診 宗甫

一 奥御坊主松田文悦義彦月廿三日方発病之所言語錯乱発狂之体ニ付宗甫・主一申
 談鎮経剂腹葉為致之、仲間ニ而も敷敷昼夜番致且介抱人老入御貸被下専ら妄
 行を用心致来候所不日鎮静ニ運兼候ニ付御小屋之内を困締付入置養生為致置
 候所先近頃ニ至り漸々本性へ相復し候趣依之奥御坊主御免被成下御国表へ御帰シ被下候
 様頗二当人内願ニ付御道具役方奥番へ内願書差出申候、兼而発病前方志願も在之趣
 発病後も最早奥御坊主相勤候存意も無之趣ニ付御側御用人江も申談之上病氣柄之
 事故評義之上内願之通奥番方御道具役へ申渡ス
 一 犀次郎義部屋迄罷出候所御承知被遊被為召御懇命之上御盃御扇子ニ被下置之
 一 九時過大奥へ被為入御膳被召上候、八時過民部罷出恕介罷出御閑話被遊候
 一 蜜柑一箱二百斗差上之 熊吉
 一金兵衛義八半時過方退出致候

(二五六)

一 鎌落頃大奥へ被為入御膳如例、夜分御へ切如例
 一 御締切御寝、御夜詰四時過引

十二月七日 晴寒

一 御目覚六半時 誠次郎出勤御明り付方退出致候

診 主一

一 五時過両御拜被遊、御内庭御拜へ在之、御臨書如例、恕介罷出如例
 一 九時過大奥へ被為入御膳如例、御庭御拜被遊候

金老両二歩 内二朱二被下也 元奥坊主 松田文悦

右者先日方発狂体之病症之所先追々本性ニ相復候趣前記之通り之次第二而愈

内願ニ付明朝出立致後定候、依而病氣柄ニ付失却多難洪之趣無抛談合奥ノ

番方も必至願達御手当被成下候義も不相当之義ニ候得共是迄無難相動来臨時非常

之訳合ニ付以後之例ニ不相成別段之御憐評之上本文之通御手当被成下候

但御奉行格別ニ付道中御貸人兩人被下外二老入自分応対ニて召連当人親対面願

附右自分雇坊子之内ニ而道中始終格別心配失却多難洪之趣罷帰申達ニ付

五十疋被下取斗 申正月廿三日

金二両 奥之番

右者道中為用達金附添之者へ貸渡罷帰候上藤一郎へ上納之筈

金二朱ツ、 寿伯

栄碩

清嘉

同三朱 栄立

同老朱ツ、 外二一朱 諸事心配ニ付 河崎善兵衛

御下男

右者文悦介抱ニ付御人少之所格別骨折困窮相勤ニ付被下、栄立義ハ諸事

格別取計ひ方案旁、別而困窮相勤ニ付被下、善兵衛御下男ハ御小屋無抛都合

ニ付奥番方申達乍暫同居、又御小屋替ニ付失却在之ニ付被下ニ取斗フ

一 弾正・近江罷出御用在之候、昨夕当番ニ付万貞罷出御逢ハ無之候

一鎌落過大奥へ被為入御膳被召上候、五時過方御締切如例
伊勢御祓拔一箱、新曆、長炮二把、春木大夫

治部

甚十郎方差出ス

(二五七)

一御夜詰四半時引、宗伯召

十二月八日 晴 午後風雪

一御目覚六半時

診 適齊

一五時過兩御拜被遊、夫方御庭御拜被遊、相濟御臨書如例

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

御二所様江 御籠之内御小肴召上り 御残少々弾正へ被下候

御表様方 御重二 八寸 おてつぼたん餅 召上り 御残当番へ被下候

右者今日御入二付被進之

殿様へ 和唐紙五十枚御席上ニて被進之

一殿様九半時御供揃二而八時過被為入御対顔、無程大奥御対面も如例、御菓子ふくら雀

弾正罷出居御人払御用在之、相濟七時過御酒差上之 御吸物 ふ 大奥より

五品御中皿

中華饅頭被進之、おてつ牡丹餅差上之、御用前御供之面々伺御機嫌罷出候

面々一時二被為召御逢在之候、みかん被下候、今日十兵衛非番方御供二罷出候、仙庵

罷出御入前鳥渡御逢被遊候、御披七半時過 金兵衛鎌落前退出致候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、夜分御へ切如例

一御夜詰四半時前引

十二月九日 晴

一御目覚六半時

診 宗甫

一五時過兩御拜被遊、夫方御庭御拜、相濟御臨書如例

一九時過大奥御膳如例、定日御湯被為召候、民部罷出御閑話在之候、如介罷出

雲州橋十五

仲野

右者長々不快二付為養生此頃方下宿致居今日宗甫罷越二付折を以被下候

(二五八)

一鎌落前大奥御膳如例、夜分御締切如例

一六半時過呉服橋辺失火之呼込二付直様当番十大夫非番五郎大夫為御見廻常邸へ被

差越候、但不案内之触込二而小石川辺なり

一御夜詰四半時引

十二月十日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五半時前兩御拜被遊、夫方御庭御拜被遊候、御臨書如例

来申ノ秋迄詰延被仰付

頭取 高村岩次郎

同

定介 山野十太夫

同 吉田喜十郎
同 河崎三郎助

右者齊藤民部方前日手紙来今日申渡在之 但当番二付十大夫・三郎助ハ不罷出岩次郎・喜十郎
兩人罷出、兩人ハ御用引

一 右之面々当春之通金兵衛差加御礼申上之

一 九時過大奥御膳如例、九半時過暫御庭廻り被遊候、恕介罷出如例

一 左膳相對頼二而例之田安様御曆出来致候、同人方挨拶としてうに三箱差

越即相廻ス 但二箱左膳へ被下、曆配当例年之通り

一 彈正罷出如例、伺御機嫌御目付罷出御逢無之候

一 常邸へ為伺御機嫌罷出金兵衛・十大夫外三人御次乘馬之折柄被為召、金兵衛

初へ御馬拝借被仰付、今日ハ龜甲煎餅頂戴之

来申年御道中御供被仰付 大岩主一

右者御用人申渡、罷帰候上金兵衛差加御礼申上之

一 七半時過大奥二而御膳如例、五時過方御締切如例

(二五九)

一 大奥御寝、御夜詰四半時引

十二月十一日 陰寒

一 御目覚六半時 診 適齊

一 五半時前両御拜被遊、夫方御庭御順拜被遊、御臨書如例、恕介罷出如例

一 九時過大奥へ被為入御膳如例 一 民部被為召罷出御閑話被遊候

中鯛一尾内献 小十郎

一 伺御機嫌次郎右衛門・大郎大夫罷出みかん被下、御逢ハ無之候

一 鎌落過大奥御膳如例、夜分御締切如例、金兵衛鎌落過方退出致候事

一 御夜詰四半時引、宗伯召

十二月十二日 陰寒

一 御目覚六半時 診 宗甫

一 五時過両御拜被遊、夫方御庭御拜被遊候、御臨書も如例

清心君方 八寸二重 玉子 窓の月 大奥被取林し

右者折から御機嫌被為聞被進之

御二所様方 鉢盛切酢 常邸取斗之

殿様江

右者御納灸治二付昨暮之通被進之

御籠之内 交御肴 仲野へ

一 右者先達而方不快罷在二付此頃致下宿候故御尋被下之

一 九時過大奥御膳如例、御帰座後御庭廻暫被遊候

一 明日当番二付屢次郎義伺御機嫌罷出、被為召御くハし被下候

極御内証

金七百疋 御奉納 八幡宮御修復二付甚十郎へ相渡ス
同五十疋 上 同断 御安全方 御裏役局

(二六〇)

一 彈正罷出如例 恕介罷出候得共今日ハ御休相成候

一 鎌落前大奥へ被為入御膳如例、夜分御締切如例

一 大奥御寝、御夜詰四時引

一 九時半時寸前大分之地震ニ付御錠口迄鳥渡被為入、非番御側向御医師外ニ宗伯・

順庵・恕介・甚十郎・左大夫・又兵衛何茂為伺御機嫌罷出犀次郎も罷出候

八時過常邸方御近習番梶川沢之丞為御見廻被遣候、御挨拶吉田喜十郎被

差越候、八半時前罷帰、次郎右衛門ハ罷出候

十二月十三日 晴

一 御目覚六半時表へ被為入

診 主一

一 五半時過御神靈前御拝被遊、御庭御拝ハ依御都合夕方被遊候

一 御慎中ニ付御煤払御祝儀ハ無之、御神前始御座之間等部屋々迄大掃除

二 付御襲（稽古）所上ノ間へ御移被遊、御臨書等如例、御間内御障子御れん子等物張

或切張等出来御二度後方御復座相成申候

金百疋 先例之酒鯛ハ不被下候 台子并小遣共へ

銀四匁七分 先例酒二升代

御台所向江

右者大掃除ニ付骨折候故被下ニ取斗

一 九時過大奥へ被為入御同坐御膳被召上候

一 為窺御機嫌弥一郎・平大夫始何茂罷出候、御菓子被下例之通り 万貞罷出候

一 民部罷出御用在之候 一 七半時過大奥へ被為入御膳被召上候

一 夜分御締切如例 一 鎌落頃方金兵衛致退出候事

一 御夜詰四半時過引

十二月十四日 陰寒 寒入

(二六一)

一 御目覚六半時

診 適齊

一 五半時過而御拝、夫方御庭御順拝被遊候、御臨書暫在之候

一 九時過大奥へ被為入御膳如例、九半時過例日御湯被為召候

一 為伺御機嫌勘解由重記御目付七右衛門・所左衛門罷出何茂御逢御くハし被下候

一 彈正罷出御用在之候

一 御裏役申達御庭方月々渡御定金之義当年ハ御裏下駄・草り等別段之御入用

多ニ付御奉行へも月々拾匁ツ、増金之義共之申立候所達之通来正月方相渡候旨

甚十郎申聞候事

一 七半時過大奥御膳如例、五時過方御締切如例、御三ノ間ニて自賛歌かるた為

御拾御前様御透見被遊、畢而左膳始何茂へみかん八ツツ、被下置之

一 大奥御寝、御夜詰四半時過引

十二月十五日 晴

一 御目覚六半時表へ被為入

診 宗甫

一 六時過村松町出火、依而御近火二者無之候得共風筋不宜故常邸方梶川沢之丞

為御見舞被遣、鳥度御逢在之候

一 五半時前兩御拝定式御手備在之、夫方御庭御拝被遊候

一 殿様六半時御供揃二而御登城、御退出懸被為入、九時過御對顔、夫方御一所二大奥江被為入御對面、寒中二付御目六御取替せ在之候、中君御同座御膳被召上候殿様御帰座御酒差上之、御皿物みかん御小弁当被召上候筈御汁玉子御皿やき石かれ

干鱈

被進、相済中君御帰坐御菓子陸の花差上之、大奥方も被進之、御同伴御庭廻

御供一統罷出彈正近江十兵衛隨從、御内庭二而蜜柑御直二御投与在之候

御庭前殿様へ兩番一統伺御機嫌頂戴物御礼申上、中君御供一統被為召

(二六一)

御漸被遊、御供頭次郎右衛門・幸右衛門伺御機嫌罷出候、殿様へ御医師三人罷出二付御目見被仰付、御帰殿七半時頃

御式所様へ 八寸重二 大福餅 奥表一重ツ、表之分御前二而被下之

殿様方

右者御成二付被進之 但小重入二而治部引込二付被下取斗

金百疋

金兵衛へ

同五十疋ツ、

五郎大夫方岩吉迄

武者中本二冊ツ、

熊吉 岩吉へ

唐子たこ一ツ、

留三郎 門太郎 愛五郎へ

金老歩二朱ヲ

台子四人 ふね兩人へ

鳥目二貫五百文

兩役所小遣四人 水へや三人

御附へや小遣四人

右者毎々御入之節何角御世話申上二付被下之 十兵衛持参相渡ス

一 七半時過表二而御そば被召上彈正御下夕被下候、同刻過大奥御膳如例

一 去暮相極候当暮御側向方台子小遣等迄被下之義、手廻し宜出来二付伺之上惣而

今日被下二取斗、細記ハ爰ニ略ス

一 頭取被下之内新御定外心配二付百疋被下之、一口去暮ハ九兩三步之外二相成在之候故

当年方都合拾兩と相成被下、当春来家鴨追々数増一統彼是世話多手数相増

候二付一統へ 御内証出式歩 兩役所小遣共留箱掃除甚難渋二付同忝貫文被下取斗候事

金老朱

御鉄砲懸り 吉田喜十郎

右者当春来少々者取扱事も在之当年限被下之、懸り之義ハ御免申渡以来ハ

御稽古懸り頭取二而相心得居候旨申聞候事

一 前記大福餅於御前左大夫・主一外詰合へ被下之、畢而御締切如例

一 御夜詰四半時過引 一金兵衛鎌落前方退去致候事

十二月十六日 陰寒強

(二六三)

一 御目覚六半時

診 主一

一 五半時過兩御拝被遊、夫方御庭御順拝被遊、御臨書如例

一寒中為伺御機嫌小林又兵衛并適齊父子順庵罷出ニ付此段申上ル
一右同様金兵衛義御広式御用人迄罷出候

石かれ一細魚十ヲ

甚十郎

石かれ五

小は中 多き

右者到来ニ付差上之、たき今日上リニ付御二所様へ差上之、召上り相成

一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候

一幸右衛門義被為召罷出御逢、平田方へ御糺シ事被仰付、御菓子被下之

一御庭方籌不足ニ付御奉行へ必至申立年々老兩ツ、無急度増渡相成、御庭

広ニ付而申立、先達而談濟相成候事

一民部罷出恕介一時ニ御閑話被遊候、彈正罷出候、白玉糖一箱差上之

一寒中御拭ニ付職人共罷出此節是迄ハ御腰物方役所方少々ツ、心付致来候

得共竹印ハ御酒御吸物被下、菱印も同断、丁子印方ハ無之と申も不相当之義故

評義之上新御定外方五十疋被下ニ取斗、尤暑寒両度共也、次郎右衛門へ相渡ヌ

卯子廿五寒中ニ付差上之

重寿

楽寿

金二百疋 御内証方も同断ニ被下之 矢嶋恕介

右者彈正方表出方ニ而御文事御相手心配ニ付被下之、但高野前日被下之例

一鎌落前大奥御膳如例、夜分御々切如例

一御夜詰四時過引

十二月十七日 晴 夜分一時斗雨

一御目覚六半時

診 適齊

(二六四)

一五時過御神靈前御拜、夫方御庭御拜も被遊候、恕介罷出如例

金五百疋ツ、

仲野

富田

同三百疋

若年寄 浪の

同式百疋ツ、

御中らう二人

御側子共 老人

蒸籠二組ツ、

御前詰 式人

右者此節柄何角心配致相勤候ニ付被下之

一昨日寒中伺御機嫌常邸御右筆部やへ可罷出之処御用引致候

一九時過大奥御膳如例 一信良寒中ニ付罷出御逢御菓子被下之

塩たら二 御前様青松子へ被進被遣候 本多丹波

右者献上ニ付彈正方披露在之候

白砂糖二袋 御錠口二人へ被下候由 甚十郎方差出

一八半時頃方御庭御閑歩被遊候

一尾張や鉄次郎御着御用相勤青物も御用相達来候所近来諸色高置別而

干物類弥増直上リニ付引合不申難渋必至歎願、四割増願差出候故夫々評

義之上無扱次第ニ付先ニ割増申付候処甚難渋之趣なから誠ニ心配可仕旨

畏り候由、愈引合不申節ハ又々願達仕度旨御用へやへも申達候由、則左大夫方承候
一七半時過大奥御膳如例、夜分御へ切如例、金兵衛七半時頃方退出致候
一御夜詰四半時前引

十二月十八日 晴 夜微雪

一御目覚六半時

診 宗甫

一五半時前両御拜、夫方御庭御順拜在之、御臨書如例
一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

(二六五)

一九半時揃御締切ニ而御納灸治被遊、御医師不残罷出両邸共金三郎・銀蔵
御相伴被仰付、半紙墨被下之、信良御用引、元珉不快引、七時濟益御機嫌
御感も宜被為在候段申達此段等奉申上候

御前様方 石かれ五召上り 鉢盛きり酢 奥表半分ツ、配当例之通り

殿様方 御籠入 センべい 窓の月 同

清心君方 同九年 母 大奥御取はやし

右ハ御納灸治ニ付御例為御慰被進之

御二所様召上り御菓子 玉椿 木目万寿 やうかん

御熟菓子六寸重一 大奥ニて出来 センべい 御沙汰在之、以来相止候事

窓の月

御せん子二 菓入一 猪口一 御匙万貞・適斉 御直二

御せん子二 たばこ入一 御いし不残、出勤無之共 被下之

一去ル八日立飛脚道中常振之所山の中三日逗留、今日到着、御静安恐悦之事

一為伺御機嫌十兵衛・弥六始一統罷出御灸治中ニ付御逢無之御菓子被下候

一彈正罷出如例

一今日飛脚到着、平八郎養父藤大夫義病氣之所去月中方追々差おもり既ニ大病

之趣申来、依之対面差出ス、中君願之通被仰付、常邸支配迄願書差出ス

即刻願之通被仰付候 折悪敷御家老中他行ニ而差凶延引相成、七半時過平八郎

出立御貸人老入例之通、先

金二拾両拝借被仰付 上坂平八郎

梅か枝田夫一曲 思召を以被下置之 同人江

一七半時過大奥御膳如例、夜分御へ切例之通り

一御夜詰四半時前引

十二月十九日 晴

(二六六)

一御目覚六半時

診 主一

一五半時前両御例拜、夫方御庭御順拜被遊候、御湯前ニ付夕方相成候

鴨一羽 御内々金兵衛方差上之 武田平右衛門

味噌漬雷魚一尾差上之 大岩主一

一御臨書如例 一九時過大奥へ被為入御同座御膳被召上候、御浴場

一 常邸へ為伺御機嫌金兵衛罷出候、昨日当直ニ付寒中故
右臈 御前様御伝ニて越中守様へ被進相成申候

一 常邸方御国廻り鴨肉被進召上り相成申候

一 為伺御機嫌弥一郎罷出候、寒中ニ付御家老中同断ニ付罷出られ近江民部罷出

幸右衛門御糺之義申上罷出候、何茂御逢御菓子被下、御目付罷出御用状入御覽候

一 鎌落過大奥御膳如例、夜分御締切例之通り 殿様方御そば被進御膳前
御二所様被召上候

御二所様被召上候

一 御夜詰四半時前引 一金兵衛鎌落過退出致候事

十二月廿日 晴寒

一 御目覚六半時 診 適齊

一 五半時前両御拜、御庭御順拜被遊、御臨書在之、恕介罷出如例

一 九時過大奥御膳被召上候、暫御庭廻り被遊候

御前様へ 鉢もり 切すし 思召もの 六寸二 御くハし 御に

右者御納灸治被遊候ニ付被進之

一 明番方十大夫・幾太郎御馬拝借大シ河原へ来申元日御祈祷為頼罷越支度

料老朱ツ、被下、昨暮之通り御初尾百足持參、亀甲煎へい一箱差上之

金百足ツ、 御内証

石原甚十郎
近藤左大夫
小林又兵衛

右者御膳所向何角引受心配ニ付被下之 但跡二日共金兵衛方相渡ス

(二六七)

金老朱ツ、 出口御内用廻り 御用達五人へ
同百足ヲ 同 御用へや五人へ

右者御広式御用人方申立も在之、評義之上新御定外被進被下等心配ニ付被下之

金百足ツ、 御内証 適齊 主一

宗甫

右者御締切中毎々被為召御都合ニも相成当年方為御歳暮被下置候定式之

御帯代二朱共金兵衛方相渡ス

金 三両ツ、 往来失却被下 金三郎
銀藏

同 一両 勝手向必至難渋之趣故前段之訳を以

内々申含金兵衛方亥之助迄相渡ス 銀藏

同 式歩ツ、 出精ニ付失却当年方増被下候 熊吉

増共一両 岩吉

同 二朱 御内用廻り 昨年方老人増ニ付 助 御下男老人

同 五十疋 同 当邸御用節ニ付被下之 目付 久能作右衛門

一 台子交代ニ付御供道中々ハ出物格別之違ニ而身小之者甚難渋之申立在之相違も無之
誤合故御奉行甚十郎へも様々及内評候所先例も無之類様ニ相障難評、依之当邸ハ

別段御人少精勤之義故為御手当当春方月割を以被下置、正月方丸勤之者へハ二両

被下置候旨御奉行方申聞候事 但御手元ニ而八道中御手当之廉へ引当候筈
一彈正罷出如例、七半時過大奥御膳如例夜分御締切例之通

雲州橘十一 此頃不快ニ付被下之

一御夜詰四半時前引

十二月廿一日 晴 嚴寒 卅度

一御目覚六半時

診 宗甫

一五半時前兩御拜被遊、夫方御庭御拜在之候、御臨書如例

一今日常邸天璋院様方歳末ニ付御広式番之頭御使在之金兵衛御用引

(二六八)

一恕介罷出如例 一九時過大奥御膳如例

御二所様江 交御肴老籠 たい一召上り跡半分ツ、

清心君方

中将様江 八寸重ニ 御吸物仕立 召上り 唐万寿同断

重寿楽寿被下之候

右者寒中御機嫌被為聞被進之

小鱸一 石かれ老 砂糖御返被下之 甚十郎へ

一九半時御供揃八時過殿様被為入御対顔夫方大奥御対面無程御帰座、三色牡

丹餅并唐饅頭差上之大奥方も唐万寿被進之、暫御人払御用在之、此已前御供

之面々被為召候、十兵衛義も罷出居御供頭伺御機嫌罷出候、御帰殿七時前

御二所様へ 六寸重ニ 御干くハシ 御汁仕立鍋やき品召上り御くハシ半分ツ、

殿様方

右者御入ニ付被進之

十年母ニツ差上之 老ツ竹印へ被進之

但日向国飴肥産物

一七時過御庭廻り被遊候、七半時過大奥御膳如例、金兵衛退出致候事、夜分御へ切如例

一御夜詰四半時前引、表御締切御寝

十二月廿二日 晴寒

一御目覚六半時

診 主一

一五時過彈正罷出御用在之候

一五半時過兩御拜被遊御庭御順拜被遊候

綿子一 大奥出来 御昼ニツ 野本帰祭

右ハ先達而喜十郎方廿一浪錢差上ニ付御内々思召を以昨夜喜十郎被為召候而

御直ニ被下置候事

干海苔ニ帖ツ、 大沢淡水

荒川南山

水野風月

右者思召を以被下置候、過日茶一箱差上之、治部方奉簡を以今便相廻ス

(二六九)

一六日振道中ニ而今晚飛脚被差立候也、恕介罷出暫御嘶申上候
御附御近習被仰付 大御番 渡辺蓬太郎

右者於御用部屋被申渡御前御礼相濟当邸へ罷出金兵衛差加御礼申上候
七時過方如例見習相勤御明り付退出致候、御小や三郎助相宿ニ割入之

一九時過大奥御膳如例、暫時御庭御閑歩在之候
一去ル十六日立、寒鱈山之内滞留今日到着、左之通り如例相廻ル

御二所様御相合ニ鱈一本越中守様へ被進之

中鯛三 鰈三 蟹一甲 たい一召上り 同一歌島・田川 同一左膳・六大夫江

かれ一 かに一 青松殿へ かれ一ひな同一富田等へ被下候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、夜分御々切如例

殿様方 溜池御席上思召 御仕立肴盛合 折詰一 仲のへ被下候由

ニ而被進之

右者佐治・恕輔方此方へ相廻候ニ付入御覽候、手紙往来之事

鳧一羽内献之、過日嵐そばニ升呈之 両様召上り 金兵衛

一御夜詰四半時前引

十二月廿三日 陰寒

一御目覚六半時 蓬太郎見習御明り付迄 診 適齊

一五半時前両御拝被遊夫方御庭御拝被遊候

一御家老中并弾正大奥女中富田結構被仰付ニ付被罷出、御機嫌被相伺御

菓子御茶被下置候

因幡木綿一反 毎々差上物ニ付 稻垣治部

青屋木綿一反 何角御セ話申上ニ付 石原甚十郎

同断 金兵衛

右者思召を以御直ニ被下置之

(一七〇)

□□

帯地巻 毎度召ニ付 愛五郎

〃

同 毎度召且差上物ニ付 留三郎

〃

同 同 門太郎

右之通御前ニ被下之

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候

一為伺御機嫌弥一郎・平大夫始ニ統罷出被為召御菓子被下置之

御袂落一 中平猪口一 宛 桑山十兵衛

井上弥一郎

右者不相變御直ニ被下之

御袂落一 中猪口一 扇子二 近藤左大夫

右者毎々差上物も致日々罷出御懇意之事故御直ニ被下之

沖津たい

蒲鉾一枚箱入 召上り相成

右者昨日殿様溜池様へ被為人御携相成候を思召を以剛右衛門持参被進之

御二所様へ 八寸二重 御仕立肴 召上り

伊予守様へ 御生菓子 殿様へ御取分少々被進之

右者久々御尋も不被為在寒中御障も不被為在候や御見廻被仰進、此御品御輕

少なから御慰ニ被進度旨御口上ニ而御広式御用人迄為御使ニ富甚左衛門罷出候段

御用人方承御品受取之及披露候、御用人方可然御相口申達ス

伊予守様へ 塩雷魚老本 干鱈一本

右者御二所様方被進ニ付御用人迄相廻同人方相達申候

一 近江罷出御閑話被遊候、七半時前金兵衛退出致候

一 七半時過大奥へ被為人御膳被召上候、夜分御々切如例

一 御夜詰四時引、宗伯被為召

十二月廿四日 晴 長閑

(二七一)

一 御目覚六半時 蓬太郎罷出御明り方退出 診 宗甫

一 五時過兩御拜被遊夫方御庭御拜在之、彈正罷出御用在之

練羊肝一箱 到来ニ付差上之 左大夫

金五十疋 今般結構被仰付ニ付上り 老女 富田

御二所様へ上り 交肴 海老一 石かれ一 大鱸一 小枝

召上り也

御同所様方被下置之 大すゝき一 富田へ

御二所様方 御小重ニ御寿し 鉢盛 硯ふた物 常邸取斗之

清心院君へ 白玉并あん

右者寒中ニ付老女参上之節思召もの御側御慰もの被進之

御召帯一筋 草尾精一郎

右者毎度差上物致候ニ付以前御側向も相勤候事故思召を以小十郎方相伝

被下之 御錠口

鼻紙二束 墨染ちりめん服紗一宛 石野

磯田

右者当夏二人勤困窮相勤ニ付思召を以被下服紗ハ御仕事其外袋様

之毎々致差上ニ付被下置之、金兵衛方相渡申候

吳路服蓑入筒付蓑一包 御裏役心得御鉄砲懸り心得 山野十大夫

其外時計割方等被仰付

同 印刻毎度被仰付ニ付 河崎三郎助

金五十疋 万国旗章其外御用被仰付ニ付 上坂平一郎

右者細記之訳ニ付被下置之

黒呉紹蓑入筒共 御直ニ被下候 斉藤民部

烟草二包 金兵衛方相伝へ申候 田代万貞今日罷出

紫太織中形一犬口 よねへ
練羊寒一箱御有合二付 島田近江

(二七二)

小倉帯地一 秋田弾正
右者当年御暫之事故輕品御直々被下置之

小紙一束 □□袖一 松井左膳
同 森 六太夫

金二百疋ツ、 定式御せいぼ被下 御附兩人へ
同 毎々給被仰付二付被下之 左膳へ

小紙一束 坪井信良
右者遠西奇益迷一冊差上、且毎々少々ツ、御用被仰付旁被下置之、金兵衛相渡

茶呉紹蓼入筒廿 蓼二包 松浦幸右衛門
右者着之砌御筆洗花生差上少々御用も被仰付二付旁被下置之

金老両 表仕出被下在之二両 千種宗伯
右者当春来毎々御按摩差上二付御内証方被下置之

大名小路
御二所様方 朝鮮飴一曲 佐賀閑鯛十枚

右者御前様方御伝へにて鴨并生鱈等被進之為御返御伝へにて被進之
御同所様方 交御肴一箱 御挨拶被下候由 甚十郎

此御二所様へ 又兵衛江
右者寒中二付御機嫌被為聞被進之

一九時過大奥御膳如例引続定例御浴湯
一伺御機嫌重記民部御目付并所左衛門罷出何茂御逢御くハし被下置之

一七半時過大奥御膳如例夜分御べ切如例
御二方様分 干鱈一 塩煮魚十 御肴荷物着二付常邸方相廻ル

殿様方 鳧一羽被進之
一委細之義ハ去ル廿日記之通御奉行方別紙之通可申渡旨奥番へ申聞候二付申渡ス

(二七三)

中将様御附振退勤被仰付談合も在之二付別段之御評義を以為失
却当年方詰中毎年金二両ツ、被下之

一御警立役之者振道中失却多甚難渋必至与申立何卒椀奉行格御取扱二被成下

候様歎願届出候所今度御評之上附紙二而三折ツ、当年限り被下候旨御奉行与り
御膳番へ達在之二付申渡ス 但来申暮歎願致候へハ御評義可在之趣承ル右本文之訳柄二付

御内□方為御償□□被下都合老両二相成前記御坊主失脚金被下相当ル

一御夜詰四半時過引

十二月廿五日 晴

一御目覚六半時

診 主一

一五時過兩御拜被遊夫方御庭御順拜被遊候、怒介罷出如例
一当番割思召を以左之通被仰付候

壹番側

二番側

五市太夫

岩次郎

小十郎

十太夫

御梯 喜十郎

御梯 幾太郎

亥之助

三郎助

誠次郎

蓬太郎

熊吉

岩吉

御二所様方 籠之内 煎餅 おこし

清心君江

右者御納灸治被遊二付被進之

金老朱

土屋小六

右者御合力御初穂寸志差上之

一常邸へ為伺御機嫌金兵衛・五郎太夫初一統罷出候

八代みかん十斗御福分被進之 但御前様方被進候由已来被進二不及事

一九時過大奥御膳如例御帰坐後暫御庭へ被為入候 弾正罷出如例

(二七四)

一為伺御機嫌次郎右衛門・太郎太夫罷出御逢無之

雁皮紙全紙廿枚阿州産到来二付差上之 埴原次郎右衛門

八寸重二御そば 煎餅召上り相成

右者蓮性院様方寒中御機嫌被為聞被進之干だら老御返し被進之

一御茶方兩人江十徳代二歩一朱老人前出ル 常邸□

同御内証詰越金老兩被下

栄立一反御古召代出ル

葡萄単山マエ入縮緬一反一両二歩三 塩だら一本

右者青松院殿へ年中差上物度々被致為御返し被遠之

一七半時過大奥御膳如例夜分御べ切如例、御夜詰四半時前引金兵衛退出

玉子式拾差上之

御礼 はる

金百疋如例被下之

同人へ

十二月廿六日晴御目覚六半時診適齊兩御拜御庭御拜被遊怒介罷出如例九時過大奥御膳如例弾正罷出ル

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候夜分御締切如例

清心君方 六寸重一 御生くハシ 養寿罷出候折から被進之 御べ切中御用

一屢次郎為伺御機嫌罷出被為召御くハシ被下候 亀甲せんべい一箱到来二付差上之

銀拾枚ツ、

松井左膳

森六大夫

右者年来精勤別而遠路大儀二付弾正方被下置之

金五百疋

六大夫

右ハ何角御世話申上二付弾正方被下置候事 但二人共御内用敷

御二所様へ 御交肴台居 こい二 ほら二

伊予守様方

たい一 召上り相成

清心君方

鯉三喉

右者先達而御婚姻之節被進物為御膳被進之、たたら二 ほら二

一奥番四人年中御買上物格別心配数多被仰付二付右鯉三喉被下取斗フ

炭代老歩卜百七十口文八九半 定式渡り

同二朱卜百七十七文 小炭五俵 昨暮方御手当昨年方相止

(二七五)

同老歩二朱卜三百式十四文 五俵七分代 一俵二付四匁五分 御近習部や十俵八分増出来也

但 段々申立二付出来候事

右者追々御道具役方受取候事

御二所様へ 尾張大根一本到来二付差上之 甚十郎

一御夜詰四半時前引

十二月廿七日 陰

診 宗甫

一御目覚六半時

一五半時前兩御拝被遊

一明後廿九日御二度之節来春二日御替日御精進当年方思召を以被相止候御膳番承出

金五十疋

御右筆 林五右衛門

右者御年表書繼致差上候二付御用人方内達も在之被下二取斗

梅一株 紅白献上

稲垣治部

一殿様今日天徳寺物惣御参詣被遊候 恕介罷出如例

一十九時過大奥へ被為入御膳被召上候御庭御尙祥被遊候、民部罷出ル

御前様方 八寸重二 御汁こ仕立召上り 御到来二付被進之

いり豆ふ

一御夜詰四半時引夜分御締切如例、金兵衛七時前方退出致候事

十二月廿八日 晴

診 主一

一御目覚六半時

一五時過兩御拝被遊夫方御庭御順拝被遊候、恕介罷出暫御話被遊候

金二百疋

よつ

同百疋ツ、

柏木

若竹

右者御内々毎々差上物致二付被下之

一為伺御機嫌御家老中被罷出御逢被遊天平猪口一御半切一被下置之

(二七六)

一十九時過大奥へ被為入御膳被召上候 常邸御側向非番之面々万貞順庵罷出二付被為召歳末

之御祝義申上候、御菓子被下之候、今日ハ御供へも被下取斗

一殿様六半時御供揃御登城、御退出懸八半時被為入御対顔歳暮之御祝

儀被仰上御長匏差上御一所二大奥へ被為入御対面御目録御取替セ在之

老公者御残当公ハ御帰座、御附両番揃上下着歳暮御祝義申上、晦日ハ不罷出御上下

被為取、御吸物さゝめき御中皿御さしみ御酒被進引続御小弁当被召上御汁つみ入御中皿
やき鱸差上之、相濟御上下差上御縁先方被為入歳暮二付御庭惣社御拜被遊、御

先立喜十郎以後共此方御裏役相勤被供物ハ常邸御裏役献備之、十兵衛始両へや随従

奥坊主一人罷出候、無程御帰座末記被進物差出ス、御菓子被進大奥方も御くハし被進候

御供頭三人御機嫌相伺御供之面々被為召御目見被仰付御くハしへや下、過刻適齊

御機嫌伺罷出被為召御酒御吸物御下夕被下之、弾正罷出居御供揃被仰出七半

時過御帰殿被遊候 但御膳濟御清メ香御嗽御手水差上之

殿様江 御詠草添紅梅一鉢 玉川唐紙半切二ハ四百枚斗

福寿草小鉢一

右者今日於御席上被進之

殿様方 御筆一對雲鶴遊天 御籠之内御小肴召上り

白梅垂レ一鉢

右者今日御入之節被進之 但右御肴召上り跡小肴被下之 治部へ

一來春三献之内御吸物斗当春之通り被進二付、今日御膳番方御献立書相廻り入御覽候

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、夜分御ハ切如例

一大奥御寝、御夜詰四半時過引

十二月廿九日 晴

一御目覚六半時、表二被為入 診 適齊

一五時過両御拜被遊、夫方御庭御順拜被遊候、恕介罷出御嘶被遊候

(二七七)

干鱸一尾ツ、 大道寺七右衛門

真杉所左衛門

右者御有合故折々差上物致且久敷□□□□二付被下置之

一常邸へ惣名代ニ金兵衛罷出上下着歳末之御祝義申上之 御蓑入筒共扇子二被下置之

一九時過大奥へ被為入御膳被召上候、定日御湯被為召候

殿様へ 御籠之内小肴二段

右者歳暮之御腥二被進之 御定式相成可然事

一為歳暮御祝義勘解由・重記・近江・御目付并弥一郎等罷出何茂鳥渡御逢在之

金二百疋 去暮も差上 三寺剛右衛門

右者御内々為冥加御二所様へ差上之

青屋木綿一反御盃 同人へ被下置之

一七半時過大奥へ被為入御膳被召上候、六時過方御締切相成甚十郎御酒差上二付今晚

御取開相成、治部・甚十郎・左大夫・金兵衛・宗甫・岩次郎始当番於御前御酒頂戴被仰付

御肴・煮付・大こん・寿し・みかん表方差出ス、大奥ニて豆ふ・貝の柱吸物出ル

一御夜詰四半時前引 金兵衛五時過方退出致候事

十二月晦日 夜来小雨

一御目覚六半時 診 宗甫

一五時過方御神靈前御注連繩御懸替其外御飾付出来歳暮御極り御備物

被供御拜被遊候、恕介罷出御咄被遊候

一去ル廿一日立飛脚二日山之内逗留今朝到着、御静安恐悦之事

緑頭鴨二羽

川村藤一郎

長谷川源之丞

右者御二所様へ差上之

金三百疋献上

三國湊 栗屋伊兵衛

(二七八)

清心院様方 紅梅 松竹 福寿草 鉢植

右者歳末ニ付被進之 福寿草小鉢一 御詠草添被進之

甲州産小くハし箱一

一御庭御順拝被遊ニ付歳暮御代拝ハ不相勤御直拝被遊候、御間内ニテ御嗽御手水御清メ上ル

一九時過大奥御膳如例 民部鳥渡罷出候

御前様方 鉢もりそは露付 御酒一徳利

右者歳末ニ付御側為御慰被進之 奥表半分ツ、両番一統被下候

一七半時過大奥御膳被為召上リ 一御神靈前歳末御拝被遊候、御福茶差上之

一御前様へ歳末之御祝義御広式御用人迄申上又兵衛義罷出候

一七時方金兵衛上下着、一統継上下着暮時金兵衛・五郎太夫方熊吉・主一別席歳暮之御祝義

申上ル、先刻屢次郎為御祝義罷出御逢無之候

一七半時前彈正罷出御締切相成、老女へ御手目録如例被下置、御品金兵衛方相達ス

金五百疋ツ、

同三百疋

右昨年ハ二百疋御減相成候へ共去月当邸振退勤ニ□

金拾五両表御出方

右者老女御充行替り御側御用人方被相渡候

銀五枚

右者長詰ニ付被下置之、御側御用人方被相渡候、熊□□

一六半時頃方於御三ノ間御酒頂戴在之、甚十郎・左膳・金兵衛当番

罷出候大こん肴に付寿しみかん豆ふ吸物頂戴之御そばニて何茂□

除夜御詩歌拝戴被仰付

金兵衛

一御夜詰四半時前引

(二七九)

酒二升そば三ツ、被下取斗

手伝

台子小遣□

一四方曆如例年部屋々へ被下ニ相成申候

一來春方御内庭新御宮并御内仏清正公御備小鏡餅奉